

教職実践演習（中・高）（A）

Practice Teaching Seminar(Secondary Education)(A)

加藤 仁子 (KATO HIROKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA001
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET4510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 池袋キャンパス所属学生対象

授業の目標 / Course Objectives

教職課程履修の総仕上げとして、自己の教員としての適性や特徴を対象化すること、および今後の教員としての課題を認識する。

授業の内容 / Course Contents

少人数クラスを編成し、演習形式で講義とディスカッションを中心に展開する。
また中・高の現職教員や地域と学校に関わる関係者による講義をふまえ、教科指導、生活指導および学級運営等について模擬授業、ロールプレイなどをおして実践的理解を深める。
授業は、「クラス別授業」と「クラス合同授業」によって構成される。
「クラス合同授業」は、「教職実践演習(中・高)」履修の全学生が一同に介して受講する形態をとる。
「クラス別授業」は、各クラス担当者により授業計画に沿って授業が進行する。
履修希望クラスは、下記「注意事項」にしたがって、各自の秋学期履修計画に基づき手続きをおこなうこと。
クラス確定後のクラス変更は原則、認めない。
なお「クラス合同授業」の日程など授業実施の詳細は、7月初旬に発表される受講クラスと同時に連絡する。
各自確認すること。

卒業要件に必要な正課科目と重複する場合は、正課科目の授業を優先し、履修計画等を検討すること。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション 趣旨説明
- 2回：教育実習事後報告会
- 3回：クラス開きの実際
- 4回：教科指導(ICT活用事例を含む)実践研究(1)
- 5回：教科指導(ICT活用事例を含む)実践研究(2)
- 6回：教科指導(ICT活用事例を含む)実践研究(3)
- 7回：教科外指導(ICT活用事例を含む)実践研究(1)
- 8回：教科外指導(ICT活用事例を含む)実践研究(2)
- 9回：教科外指導(ICT活用事例を含む)実践研究(3)
- 10回：学校経営実践研究(1)
- 11回：学校経営実践研究(2)
- 12回：地域と学校教育の連携研究(1)
- 13回：地域と学校教育の連携研究(2)
- 14回：総括討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・各自、教育実習先修科目を復習、および教育実習の振り返りを行っておくこと。
- ・『履修の記録』の必要事項を記入しておくこと。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% クラス別授業時に毎回提出する「リアクションペーパー」:40% 合同クラス授業時に課される「小レポート」:40% 最終授業時に全クラス共通テーマ「立教大学で教職課程を履修して」の「レポート」:20%

テキスト/ Textbooks

教育実習事前指導の際に配付した、各自作成中の『履修の記録』(授業時に必ず持参)及び配付プリントを使用。

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

注意事項

- ・所属キャンパスで開講するクラスを受講すること。
- ・登録に際しては、4月の「教育実習直前指導」授業にて指示する「『教職実践演習(中・高)』履修希望届」入力フォームより希望科目を4月末までの指定された期日に入力することになる。
- 各自、秋学期の履修計画をもとに第3希望まで検討しておくこと。

- ・ 配当クラスについては、7月上旬に「Canvas LMS」で発表する

教職実践演習（中・高）（B）

Practice Teaching Seminar(Secondary Education)(B)

下地 秀樹 (SHIMOJI HIDEKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA002
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET4510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 池袋キャンパス所属学生対象

授業の目標 / Course Objectives

教職課程履修の総仕上げとして、自己の教員としての適性や特徴を対象化すること、および今後の教員としての課題を認識する。

授業の内容 / Course Contents

少人数クラスを編成し、演習形式で講義とディスカッションを中心に展開する。

また中・高の現職教員や地域と学校に関わる関係者による講義をふまえ、教科指導、生活指導および学級運営等について模擬授業、ロールプレイなどをおして実践的理解を深める。

授業は、「クラス別授業」と「クラス合同授業」によって構成される。

「クラス合同授業」は、「教職実践演習(中・高)」履修の全学生が一同に介して受講する形態をとる。

「クラス別授業」は、各クラス担当者により授業計画に沿って授業が進行する。

履修希望クラスは、下記「注意事項」にしたがって、各自の秋学期履修計画に基づき手続きをおこなうこと。

クラス確定後のクラス変更は原則、認めない。

なお「クラス合同授業」の日程など授業実施の詳細は、7月初旬に発表される受講クラスと同時に連絡する。

各自確認すること。

卒業要件に必要な正課科目と重複する場合は、正課科目の授業を優先し、履修計画等を検討すること。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション 趣旨説明
- 2回：教育実習事後報告会
- 3回：クラス開きの実際
- 4回：教科指導(ICT活用事例を含む)実践研究(1)
- 5回：教科指導(ICT活用事例を含む)実践研究(2)
- 6回：教科指導(ICT活用事例を含む)実践研究(3)
- 7回：教科外指導(ICT活用事例を含む)実践研究(1)
- 8回：教科外指導(ICT活用事例を含む)実践研究(2)
- 9回：教科外指導(ICT活用事例を含む)実践研究(3)
- 10回：学校経営実践研究(1)
- 11回：学校経営実践研究(2)
- 12回：地域と学校教育の連携研究(1)
- 13回：地域と学校教育の連携研究(2)
- 14回：総括討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・各自、教育実習先修科目を復習、および教育実習の振り返りを行っておくこと。
- ・『履修の記録』の必要事項を記入しておくこと。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% クラス別授業時に毎回提出する「リアクションペーパー」:40% 合同クラス授業時に課される「小レポート」:40% 最終授業時に全クラス共通テーマ「立教大学で教職課程を履修して」の「レポート」:20%

テキスト/ Textbooks

教育実習事前指導の際に配付した、各自作成中の『履修の記録』(授業時に必ず持参)及び配付プリントを使用。

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

注意事項

- ・所属キャンパスで開講するクラスを受講すること。
- ・登録に際しては、4月の「教育実習直前指導」授業にて指示する「『教職実践演習(中・高)』履修希望届」入力フォームより希望科目を4月末までの指定された期日に入力することになる。
- 各自、秋学期の履修計画をもとに第3希望まで検討しておくこと。

- ・ 配当クラスについては，7月上旬に「Canvas LMS」で発表する

教職実践演習（中・高）（C）

Practice Teaching Seminar(Secondary Education)(c)

奈須 恵子 (NASU KEIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA003
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET4510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 池袋キャンパス所属学生対象

授業の目標 / Course Objectives

教職課程履修の総仕上げとして、自己の教員としての適性や特徴を対象化すること、および今後の教員としての課題を認識する。

授業の内容 / Course Contents

少人数クラスを編成し、演習形式で講義とディスカッションを中心に展開する。

また中・高の現職教員や地域と学校に関わる関係者による講義をふまえ、教科指導、生活指導および学級運営等について模擬授業、ロールプレイなどをおして実践的理解を深める。

授業は、「クラス別授業」と「クラス合同授業」によって構成される。

「クラス合同授業」は、「教職実践演習(中・高)」履修の全学生が一同に介して受講する形態をとる。

「クラス別授業」は、各クラス担当者により授業計画に沿って授業が進行する。

履修希望クラスは、下記「注意事項」にしたがって、各自の秋学期履修計画に基づき手続きをおこなうこと。

クラス確定後のクラス変更は原則、認めない。

なお「クラス合同授業」の日程など授業実施の詳細は、7月初旬に発表される受講クラスと同時に連絡する。

各自確認すること。

卒業要件に必要な正課科目と重複する場合は、正課科目の授業を優先し、履修計画等を検討すること。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション 趣旨説明
- 2回：教育実習事後報告会
- 3回：クラス開きの実際
- 4回：教科指導(ICT活用事例を含む)実践研究(1)
- 5回：教科指導(ICT活用事例を含む)実践研究(2)
- 6回：教科指導(ICT活用事例を含む)実践研究(3)
- 7回：教科外指導(ICT活用事例を含む)実践研究(1)
- 8回：教科外指導(ICT活用事例を含む)実践研究(2)
- 9回：教科外指導(ICT活用事例を含む)実践研究(3)
- 10回：学校経営実践研究(1)
- 11回：学校経営実践研究(2)
- 12回：地域と学校教育の連携研究(1)
- 13回：地域と学校教育の連携研究(2)
- 14回：総括討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・各自、教育実習先修科目を復習、および教育実習の振り返りを行っておくこと。
- ・『履修の記録』の必要事項を記入しておくこと。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% クラス別授業時に毎回提出する「リアクションペーパー」:40% 合同クラス授業時に課される「小レポート」:40% 最終授業時に全クラス共通テーマ「立教大学で教職課程を履修して」の「レポート」:20%

テキスト/ Textbooks

教育実習事前指導の際に配付した、各自作成中の『履修の記録』(授業時に必ず持参)及び配付プリントを使用。

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

注意事項

- ・所属キャンパスで開講するクラスを受講すること。
- ・登録に際しては、4月の「教育実習直前指導」授業にて指示する「『教職実践演習(中・高)』履修希望届」入力フォームより希望科目を4月末までの指定された期日に入力することになる。
- 各自、秋学期の履修計画をもとに第3希望まで検討しておくこと。

- ・ 配当クラスについては、7月上旬に「Canvas LMS」で発表する

教職実践演習（中・高）（D）

Practice Teaching Seminar(Secondary Education)(D)

岩瀧 大樹 (IWATAKI DAIJU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA004
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET4510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 池袋キャンパス所属学生対象

授業の目標 / Course Objectives

教職課程履修の総仕上げとして、自己の教員としての適性や特徴を対象化すること、および今後の教員としての課題を認識する。

授業の内容 / Course Contents

少人数クラスを編成し、演習形式で講義とディスカッションを中心に展開する。

また中・高の現職教員や地域と学校に関わる関係者による講義をふまえ、教科指導、生活指導および学級運営等について模擬授業、ロールプレイなどをおして実践的理解を深める。

授業は、「クラス別授業」と「クラス合同授業」によって構成される。

「クラス合同授業」は、「教職実践演習(中・高)」履修の全学生が一同に介して受講する形態をとる。

「クラス別授業」は、各クラス担当者により授業計画に沿って授業が進行する。

履修希望クラスは、下記「注意事項」にしたがって、各自の秋学期履修計画に基づき手続きをおこなうこと。

クラス確定後のクラス変更は原則、認めない。

なお「クラス合同授業」の日程など授業実施の詳細は、7月初旬に発表される受講クラスと同時に連絡する。

各自確認すること。

卒業要件に必要な正課科目と重複する場合は、正課科目の授業を優先し、履修計画等を検討すること。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション 趣旨説明
- 2回：教育実習事後報告会
- 3回：クラス開きの実際
- 4回：教科指導(ICT活用事例を含む)実践研究(1)
- 5回：教科指導(ICT活用事例を含む)実践研究(2)
- 6回：教科指導(ICT活用事例を含む)実践研究(3)
- 7回：教科外指導(ICT活用事例を含む)実践研究(1)
- 8回：教科外指導(ICT活用事例を含む)実践研究(2)
- 9回：教科外指導(ICT活用事例を含む)実践研究(3)
- 10回：学校経営実践研究(1)
- 11回：学校経営実践研究(2)
- 12回：地域と学校教育の連携研究(1)
- 13回：地域と学校教育の連携研究(2)
- 14回：総括討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワー等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・各自、教育実習先修科目を復習、および教育実習の振り返りを行っておくこと。
- ・『履修の記録』の必要事項を記入しておくこと。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% クラス別授業時に毎回提出する「リアクションペーパー」:40% 合同クラス授業時に課される「小レポート」:40% 最終授業時に全クラス共通テーマ「立教大学で教職課程を履修して」の「レポート」:20%

テキスト/ Textbooks

教育実習事前指導の際に配付した、各自作成中の『履修の記録』(授業時に必ず持参)及び配付プリントを使用。

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

注意事項

- ・所属キャンパスで開講するクラスを受講すること。
- ・登録に際しては、4月の「教育実習直前指導」授業にて指示する「『教職実践演習(中・高)』履修希望届」入力フォームより希望科目を4月末までの指定された期日に入力することになる。
- 各自、秋学期の履修計画をもとに第3希望まで検討しておくこと。

- ・ 配当クラスについては，7月上旬に「Canvas LMS」で発表する

教職実践演習（中・高）（E）

Practice Teaching Seminar(Secondary Education)(E)

坂本 保宏（SAKAMOTO YASUHIRO）

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA005
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET4510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 池袋キャンパス所属学生対象

授業の目標 / Course Objectives

教職課程履修の総仕上げとして、自己の教員としての適性や特徴を対象化すること、および今後の教員としての課題を認識する。

授業の内容 / Course Contents

少人数クラスを編成し、演習形式で講義とディスカッションを中心に展開する。

また中・高の現職教員や地域と学校に関わる関係者による講義をふまえ、教科指導、生活指導および学級運営等について模擬授業、ロールプレイなどをおして実践的理解を深める。

授業は、「クラス別授業」と「クラス合同授業」によって構成される。

「クラス合同授業」は、「教職実践演習(中・高)」履修の全学生が一同に介して受講する形態をとる。

「クラス別授業」は、各クラス担当者により授業計画に沿って授業が進行する。

履修希望クラスは、下記「注意事項」にしたがって、各自の秋学期履修計画に基づき手続きをおこなうこと。

クラス確定後のクラス変更は原則、認めない。

なお「クラス合同授業」の日程など授業実施の詳細は、7月初旬に発表される受講クラスと同時に連絡する。

各自確認すること。

卒業要件に必要な正課科目と重複する場合は、正課科目の授業を優先し、履修計画等を検討すること。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション 趣旨説明
- 2回：教育実習事後報告会
- 3回：クラス開きの実際
- 4回：教科指導(ICT活用事例を含む)実践研究(1)
- 5回：教科指導(ICT活用事例を含む)実践研究(2)
- 6回：教科指導(ICT活用事例を含む)実践研究(3)
- 7回：教科外指導(ICT活用事例を含む)実践研究(1)
- 8回：教科外指導(ICT活用事例を含む)実践研究(2)
- 9回：教科外指導(ICT活用事例を含む)実践研究(3)
- 10回：学校経営実践研究(1)
- 11回：学校経営実践研究(2)
- 12回：地域と学校教育の連携研究(1)
- 13回：地域と学校教育の連携研究(2)
- 14回：総括討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・各自、教育実習先修科目を復習、および教育実習の振り返りを行っておくこと。
- ・『履修の記録』の必要事項を記入しておくこと。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% クラス別授業時に毎回提出する「リアクションペーパー」:40% 合同クラス授業時に課される「小レポート」:40% 最終授業時に全クラス共通テーマ「立教大学で教職課程を履修して」の「レポート」:20%

テキスト/ Textbooks

教育実習事前指導の際に配付した、各自作成中の『履修の記録』(授業時に必ず持参)及び配付プリントを使用。

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

注意事項

- ・所属キャンパスで開講するクラスを受講すること。
- ・登録に際しては、4月の「教育実習直前指導」授業にて指示する「『教職実践演習(中・高)』履修希望届」入力フォームより希望科目を4月末までの指定された期日に入力することになる。
- 各自、秋学期の履修計画をもとに第3希望まで検討しておくこと。

- ・ 配当クラスについては，7月上旬に「Canvas LMS」で発表する

教職実践演習（中・高）（F）

Practice Teaching Seminar(Secondary Education)(F)

佐々木 竜太 (SASAKI RYUTA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA006
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET4510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 池袋キャンパス所属学生対象

授業の目標 / Course Objectives

教職課程履修の総仕上げとして、自己の教員としての適性や特徴を対象化すること、および今後の教員としての課題を認識する。

授業の内容 / Course Contents

少人数クラスを編成し、演習形式で講義とディスカッションを中心に展開する。
また中・高の現職教員や地域と学校に関わる関係者による講義をふまえ、教科指導、生活指導および学級運営等について模擬授業、ロールプレイなどをおして実践的理解を深める。
授業は、「クラス別授業」と「クラス合同授業」によって構成される。
「クラス合同授業」は、「教職実践演習(中・高)」履修の全学生が一同に介して受講する形態をとる。
「クラス別授業」は、各クラス担当者により授業計画に沿って授業が進行する。
履修希望クラスは、下記「注意事項」にしたがって、各自の秋学期履修計画に基づき手続きをおこなうこと。
クラス確定後のクラス変更は原則、認めない。
なお「クラス合同授業」の日程など授業実施の詳細は、7月初旬に発表される受講クラスと同時に連絡する。
各自確認すること。

卒業要件に必要な正課科目と重複する場合は、正課科目の授業を優先し、履修計画等を検討すること。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション 趣旨説明
- 2回：教育実習事後報告会
- 3回：クラス開きの実際
- 4回：教科指導(ICT活用事例を含む)実践研究(1)
- 5回：教科指導(ICT活用事例を含む)実践研究(2)
- 6回：教科指導(ICT活用事例を含む)実践研究(3)
- 7回：教科外指導(ICT活用事例を含む)実践研究(1)
- 8回：教科外指導(ICT活用事例を含む)実践研究(2)
- 9回：教科外指導(ICT活用事例を含む)実践研究(3)
- 10回：学校経営実践研究(1)
- 11回：学校経営実践研究(2)
- 12回：地域と学校教育の連携研究(1)
- 13回：地域と学校教育の連携研究(2)
- 14回：総括討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・各自、教育実習先修科目を復習、および教育実習の振り返りを行っておくこと。
- ・『履修の記録』の必要事項を記入しておくこと。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% クラス別授業時に毎回提出する「リアクションペーパー」:40% 合同クラス授業時に課される「小レポート」:40% 最終授業時に全クラス共通テーマ「立教大学で教職課程を履修して」の「レポート」:20%

テキスト/ Textbooks

教育実習事前指導の際に配付した、各自作成中の『履修の記録』(授業時に必ず持参)及び配付プリントを使用。

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

注意事項

- ・所属キャンパスで開講するクラスを受講すること。
- ・登録に際しては、4月の「教育実習直前指導」授業にて指示する「『教職実践演習(中・高)』履修希望届」入力フォームより希望科目を4月末までの指定された期日に入力することになる。
- 各自、秋学期の履修計画をもとに第3希望まで検討しておくこと。

- ・ 配当クラスについては，7月上旬に「Canvas LMS」で発表する

教職実践演習（中・高）（G）

Practice Teaching Seminar(Secondary Education)(G)

吉住 香織 (YOSHIZUMI KAORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA007
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET4510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 池袋キャンパス所属学生対象

授業の目標 / Course Objectives

教職課程履修の総仕上げとして、自己の教員としての適性や特徴を対象化すること、および今後の教員としての課題を認識する。

授業の内容 / Course Contents

少人数クラスを編成し、演習形式で講義とディスカッションを中心に展開する。
また中・高の現職教員や地域と学校に関わる関係者による講義をふまえ、教科指導、生活指導および学級運営等について模擬授業、ロールプレイなどをおして実践的理解を深める。
授業は、「クラス別授業」と「クラス合同授業」によって構成される。
「クラス合同授業」は、「教職実践演習(中・高)」履修の全学生が一同に介して受講する形態をとる。
「クラス別授業」は、各クラス担当者により授業計画に沿って授業が進行する。
履修希望クラスは、下記「注意事項」にしたがって、各自の秋学期履修計画に基づき手続きをおこなうこと。
クラス確定後のクラス変更は原則、認めない。
なお「クラス合同授業」の日程など授業実施の詳細は、7月初旬に発表される受講クラスと同時に連絡する。
各自確認すること。

卒業要件に必要な正課科目と重複する場合は、正課科目の授業を優先し、履修計画等を検討すること。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション 趣旨説明
- 2回：教育実習事後報告会
- 3回：クラス開きの実際
- 4回：教科指導(ICT活用事例を含む)実践研究(1)
- 5回：教科指導(ICT活用事例を含む)実践研究(2)
- 6回：教科指導(ICT活用事例を含む)実践研究(3)
- 7回：教科外指導(ICT活用事例を含む)実践研究(1)
- 8回：教科外指導(ICT活用事例を含む)実践研究(2)
- 9回：教科外指導(ICT活用事例を含む)実践研究(3)
- 10回：学校経営実践研究(1)
- 11回：学校経営実践研究(2)
- 12回：地域と学校教育の連携研究(1)
- 13回：地域と学校教育の連携研究(2)
- 14回：総括討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・各自、教育実習先修科目を復習、および教育実習の振り返りを行っておくこと。
- ・『履修の記録』の必要事項を記入しておくこと。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% クラス別授業時に毎回提出する「リアクションペーパー」:40% 合同クラス授業時に課される「小レポート」:40% 最終授業時に全クラス共通テーマ「立教大学で教職課程を履修して」の「レポート」:20%

テキスト/ Textbooks

教育実習事前指導の際に配付した、各自作成中の『履修の記録』(授業時に必ず持参)及び配付プリントを使用。

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

注意事項

- ・所属キャンパスで開講するクラスを受講すること。
- ・登録に際しては、4月の「教育実習直前指導」授業にて指示する「『教職実践演習(中・高)』履修希望届」入力フォームより希望科目を4月末までの指定された期日に入力することになる。
- 各自、秋学期の履修計画をもとに第3希望まで検討しておくこと。

- ・ 配当クラスについては，7月上旬に「Canvas LMS」で発表する

特別支援教育の理論と方法（中・高）（A）

Theories and Methods of Special Needs Education(A)

川上 康則 (KAWAKAMI YASUNORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA141
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2018 年度以前入学者履修不可

授業の目標 / Course Objectives

通常の学級にも在籍している特別な支援を必要とする生徒への対応のために、必要となる知識や支援方法について理解を図るとともに、高等学校においても導入される「通級における指導」のあり方等の理解を図る。

授業の内容 / Course Contents

インクルーシブ教育の実現に向けて、障害者権利条約や関係する制度等に関する理解、障害や配慮すべき事項などの知識、学校としての実施すべき対応等、今後の教員として必要な資質を高めるとともに、障害の状況に応じて「自立活動」の視点をもとにした具体的な対応についての考察を行う。また、障害はないが特別な配慮等が必要な生徒への対応についても考察を行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標、概要、進め方）、特別支援教育の理念
- 2 回：障害とは（ICFの理解）
- 3 回：障害者権利条約と障害者差別解消法
- 4 回：特別支援学校の教育課程
- 5 回：特別支援学級と通級における指導

- 6回：学校における合理的配慮とは
 7回：学校組織としての特別支援教育の体制整備
 8回：障害種別における対応（1）
 9回：障害種別における対応（2）
 10回：個別の教育支援計画と個別の指導計画
 11回：障害はないが特別の教育的ニーズのある児童・生徒への対応
 12回：関係機関との連携のあり方
 13回：特別支援教育の視点による生徒指導と進路指導のあり方
 14回：今後のインクルーシブ教育の実現に向けて今後求められる教員像

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で示された資料について復習し、自身の考えをまとめること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加態度（課題への取り組み含む）:30% リアクションペーパー:30%

最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編』。文部科学省 HP を見ること。

文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編』（2018）

(https://www.mext.go.jp/content/20220426-mext_tokubetu01-100002983_9.pdf)

参考文献 / Readings

廣瀬由美子・石塚謙二 『アクティベート教育学⑦ 特別支援教育』 ミネルヴァ書房 2019

9784623085378

川上康則 『教室マルチリートメント』 東洋館出版社 2022 9784491042626

川上康則ほか 『不適切な関わりを予防する 教室「安全基地」化計画』 東洋館出版社 2023

9784491050850

その他 / Others

上記『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編』は、常に見られるようにしてください。

毎回提示する課題について、自分の考えをまとめてください。

授業の進め方等については、授業内での指示にしたがってください。

注意事項

新法適用科目であり、この授業の履修対象となる学生は、2019年度以降の入学生（大学院含む）、2019年度以降の科目等履修生である。

特別支援教育の理論と方法（中・高）（B）

Theories and Methods of Special Needs Education(B)

大江 啓賢 (OOE HIROKATA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA142
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2018 年度以前入学者履修不可

授業の目標 / Course Objectives

通常の学級にも在籍している特別な支援を必要とする生徒への対応のために、必要となる知識や支援方法について理解を図るとともに、高等学校においても導入される「通級における指導」のあり方等の理解を図る。

授業の内容 / Course Contents

インクルーシブ教育の実現に向けて、障害者権利条約や関係する制度等に関する理解、障害や配慮すべき事項などの知識、学校としての実施すべき対応等、今後の教員として必要な資質を高めるとともに、障害の状況に応じて「自立活動」の視点をもとにした具体的な対応についての考察を行う。また、障害はないが特別な配慮等が必要な生徒への対応についても考察を行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標、概要、進め方）、特別支援教育の理念
- 2 回：障害とは（ICFの理解）
- 3 回：障害者権利条約と障害者差別解消法
- 4 回：特別支援学校の教育課程
- 5 回：特別支援学級と通級における指導

- 6回：学校における合理的配慮とは
 7回：学校組織としての特別支援教育の体制整備
 8回：障害種別における対応（1）
 9回：障害種別における対応（2）
 10回：個別の教育支援計画と個別の指導計画
 11回：障害はないが特別の教育的ニーズのある児童・生徒への対応
 12回：関係機関との連携のあり方
 13回：特別支援教育の視点による生徒指導と進路指導のあり方
 14回：今後のインクルーシブ教育の実現に向けて今後求められる教員像

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業ごとに内容を提示するが、概要は以下のとおりである

復習；授業内の再確認事項に関する内容（レポートとして提出を求める場合もある）

予習；次回の授業に関わる部分のテキスト・参考文献を読む、用語を調べる

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終テスト:40% 小テスト:30% レポート:30%

テキスト / Textbooks

細渕富夫・伊勢正明・大江啓賢編著 『教職ライブラリ 特別の支援を必要とする子どもの理解』 建帛社
 2023 9784767921341 ○

文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編』。文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

国立特別支援教育総合研究所 『特別支援教育の基礎・基本 2020』 ジアース教育新社 2020
 9784863715486

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 『障害のある子供の教育支援の手引』 ジアース教育新社 2022
 9784863716131

注意事項

新法適用科目であり、この授業の履修対象となる学生は、2019年度以降の入学生（大学院含む）、2019年度以降の科目等履修生である。

特別支援教育の理論と方法（中・高）（C）

Theories and Methods of Special Needs Education(c)

町田 美佳 (MACHIDA MIKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA143
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2018 年度以前入学者履修不可

授業の目標 / Course Objectives

通常の学級にも在籍している特別な支援を必要とする生徒への対応のために、必要となる知識や支援方法について理解を図るとともに、高等学校においても導入される「通級における指導」のあり方等の理解を図る。

授業の内容 / Course Contents

インクルーシブ教育の実現に向けて、障害者権利条約や関係する制度等に関する理解、障害や配慮すべき事項などの知識、学校としての実施すべき対応等、今後の教員として必要な資質を高めるとともに、障害の状況に応じて「自立活動」の視点をもとにした具体的な対応についての考察を行う。また、障害はないが特別な配慮等が必要な生徒への対応についても考察を行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標、概要、進め方）、特別支援教育の理念
- 2 回：障害とは（ICFの理解）
- 3 回：障害者権利条約と障害者差別解消法
- 4 回：特別支援学校の教育課程
- 5 回：特別支援学級と通級における指導

- 6回：学校における合理的配慮とは
 7回：学校組織としての特別支援教育の体制整備
 8回：障害種別における対応（1）
 9回：障害種別における対応（2）
 10回：個別の教育支援計画と個別の指導計画
 11回：障害はないが特別の教育的ニーズのある児童・生徒への対応
 12回：関係機関との連携のあり方
 13回：特別支援教育の視点による生徒指導と進路指導のあり方
 14回：今後のインクルーシブ教育の実現に向けて今後求められる教員像

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献に書かれた内容について予習しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% リアクションペーパー（5%×13回）：65% 最終テスト割合：35%

課題（リアクションペーパーや授業内最終テスト）に対するフィードバックは、課題終了後に授業内で全体への講評として行います。

テキスト / Textbooks

文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編』。文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義スライド等の資料や課題提出は、Canvas LMS を使用する予定です。授業時に PC やタブレット等があると便利です。

注意事項

新法適用科目であり、この授業の履修対象となる学生は、2019年度以降の入学生（大学院含む）、2019年度以降の科目等履修生である。

道徳教育の理論と方法（中学校）（A）

Theories and Methods of Moral Education(A)

岩瀧 大樹 (IWATAKI DAIJU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA151
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

道徳の意義や原理、道徳教育の歴史の変遷、今日の道徳的状况を踏まえ、教育活動全体を通じて行う道徳教育及び「特別の教科・道徳」の目標や内容、指導計画を理解する。教材研究を踏まえ、学習指導案を作成し模擬授業を行ない指導力を養う。

授業の内容 / Course Contents

課題ごとに目標に即して講義し、それぞれの資料に基づき学修する。実際の教材や指導案、授業記録をグループワークで検討する。協同で指導案を作成し模擬授業を行ない検討する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（本授業の見通し、概要、道徳教育を取り巻く現状）
- 2 回：道徳とは何か（人間と道徳の本質、道徳の意義や原理）
- 3 回：道徳教育の歴史の変遷（戦前編—封建的道徳観、教育勅語・修身科）
- 4 回：道徳教育の歴史の変遷（戦後編—学習指導要領の特設道徳、「特別の教科・道徳」）
- 5 回：学校の教育活動全体の道徳教育と「要」としての道徳の授業
- 6 回：「特別の教科・道徳」の目的と内容及び今日の道徳的課題

- 7回：子どもの成長と道徳性の発達（道徳性の発達諸理論）
 8回：道徳の授業方法1（問題解決型の授業等）
 9回：道徳の授業方法2（ロールプレイ等）
 10回：実際の道徳の授業に学ぶ（授業ビデオによる授業解説及び検討）
 11回：道徳教材の価値と教材研究の方法
 12回：授業案の作成（指導のねらい、授業構想、1時間の展開、評価の方法）
 13回：模擬授業と授業検討1（代表による問題解決型の授業とその検討）
 14回：模擬授業と授業検討2（代表による情報モラル教材の授業とその検討）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のトピックについて関心を持ち、テキストや参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み（Reaction）：20% 最終レポート割合：40% 最終テスト割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

文部科学省『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示）、文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』

中学校学習指導要領及び各教科等の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

積極的にグループワークやディスカッション、演習的な活動を取り入れる。教職を目指すうえで、かつ社会人としてのコミュニケーション力の成長を期待する。

その他 / Others

第1回にて、授業の進め方、ルールなどを説明し、合意を得られた者の受講を認める。必ず出席をお願いいたします。

道徳教育の理論と方法（中学校）（B）

Theories and Methods of Moral Education(B)

内海崎 貴子 (UCHIUMIZAKI TAKAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA152
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

道徳の意義や原理、道徳教育の歴史の変遷、今日の道徳的状況を踏まえ、教育活動全体を通じて行う道徳教育及び「特別の教科・道徳」の目標や内容、指導計画を理解する。教材研究を踏まえ、学習指導案を作成し模擬授業を行ない指導力を養う。

授業の内容 / Course Contents

課題ごとに目標に即して講義し、それぞれの資料に基づき学修する。実際の教材や指導案、授業記録をグループワークで検討する。協同で指導案を作成し模擬授業を行ない検討する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（本授業の見通し、概要、道徳教育を取り巻く現状）
- 2 回：道徳とは何か（人間と道徳の本質、道徳の意義や原理）
- 3 回：道徳教育の歴史の変遷（戦前編—封建的道徳観、教育勅語・修身科）
- 4 回：道徳教育の歴史の変遷（戦後編—学習指導要領の特設道徳、「特別の教科・道徳」）
- 5 回：学校の教育活動全体の道徳教育と「要」としての道徳の授業
- 6 回：「特別の教科・道徳」の目的と内容及び今日の道徳的課題

- 7回：子どもの成長と道徳性の発達（道徳性の発達諸理論）
 8回：道徳の授業方法1（問題解決型の授業等）
 9回：道徳の授業方法2（ロールプレイ等）
 10回：実際の道徳の授業に学ぶ（授業ビデオによる授業解説及び検討）
 11回：道徳教材の価値と教材研究の方法
 12回：授業案の作成（指導のねらい、授業構想、1時間の展開、評価の方法）
 13回：模擬授業と授業検討1（代表による問題解決型の授業とその検討）
 14回：模擬授業と授業検討2（代表による情報モラル教材の授業とその検討）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のトピックについて関心を持ち、テキストや参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクション・ペーパー:40% 学習指導案:60%

テキスト / Textbooks

内海崎貴子編著 『教職のための道徳教育』 八千代出版 2017年 4842917113 ○

参考文献 / Readings

文部科学省 『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示） 文部科学省

文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』 文部科学省

中学校学習指導要領及び各教科等の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

道徳教育の理論と方法（中学校）（C）

Theories and Methods of Moral Education(C)

小川 智瑞恵 (OGAWA CHIZUE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA153
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

道徳の意義や原理、道徳教育の歴史の変遷、今日の道徳的状況を踏まえ、教育活動全体を通じて行う道徳教育及び「特別の教科・道徳」の目標や内容、指導計画を理解する。教材研究を踏まえ、学習指導案を作成し模擬授業を行ない指導力を養う。

授業の内容 / Course Contents

課題ごとに目標に即して講義し、それぞれの資料に基づき学修する。実際の教材や指導案、授業記録をグループワークで検討する。協同で指導案を作成し模擬授業を行ない検討する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（本授業の見通し、概要、道徳教育を取り巻く現状）
- 2 回：道徳とは何か（人間と道徳の本質、道徳の意義や原理）
- 3 回：道徳教育の歴史の変遷（戦前編—封建的道徳観、教育勅語・修身科）
- 4 回：道徳教育の歴史の変遷（戦後編—学習指導要領の特設道徳、「特別の教科・道徳」）
- 5 回：学校の教育活動全体の道徳教育と「要」としての道徳の授業
- 6 回：「特別の教科・道徳」の目的と内容及び今日の道徳的課題

- 7回：子どもの成長と道徳性の発達（道徳性の発達諸理論）
 8回：道徳の授業方法1（問題解決型の授業等）
 9回：道徳の授業方法2（ロールプレイ等）
 10回：実際の道徳の授業に学ぶ（授業ビデオによる授業解説及び検討）
 11回：道徳教材の価値と教材研究の方法
 12回：授業案の作成（指導のねらい、授業構想、1時間の展開、評価の方法）
 13回：模擬授業と授業検討1（代表による問題解決型の授業とその検討）
 14回：模擬授業と授業検討2（代表による情報モラル教材の授業とその検討）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のトピックについて関心を持ち、テキストや参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% リアクション・ペーパー:40% 授業内に指示した提出物:30% 最終レポート:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

文部科学省 『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示） 東山書房

文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』 教育出版

中学校学習指導要領及び各教科等の学習指導要領解説については、文部科学省 HP を見ること。

道徳教育の理論と方法（中学校）（D）

Theories and Methods of Moral Education(D)

伊東 毅 (ITO TAKESHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA154
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

道徳の意義や原理、道徳教育の歴史の変遷、今日の道徳的状況を踏まえ、教育活動全体を通じて行う道徳教育及び「特別の教科・道徳」の目標や内容、指導計画を理解する。教材研究を踏まえ、学習指導案を作成し模擬授業を行ない指導力を養う。

授業の内容 / Course Contents

課題ごとに目標に即して講義し、それぞれの資料に基づき学修する。実際の教材や指導案、授業記録をグループワークで検討する。協同で指導案を作成し模擬授業を行ない検討する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（本授業の見通し、概要、道徳教育を取り巻く現状）
- 2 回：道徳とは何か（人間と道徳の本質、道徳の意義や原理）
- 3 回：道徳教育の歴史の変遷（戦前編—封建的道徳観、教育勅語・修身科）
- 4 回：道徳教育の歴史の変遷（戦後編—学習指導要領の特設道徳、「特別の教科・道徳」）
- 5 回：学校の教育活動全体の道徳教育と「要」としての道徳の授業
- 6 回：「特別の教科・道徳」の目的と内容及び今日の道徳的課題

- 7回：子どもの成長と道徳性の発達（道徳性の発達諸理論）
 8回：道徳の授業方法1（問題解決型の授業等）
 9回：道徳の授業方法2（ロールプレイ等）
 10回：実際の道徳の授業に学ぶ（授業ビデオによる授業解説及び検討）
 11回：道徳教材の価値と教材研究の方法
 12回：授業案の作成（指導のねらい、授業構想、1時間の展開、評価の方法）
 13回：模擬授業と授業検討1（代表による問題解決型の授業とその検討）
 14回：模擬授業と授業検討2（代表による情報モラル教材の授業とその検討）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のトピックについて関心を持ち、テキストや参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内で作成する学習指導案:30% 授業内で行うグループワークへの取り組み状況:30%
 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

高橋陽一・伊東毅 『道徳科教育講義』 武蔵野美術大学出版局 2017 9784864630597 ○

参考文献 / Readings

文部科学省 『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示） 東山書房
 文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』 教育出版
 中学校学習指導要領及び各教科等の学習指導要領解説については、文部科学省 HP を見ること。

その他 / Others

授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

特別活動の理論と方法（A）

Theories and Methods of Extracurricular Activity(A)

奈須 恵子／下地 秀樹／逸見 敏郎／岩瀧 大樹 (NASU KEIKO/ SHIMOJI HIDEKI/ HEMMI TOSHIRO/ IWATAKI DAIJU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GA161

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年他

単位： 2

科目ナンバリング： CET2220

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 池袋・新座両キャンパス所属学生対象

2019 年度以降入学者履修不可

授業の目標 / Course Objectives

教育課程における「総合的な学習の時間」、「総合的な探究の時間」及び「特別活動」の目的や意義、その特質等を理解するとともに、各教科との関連や展開方法、評価方法についての理解を図る。

授業の内容 / Course Contents

「総合的な学習（探究）の時間」や「特別活動」によって育まれる資質や能力について実践事例をもとに考察し、各教科の学習との関連性を踏まえて、生徒の主体性の育成やキャリア発達に資する展開等について計画的・継続的な指導の工夫について議論を深める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業の目標、概要、進め方、教育課程の構造と教科以外の活動の役割
- 2 回：「総合的な学習（探究）の時間」の目標と展開
- 3 回：「総合的な学習（探究）の時間」の学習展開
- 4 回：探究的視点を育む展開

- 5回：各教科の学習と「総合的な学習（探究）の時間」の相互作用
 6回：学校生活において「総合的な学習（探究）の時間」が及ぼす影響
 7回：「特別活動」の歴史的な背景と現在の役割
 8回：学校教育における学級活動・ホームルーム活動の役割
 9回：学校行事の展開方法と配慮事項
 10回：生徒の主体性を促すための生徒会活動の役割
 11回：学校生活において「特別活動」が及ぼす影響
 12回：キャリア教育の視点から、「総合的な学習（探究）の時間」、「特別活動」を考える
 13回：「総合的な学習（探究）の時間」、「特別活動」における評価の在り方
 14回：「総合的な学習（探究）の時間」、「特別活動」を通じた主体性と集団性の育成

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献に書かれた内容について予習しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席状況と授業内レポート:100%

テキスト / Textbooks

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領。文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』、文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』、文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』、文部科学省『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』など。文部科学省 HP を見ること。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

本科目では、学習支援等活動に参加したレポート作成・提出も課す予定である。大学外での活動を行う自覚と責任感をもって参加することを求める。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

本科目では、オンデマンド教材の学修に基づくレポート作成・提出も課す予定である。オンデマンド教材を視聴・学修するための PC 等の機器は各自用意すること。

その他 / Others

〈重要〉

- 履修登録を忘れずにおこなうこと。
- 全体オリエンテーションは次の日程でおこなうので、いずれか1回に出席すること。

2024年4月15日（月）18:55～20:35 池袋 4342 教室

2024年4月18日（木）18:55～20:35 新座 N214 教室

2024年4月19日（金）18:55～20:35 池袋 4342 教室

なお、日程・時間・教室は R Guide>学校・社会教育講座>履修登録>各課程主要行事年間スケジュール>教

職課程でも確認すること。

授業の進め方等については、授業内

注意事項

異文化コミュニケーション学科の学生で、今年度秋学期に「海外留学研修 A」「同 B」の履修を予定している学生は、今年度、本科目を履修することはできない。

また、今年度秋学期から翌年度春学期にかけて、「海外留学研修 C1」「同 C2」「Study Abroad in Asia A」「同 B」の履修を予定している者で、今年度本科目の履修を希望する者は、教務事務センターに申し出ること。

特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法

Theories and Methods of Special Activities and the Period for Integrated Studies

奈須 恵子／下地 秀樹／逸見 敏郎／岩瀧 大樹 (NASU KEIKO/ SHIMOJI HIDEKI/ HEMMI TOSHIRO/ IWATAKI DAIJU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GA162

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年他

単位： 2

科目ナンバリング： CET2220

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 池袋キャンパス所属学生対象

2018 年度以前入学者履修不可

授業の目標 / Course Objectives

教育課程における「総合的な学習の時間」、「総合的な探究の時間」及び「特別活動」の目的や意義、その特質等を理解するとともに、各教科との関連や展開方法、評価方法についての理解を図る。

授業の内容 / Course Contents

「総合的な学習（探究）の時間」や「特別活動」によって育まれる資質や能力について実践事例をもとに考察し、各教科の学習との関連性を踏まえて、生徒の主体性の育成やキャリア発達に資する展開等について計画的・継続的な指導の工夫について議論を深める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業の目標、概要、進め方、教育課程の構造と教科以外の活動の役割
- 2 回：「総合的な学習（探究）の時間」の目標と展開
- 3 回：「総合的な学習（探究）の時間」の学習展開
- 4 回：探究的視点を育む展開

- 5回：各教科の学習と「総合的な学習（探究）の時間」の相互作用
 6回：学校生活において「総合的な学習（探究）の時間」が及ぼす影響
 7回：「特別活動」の歴史的な背景と現在の役割
 8回：学校教育における学級活動・ホームルーム活動の役割
 9回：学校行事の展開方法と配慮事項
 10回：生徒の主体性を促すための生徒会活動の役割
 11回：学校生活において「特別活動」が及ぼす影響
 12回：キャリア教育の視点から、「総合的な学習（探究）の時間」、「特別活動」を考える
 13回：「総合的な学習（探究）の時間」、「特別活動」における評価の在り方
 14回：「総合的な学習（探究）の時間」、「特別活動」を通じた主体性と集団性の育成

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献に書かれた内容について予習しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席状況と授業内レポート:100%

テキスト / Textbooks

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領。文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』、文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』、文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』、文部科学省『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』など。文部科学省 HP を見ること。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

本科目では、学習支援等活動に参加したレポート作成・提出も課す予定である。大学外での活動を行う自覚と責任感をもって参加することを求める。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

本科目では、オンデマンド教材の学修に基づくレポート作成・提出も課す予定である。オンデマンド教材を視聴・学修するための PC 等の機器は各自用意すること。

その他 / Others

〈重要〉

- 履修登録を忘れずにおこなうこと。
- 全体オリエンテーションは次の日程でおこなうので、いずれか1回に出席すること。

2024年4月15日（月）18:55～20:35 池袋 4342 教室

2024年4月18日（木）18:55～20:35 新座 N214 教室

2024年4月19日（金）18:55～20:35 池袋 4342 教室

なお、日程・時間・教室は R Guide>学校・社会教育講座>履修登録>各課程主要行事年間スケジュール>教

職課程でも確認すること。

授業の進め方等については、授業内

注意事項

新法適用科目であり、この授業の履修対象となる学生は、2019年度以降の入学生（大学院含む）、2019年度以降の科目等履修生である。

異文化コミュニケーション学科の学生で、今年度に「海外留学研修 A」「同 B」の履修を予定している学生は、今年度、本科目を履修することはできない。

また、今年度から翌年度春学期にかけて、「海外留学研修 C1」「同 C2」「Study Abroad in Asia A」「同 B」の履修を予定している者で、今年度本科目の履修を希望する者は、教務事務センターに申し出ること。

教育方法論（A）

Teaching Methods(A)

伊藤 静香 (ITO SHIZUKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA191
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

授業の内容 / Course Contents

現代社会に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、指導技術について講義する。さらに情報機器を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用について講じる。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：教育方法とは何か
- 2 回：教育方法の基礎理論
- 3 回：教育方法のあり方
- 4 回：学習意欲：生徒を学習に向かわせる
- 5 回：学習の多様性：生徒の自らの学ぶ力を引き出す
- 6 回：学習を通じての自己形成：自分を見つめ直す
- 7 回：授業を構成する基礎的要件

- 8回：学習評価
 9回：授業を行うための技術
 10回：アクティブ・ラーニングの活用
 11回：学習指導案の作成
 12回：情報機器の活用
 13回：教材の活用
 14回：情報倫理とリテラシー／まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

既習または同時履修の「教育心理学」「教育原論」の授業内容を復習しておくこと。また授業見学や「授業案作成」などに際しては、授業で学んだ内容を活用することを意識化すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 毎回の授業におけるリアクションペーパー及び授業への参加状況に基づき総合的に評価する。:40%

上記の割合とは別に、欠席が5回を超える場合には成績評価の対象としない場合があるので注意すること。

テキスト / Textbooks

松尾 知明 『新版 教育課程・方法論』 学文社 2019 9784762027659 ○

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領及び各自の免許取得予定教科の学習指導要領解説。いずれも文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

その他 / Others

本授業ではグループでの意見交換等を実施することがある。初回の授業において必ず授業内容の確認を行った上で履修をすること。何かある場合には、早めに担当教員まで連絡をすること。

※授業に関する連絡等は Canvas LMS を通して行う。

教育方法論（B）

Teaching Methods(B)

坂本 保宏 (SAKAMOTO YASUHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA192
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

授業の内容 / Course Contents

現代社会に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、指導技術について講義する。さらに情報機器を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用について講じる。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：教育方法とは何か
- 2 回：教育方法の基礎理論
- 3 回：教育方法のあり方
- 4 回：学習意欲：生徒を学習に向かわせる
- 5 回：学習の多様性：生徒の自らの学ぶ力を引き出す
- 6 回：学習を通じての自己形成：自分を見つめ直す
- 7 回：授業を構成する基礎的要件

- 8回：学習評価
 9回：授業を行うための技術
 10回：アクティブ・ラーニングの活用
 11回：学習指導案の作成
 12回：情報機器の活用
 13回：教材の活用
 14回：情報倫理とリテラシー／まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

本講座は、既習または同時履修の「生徒・進路指導の理論と方法」との連続性がとくに高い。既習の場合にはよく復習しておくこと。それぞれの授業で学ぶ内容の相互活用を意識してください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回のリアクションペーパー:70% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領及び各自の免許取得予定教科の学習指導要領解説。いずれも文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

PDF データでその都度配付する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

正解のない問題をじっくりと考察することへの耐性

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PDF テキストの閲覧ができる機器を授業に持参できることが望ましい。

教育方法論（C）

Teaching Methods(c)

ー教育方法学史と実際の学校の授業ビデオから、受講生同士が協同的に学ぶ教育方法学ー

永島 孝嗣（NAGASHIMA TAKASHI）

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GA193

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CET2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

授業の内容 / Course Contents

現代社会に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、指導技術について講義する。さらに情報機器を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用について講じる。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：教育方法とは何か

2 回：教育方法の基礎理論

3 回：教育方法のあり方

4 回：学習意欲：生徒を学習に向かわせる

5 回：学習の多様性：生徒の自らの学ぶ力を引き出す

6 回：学習を通じての自己形成：自分を見つめ直す

- 7回：授業を構成する基礎的要件
 8回：学習評価
 9回：授業を行うための技術
 10回：アクティブ・ラーニングの活用
 11回：学習指導案の作成
 12回：情報機器の活用
 13回：教材の活用
 14回：情報倫理とリテラシー／まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:		:			:		

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

既習または同時履修の「教育心理学」「教育原論」の授業内容を復習しておくこと。

文献を読む際に、自らの元々持っている価値観を強めるために読むのではなく、自らが変わる (=学ぶ) ために、文献を読むようにつとめる必要がある。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業前レポート (一回あたり 40 を 13 で割ったもの) :40% 授業後レポート (一回あたり 40 を 14 で割ったもの) :40% 最終レポート割合 :20%

テキスト / Textbooks

文部科学省 『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領 解説』 文部科学省ホームページより参照する。

文部科学省 『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領 解説』 文部科学省ホームページより参照する。

佐藤学 『教育方法学』 岩波書店 1996 4000260057 ○

秋田喜代美 『学びの心理学』 左右社 2012 4903500853 ○

武田明典ほか 『教師と学生が知っておくべき教育方法論・ICT活用』 北樹出版 2022 9784779306761

○

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領及び各自の免許取得予定教科の学習指導要領解説。いずれも文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

稲垣忠彦ほか 『授業研究入門』 岩波書店 1996 4000039482

佐伯胖ほか 『ビデオによるリフレクション入門』 東京大学出版会 2018 4130530909

吉田章宏 『教育の方法』 放送大学教育振興会 1995 459552126

田中耕治ほか 『戦後日本教育方法論史(上)(下)』 ミネルヴァ書房 2017 4623078582

石井順治 『教師の話し方・聴き方』 ぎょうせい 2010 4324088829

ドナルド・ショーン 『省察的実践とは何か』 鳳書房 2007 4902455110

ジョン・デューイ 『学校と社会』 岩波書店 1957 4003365224

授業中に適宜追加します。

その他/ Others

授業の進め方等については、初回に詳細のガイダンスを行います。未来の子どもたちにこう学んでほしいと思うような学び方で、私たちも学びましょう。

教育方法論（D）

Teaching Methods(D)

澤田 稔 (SAWADA MINORU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA194
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

授業の内容 / Course Contents

現代社会に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、指導技術について講義する。さらに情報機器を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用について講じる。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：教育方法とは何か
- 2 回：教育方法の基礎理論
- 3 回：教育方法のあり方
- 4 回：学習意欲：生徒を学習に向かわせる
- 5 回：学習の多様性：生徒の自らの学ぶ力を引き出す
- 6 回：学習を通じての自己形成：自分を見つめ直す
- 7 回：授業を構成する基礎的要件

- 8回：学習評価
 9回：授業を行うための技術
 10回：アクティブ・ラーニングの活用
 11回：学習指導案の作成
 12回：情報機器の活用
 13回：教材の活用
 14回：情報倫理とリテラシー／まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

既習または同時履修の「教育心理学」「教育原論」の授業内容を復習しておくこと。また授業見学や「授業案作成」などに際しては、授業で学んだ内容を活用することを意識化すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 講読資料へのリアクションペーパー、その他の課題提出状況、授業への参加状況に基づき総合的に評価する。:30%

下記「その他」にも再掲しているが、何かあれば早めに澤田稔 <5535719@rikkyo.ac.jp>宛連絡すること。

特にやむを得ない理由で、初回授業に欠席する場合には、必ず事前に連絡すること（事前に未連絡で欠席の場合、受講を認めない場合がある）。

テキスト / Textbooks

文部科学省 『中学校学習指導要領』 文部科学省ホームページより参照する。 -

文部科学省 『中学校学習指導要領 解説』 文部科学省ホームページより参照する。 -

文部科学省 『高等学校学習指導要領』 文部科学省ホームページより参照する。 -

文部科学省 『高等学校学習指導要領 解説』 文部科学省ホームページより参照する。 -

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領及び各自の免許取得予定教科の学習指導要領解説。いずれも文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

その他 / Others

立教大学の授業プラットフォームである Canvas LMS を利用するので、使用方法を確認しておくこと。

何かあれば早めに澤田稔 <5535719@rikkyo.ac.jp>宛連絡すること。

特にやむを得ない理由で、初回授業に欠席する場合には、必ず事前に連絡すること（事前に未連絡で欠席の場合、受講を認めない場合がある）。

ICT活用の理論と方法（A）

Theories and Methods of ICT Practice(A)

鍋島 尚子 (NABESHIMA TAKAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA195
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項） オンデマンド配信日程
4/11,25,5/16,30,6/13,27,7/11
校地： 他
学期： 春学期他
単位： 1
科目ナンバリング： CET2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 池袋・新座両キャンパス所属学生対象
2021 年度以前入学者履修不可
「ICT活用の理論と方法（B）」と同一科目

授業の目標 / Course Objectives

情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方を学び、中学校・高等学校の生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導に関する基礎的な知識・技能を養成する。

授業の内容 / Course Contents

ICT（情報通信技術）の活用の意義と理論の基本を学び、デジタル教材の作成・利用の事例やオンライン授業実践など中学校・高等学校における ICT を効果的に活用した学習指導の在り方、学習評価における教育データの活用と教育情報セキュリティの重要性、統合型校務支援システムを含む ICT を活用した校務の推進状況について知るとともに、生徒への情報モラルを含む指導法の基礎を身につける。

授業計画(授業計画数：7) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

／学校教育における ICT（情報通信技術）活用の背景と現状

- 2回：ICT活用の意義と留意点（特別の支援を必要とする生徒への活用と留意点・ICT環境の整備の現状）
 3回：ICTを効果的に活用した学習指導について（デジタル教材の作成・利用事例とその指導法）
 4回：学習履歴など教育データの活用と教育情報セキュリティの重要性について／遠隔・オンライン教育の意義とシステムの使用法について／統合型校務支援システムを含むICTを活用した校務の推進状況について
 5回：中学校・高等学校生徒への情報活用能力（情報モラルを含む。）育成に関する基礎的理解とその指導法について
 6回：情報活用能力（情報モラルを含む。）に関する各教科等の特性に応じた指導事例について
 7回：まとめ：これからの学校におけるICT活用の可能性と課題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

オンデマンド授業であるため、各自でスケジュールを確認し、システムエラーなども考慮に入れ、余裕をもって課題に取り組むこと（課題の提出が遅れるとピアレビューに参加できず、単位修得が困難となる）。受講生各自が実践的な力をつけられるよう支援したいというのが講師の想いである。基礎的なことでも遠慮なく Canvas LMS のメッセージにて質問し、同時に自己解決を模索し、各回の課題を締め切りまでに提出すること。なお、技術の習熟には授業の課題のみでは十分ではないため、各自で繰り返し練習することが望ましい。また、日頃から教育

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の課題:50% ピアレビュー:20% 授業参加度（現状の確認など）:10% 最終レポート割合 :20%

ピアレビューは受講生同士の励ましあいであると共に、教員になったときの評価の練習としての課題である。参加不十分の場合、単位修得は困難となる。

テキスト / Textbooks

Canvas LMS の毎回のモジュールにて公開するレジュメおよび説明動画の両方を参照のこと。また、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領及び各自の免許取得予定教科の学習指導要領解説（いずれも文部科学省 Web サイトを参照のこと）。

参考文献 / Readings

ICTを活用した授業の理論（反転授業など）や、ICTの操作方法に関する資料は各自で適宜参照のこと。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

パソコンの基礎的な操作能力（Excel、PowerPoint、Google スプレッドシートの基礎など。授業で基礎から簡単に説明するが事前に少しでも慣れておくことが望ましい）。マニュアルや動画を参照し理解する読解力（Canvas LMS やロイノートについて、教員に準ずる立場から操作する課題がある）。初めての操作にも試行錯誤を重ねて取り組み、必要な支援を求め、完了させる実行力。新しいことに挑戦する意欲と好奇心。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Windows パソコン（大学の貸出用パソコンを使用しても良い）。「ビデオの作成」機能のある PowerPoint。ロイノートのアプリ（希望者のみ。ブラウザでも良い）。いずれも詳細は初回到案内する。

その他/ Others

春学期のみ抽選。定員は 150 名

注意事項

新法適用科目であり、この授業の履修対象となる学生は、2022 年度以降の入学生（大学院含む）、2022 年度以降の科目等履修生である。

なお、授業に関する案内・連絡等は Canvas LMS を使用する。

ICT活用の理論と方法（B）

Theories and Methods of ICT Practice(B)

鍋島 尚子 (NABESHIMA TAKAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA196
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項） オンデマンド配信日程
9/26,10/10,24,11/14,28,12/12,1/9
校地： 他
学期： 秋学期他
単位： 1
科目ナンバリング： CET2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 池袋・新座両キャンパス所属学生対象
2021 年度以前入学者履修不可
「ICT活用の理論と方法（A）」と同一科目

授業の目標 / Course Objectives

情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方を学び、中学校・高等学校の生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導に関する基礎的な知識・技能を養成する。

授業の内容 / Course Contents

ICT（情報通信技術）の活用の意義と理論の基本を学び、デジタル教材の作成・利用の事例やオンライン授業実践など中学校・高等学校における ICT を効果的に活用した学習指導の在り方、学習評価における教育データの活用と教育情報セキュリティの重要性、統合型校務支援システムを含む ICT を活用した校務の推進状況について知るとともに、生徒への情報モラルを含む指導法の基礎を身につける。

授業計画(授業計画数：7) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

／学校教育における ICT（情報通信技術）活用の背景と現状

- 2回：ICT活用の意義と留意点（特別の支援を必要とする生徒への活用と留意点・ICT環境の整備の現状）
 3回：ICTを効果的に活用した学習指導について（デジタル教材の作成・利用事例とその指導法）
 4回：学習履歴など教育データの活用と教育情報セキュリティの重要性について／遠隔・オンライン教育の意義とシステムの使用法について／統合型校務支援システムを含むICTを活用した校務の推進状況について
 5回：中学校・高等学校生徒への情報活用能力（情報モラルを含む。）育成に関する基礎的理解とその指導法について
 6回：情報活用能力（情報モラルを含む。）に関する各教科等の特性に応じた指導事例について
 7回：まとめ：これからの学校におけるICT活用の可能性と課題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

オンデマンド授業であるため、各自でスケジュールを確認し、システムエラーなども考慮に入れ、余裕をもって課題に取り組むこと（課題の提出が遅れるとピアレビューに参加できず、単位修得が困難となる）。受講生各自が実践的な力をつけられるよう支援したいというのが講師の想いである。基礎的なことでも遠慮なく Canvas LMS のメッセージにて質問し、同時に自己解決を模索し、各回の課題を締め切りまでに提出すること。なお、技術の習熟には授業の課題のみでは十分ではないため、各自で繰り返し練習することが望ましい。また、日頃から教育

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の課題:50% ピアレビュー:20% 授業参加度（現状の確認など）:10% 最終レポート割合 :20%

ピアレビューは受講生同士の励ましあいであると共に、教員になったときの評価の練習としての課題である。参加不十分の場合、単位修得は困難となる。

テキスト / Textbooks

Canvas LMS の毎回のモジュールにて公開するレジュメおよび説明動画の両方を参照のこと。また、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領及び各自の免許取得予定教科の学習指導要領解説（いずれも文部科学省 Web サイトを参照のこと）。

参考文献 / Readings

ICTを活用した授業の理論（反転授業など）や、ICTの操作方法に関する資料は各自で適宜参照のこと。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

パソコンの基礎的な操作能力（Excel、PowerPoint、Google スプレッドシートの基礎など。授業で基礎から簡単に説明するが事前に少しでも慣れておくことが望ましい）。マニュアルや動画を参照し理解する読解力（Canvas LMS やロイノートについて、教員に準ずる立場から操作する課題がある）。初めての操作にも試行錯誤を重ねて取り組み、必要な支援を求め、完了させる実行力。新しいことに挑戦する意欲と好奇心。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Windows パソコン（大学の貸出用パソコンを使用しても良い）。「ビデオの作成」機能のある PowerPoint。ロイノートのアプリ（希望者のみ。ブラウザでも良い）。いずれも詳細は初回到案内する。

注意事項

新法適用科目であり、この授業の履修対象となる学生は、2022年度以降の入学生（大学院含む）、2022年度以降の科目等履修生である。

なお、授業に関する案内・連絡等は Canvas LMS を使用する。

中・高教育実習事前指導

Guidance on Teaching Practice

岩瀧 大樹/下地 秀樹/奈須 恵子/逸見 敏郎/森田 満夫 (IWATAKI DAIJU/ SHIMOJI HIDEKI/
NASU KEIKO/ HEMMI TOSHIRO/ MORITA MITSUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA204
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 通年他
単位： 1
科目ナンバリング： CET3420
使用言語： 日本語
授業形式： 実習
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 池袋キャンパス所属学生対象
※2021 年度以降、科目コード登録に変更

授業の目標 / Course Objectives

2025 年度「中・高教育実習」の履修希望者を対象とし、教育実習の実際について理解を深めることを目標とする。

授業の内容 / Course Contents

中・高教育実習事前指導 I では、教育実習概要、教育実習に関わる諸手続き、授業作り入門（講義編・添削編）について説明を行う。

中・高教育実習事前指導 II では、授業作り入門の講義（講義編）を行う。

中・高教育実習事前指導 III では、先輩の教育実習経験（2024 年度）から教育実習の心構えを学ぶ。

中・高教育実習事前指導 IV では、授業作り入門の演習（添削編）を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：1) 「中・高教育実習事前指導 I」：オリエンテーション

※所属キャンパスに関わらず、以下の「いずれか1回」に必ず出席すること。

※教室は正式決定後、Canvas LMSにてインフォメーションを行う。

5月6日(月) 18:55~20:35 池袋キャンパス(4342教室)

5月10日(金) 18:55~20:35 新座キャンパス(N214教室)

5月11日(土) 13:25~15:05 池袋キャンパス(7102教室)

2)「中・高教育実習事前指導II」

○授業作り入門(授業案講義編)：6月15日(

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

・「中・高教育実習事前指導」の履修に際し、2025年度の教育実習の参加について、各自のキャリア設計に基づく進路選択とあわせて十分に検討しておくこと。

・授業時に配付する、立教大学教職課程編『教育実習ハンドブック』を熟読し、教育実習までの期間、自らの課題に取り組むこと。

・「各教科教育法1」及び「各教科教育法演習1」で学習する内容を各自よく復習すること。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業課題:100%

原則として、予定されているプログラムすべてに出席しなければ成績評価の対象とはならない(履修資格を失う)。全回出席した上で、提出された課題により評価を行う。

テキスト/Textbooks

立教大学教職課程編『教育実習ハンドブック』(授業時配付)

『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』(文科省HPを参照のこと)

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

その他/Others

本授業は集中形式で行うが、4月期履修登録の期間に各自科目コード登録を行い、その上で、5月のオリエンテーションに必ず出席すること。

注意事項

所属キャンパス開講クラスについて、4月期に、各自で科目コード登録をすること。

中・高教育実習

Field Work in Secondary Education

岩瀧 大樹/下地 秀樹/奈須 恵子/逸見 敏郎/加藤 正和/加藤 仁子 (IWATAKI DAIJU/ SHIMOJI HIDEKI/ NASU KEIKO/ HEMMI TOSHIRO/ KATOU MASAKAZU/ KATO HIROKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA205
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 通年他
単位： 4
科目ナンバリング： CET4420
使用言語： 日本語
授業形式： 実習
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 学校・社会教育講座履修要項「教職課程 7 教育実習について（中学校・高等学校）」を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 池袋キャンパス所属学生対象

授業の目標 / Course Objectives

学校現場での実習を通じて、学校教育の現実を学び、教師となるための実践的指導力について最低限の要件をつかむことを目標とする。

授業の内容 / Course Contents

- 「直前指導」で実習の概略と課題を確認し、各自の教育実習校で3週間の教育実習を行う。
- 教育実習期間中の指導内容や気づきなどは、「教育実習の記録」に記載し、指導教諭の点検を受ける。
- 教育実習全体を振り返り、「教育実習事後レポート」を作成し、「教育実習の記録」および「研究授業授業案」と一緒に、指定期日までに提出する。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回： 1. 直前指導 4月13日(土) 13:25～
池袋キャンパス 7102 教室

遅刻・欠席・早退は認めない（履修放棄と判断する）。

*変更等の可能性もあるため、必ず教職課程からのインフォメーションなどは、各自で確認をすること。

2. 教育実習（3週間）

各自が教育実習校で、指導教諭および関係する教諭・教頭・校長の指導のもと実習をおこなう。

教科指導、生徒指導、その他、学校の様々な活動と教師の役割について、実践的に学ぶ。

3. 「教育実習の記録」「教育実習事後レポート」を作成し、提出する（所定の期日までに

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド（パワー等）の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	: ○	学内の教室外施設の利用	: ○	校外実習・フィールドワーク	: ○
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『学校・社会教育講座履修要項』の「7. 教育実習について（中学校・高等学校）」、および既配布の教職課程編『教育実習ハンドブック』を熟読しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 「教育実習の記録」:50% 「教育実習事後レポート」:50%

教育実習を総合的に評価する。

テキスト / Textbooks

立教大学教職課程編『教育実習ハンドブック』

参考文献 / Readings

必要に応じて、直前指導時に紹介する。

注意事項

教育実習先修科目を全て修得済みで、教育実習手続等を完了していることを確認して大学が自動登録する。

高校教育実習

Field Work in High Schools

岩瀧 大樹/下地 秀樹/奈須 恵子/逸見 敏郎/加藤 正和/加藤 仁子 (IWATAKI DAIJU/ SHIMOJI HIDEKI/ NASU KEIKO/ HEMMI TOSHIRO/ KATOU MASAKAZU/ KATO HIROKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA206
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 通年他
単位： 2
科目ナンバリング： CET4420
使用言語： 日本語
授業形式： 実習
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 学校・社会教育講座履修要項「教職課程 7 教育実習について（中学校・高等学校）」を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 池袋キャンパス所属学生対象

授業の目標 / Course Objectives

学校現場での実習を通じて、学校教育の現実を学び、教師となるための実践的指導力について最低限の要件をつかむことを目標とする。

授業の内容 / Course Contents

- 「直前指導」で実習の概略と課題を確認し、各自の教育実習校で2～3週間の教育実習を行う。
- 教育実習期間中の指導内容や気づきなどは、「教育実習の記録」に記載し、指導教諭の点検を受ける。
- 教育実習全体を振り返り、「教育実習事後レポート」を作成し、「教育実習の記録」および「研究授業授業案」と一緒に、指定期日までに提出する。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：1. 直前指導 4月13日(土) 13:25～
池袋キャンパス 7102 教室

遅刻・欠席・早退は認めない（履修放棄と判断する）。

*変更等の可能性もあるため、必ず教職課程からのインフォメーションなどは、各自で確認をすること。

2. 教育実習（2～3週間）

各自が教育実習校で、指導教諭および関係する教諭・教頭・校長の指導のもと実習をおこなう。

教科指導、生徒指導、その他、学校の様々な活動と教師の役割について、実践的に学ぶ。

3. 「教育実習の記録」「教育実習事後レポート」を作成し、提出する（所定の期日ま

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド（パワー等）の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	: ○	学内の教室外施設の利用	: ○	校外実習・フィールドワーク	: ○
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『学校・社会教育講座履修要項』の「7. 教育実習について（中学校・高等学校）」、および既配布の教職課程編『教育実習ハンドブック』を熟読しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 「教育実習の記録」:50% 「教育実習事後レポート」:50%

教育実習を総合的に評価する。

テキスト / Textbooks

立教大学教職課程編『教育実習ハンドブック』

参考文献 / Readings

必要に応じて、直前指導時に紹介する。

注意事項

教育実習先修科目を全て修得済みで、教育実習手続等を完了していることを確認して大学が自動登録する。

高校教育実習事前指導

Guidance on Teaching Practice

岩瀧 大樹/下地 秀樹/奈須 恵子/逸見 敏郎/森田 満夫 (IWATAKI DAIJU/ SHIMOJI HIDEKI/
NASU KEIKO/ HEMMI TOSHIRO/ MORITA MITSUO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GA209

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年他

単位： 1

科目ナンバリング： CET3420

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 池袋キャンパス所属学生対象

2019 年度以降入学者履修不可

※2021 年度以降、科目コード登録に変更

授業の目標 / Course Objectives

2025 年度「高校教育実習」の履修希望者を対象とし、教育実習の実際について理解を深めることを目標とする。

授業の内容 / Course Contents

高校教育実習事前指導 I では、教育実習概要、教育実習に関わる諸手続き、授業作り入門（講義編・添削編）について説明を行う。

高校教育実習事前指導 II では、授業作り入門の講義（講義編）を行う。

高校教育実習事前指導 III では、先輩の教育実習経験（2024 年度）から教育実習の心構えを学ぶ。

高校教育実習事前指導 IV では、授業作り入門の演習（添削編）を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：1)「中・高教育実習事前指導 I」：オリエンテーション

※所属キャンパスに関わらず、以下の「いずれか 1 回」に必ず出席すること。

※教室は正式決定後、Canvas LMS にてインフォメーションを行う。

5 月 6 日 (月) 18:55~20:35 池袋キャンパス (4342 教室)

5 月 10 日 (金) 18:55~20:35 新座キャンパス (N214 教室)

5 月 11 日 (土) 13:25~15:05 池袋キャンパス (7102 教室)

2)「中・高教育実習事前指導 II」

○授業作り入門 (授業案講義編)：6 月 15 日 (

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ・「高校教育実習事前指導」の履修に際し、2025 年度の教育実習の参加について、各自のキャリア設計に基づく進路選択とあわせて十分に検討しておくこと。
- ・授業時に配付する、立教大学教職課程編『教育実習ハンドブック』を熟読し、教育実習までの期間、自らの課題に取り組むこと。
- ・「各教科教育法 1」及び「各教科教育法演習 1」で学習する内容を各自よく復習すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業課題:100%

原則として、予定されているプログラムすべてに出席しなければ成績評価の対象とはならない (履修資格を失う)。全回出席した上で、提出された課題により評価を行う。

テキスト / Textbooks

立教大学教職課程編『教育実習ハンドブック』(授業時配付)

『高等学校学習指導要領』(文科省 HP を参照のこと)

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

その他 / Others

本授業は集中形式で行うが、4 月期履修登録の期間に各自科目コード登録を行い、その上で、5 月のオリエンテーションに必ず出席すること。

注意事項

所属キャンパス開講クラスについて、4 月期に、各自で科目コード登録をすること。

教職概論（A）

Introduction to the Teaching Profession(A)

岩瀧 大樹 (IWATAKI DAIJU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA271
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET2000
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

現代社会における教職の重要性の高まりを、自らが教職に就き、実践者となることを想定して理解する。そのため、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等についての基本的な知識を身に付け、教職への意欲を高め、教職への適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解し、自ら学び続ける基礎的力量を養成する。

授業の内容 / Course Contents

教職の意義、教員の役割、教員の職務内容について、社会的意義や社会的要請、法制上の規定、歴史的過程から学習する。また、教職と他の職業との相違を理解した上での、教職に就くまでのプロセスや教職に就いた後の研修の在り方を理解するとともに、「チーム学校」の具体的な事例の学習を通して、「チーム学校」において教職員が学校内外の専門家等と連携・分担して働く重要性やその在り方への理解を深める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）
／現代日本における公教育と教員の役割
2 回：教職の職業的特徴

- 3回：教員養成の歴史（中等教育機関の教員養成について）
 4回：教員の役割（1）教職観の変遷
 5回：教員の役割（2）教員の求められる基礎的資質能力
 6回：教員の職務内容（1）仕事の実際（職務の全体像）
 7回：教員の職務内容（2）教員の服務上・身分上の義務及び身分保障（法制上の規定）
 8回：教員の職務内容（3）教員研修の意義及び制度上の位置づけ・専門職としての力量形成
 9回：教員になるまで（1）進路選択としての教員
 10回：教員になるまで（2）教員採用選考
 11回：チーム学校（1）学校の役割の多様化と学校内外の専門家との連携・分担／連携・協働
 12回：チーム学校（2）チーム学校運営の事例紹介①（中学校）
 13回：チーム学校（3）チーム学校運営の事例紹介②（高等学校）
 14回：まとめ。これからの学校と教員の役割

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

何故自分は教員を目指すのか、自分自身の言葉で確認しておくこと。
 日頃から新聞などに目を通し、教育問題に関心を持つように努めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み（Reaction）：20% 最終レポート割合：40% 最終テスト割合：40%

テキスト / Textbooks

岩瀧大樹 『第二版 教育臨床と心理学』 学文社 2022 9784762031359 ○

参考文献 / Readings

授業の中で適宜紹介、資料を配付する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

積極的にグループワークやディスカッション、演習的な活動を取り入れる。教職を目指すうえで、かつ社会人としてのコミュニケーション力の成長を期待する。

その他 / Others

第1回にて、授業の進め方、ルールなどを説明し、合意を得られた者の受講を認める。必ず出席をお願いいたします。

教職概論（B）

Introduction to the Teaching Profession(B)

加藤 正和 (KATOU MASAKAZU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA272
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET2000
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

現代社会における教職の重要性の高まりを、自らが教職に就き、実践者となることを想定して理解する。そのため、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等についての基本的な知識を身に付け、教職への意欲を高め、教職への適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解し、自ら学び続ける基礎的力量を養成する。

授業の内容 / Course Contents

教職の意義、教員の役割、教員の職務内容について、社会的意義や社会的要請、法制上の規定、歴史的過程から学習する。また、教職と他の職業との相違を理解した上での、教職に就くまでのプロセスや教職に就いた後の研修の在り方を理解するとともに、「チーム学校」の具体的な事例の学習を通して、「チーム学校」において教職員が学校内外の専門家等と連携・分担して働く重要性やその在り方への理解を深める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）
／現代日本における公教育と教員の役割
2 回：教職の職業的特徴

- 3回：教員養成の歴史（中等教育機関の教員養成について）
 4回：教員の役割（1）教職観の変遷
 5回：教員の役割（2）教員の求められる基礎的資質能力
 6回：教員の職務内容（1）仕事の実際（職務の全体像）
 7回：教員の職務内容（2）教員の服務上・身分上の義務及び身分保障（法制上の規定）
 8回：教員の職務内容（3）教員研修の意義及び制度上の位置づけ・専門職としての力量形成
 9回：教員になるまで（1）進路選択としての教員
 10回：教員になるまで（2）教員採用選考
 11回：チーム学校（1）学校の役割の多様化と学校内外の専門家との連携・分担／連携・協働
 12回：チーム学校（2）チーム学校運営の事例紹介①（中学校）
 13回：チーム学校（3）チーム学校運営の事例紹介②（高等学校）
 14回：まとめ。これからの学校と教員の役割

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

何故自分は教員を目指すのか、自分自身の言葉で確認しておくこと。
 日頃から新聞などに目を通し、教育問題に関心を持つように努めること。
 授業終了時などに課題を提示するので、これに従って事前・事後の学習をしてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ
 平常点割合 :100% 課題:20% リアクションペーパー:20% 授業参加態度:20% 最終テスト割合 :40%

テキスト / Textbooks

岩瀧大樹 『教育臨床と心理学 第二版』 学文社 2022 9784762031359 ○

参考文献 / Readings

授業の中で適宜紹介を行い、資料を配付する。

その他 / Others

授業の具体的な内容や評価等は、初回の授業で説明を行う。
 授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

教職概論（C）

Introduction to the Teaching Profession(c)

佐々木 竜太 (SASAKI RYUTA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA273
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET2000
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

現代社会における教職の重要性の高まりを、自らが教職に就き、実践者となることを想定して理解する。そのため、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等についての基本的な知識を身に付け、教職への意欲を高め、教職への適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解し、自ら学び続ける基礎的力量を養成する。

授業の内容 / Course Contents

教職の意義、教員の役割、教員の職務内容について、社会的意義や社会的要請、法制上の規定、歴史的過程から学習する。また、教職と他の職業との相違を理解した上での、教職に就くまでのプロセスや教職に就いた後の研修の在り方を理解するとともに、「チーム学校」の具体的な事例の学習を通して、「チーム学校」において教職員が学校内外の専門家等と連携・分担して働く重要性やその在り方への理解を深める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）
／現代日本における公教育と教員の役割
2 回：教職の職業的特徴

- 3回：教員養成の歴史（中等教育機関の教員養成について）
 4回：教員の役割（1）教職観の変遷
 5回：教員の役割（2）教員の求められる基礎的資質能力
 6回：教員の職務内容（1）仕事の実際（職務の全体像）
 7回：教員の職務内容（2）教員の服務上・身分上の義務及び身分保障（法制上の規定）
 8回：教員の職務内容（3）教員研修の意義及び制度上の位置づけ・専門職としての力量形成
 9回：教員になるまで（1）進路選択としての教員
 10回：教員になるまで（2）教員採用選考
 11回：チーム学校（1）学校の役割の多様化と学校内外の専門家との連携・分担／連携・協働
 12回：チーム学校（2）チーム学校運営の事例紹介①（中学校）
 13回：チーム学校（3）チーム学校運営の事例紹介②（高等学校）
 14回：まとめ。これからの学校と教員の役割

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

何故自分は教員を目指すのか、自分自身の言葉で確認しておくこと。
 日頃から新聞などに目を通し、教育問題に関心を持つように努めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー（毎授業時提出）:40% 講義への取り組み:20% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業の中で適宜紹介、資料を配付する。

その他 / Others

授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

教職概論（D）

Introduction to the Teaching Profession(D)

逸見 敏郎 (HEMMI TOSHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA274
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET2000
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

現代社会における教職の重要性の高まりを、自らが教職に就き、実践者となることを想定して理解する。そのため、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等についての基本的な知識を身に付け、教職への意欲を高め、教職への適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解し、自ら学び続ける基礎的力量を養成する。

授業の内容 / Course Contents

教職の意義、教員の役割、教員の職務内容について、社会的意義や社会的要請、法制上の規定、歴史的過程から学習する。また、教職と他の職業との相違を理解した上での、教職に就くまでのプロセスや教職に就いた後の研修の在り方を理解するとともに、「チーム学校」の具体的な事例の学習を通して、「チーム学校」において教職員が学校内外の専門家等と連携・分担して働く重要性やその在り方への理解を深める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

／現代日本における公教育と教員の役割

- 2回：教職の職業的特徴
- 3回：教員養成の歴史（中等教育機関の教員養成について）
- 4回：教員の役割（1）教職観の変遷
- 5回：教員の役割（2）教員の求められる基礎的資質能力
- 6回：教員の職務内容（1）仕事の実際（職務の全体像）
- 7回：教員の職務内容（2）教員の服務上・身分上の義務及び身分保障（法制上の規定）
- 8回：教員の職務内容（3）教員研修の意義及び制度上の位置づけ・専門職としての力量形成
- 9回：教員になるまで（1）進路選択としての教員
- 10回：教員になるまで（2）教員採用選考
- 11回：チーム学校（1）学校の役割の多様化と学校内外の専門家との連携・分担／連携・協働
- 12回：チーム学校（2）チーム学校運営の事例紹介①（中学校）
- 13回：チーム学校（3）チーム学校運営の事例紹介②（高等学校）
- 14回：まとめ。これからの学校と教員の役割

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

なぜ自分は「職場としての学校」「職業としての教師」を目指すのか、自分自身の言葉で確認しておくこと。日頃から新聞、課題文献から発展させた文献や論文などに目を通し、教育問題に関心を持つように努めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内課題レポート:35% 授業内最終レポート:40% 毎時のリアクションペーパーの内容:25%

テキスト / Textbooks

授業の中で適宜紹介、資料をLMSを介してPDFにて配付する。

参考文献 / Readings

奈須・逸見編著 『学校・教師の時空間』 三元社 2012 9784883033072

授業の中で適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

- ・授業進行については、初回授業時に詳説します。
- ・授業支援システム(LMS)として近年、中学校高等学校で使用される機会の多い Google Classroom を使用します。操作に習熟しておいてください。
- ・授業内資料は、全てLMSよりPDFにて配布します。教室内で紙媒体での資料配布はしませんのでPCやタブレットを持参するか、各自でプリントアウトして下さい。
- ・複数回のbookレポート等を課しますので多くの文献を読むことになります。文献を読み、批判的に検討した結果をレポートの考察に論理的に記述することが必要で

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

- ・授業時に PC やタブレットを持参し，LMS から配信する配付資料を閲覧してください。
- ・授業支援システム(LMS)の Canvas および Google Classroom の操作に慣れておいてください。

学校教育相談の理論と方法（A）

Theories and Methods of School Counseling(A)

岩瀧 大樹 (IWATAKI DAIJU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA282
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

生徒への対応のために必要な教育相談の理論およびそれを支えるカウンセリングの基礎知識とスキルを習得する。加えてスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携しながら、生徒理解と学校への適応を高める方法について理解する。

授業の内容 / Course Contents

生徒が自己理解を深め、クラス内外での人間関係を構築し、集団のなかで適応的に活動するための教育相談の理論を取り扱う。また、生徒の心理的発達に応じた関わりに必要なカウンセリングの基礎理論、メタカウンセリング理論および技法について、ロールプレイやグループワークを取り入れながら学習する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：本授業の構成と目標 / 中等教育段階における教育相談の理念
- 2 回：青年期の心理的発達とその特徴(1)学童期から青年期前期
- 3 回：青年期の心理的発達とその特徴(2)青年期中期から青年期後期
- 4 回：教育相談に関わる臨床心理学的基礎概念(1)自我の構造と機能
- 5 回：教育相談に関わる臨床心理学的基礎概念(2)グループダイナミクス

- 6回：教育相談に関わる臨床心理学的基礎概念(3)家族心理学とシステム論
 7回：生徒の不適応行動の種類と心理社会的意味(1)反社会的行動
 8回：生徒の不適応行動の種類と心理社会的意味(2)非社会的行動
 9回：教育相談の技法(1)対象生徒に対する見立てと方針の方法
 10回：教育相談の技法(2)「きく」こと「つたえる」こと
 11回：教育相談の技法(3)構成的エンカウンターグループの技法
 12回：養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携の方法
 13回：校内における教育相談体制の構築および校内研修のあり方
 14回：教育相談に関わる地域の社会的資源と連携の方法／まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	校内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

既習または同時履修の「教育心理学」「生徒・進路指導の理論と方法」などの授業の復習をしておくこと。またメディアで取り上げられる中学生高校生の「問題」行動に関わる報道に積極的に触れ、その背景などを授業内容などをもとにして調べておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み（Reaction）：30% 小レポート（Short Report）：30% 最終
 テスト割合：40%

テキスト / Textbooks

岩瀧大樹 『第二版 教育臨床と心理学』 学文社 2022 9784762031359 ○

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領及び各自の免許取得予定教科の学習指導要領解説。いずれも文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

積極的にグループワークやディスカッション、演習的な活動を取り入れる。教職を目指すうえで、かつ社会人としてのコミュニケーション力の成長を期待する。

その他 / Others

第1回にて、授業の進め方、ルールなどを説明し、合意を得られた者の受講を認める。必ず出席をお願いいたします。

学校教育相談の理論と方法（B）

Theories and Methods of School Counseling(B)

駒屋 雄高 (KOMAYA YUTAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA283
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

生徒への対応のために必要な教育相談の理論およびそれを支えるカウンセリングの基礎知識とスキルを習得する。加えてスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携しながら、生徒理解と学校への適応を高める方法について理解する。

授業の内容 / Course Contents

生徒が自己理解を深め、クラス内外での人間関係を構築し、集団のなかで適応的に活動するための教育相談の理論を取り扱う。また、生徒の心理的発達に応じた関わりに必要なカウンセリングの基礎理論、メタカウンセリング理論および技法について、ロールプレイやグループワークを取り入れながら学習する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：本授業の構成と目標

／中等教育段階における教育相談の理念

2 回：青年期の心理的発達とその特徴(1)学童期から青年期前期

3 回：青年期の心理的発達とその特徴(2)青年期中期から青年期後期

4 回：教育相談に関わる臨床心理学的基礎概念(1)自我の構造と機能

- 5回：教育相談に関わる臨床心理学的基礎概念(2)グループダイナミクス
 6回：教育相談に関わる臨床心理学的基礎概念(3)家族心理学とシステム論
 7回：生徒の不適応行動の種類と心理社会的意味(1)反社会的行動
 8回：生徒の不適応行動の種類と心理社会的意味(2)非社会的行動
 9回：教育相談の技法(1)対象生徒に対する見立てと方針の方法
 10回：教育相談の技法(2)「きく」こと「つたえる」こと
 11回：教育相談の技法(3)構成的エンカウンターグループの技法
 12回：養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携の方法
 13回：校内における教育相談体制の構築および校内研修のあり方
 14回：教育相談に関わる地域の社会的資源と連携の方法／まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

既習または同時履修の「教育心理学」「生徒・進路指導の理論と方法」などの授業の復習をしておくこと。またメディアで取り上げられる中学生高校生の「問題」行動に関わる報道に積極的に触れ、その背景などを授業内容などをもとにして調べておくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 期末レポート:20% 中間レポート:20% 授業ごとのコメントペーパー (12回程度) 評価の合算:60%

授業毎のコメントペーパー、中間レポート、期末レポートによって評価します。

テキスト / Textbooks

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領及び各自の免許取得予定教科の学習指導要領解説。いずれも文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

学校教育相談の理論と方法（C）

Theories and Methods of School Counseling(C)

中村 豊 (NAKAMURA YUTAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA284
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

生徒への対応のために必要な教育相談の理論およびそれを支えるカウンセリングの基礎知識とスキルを習得する。加えてスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携しながら、生徒理解と学校への適応を高める方法について理解する。

授業の内容 / Course Contents

生徒が自己理解を深め、クラス内外での人間関係を構築し、集団のなかで適応的に活動するための教育相談の理論を取り扱う。また、生徒の心理的発達に応じた関わりに必要なカウンセリングの基礎理論、メタカウンセリング理論および技法について、ロールプレイやグループワークを取り入れながら学習する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：本授業の構成と目標

／中等教育段階における教育相談の理念

2 回：青年期の心理的発達とその特徴(1)学童期から青年期前期

3 回：青年期の心理的発達とその特徴(2)青年期中期から青年期後期

4 回：教育相談に関わる臨床心理学的基礎概念(1)自我の構造と機能

- 5回：教育相談に関わる臨床心理学的基礎概念(2)グループダイナミクス
 6回：教育相談に関わる臨床心理学的基礎概念(3)家族心理学とシステム論
 7回：生徒の不適応行動の種類と心理社会的意味(1)反社会的行動
 8回：生徒の不適応行動の種類と心理社会的意味(2)非社会的行動
 9回：教育相談の技法(1)対象生徒に対する見立てと方針の方法
 10回：教育相談の技法(2)「きく」こと「つたえる」こと
 11回：教育相談の技法(3)構成的エンカウンターグループの技法
 12回：養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携の方法
 13回：校内における教育相談体制の構築および校内研修のあり方
 14回：教育相談に関わる地域の社会的資源と連携の方法／まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

既習または同時履修の「教育心理学」「生徒・進路指導の理論と方法」などの授業の復習をしておくこと。またメディアで取り上げられる中学生高校生の「問題」行動に関わる報道に積極的に触れ、その背景などを授業内容などをもとにして調べておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の課題レポート:70% 最終授業内到達度評価:30%

テキスト / Textbooks

生徒指導提要、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領及び各自の免許取得予定教科の学習指導要領解説。いずれも文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

学校教育相談の理論と方法（D）

Theories and Methods of School Counseling (D)

逸見 敏郎 (HEMMI TOSHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA285
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

生徒への対応のために必要な教育相談の理論およびそれを支えるカウンセリングの基礎知識とスキルを習得する。加えてスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携しながら、生徒理解と学校への適応を高める方法について理解する。

授業の内容 / Course Contents

生徒が自己理解を深め、クラス内外での人間関係を構築し、集団のなかで適応的に活動するための教育相談の理論を取り扱う。また、生徒の心理的発達に応じた関わりに必要なカウンセリングの基礎理論、メタカウンセリング理論および技法について、ロールプレイやグループワークを取り入れながら学習する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：本授業の構成と目標／中等教育段階における教育相談の理念
- 2 回：青年期の心理的発達とその特徴(1)学童期から青年期前期
- 3 回：青年期の心理的発達とその特徴(2)青年期中期から青年期後期
- 4 回：教育相談に関わる臨床心理学的基礎概念(1)自我の構造と機能

- 5回：教育相談に関わる臨床心理学的基礎概念(2)グループダイナミクス
 6回：教育相談に関わる臨床心理学的基礎概念(3)家族心理学とシステム論
 7回：生徒の不適応行動の種類と心理社会的意味(1)反社会的行動
 8回：生徒の不適応行動の種類と心理社会的意味(2)非社会的行動
 9回：教育相談の技法(1)対象生徒に対する見立てと方針の方法
 10回：教育相談の技法(2)「きく」こと「つたえる」こと
 11回：教育相談の技法(3)構成的エンカウンターグループの技法
 12回：養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携の方法
 13回：校内における教育相談体制の構築および校内研修のあり方
 14回：教育相談に関わる地域の社会的資源と連携の方法／まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

既習または同時履修の「教育心理学」「生徒・進路指導の理論と方法」などの授業の復習をしておくこと。
 またメディアで取り上げられる中学生高校生の「問題」行動に関わる報道に積極的に触れ、その背景などを授業内容などをもとにして調べておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内課題レポート:35% 授業内最終レポート:40% 毎時のリアクションペーパーの内容:25%

テキスト / Textbooks

文部科学省	『中学校学習指導要領』	文部科学省ホームページより参照する。	-
文部科学省	『中学校学習指導要領 解説』	文部科学省ホームページより参照する。	-
文部科学省	『高等学校学習指導要領』	文部科学省ホームページより参照する。	-
文部科学省	『高等学校学習指導要領 解説』	文部科学省ホームページより参照する。	-

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領及び各自の免許取得予定教科の学習指導要領解説。いずれも文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

- ・授業進行については、初回授業時に詳説します。
- ・授業支援システム(LMS)として近年、中学校高等学校で使用される機会の多い Google Classroom を使用します。操作に習熟しておいてください。
- ・授業内資料は、全て LMS より PDF にて配布します。教室内で紙媒体での資料配布はしませんので PC やタブレットを持参するか、各自でプリントアウトして下さい。
- ・複数回の book レポート等を課し、多くの文献を読むことになります。文献を読み、批判的に検討した結果を

レポートの考察に論理的に記述することが必要です。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

- ・授業時に PC やタブレットを持参し，LMS から配信する授業配付資料を閲覧してください。
- ・授業支援システム(LMS)の Canvas および Google Classroom の操作に慣れておいてください。

教職特別演習（A）

Practice on Teaching Program (A)

〈教育現場で避けられないテーマ〉を考える

森田 満夫 (MORITA MITSUO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GA321

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CET3610

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

3 年次以上の問題意識の高い学生を対象とし、いまの教育現場では避けられないテーマ例えば人権・愛国心・いじめ問題・新自由主義教育改革の理論と実相・戦後教育学の成果と課題などについて深め、教職に関する課題意識をより明確にすることを目的とする。

授業の内容 / Course Contents

概論的科目で学んだことに基づきつつ、今日の学校教育に関してより深く、実践的な内容を取り扱っていく。学校・授業に関する多面的なアプローチ・理解ができるように、主として、テーマ人権・愛国心・いじめ問題などについての論文などを取り上げて、検討・ディスカッションを行う。初回に担当者から発題を行い、以後、文献などを検討対象ごとに、毎回参加者が分担して発表を行い、参加者全員でディスカッションを行う形式を進めることを予定している。具体的な進め方に関しては、初回授業時に受講学生と相談の上決定する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：発題

2 回：論文等の報告（1）

- 3回：検討・ディスカッション（1）
- 4回：論文等の報告（2）
- 5回：検討・ディスカッション（2）
- 6回：論文等の報告（3）
- 7回：検討・ディスカッション（3）
- 8回：論文等の報告（4）
- 9回：検討・ディスカッション（4）
- 10回：論文等の報告（5）
- 11回：検討・ディスカッション（5）
- 12回：論文等の報告（6）
- 13回：検討・ディスカッション（6）
- 14回：総括討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自の既修の「教職に関する科目」又は教育実習の経験を、事前に復習しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 小レポート:30% 授業参加度:30% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

授業時に指示する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜、紹介する。

国語科教育法 1

Methods in Teaching Japanese Language 1

鈴木 裕子 (SUZUKI YUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GA401

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CET3200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： この科目の単位修得が秋学期「国語科教育法演習 1」履修の必須条件となる。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、国語科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

学習指導要領に示された中学校及び高等学校国語科の目標・内容・全体構造について理解し、対応する学問領域の特性を踏まえた教材研究の方法について学習する。あわせて、本科目と並行して履修する、あるいは本科目の履修の後に続く「国語科教育法演習 1」「国語科教育法 2」「国語科教育法演習 2」との関連性・継続性を考慮し、本科目の中で、学習指導案の作成の基礎を学び、実際に 1 単元・1 時間の授業設計を行い、学習指導案を各自作成して発表、振り返りを行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

2 回：国語科の教育目標について／現行学習指導要領に至るまでの国語科教育の歩み

3 回：学習指導要領における中学校国語科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方につ

いて

(その1・中学校第1学年)

4回：学習指導要領における中学校国語科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その2・中学校第2学年)

5回：学習指導要領における中学校国語科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その3・中学校第3学年)

6回：学習指導要領における高等学校国語科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について(その1・「現代の国語」「言語文化」)

7回：学習指導要領における高等学校国語科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について(その2・「論理国語」「国語表現」)

8回：学習指導要領における高等学校国語科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について(その3・「文学国語」)

9回：学習指導要領における高等学校国語科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について(その4・「古典探究」)

10回：国語科における教材及びICTの活用法について

11回：国語科における授業設計と学習指導案の作成について

12回：国語科学習指導案の作成・発表・改善策の検討(その1・中学校国語)

13回：国語科学習指導案の作成・発表・改善策の検討(その2・高等学校国語科目(1))

14回：国語科学習指導案の作成・発表・改善策の検討(その3・高等学校国語科目(2))

／まとめ。学習指導案の作成と発表についての全体での振り返り。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

また、授業の後半で実施する学習指導案作成課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% グループ作業や他の参加者へのコメントなど授業への参加・貢献度:30% 課題への取り組みと振り返りを踏まえた改訂プランの提出:40% リアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説－国語編－』

『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説－国語編－』

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

他に授業中に適宜必要な参考文献を紹介する。

国語科教育法演習 1

Seminar of Teaching Methods in Japanese Language 1

鈴木 裕子 (SUZUKI YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA403
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3210
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「国語科教育法 1」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、国語科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

「国語科教育法 1」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、中学校及び高等学校国語科の各学年・科目について、履修者各自が 1 単元・1 時間分の範囲について教材研究を行って教材を作成し、学習指導案を準備した上で模擬授業を行う。模擬授業の実施とその振り返りを通して、中学生・高校生の発達段階、学力状況の多様性に応じた授業設計ができる力量を養成する。あわせて、教材及び ICT の活用法、学習評価の考え方の基礎的理解についても実践的に学ぶ。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）（模擬授業実施についての概略説明）
- 2 回：中学生・高校生の発達段階、学力状況の多様性を踏まえた授業設計について
（異なる「生徒観」の学級での授業設計について）

- 3回：教材及びICT活用法の概略（実践例の学習）
 4回：模擬授業（1）中学校国語第1学年
 5回：模擬授業（2）中学校国語第2学年
 6回：模擬授業（3）中学校国語第3学年
 7回：模擬授業（4）高等学校国語科目（「現代の国語」）
 8回：模擬授業（5）高等学校国語科目（「言語文化」）
 9回：模擬授業（6）高等学校国語科目（「論理国語」）
 10回：模擬授業（7）高等学校国語科目（「国語表現」）
 11回：模擬授業（8）高等学校国語科目（「文学国語」（1））
 12回：模擬授業（9）高等学校国語科目（「文学国語」（2））
 13回：模擬授業（10）高等学校国語科目（「古典探究」（1））
 14回：模擬授業（11）高等学校国語科目（「古典探究」（2））

／まとめ。実施した模擬授業についての履修者相互の振り返りと各自の改訂案作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
 模擬授業実施のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% グループ作業や他の参加者へのコメントなど授業への参加・貢献度:30% 課題への取り組み:30% 模擬授業の発表と振り返りを含めた改訂プランの提出:40%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説－国語編－』

『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説－国語編－』

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

授業中に適宜必要な参考文献を紹介する。

社会・地理歴史科教育法 1 (A)

Method of Social Studies, Geography and History 1(A)

奈須 恵子 (NASU KEIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA411
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： この科目の単位修得が秋学期「社会・地理歴史科教育法演習 1 (A)」履修の必須条件となる。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

中学校社会科及び高等学校地理歴史科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校地理歴史科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校地理歴史科の目標・内容・全体構造について理解し、対応する学問領域の特性を踏まえた教材研究の方法について学習する。あわせて、本科目と並行して履修する、あるいは本科目の履修の後に続く「社会・地理歴史科教育法演習 1」「社会・地理歴史科教育法 2」「社会・地理歴史科教育法演習 2」との関連性・継続性を考慮し、本科目の中で、学習指導案の作成の基礎を学び、実際に 1 単元・1 時間の授業設計を行い、学習指導案を各自作成して発表、振り返りを行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

2回：社会科・地理歴史科の教育目標について

／現行学習指導要領に至るまでの社会科・地理歴史科教育の歩み

3回：学習指導要領における中学校社会科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その1・中学校社会科地理的分野)

4回：学習指導要領における中学校社会科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その2・中学校社会科歴史的分野)

5回：学習指導要領における中学校社会科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その3・中学校社会科公民的分野)

6回：学習指導要領における高等学校地理歴史科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について(その1・地理関係科目「地理総合」「地理探究」)

7回：学習指導要領における高等学校地理歴史科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について(その2・歴史関係科目「歴史総合」)

8回：学習指導要領における高等学校地理歴史科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について(その3・世界史関係科目「世界史探究」)

9回：学習指導要領における高等学校地理歴史科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について(その4・日本史関係科目「日本史探究」)

10回：社会科・地理歴史科における教材及びICTの活用法について

11回：社会科・地理歴史科における授業設計と学習指導案の作成について

12回：社会科・地理歴史科学習指導案の作成・発表・改善策の検討(中学校社会科)

13回：社会科・地理歴史科学習指導案の作成・発表・改善策の検討(高等学校地理関係科目)

14回：社会科・地理歴史科学習指導案の作成・発表・改善策の検討(高等学校歴史関係科目)

／まとめ。学習指導案の作成と発表についての全体での振り返り。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

また、授業の後半で実施する学習指導案作成課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% グループ作業への参加・貢献度:50% 各自の課題の発表と発表のふり返りを踏まえた改訂プランの提出:50%

毎回の出席が大前提。無断欠席のある場合はD評価となるので注意すること。

テキスト/Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－社会編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指

導要領解説－地理歴史編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

その他 / Others

授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

社会・地理歴史科教育法演習 1 (A)

Seminar of Teaching Methods in Social Studies, Geography and History 1(A)

奈須 恵子 (NASU KEIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA413
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3210
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「社会・地理歴史科教育法 1 (A)」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

中学校社会科及び高等学校地理歴史科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校地理歴史科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

「社会・地理歴史科教育法 1」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の各分野・科目について、履修者各自が 1 単元・1 時間分の範囲について教材研究を行って教材を作成し、学習指導案を準備した上で模擬授業を行う。模擬授業の実施とその振り返りを通して、中学生・高校生の発達段階、学力状況の多様性に応じた授業設計ができる力量を養成する。あわせて、教材及び ICT の活用法、学習評価の考え方の基礎的理解についても実践的に学ぶ。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）（模擬授業実施についての概略説明）
- 2 回：中学生・高校生の発達段階、学力状況の多様性を踏まえた授業設計について（異なる「生徒観」の学級

での授業設計について)

- 3回：教材及びICTの活用法（実践例の学習）
 4回：模擬授業（1）中学校社会科地理的分野
 5回：模擬授業（2）中学校社会科歴史的分野
 6回：模擬授業（3）中学校社会科公民的分野
 7回：模擬授業（4）高等学校地理歴史科地理関係科目（「地理総合」）
 8回：模擬授業（5）高等学校地理歴史科地理関係科目（「地理探究」）
 9回：模擬授業（6）高等学校地理歴史科歴史関係科目（「歴史総合」その1）
 10回：模擬授業（7）高等学校地理歴史科歴史関係科目（「歴史総合」その2）
 11回：模擬授業（8）高等学校地理歴史科世界史関係科目（「世界史探究」その1）
 12回：模擬授業（9）高等学校地理歴史科世界史関係科目（「世界史探究」その2）
 13回：模擬授業（10）高等学校地理歴史科日本史関係科目（「日本史探究」その1）
 14回：模擬授業（11）高等学校地理歴史科日本史関係科目（「日本史探究」その2）
 ／まとめ。実施した模擬授業についての履修者相互の振り返りと各自の改訂案作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

模擬授業実施のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% グループ作業や他の参加者の模擬授業へのコメントなどの参加・貢献度:50% 各自の模擬授業の発表とそのふり返りを踏まえた改訂プランの提出:50%

毎回の出席が大前提。無断欠席のある場合はD評価となるので注意すること。

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－社会編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－地理歴史編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

その他 / Others

授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

社会・地理歴史科教育法 1 (B)

Method of Social Studies, Geography and History 1(B)

大西 信行 (ONISHI NOBUYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA415
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： この科目の単位修得が秋学期「社会・地理歴史科教育法演習 1 (B)」履修の必須条件となる。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

中学校社会科及び高等学校地理歴史科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校地理歴史科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校地理歴史科の目標・内容・全体構造について理解し、対応する学問領域の特性を踏まえた教材研究の方法について学習する。あわせて、本科目と並行して履修する、あるいは本科目の履修の後に続く「社会・地理歴史科教育法演習 1」「社会・地理歴史科教育法 2」「社会・地理歴史科教育法演習 2」との関連性・継続性を考慮し、本科目の中で、学習指導案の作成の基礎を学び、実際に 1 単元・1 時間の授業設計を行い、学習指導案を各自作成して発表、振り返りを行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

2回：社会科・地理歴史科の教育目標について

／現行学習指導要領に至るまでの社会科・地理歴史科教育の歩み

3回：学習指導要領における中学校社会科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その1・中学校社会科地理的分野)

4回：学習指導要領における中学校社会科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その2・中学校社会科歴史的分野)

5回：学習指導要領における中学校社会科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その3・中学校社会科公民的分野)

6回：学習指導要領における高等学校地理歴史科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について(その1・地理関係科目「地理総合」「地理探究」)

7回：学習指導要領における高等学校地理歴史科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について(その2・歴史関係科目「歴史総合」)

8回：学習指導要領における高等学校地理歴史科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について(その3・世界史関係科目「世界史探究」)

9回：学習指導要領における高等学校地理歴史科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について(その4・日本史関係科目「日本史探究」)

10回：社会科・地理歴史科における教材及びICTの活用法について

11回：社会科・地理歴史科における授業設計と学習指導案の作成について

12回：社会科・地理歴史科学習指導案の作成・発表・改善策の検討(中学校社会科)

13回：社会科・地理歴史科学習指導案の作成・発表・改善策の検討(高等学校地理関係科目)

14回：社会科・地理歴史科学習指導案の作成・発表・改善策の検討(高等学校歴史関係科目)

／まとめ。学習指導案の作成と発表についての全体での振り返り。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

また、授業の後半で実施する学習指導案作成課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分:111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% グループ作業への参加・貢献度:50% 各自の課題の発表・総括の提出:50%

テキスト/ Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－社会編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－地理歴史編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

その他 / Others

授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

社会・地理歴史科教育法演習 1 (B)

Seminar of Teaching Methods in Social Studies, Geography and History 1(B)

大西 信行 (ONISHI NOBUYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA417
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3210
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「社会・地理歴史科教育法 1 (B)」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

中学校社会科及び高等学校地理歴史科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校地理歴史科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

「社会・地理歴史科教育法 1」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の各分野・科目について、履修者各自が 1 単元・1 時間分の範囲について教材研究を行って教材を作成し、学習指導案を準備した上で模擬授業を行う。模擬授業の実施とその振り返りを通して、中学生・高校生の発達段階、学力状況の多様性に応じた授業設計ができる力量を養成する。あわせて、教材及び ICT の活用法、学習評価の考え方の基礎的理解についても実践的に学ぶ。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）（模擬授業実施についての概略説明）
- 2 回：中学生・高校生の発達段階、学力状況の多様性を踏まえた授業設計について（異なる「生徒観」の学級

での授業設計について)

- 3回：教材及びICTの活用法（実践例の学習）
 4回：模擬授業（1）中学校社会科地理的分野
 5回：模擬授業（2）中学校社会科歴史的分野
 6回：模擬授業（3）中学校社会科公民的分野
 7回：模擬授業（4）高等学校地理歴史科地理関係科目（「地理総合」）
 8回：模擬授業（5）高等学校地理歴史科地理関係科目（「地理探究」）
 9回：模擬授業（6）高等学校地理歴史科歴史関係科目（「歴史総合」その1）
 10回：模擬授業（7）高等学校地理歴史科歴史関係科目（「歴史総合」その2）
 11回：模擬授業（8）高等学校地理歴史科世界史関係科目（「世界史探究」その1）
 12回：模擬授業（9）高等学校地理歴史科世界史関係科目（「世界史探究」その2）
 13回：模擬授業（10）高等学校地理歴史科日本史関係科目（「日本史探究」その1）
 14回：模擬授業（11）高等学校地理歴史科日本史関係科目（「日本史探究」その2）
 ／まとめ。実施した模擬授業についての履修者相互の振り返りと各自の改訂案作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

模擬授業実施のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 模擬授業の準備・実施・総括:60% 他の学生の模擬授業の討論への参加・貢献:40%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－社会編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－地理歴史編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

その他 / Others

授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

社会・公民科教育法 1 (A)

Method of Social Studies and Civics 1(A)

森田 満夫 (MORITA MITSUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA421
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： この科目の単位修得が秋学期「社会・公民科教育法演習 1 (A)」履修の必須条件となる。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

中学校社会科及び高等学校公民科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校公民科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、中学校社会科及び高等学校公民科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校公民科の目標・内容・全体構造について理解し、対応する学問領域の特性を踏まえた教材研究の方法について学習する。あわせて、本科目と並行して履修する、あるいは本科目の履修の後に続く「社会・公民科教育法演習 1」「社会・公民科教育法 2」「社会・公民科教育法演習 2」との関連性・継続性を考慮し、本科目の中で、学習指導案の作成の基礎を学び、実際に 1 単元・1 時間の授業設計を行い、学習指導案を各自作成して発表、振り返りを行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

- 2回：社会科・公民科の教育目標について／現行学習指導要領に至るまでの社会科・公民科教育の歩み
- 3回：学習指導要領における中学校社会科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について（その1・中学校社会科地理的分野）
- 4回：学習指導要領における中学校社会科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について（その2・中学校社会科歴史的分野）
- 5回：学習指導要領における中学校社会科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について（その3・中学校社会科公民的分野）
- 6回：学習指導要領における高等学校公民科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について（その1・「公共」）
- 7回：学習指導要領における高等学校公民科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について（その2・「倫理」）
- 8回：学習指導要領における高等学校公民科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について（その3・「政治・経済」（1）政治領域）
- 9回：学習指導要領における高等学校公民科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について（その4・「政治・経済」（2）経済領域）
- 10回：社会科・公民科における教材及びICTの活用法について
- 11回：社会科・公民科における授業設計と学習指導案の作成について
- 12回：社会科・公民科学習指導案の作成・発表・改善策の検討（その1・中学校社会科）
- 13回：社会科・公民科学習指導案の作成・発表・改善策の検討（その2・高等学校公民科科目（1））
- 14回：社会科・公民科学習指導案の作成・発表・改善策の検討（その3・高等学校公民科科目（2））
- ／まとめ。学習指導案の作成と発表についての全体での振り返り。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
また、授業の後半で実施する学習指導案作成課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の小レポート:100%

テキスト / Textbooks

授業の中で適宜紹介し、資料を配付する（＝「Canvas LMS」にもアップロード予定）。『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－社会編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－公民編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

授業の中で適宜紹介し、配付する。

社会・公民科教育法演習 1 (A)

Seminar of Teaching Methods in Social Studies and Civics 1(A)

森田 満夫 (MORITA MITSUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA423
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3210
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「社会・公民科教育法 1 (A)」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

中学校社会科及び高等学校公民科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校公民科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、中学校社会科及び高等学校公民科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

「社会・公民科教育法 1」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、中学校社会科及び高等学校公民科の各分野・科目について、履修者各自が 1 単元・1 時間分の範囲について教材研究を行って教材を作成し、学習指導案を準備した上で模擬授業を行う。模擬授業の実施とその振り返りを通して、中学生・高校生の発達段階、学力状況の多様性に応じた授業設計ができる力量を養成する。あわせて、教材及び ICT の活用法、学習評価の考え方の基礎的理解についても実践的に学ぶ。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）（模擬授業実施についての概略説明）
- 2 回：中学生・高校生の発達段階、学力状況の多様性を踏まえた授業設計について

(異なる「生徒観」の学級での授業設計について)

3回：教材及びICTの活用法の概略(実践例の学習)

4回：模擬授業(1)中学校社会科地理的分野

5回：模擬授業(2)中学校社会科歴史的分野

6回：模擬授業(3)中学校社会科公民的分野その1

7回：模擬授業(4)中学校社会科公民的分野その2

8回：模擬授業(5)高等学校公民科科目(「公共」その1)

9回：模擬授業(6)高等学校公民科科目(「公共」その2)

10回：模擬授業(7)高等学校公民科科目(「公共」その3)

11回：模擬授業(8)高等学校公民科科目(「倫理」その1)

12回：模擬授業(9)高等学校公民科科目(「倫理」その2)

13回：模擬授業(10)高等学校公民科科目(「政治・経済」その1)

14回：模擬授業(11)高等学校公民科科目(「政治・経済」その2)

／まとめ。実施した模擬授業についての履修者相互の振り返りと各自の改訂案作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:		:	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

模擬授業実施のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分:111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各自の模擬授業実施内容:60% 毎回課す全14回小レポート:40%

テキスト/Textbooks

授業の中で適宜紹介し、資料を配布する(=「Canvas LMS」にもアップロード予定)。『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説-社会編-』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説-公民編-』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

社会・公民科教育法 1 (B)

Method of Social Studies and Civics 1(B)

矢野 博之 (YANO HIROSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA425
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： この科目の単位修得が秋学期「社会・公民科教育法演習 1 (B)」履修の必須条件となる。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

中学校社会科及び高等学校公民科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校公民科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、中学校社会科及び高等学校公民科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校公民科の目標・内容・全体構造について理解し、対応する学問領域の特性を踏まえた教材研究の方法について学習する。あわせて、本科目と並行して履修する、あるいは本科目の履修の後に続く「社会・公民科教育法演習 1」「社会・公民科教育法 2」「社会・公民科教育法演習 2」との関連性・継続性を考慮し、本科目の中で、学習指導案の作成の基礎を学び、実際に 1 単元・1 時間の授業設計を準備する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

- 2回：社会科・公民科の教育目標について／現行学習指導要領に至るまでの社会科・公民科教育の歩み
- 3回：学習指導要領における中学校社会科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について（その1・中学校社会科地理的分野）
- 4回：学習指導要領における中学校社会科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について（その2・中学校社会科歴史的分野）
- 5回：学習指導要領における中学校社会科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について（その3・中学校社会科公民的分野）
- 6回：学習指導要領における高等学校公民科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について（その1・「公共」）
- 7回：学習指導要領における高等学校公民科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について（その2・「倫理」）
- 8回：学習指導要領における高等学校公民科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について（その3・「政治・経済」（1）政治領域）
- 9回：学習指導要領における高等学校公民科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について（その4・「政治・経済」（2）経済領域）
- 10回：社会科・公民科における教材及びICTの活用法について
- 11回：社会科・公民科における授業設計と学習指導案の作成について
- 12回：社会科・公民科学習指導案の作成・発表・改善策の検討（その1・中学校社会科）
- 13回：社会科・公民科学習指導案の作成・発表・改善策の検討（その2・高等学校公民科科目（1））
- 14回：社会科・公民科学習指導案の作成・発表・改善策の検討（その3・高等学校公民科科目（2））／まとめ。学習指導案の作成と発表についての全体での振り返り。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

また、授業の後半で実施する学習指導案作成課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業期間内の小課題（随時）：35% 中間小課題（作品批評等）：25% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－社会編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－公民編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

百合田真樹人・矢野博之 『ユネスコ・教育を再考するーグローバル時代の参照軸』 学文社 2022
9784762031960

その他必要に応じて、各回随時、紹介していきます。

その他/ Others

授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

社会・公民科教育法演習 1 (B)

Seminar of Teaching Methods in Social Studies and Civics 1(B)

矢野 博之 (YANO HIROSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA427
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3210
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「社会・公民科教育法 1 (B)」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

中学校社会科及び高等学校公民科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校公民科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、中学校社会科及び高等学校公民科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

「社会・公民科教育法 1」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、中学校社会科及び高等学校公民科の各分野・科目について、履修者各自が 1 単元・1 時間分の範囲について教材研究を行って教材を作成し、学習指導案を準備した上で模擬授業を行う。模擬授業の実施とその振り返りを通して、中学生・高校生の発達段階、学力状況の多様性に応じた授業設計ができる力量を養成する。あわせて、教材及び ICT の活用法、学習評価の考え方の基礎的理解についても実践的に学ぶ。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）（模擬授業実施についての概略説明）
- 2 回：中学生・高校生の発達段階、学力状況の多様性を踏まえた授業設計について

(異なる「生徒観」の学級での授業設計について)

3回：教材及びICTの活用法の概略(実践例の学習)

4回：模擬授業(1)中学校社会科地理的分野

5回：模擬授業(2)中学校社会科歴史的分野

6回：模擬授業(3)中学校社会科公民的分野その1

7回：模擬授業(4)中学校社会科公民的分野その2

8回：模擬授業(5)高等学校公民科科目(「公共」その1)

9回：模擬授業(6)高等学校公民科科目(「公共」その2)

10回：模擬授業(7)高等学校公民科科目(「公共」その3)

11回：模擬授業(8)高等学校公民科科目(「倫理」その1)

12回：模擬授業(9)高等学校公民科科目(「倫理」その2)

13回：模擬授業(10)高等学校公民科科目(「政治・経済」その1)

14回：模擬授業(11)高等学校公民科科目(「政治・経済」その2)

／まとめ。実施した模擬授業についての履修者相互の振り返りと各自の改訂案作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

模擬授業実施のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 模擬授業参観のコメント：30% 模擬授業実施の際の資料準備：40% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－社会編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－公民編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

数学科教育法 1

Methods in Teaching Mathematics 1

砂井 博光 (SAI HIROMITSU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA431
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： この科目の単位修得が秋学期「数学科教育法演習 1」履修の必須条件となる。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

数学科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された数学科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、数学科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

学習指導要領に示された中学校及び高等学校数学科の目標・内容・全体構造について理解し、対応する学問領域の特性を踏まえた教材研究の方法について学習する。あわせて、本科目と並行して履修する、あるいは本科目の履修の後に続く「数学科教育法演習 1」「数学科教育法 2」「数学科教育法演習 2」との関連性・継続性を考慮し、本科目の中で、学習指導案の作成の基礎を学び、実際に 1 単元・1 時間の授業設計を行い、学習指導案を各自作成して発表、振り返りを行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）
2 回：数学科の教育目標について
／現行学習指導要領に至るまでの数学科教育の歩み

3回：学習指導要領における中学校数学科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その1・中学校第1学年)

4回：学習指導要領における中学校数学科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その2・中学校第2学年)

5回：学習指導要領における中学校数学科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その3・中学校第3学年)

6回：学習指導要領における高等学校数学科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その1・「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」)

7回：学習指導要領における高等学校数学科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その2・「数学Ⅲ」)

8回：学習指導要領における高等学校数学科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その3・「数学A」「数学B」)

9回：学習指導要領における高等学校数学科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その4・「数学C」)

10回：数学科における教材及びICTの活用法について

11回：数学科における授業設計と学習指導案の作成について

12回：数学科学習指導案の作成・発表・改善策の検討(その1・中学校数学)

13回：数学科学習指導案の作成・発表・改善策の検討(その2・高等学校数学科目(1))

14回：数学科学習指導案の作成・発表・改善策の検討(その3・高等学校数学科目(2))

／まとめ。学習指導案の作成と発表についての全体での振り返り。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

また、授業の後半で実施する学習指導案作成課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回のテーマレポート:60%

最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－数学編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指

導要領解説－数学編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

数学科教育法演習 1

Seminar of Methods in Teaching Mathematics 1

砂井 博光 (SAI HIROMITSU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA433
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3210
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「数学科教育法 1」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

数学科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された数学科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、数学科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

「数学科教育法 1」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、中学校及び高等学校数学科の各学年・科目について、履修者各自が 1 単元・1 時間分の範囲について教材研究を行って教材を作成し、学習指導案を準備した上で模擬授業を行う。模擬授業の実施とその振り返りを通して、中学生・高校生の発達段階、学力状況の多様性に応じた授業設計ができる力量を養成する。あわせて、教材及び ICT の活用法、学習評価の考え方の基礎的理解についても実践的に学ぶ。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）（模擬授業実施についての概略説明）
- 2 回：中学生・高校生の発達段階、学力状況の多様性を踏まえた授業設計について
（異なる「生徒観」の学級での授業設計について）

- 3回：教材及びICTの活用法の概略（実践例の学習）
 4回：模擬授業（1）中学校数学（「数と式」領域）
 5回：模擬授業（2）中学校数学（「図形」領域）
 6回：模擬授業（3）中学校数学（「関数」領域）
 7回：模擬授業（4）中学校数学（「資料の活用」領域）
 8回：模擬授業（5）高等学校数学科目（「数学Ⅰ」（1））
 9回：模擬授業（6）高等学校数学科目（「数学Ⅰ」（2））
 10回：模擬授業（7）高等学校数学科目（「数学Ⅱ」）
 11回：模擬授業（8）高等学校数学科目（「数学Ⅲ」）
 12回：模擬授業（9）高等学校数学科目（「数学A」）
 13回：模擬授業（10）高等学校数学科目（「数学B」）
 14回：模擬授業（11）高等学校国語科目（「数学C」）

／まとめ。実施した模擬授業についての履修者相互の振り返りと各自の改訂案作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

模擬授業実施のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回のテーマレポート：60%

最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－数学編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－数学編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

理科教育法 1

Methods in Teaching Science 1

渡部 智博 (WATANABE TOMOHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA441
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： この科目の単位修得が秋学期「理科教育法演習 1」履修の必須条件となる。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

理科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、理科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

学習指導要領に示された中学校及び高等学校理科の目標・内容・全体構造について理解し、対応する学問領域の特性を踏まえた教材研究の方法について学習する。あわせて、本科目と並行して履修する、あるいは本科目の履修の後に続く「理科教育法演習 1」「理科教育法 2」「理科教育法演習 2」との関連性・継続性を考慮し、本科目の中で、学習指導案の作成の基礎を学び、実際に 1 単元・1 時間の授業設計を行い、学習指導案を各自作成して発表、振り返りを行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）
2 回：理科の教育目標について
／現行学習指導要領に至るまでの理科教育の歩み

3回：学習指導要領における中学校理科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その1・第1分野)

4回：学習指導要領における中学校理科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その2・第2分野)

5回：学習指導要領における高等学校理科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その1・「科学と人間生活」)

6回：学習指導要領における高等学校理科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その2・「物理基礎」「物理」)

7回：学習指導要領における高等学校理科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その3・「化学基礎」「化学」)

8回：学習指導要領における高等学校理科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その4・「生物基礎」「生物」)

9回：学習指導要領における高等学校理科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その5・「地学基礎」「地学」)

10回：理科における教材及びICTの活用法について

11回：理科における授業設計と学習指導案の作成について

12回：理科学習指導案の作成・発表・改善策の検討(その1・中学校理科)

13回：理科学習指導案の作成・発表・改善策の検討(その2・高等学校理科科目(1))

14回：理科学習指導案の作成・発表・改善策の検討(その3・高等学校理科科目(2))

／まとめ。学習指導案の作成と発表についての全体での振り返り。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

また、授業の後半で実施する学習指導案作成課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内レポート:40% 小レポート(リアクションペーパー等):20% 最終レポート割合 :40%

テキスト/Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－理科編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－理科編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

必要に応じて授業中に紹介する。

理科教育法演習 1

Seminar of Methods in Teaching Science 1

島野 誠大／墨野倉 伸彦 (SHIMANO MASAHIRO／SUMINOKURA NOBUHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA443
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3210
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「理科教育法 1」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

理科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、理科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

「理科教育法 1」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、中学校及び高等学校理科の各分野・科目について、履修者各自が 1 単元・1 時間分の範囲について教材研究を行って教材を作成し、学習指導案を準備した上で模擬授業を行う。模擬授業の実施とその振り返りを通して、中学生・高校生の発達段階、学力状況の多様性に応じた授業設計ができる力量を養成する。あわせて、教材及び ICT の活用法、学習評価の考え方の基礎的理解についても実践的に学ぶ。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）（模擬授業実施についての概略説明）
- 2 回：中学生・高校生の発達段階、学力状況の多様性を踏まえた授業設計について
（異なる「生徒観」の学級での授業設計について）

- 3回：教材及びICT活用法の概略（実践例の学習）
 4回：模擬授業（1）中学校理科（第1分野（1）物理領域）
 5回：模擬授業（2）中学校理科（第1分野（2）化学領域）
 6回：模擬授業（3）中学校理科（第2分野（1）生物領域）
 7回：模擬授業（4）中学校理科（第2分野（2）地学領域）
 8回：模擬授業（5）高等学校理科科目（「科学と人間生活」）
 9回：模擬授業（6）高等学校理科科目（「物理基礎」「物理」）
 10回：模擬授業（7）高等学校理科科目（「化学基礎」）
 11回：模擬授業（8）高等学校理科科目（「化学」）
 12回：模擬授業（9）高等学校理科科目（「生物基礎」）
 13回：模擬授業（10）高等学校理科科目（「生物」）
 14回：模擬授業（11）高等学校理科科目（「地学基礎」「地学」）

／まとめ。実施した模擬授業についての履修者相互の振り返りと各自の改訂案作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
 模擬授業実施のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 実験授業のための学習指導案:30% 授業評価:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－理科編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－理科編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

必要に応じて授業中に紹介する。

その他 / Others

授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

英語科教育法 1 (A)

Methods in Teaching English Language1(A)

渡邊 万里子 (WATANABE MARIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA451
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： この科目の単位修得が秋学期「英語科教育法演習 1 (A)」履修の必須条件となる。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 異文化コミュニケーション学科学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。

授業の内容 / Course Contents

中学校及び高等学校の外国語（英語）の学習指導要領及び教科書について理解し、学習指導要領の3つの資質・能力とともに、領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について理解する。教材及びICTの活用の基礎を学び、また、小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領並びに教科、教科書について知るとともに、小・中・高等学校の連携の在り方について理解する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入（目標・概要・進め方）
- 2回：中学校及び高等学校英語科の教育目標について
／現行学習指導要領に至るまでの英語科教育の歩み
- 3回：学習指導要領における中学校外国語（英語）の目標・内容・全体構造について
- 4回：学習指導要領における高等学校外国語（英語）の目標・内容・全体構造について

- 5 回：中学校外国語（英語）の教科書について
- 6 回：高等学校外国語（英語）の教科書について
- 7 回：学習指導要領における中学校外国語（英語）の「3つの資質・能力」と領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について
- 8 回：学習指導要領における高等学校外国語（英語）の「3つの資質・能力」と領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について
- 9 回：小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領と教科書等の教材について
／小・中・高等学校の連携の在り方について
- 10 回：中学校及び高等学校英語科における学年・科目に対応する授業設計・学習指導案の作成について
／教材及び ICT の活用について／ALT 等とのチーム・ティーチングについて
- 11 回：中学校及び高等学校英語科における観点別学習状況の評価、言語能力の測定と評価の方法について
- 12 回：第二言語習得理論とその活用について
- 13 回：英語科学習指導案の作成・発表・改善策の検討（その 1・中学校英語科）
- 14 回：英語科学習指導案の作成・発表・改善策の検討（その 2・高等学校英語科）
／まとめ。学習指導案の作成と発表についての全体での振り返り。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
また、授業の後半で実施する学習指導案作成課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（意見交換、授業内発表、提出コメントを含む）：40% 小課題：30%
最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－外国語編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－外国語編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

英語科教育法演習 1 (A)

Seminar of Teaching Methods in English Language 1(A)

渡邊 万里子 (WATANABE MARIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA453
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3210
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「英語科教育法 1 (A)」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 異文化コミュニケーション学科学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。

授業の内容 / Course Contents

「英語科教育法 1」「英語科教育法 2」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、履修者各自が 1 単元・1 時間分の範囲について教材研究を行って授業を組み立て、学習指導案を準備した上で模擬授業を行う。教材及び ICT の活用も含めて模擬授業を実施し、その振り返りを通して、生徒の特性や習熟度に応じた授業設計ができ、生徒の資質・能力を高める指導ができる力量を養成する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）
- 2 回：生徒の特性や習熟度に応じた授業設計と求められる工夫について
／教材及び ICT を活用した授業実践例について／ALT 等とのティーム・ティーチングについて
- 3 回：模擬授業（1）中学校英語第 1 学年その 1
- 4 回：模擬授業（2）中学校英語第 1 学年その 2

- 5回：模擬授業（3）中学校英語第2学年その1
 6回：模擬授業（4）中学校英語第2学年その2
 7回：模擬授業（5）中学校英語第3学年その1
 8回：模擬授業（6）中学校英語第3学年その2
 9回：模擬授業（7）高等学校英語科目（「英語コミュニケーションⅠ」）
 10回：模擬授業（8）高等学校英語科目（「英語コミュニケーションⅡ」）
 11回：模擬授業（9）高等学校英語科目（「英語コミュニケーションⅢ」）
 12回：模擬授業（10）高等学校英語科目（「論理・表現Ⅰ」）
 13回：模擬授業（11）高等学校英語科目（「論理・表現Ⅱ」）
 14回：模擬授業（12）高等学校英語科目（「論理・表現Ⅲ」）

／まとめ。実施した模擬授業についての履修者相互の振り返りと各自の改訂案作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

模擬授業実施のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 模擬授業の完成度:50% 授業への参加度（意見交換、提出コメントを含む）:20%

最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－外国語編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－外国語編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

ドイツ語科教育法 1

Methods in Teaching German Language 1

保阪 良子 (HOSAKA YOSHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA461
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： この科目の単位修得が秋学期「ドイツ語科教育法演習 1」履修の必須条件となる。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

中学校及び高等学校における外国語（ドイツ語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。

授業の内容 / Course Contents

中学校及び高等学校の外国語の学習指導要領及び外国語（ドイツ語）教科書について理解し、学習指導要領の3つの資質・能力とともに、領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について理解する。教材及びICTの活用の基礎を学び、また、小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領並びに教科、教科書について知るとともに、小・中・高等学校の連携の在り方について理解する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入（目標・概要・進め方）
- 2回：中学校及び高等学校外国語科（ドイツ語科）の教育目標について
／現行学習指導要領に至るまでのドイツ語科教育の歩み
- 3回：学習指導要領における中学校外国語（ドイツ語）の目標・内容・全体構造について
- 4回：学習指導要領における高等学校外国語（ドイツ語）の目標・内容・全体構造について

- 5回：中学校外国語（ドイツ語）の教科書について
- 6回：高等学校外国語（ドイツ語）の教科書について
- 7回：学習指導要領における中学校外国語の「3つの資質・能力」と領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について
- 8回：学習指導要領における高等学校外国語の「3つの資質・能力」と領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について
- 9回：小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領と教科書等の教材について
／小・中・高等学校の連携の在り方について
- 10回：中学校及び高等学校ドイツ語科における学年・科目に対応する授業設計・学習指導案の作成について
／教材及びICTの活用について
- 11回：中学校及び高等学校ドイツ語科における観点別学習状況の評価、言語能力の測定と評価の方法について
- 12回：第二言語習得理論とその活用について
- 13回：ドイツ語科学習指導案の作成・発表・改善策の検討（その1・中学校ドイツ語科）
- 14回：ドイツ語科学習指導案の作成・発表・改善策の検討（その2・高等学校ドイツ語科）
／まとめ。学習指導案の作成と発表についての全体での振り返り。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
また、授業の後半で実施する学習指導案作成課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および積極的な発言と質問:50% 課題の内容理解およびプレゼンテーション:50%

テキスト / Textbooks

平野卿子 『女ことばってなんなのかしら？「性別美学」の日本語』 河出書房新社（河出新書） 2023
9784309631622 ○

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－外国語編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－外国語編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

ドイツ語科教育法演習 1

Seminar of Methods in Teaching German Language 1

保阪 良子 (HOSAKA YOSHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA463
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3210
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「ドイツ語科教育法 1」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

中学校及び高等学校における外国語（ドイツ語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。

授業の内容 / Course Contents

「ドイツ語科教育法 1」「ドイツ語科教育法 2」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、履修者各自が 1 単元・1 時間分の範囲について教材研究を行って授業を組み立て、学習指導案を準備した上で模擬授業を行う。教材及び ICT の活用も含めて模擬授業を実施し、その振り返りを通して、生徒の特性や習熟度に応じた授業設計ができ、生徒の資質・能力を高める指導ができる力量を養成する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）
- 2 回：生徒の特性や習熟度に応じた授業設計と求められる工夫について
／教材及び ICT を活用した授業実践例について
- 3 回：模擬授業（1）中学校ドイツ語第 1 学年その 1
- 4 回：模擬授業（2）中学校ドイツ語第 1 学年その 2

- 5回：模擬授業（3）中学校ドイツ語第2学年その1
 6回：模擬授業（4）中学校ドイツ語第2学年その2
 7回：模擬授業（5）中学校ドイツ語第3学年その1
 8回：模擬授業（6）中学校ドイツ語第3学年その2
 9回：模擬授業（7）高等学校ドイツ語第1学年その1
 10回：模擬授業（8）高等学校ドイツ語第1学年その2
 11回：模擬授業（9）高等学校ドイツ語第2学年その1
 12回：模擬授業（10）高等学校ドイツ語第2学年その2
 13回：模擬授業（11）高等学校ドイツ語第3学年その1
 14回：模擬授業（12）高等学校ドイツ語第3学年その2

／まとめ。実施した模擬授業についての履修者相互の振り返りと各自の改訂案作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
 模擬授業実施のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および積極的な発言と質問:50% 模擬授業の準備、実践、客観化:50%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－外国語編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－外国語編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

フランス語科教育法 1

Methods in Teaching French Language 1

フランス語の学び方と教え方

土屋 良二 (TSUCHIYA RYOJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GA471

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 全回対面授業

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CET3200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： この科目の単位修得が秋学期「フランス語科教育法演習 1」履修の必須条件となる。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

中学校及び高等学校における外国語（フランス語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。

授業の内容 / Course Contents

中学校及び高等学校の外国語の学習指導要領及び外国語（フランス語）教科書について理解し、学習指導要領の3つの資質・能力とともに、領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について理解する。教材及び ICT の活用の基礎を学び、また、小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領並びに教科、教科書について知るとともに、小・中・高等学校の連携の在り方について理解する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

2 回：中学校及び高等学校外国語科（フランス語科）の教育目標について／現行学習指導要領に至るまでのフランス語科教育の歩み

3 回：学習指導要領における中学校外国語（フランス語）の目標・内容・全体構造について

- 4回：学習指導要領における高等学校外国語（フランス語）の目標・内容・全体構造について
- 5回：中学校外国語（フランス語）の教科書について
- 6回：高等学校外国語（フランス語）の教科書について
- 7回：学習指導要領における中学校外国語の「3つの資質・能力」と領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、
単元計画、各授業時間の指導計画について
- 8回：学習指導要領における高等学校外国語の「3つの資質・能力」と領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、
単元計画、各授業時間の指導計画について
- 9回：小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領と教科書等の教材について
／小・中・高等学校の連携の在り方について
- 10回：中学校及び高等学校フランス語科における学年・科目に対応する授業設計・学習指導案の作成について
／教材及びICTの活用について
- 11回：中学校及び高等学校フランス語科における観点別学習状況の評価、言語能力の測定と評価の方法について
- 12回：第二言語習得理論とその活用について
- 13回：フランス語科学習指導案の作成・発表・改善策の検討（その1・中学校フランス語科）
- 14回：フランス語科学習指導案の作成・発表・改善策の検討（その2・高等学校フランス語科）
／まとめ。学習指導案の作成と発表についての全体での振り返り。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	校内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
また、授業の後半で実施する学習指導案作成課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内で行う教材分析等の発表:40% 学習テーマに関するディスカッション:20%

最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

適宜、資料を配布する。

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－外国語編－』

『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領－外国語編－』

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

中村啓祐、長谷川富子 『フランス語をどのように教えるか』 駿河台出版社 1995

Christine TAGLIANTE La classe de langue CLE International 1994

Jean-Pierre CUQ Dictionnaire de didactique du français; langue étrangère et seconde CLE International
2003

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

フランス語学科3年終了時のフランス語語学力

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし

その他/ Others

授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

フランス語科教育法演習 1

Seminar of Methods in Teaching French Language 1

フランス語の教え方を具体例から考える

土屋 良二 (TSUCHIYA RYOJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GA473

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 全回対面授業

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CET3210

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 春学期「フランス語科教育法 1」を修得済の者対象。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

中学校及び高等学校における外国語（フランス語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。

授業の内容 / Course Contents

「フランス語科教育法 1」「フランス語科教育法 2」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、履修者各自が 1 単元・1 時間分の範囲について教材研究を行って授業を組み立て、学習指導案を準備した上で模擬授業を行う。教材及び ICT の活用も含めて模擬授業を実施し、その振り返りを通して、生徒の特性や習熟度に応じた授業設計ができ、生徒の資質・能力を高める指導ができる力量を養成する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

2 回：生徒の特性や習熟度に応じた授業設計と求められる工夫について／教材及び ICT を活用した授業実践例について

- 3回：模擬授業（1）中学校フランス語第1学年その1
 4回：模擬授業（2）中学校フランス語第1学年その2
 5回：模擬授業（3）中学校フランス語第2学年その1
 6回：模擬授業（4）中学校フランス語第2学年その2
 7回：模擬授業（5）中学校フランス語第3学年その1
 8回：模擬授業（6）中学校フランス語第3学年その2
 9回：模擬授業（7）高等学校フランス語第1学年その1
 10回：模擬授業（8）高等学校フランス語第1学年その2
 11回：模擬授業（9）高等学校フランス語第2学年その1
 12回：模擬授業（10）高等学校フランス語第2学年その2
 13回：模擬授業（11）高等学校フランス語第3学年その1
 14回：模擬授業（12）高等学校フランス語第3学年その2

／まとめ。実施した模擬授業についての履修者相互の振り返りと各自の改訂案作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
 模擬授業実施のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内で行う模擬授業の発表：40% 学習テーマに関するディスカッション：20%
 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

適宜、資料を配付する。

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－外国語編－』

『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領－外国語編－』

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

中村啓祐、長谷川富子 『フランス語をどのように教えるか』 駿河台出版社 1995

Cristine TAGLIANTE La classe de langue CLE International LE International 1994

Jean-Pierre CUQ Dictionnaire de didactique du français; langue étrangère et seconde CLE International 2003

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

フランス語学科3年終了時のフランス語語学力

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし

その他/ Others

授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

宗教科教育法 1

Methods in Teaching Religion 1

新井 美穂 (ARAI MIHO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA481
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： この科目の単位修得が秋学期「宗教科教育法演習 1」履修の必須条件となる。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

宗教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、宗教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、宗教科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

中学校及び高等学校宗教科教育の目標・内容・全体構造について理解し、対応する学問領域の特性を踏まえた教材研究の方法について学習する。あわせて、本科目と並行して履修する、あるいは本科目の履修の後に続く「宗教科教育法演習 1」「宗教科教育法 2」「宗教科教育法演習 2」との関連性・継続性を考慮し、本科目の中で、学習指導案の作成の基礎を学び、実際に 1 単元・1 時間の授業設計を行い、学習指導案を各自作成して発表、振り返りを行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）
2 回：宗教科の教育目標について
／宗教科教育の歩み

- 3回：中学校宗教科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について（その1）
 4回：中学校宗教科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について（その2）
 5回：中学校宗教科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について（その3）
 6回：高等学校宗教科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について（その1）
 7回：高等学校宗教科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について（その2）
 8回：高等学校宗教科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について（その3）
 9回：高等学校宗教科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について（その4）
 10回：宗教科における教材及びICTの活用法について
 11回：宗教科における授業設計と学習指導案の作成について
 12回：宗教科学習指導案の作成・発表・改善策の検討（その1・中学校宗教科）
 13回：宗教科学習指導案の作成・発表・改善策の検討（その2・高等学校宗教科（1））
 14回：宗教科学習指導案の作成・発表・改善策の検討（その3・高等学校宗教科（2））
 ／まとめ。学習指導案の作成と発表についての全体での振り返り。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
 また、授業の後半で実施する学習指導案作成課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業における質疑応答:70% 授業における積極的取り組み:20% リアクションペーパー:10%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

『中学校学習指導要領解説－特別の教科 道徳編－』『高等学校学習指導要領－公民編－』

宗教科教育法演習 1

Seminar of Methods in Teaching Religion 1

新井 美穂 (ARAI MIHO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	学校・社会教育講座
科目コード等：	GA483
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CET3210
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	春学期「宗教科教育法 1」を修得済の者対象。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

宗教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、宗教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに宗教科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

「宗教科教育法 1」で学習したことをもとに、中学校及び高等学校宗教科の学習内容について、履修者各自が 1 単元・1 時間分の範囲について教材研究を行って教材を作成し、学習指導案を準備した上で模擬授業を行う。模擬授業の実施とその振り返りを通して、中学生・高校生の発達段階、学力状況の多様性に応じた授業設計ができる力量を養成する。あわせて、教材及び ICT の活用法、学習評価の考え方の基礎的理解についても実践的に学ぶ。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）（模擬授業実施についての概略説明）
- 2 回：中学生・高校生の発達段階、学力状況の多様性を踏まえた授業設計について（異なる「生徒観」の学級での授業設計について）

3回：教材及びICTの活用法の概略（実践例の学習）

4回：模擬授業（1）中学校宗教科その1

5回：模擬授業（2）中学校宗教科その2

6回：模擬授業（3）中学校宗教科その3

7回：模擬授業（4）中学校宗教科その4

8回：模擬授業（5）中学校宗教科その5

9回：模擬授業（6）高等学校宗教科その1

10回：模擬授業（7）高等学校宗教科その2

11回：模擬授業（8）高等学校宗教科その3

12回：模擬授業（9）高等学校宗教科その4

13回：模擬授業（10）高等学校宗教科その5

14回：模擬授業（11）高等学校宗教科その6

／まとめ。実施した模擬授業についての履修者相互の振り返りと各自の改訂案作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

模擬授業実施のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 模擬授業の実践:60% 学習指導案作成・説明:20% 授業における質疑応答:20%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

『中学校学習指導要領解説－特別の教科 道徳編－』『高等学校学習指導要領－公民編－』

商業科教育法 1

Methods in Teaching Commerce 1

親泊 寛昌 (OYADOMARI HIROMASA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA491
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： この科目の単位修得が秋学期「商業科教育法演習 1」履修の必須条件となる。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教科「商業」における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された商業科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、教科「商業」の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

学習指導要領に示された高等学校教科「商業」の目標・内容・全体構造について理解し、対応する学問領域の特性を踏まえた教材研究の方法について学習する。あわせて、本科目の履修の後に続く「商業科教育法演習 1」との継続性を考慮し、本科目の中で、学習指導案の作成の基礎を学び、実際に 1 単元・1 時間の授業設計を行い、学習指導案を各自作成して発表、振り返りを行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）
- 2 回：教科「商業」の教育目標について
／現行学習指導要領に至るまでの教科「商業」教育の歩み
- 3 回：学習指導要領における教科「商業」の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方につ

いて

(その1・流通ビジネス(商業経済)科目群について)

4回：学習指導要領における教科「商業」の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その2・グローバル経済科目群について)

5回：学習指導要領における教科「商業」の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その3・簿記会計科目群について)

6回：学習指導要領における教科「商業」の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その4・経営情報(情報処理)科目群について)

7回：学習指導要領における教科「商業」の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その5・総合的科目群について)

8回：教科「商業」における教材及びICTの活用法について

9回：教科「商業」における授業設計と学習指導案の作成について

10回：高校生の発達段階、学力状況の多様性を踏まえた授業設計について

(異なる「生徒観」の学級での授業設計について)

11回：教科「商業」の学習指導案の作成・発表・改善策の検討

(その1・流通ビジネス(商業経済)科目群)

12回：教科「商業」の学習指導案の作成・発表・改善策の検討

(その2・グローバル経済科目群)

13回：教科「商業」の学習指導案の作成・発表・改善策の検討

(その3・簿記会計科目群)

14回：教科「商業」の学習指導案の作成・発表・改善策の検討

(その4・経営情報(情報処理)科目群)

／まとめ(学習指導案の作成と発表を踏まえた全体での振り返り)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

また、授業の後半で実施する学習指導案作成課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 学期中のレポート(報告レポート):40% 口頭試問(講義内容確認試問):20%

最終レポート割合 :40%

テキスト/Textbooks

『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－商業編－』。高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

その他/ Others

授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

商業科教育法演習 1

Seminar of Methods in Teaching Commerce 1

親泊 寛昌 (OYADOMARI HIROMASA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA492
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3210
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「商業科教育法 1」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教科「商業」における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された教科「商業」の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、教科「商業」の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

「商業科教育法 1」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、教科「商業」とその科目群について、履修者各自が 1 単元・1 時間分の範囲について教材研究を行って教材を作成し、学習指導案を準備した上で模擬授業を行う。模擬授業の実施とその振り返りを通して、高校生の発達段階、学力状況の多様性に応じた授業設計ができる力量を養成する。あわせて、教材及び ICT の活用法についての実践的な理解を深める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）
- 2 回：模擬授業（1）（流通ビジネス（商業経済）科目群）
- 3 回：模擬授業（2）（グローバル経済科目群）

- 4回：模擬授業（3）（簿記会計科目群）
 5回：模擬授業（4）（経営情報（情報処理）科目群）
 6回：模擬授業（5）（総合的科目群）
 7回：発展的な学習内容についての探究と実践例紹介
 8回：グループワークを採り入れた授業設計の実践例紹介
 9回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例紹介
 10回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（1）（流通ビジネス（商業経済）科目群）
 11回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（2）（グローバル経済科目群）
 12回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（3）（簿記会計科目群）
 13回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（4）（経営情報（情報処理）科目群）
 14回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（5）（総合的科目群）
 ／まとめ。実施した模擬授業、模擬授業形式の発表について履修者相互の振り返りと各自の改訂案作成

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
 模擬授業や発表実施のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 学期中のレポート（報告レポート）：40% 口頭試問（講義内容確認試問）：20%

最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－商業編－』。高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

その他 / Others

授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

情報科教育法 1

Method of Information and Technology Education 1

鍋島 尚子 (NABESHIMA TAKAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA501
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： この科目の単位修得が秋学期「情報科教育法演習 1」履修の必須条件となる。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

高等学校教科「情報」における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された教科「情報」の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、教科「情報」の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

学習指導要領に示された高等学校教科「情報」の目標・内容・全体構造について理解し、対応する学問領域の特性を踏まえた教材研究の方法について学習する。あわせて、本科目の履修の後に続く「情報科教育法演習 1」との継続性を考慮し、本科目の中で、学習指導案の作成の基礎を学び、実際に 1 単元・1 時間の授業設計を行い、学習指導案を各自作成して発表、振り返りを行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）
- 2 回：教科「情報」の教育目標について
／現行学習指導要領に至るまでの教科「情報」教育の歩み
- 3 回：学習指導要領における教科「情報」の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方につ

いて

(その1・「情報Ⅰ」について)

4回：学習指導要領における教科「情報」の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その2・「情報Ⅱ」について)

5回：学習指導要領における教科「情報」の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その3・専門教科「情報」の基礎的科目群について)

6回：学習指導要領における教科「情報」の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その4・専門教科「情報」のシステム設計・管理分野の科目群について)

7回：学習指導要領における教科「情報」の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その5・専門教科「情報」の情報コンテンツの制作・発信分野の科目群について)

8回：教科「情報」における教材及びICTの活用法について

9回：教科「情報」における授業設計と学習指導案の作成について

10回：高校生の発達段階、学力状況の多様性を踏まえた授業設計について

(異なる「生徒観」の学級での授業設計について)

11回：教科「情報」の学習指導案の作成・発表・改善策の検討(その1・「情報Ⅰ」)

12回：教科「情報」の学習指導案の作成・発表・改善策の検討(その2・「情報Ⅱ」)

13回：教科「情報」の学習指導案の作成・発表・改善策の検討(その3・専門教科「情報」の基礎的科目群)

14回：教科「情報」の学習指導案の作成・発表・改善策の検討(その4・専門教科「情報」の発展的科目群)

／まとめ(学習指導案の作成と発表を踏まえた全体での振り返り)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

また、授業の後半で実施する学習指導案作成課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の課題および授業参加度:40% 口頭試問(模擬授業の実施):30% 最終レポート(学習指導案の提出):30%

テキスト/ Textbooks

『高等学校学習指導要領』および『高等学校学習指導要領解説－情報編－』を文部科学省 Web サイトにて閲覧。

参考文献 / Readings

模擬授業を作成する単元に関する専門書を図書館等で参考にする。また、教科情報の検定教科書を「学校・社

会教育講座事務局」の奥にある「学校・社会教育講座資料室」(2号館1階)にて参考にする。

情報科教育法演習 1

Seminar of Methods in Information and Technology Education 1

鍋島 尚子 (NABESHIMA TAKAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA502
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3210
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「情報科教育法 1」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

高等学校教科「情報」における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された教科「情報」の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、教科「情報」の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

「情報科教育法 1」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、教科「情報」の科目について、履修者各自が 1 単元・1 時間分の範囲について教材研究を行って教材を作成し、学習指導案を準備した上で模擬授業を行う。模擬授業の実施とその振り返りを通して、高校生の発達段階、学力状況の多様性に応じた授業設計ができる力量を養成する。あわせて、教材及び ICT の活用法についての実践的な理解を深める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）
- 2 回：模擬授業（1）（「情報 I」）
- 3 回：模擬授業（2）（「情報 II」）

- 4回：模擬授業（3）（専門教科「情報」の基礎的科目群）
 5回：模擬授業（4）（専門教科「情報」のシステム設計・管理分野の科目群）
 6回：模擬授業（5）（専門教科「情報」の情報コンテンツの制作・発信分野の科目群）
 7回：発展的な学習内容についての探究と実践例紹介
 8回：グループワークを採り入れた授業設計の実践例紹介
 9回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例紹介
 10回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（1）（「情報Ⅰ」）
 11回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（2）（「情報Ⅱ」）
 12回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（3）（専門教科「情報」の基礎的科目群）
 13回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（4）
 （「専門教科「情報」のシステム設計・管理分野の科目群」）
 14回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（5）
 （「専門教科「情報」の情報コンテンツの制作・発信分野の科目群」）
 ／まとめ。実施した模擬授業、模擬授業形式の発表について履修者相互の振り返りと各自の改訂案作成

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
 模擬授業や発表実施のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の課題および授業参加度：40% 口頭試問（ミニ模擬授業3回の実施）：30% 最終レポート（学習指導案の提出）：30%

テキスト / Textbooks

『高等学校学習指導要領』および『高等学校学習指導要領解説－情報編－』を文部科学省 Web サイトにて閲覧。

参考文献 / Readings

英語科教育法 1 (A) (異文化)

Methods in Teaching English Language1(A)

渡邊 万里子 (WATANABE MARIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA551
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： この科目の単位修得が秋学期「英語科教育法演習 1 (A)」履修の必須条件となる。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2019 年度以降入学異文化コミュニケーション学科学生および文学科英米文学専修学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。

授業の内容 / Course Contents

中学校及び高等学校の外国語（英語）の学習指導要領及び教科書について理解し、学習指導要領の3つの資質・能力とともに、領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について理解する。教材及びICTの活用の基礎を学び、また、小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領並びに教科、教科書について知るとともに、小・中・高等学校の連携の在り方について理解する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）
- 2 回：中学校及び高等学校英語科の教育目標について
／現行学習指導要領に至るまでの英語科教育の歩み
- 3 回：学習指導要領における中学校外国語（英語）の目標・内容・全体構造について

- 4回：学習指導要領における高等学校外国語（英語）の目標・内容・全体構造について
- 5回：中学校外国語（英語）の教科書について
- 6回：高等学校外国語（英語）の教科書について
- 7回：学習指導要領における中学校外国語（英語）の「3つの資質・能力」と領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について
- 8回：学習指導要領における高等学校外国語（英語）の「3つの資質・能力」と領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について
- 9回：小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領と教科書等の教材について
／小・中・高等学校の連携の在り方について
- 10回：中学校及び高等学校英語科における学年・科目に対応する授業設計・学習指導案の作成について
／教材及びICTの活用について／ALT等とのティーム・ティーチングについて
- 11回：中学校及び高等学校英語科における観点別学習状況の評価、言語能力の測定と評価の方法について
- 12回：第二言語習得理論とその活用について
- 13回：英語科学習指導案の作成・発表・改善策の検討（その1・中学校英語科）
- 14回：英語科学習指導案の作成・発表・改善策の検討（その2・高等学校英語科）
／まとめ。学習指導案の作成と発表についての全体での振り返り。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

また、授業の後半で実施する学習指導案作成課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（意見交換、授業内発表、提出コメントを含む）：40% 小課題：30%

最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－外国語編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－外国語編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

英語科教育法演習 1 (A) (異文化)

Seminar of Teaching Methods in English Language 1(A)

渡邊 万里子 (WATANABE MARIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GA553

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CET3210

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 春学期「英語科教育法 1 (A)」を修得済の者対象。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2019 年度以降入学異文化コミュニケーション学科学生および文学科英米文学専修学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。

授業の内容 / Course Contents

「英語科教育法 1」「英語科教育法 2」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、履修者各自が 1 単元・1 時間分の範囲について教材研究を行って授業を組み立て、学習指導案を準備した上で模擬授業を行う。教材及び ICT の活用も含めて模擬授業を実施し、その振り返りを通して、生徒の特性や習熟度に応じた授業設計ができ、生徒の資質・能力を高める指導ができる力量を養成する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

2 回：生徒の特性や習熟度に応じた授業設計と求められる工夫について

／教材及び ICT を活用した授業実践例について／ALT 等とのチーム・ティーチングについて

3 回：模擬授業（1）中学校英語第 1 学年その 1

- 4回：模擬授業（2）中学校英語第1学年その2
 5回：模擬授業（3）中学校英語第2学年その1
 6回：模擬授業（4）中学校英語第2学年その2
 7回：模擬授業（5）中学校英語第3学年その1
 8回：模擬授業（6）中学校英語第3学年その2
 9回：模擬授業（7）高等学校英語科目（「英語コミュニケーションⅠ」）
 10回：模擬授業（8）高等学校英語科目（「英語コミュニケーションⅡ」）
 11回：模擬授業（9）高等学校英語科目（「英語コミュニケーションⅢ」）
 12回：模擬授業（10）高等学校英語科目（「論理・表現Ⅰ」）
 13回：模擬授業（11）高等学校英語科目（「論理・表現Ⅱ」）
 14回：模擬授業（12）高等学校英語科目（「論理・表現Ⅲ」）

／まとめ。実施した模擬授業についての履修者相互の振り返りと各自の改訂案作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

模擬授業実施のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 模擬授業の完成度:50% 授業への参加度（意見交換、提出コメントを含む）:20%

最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－外国語編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－外国語編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

国語科教育法 2

Methods in Teaching Japanese Language 2

齋藤 知也 (SAITOU TOMOYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	学校・社会教育講座
科目コード等：	GA602
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CET3200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	春学期「国語科教育法 1」を修得済または同時履修の者対象。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2018 年度以前入学者は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、国語科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

中学校及び高等学校国語科の学習内容について、教材及び ICT の効果的な活用法を理解した上で、履修者各自が活用法を考えた授業設計を行い、その授業計画を発表、振り返りを行う。あわせて、国語科の学年・科目に即した年間指導計画の作成・発表、学習評価の模範的実践（学習指導案の「生徒観」に即応した定期試験用の試験問題の作成・発表）などを通して、より実践的に授業設計の向上に取り組む力量を養成する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）
- 2 回：教材及び ICT 活用法の実践例紹介（中学校国語科の具体例）
- 3 回：教材及び ICT 活用法の実践例紹介（高等学校国語科の具体例）

- 4回：発展的な学習内容についての探究と実践例紹介（中学校国語科の具体例）
 5回：発展的な学習内容についての探究と実践例紹介（高等学校国語科の具体例）
 6回：グループワークを採り入れた授業設計の実践例紹介（中学校国語科の具体例）
 7回：グループワークを採り入れた授業設計の実践例紹介（高等学校国語科の具体例）
 8回：年間指導計画の作成・発表（1）中学校国語科その1
 9回：年間指導計画の作成・発表（2）中学校国語科その2
 10回：年間指導計画の作成・発表（3）高等学校国語科科目その1
 11回：年間指導計画の作成・発表（4）高等学校国語科科目その2
 12回：年間指導計画の作成・発表（5）高等学校国語科科目その3
 13回：学習評価の模擬的实践（その1・中学校国語科）
 14回：学習評価の模擬的实践（その2・高等学校国語科）

／まとめ。実施した年間指導計画の発表についての履修者相互の振り返りと各自の改訂プラン作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

また、授業の後半で実施する年間指導計画作成の課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 積極的な質問・発言・発表:50%

2/3 以上の出席をしていない場合は単位修得不可。

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－国語編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－国語編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

授業で紹介する。

国語科教育法演習 2

Seminar of Teaching Methods in Japanese Language 2

齋藤 知也 (SAITOU TOMOYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA604
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3210
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「国語科教育法 1」および「国語科教育法 2」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2018 年度以前入学者は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、国語科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

「国語科教育法 2」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、中学校及び高等学校国語科の各学年・科目について、履修者各自が作成した教材及び ICT の効果的な活用を考えた授業設計に基づき、模擬授業を実施する。実施後に履修者相互の振り返りを行い、改善点を見出し、改訂プランを作成することを通して、教材及び ICT の活用に実践的かつ発展的に取り組むことのできる力量を養成する。あわせて実践研究の動向を学び、中学生・高校生の実態に即した授業設計とその実践に取り組む続けることのできる教科の授業実践者としての資質を高める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

- 2回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（中学校国語科1）
 3回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（中学校国語科2）
 4回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（高等学校国語科1）
 5回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（高等学校国語科2）
 6回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
 （教材及びICTの活用法・その1－中学校第1学年）
 7回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
 （教材及びICTの活用法・その2－中学校第2学年）
 8回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
 （教材及びICTの活用法・その3－中学校第3学年）
 9回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
 （教材及びICTの活用法・その4－「現代の国語」）
 10回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
 （教材及びICTの活用法・その5－「言語文化」）
 11回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
 （教材及びICTの活用法・その6－「論理国語」）
 12回：履修者各自による模擬授業の活用法発表
 （教材及びICTの活用法・その7－「文学国語」）
 13回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
 （教材及びICTの活用法・その8－「国語表現」）
 14回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
 （教材及びICTの活用法・その9－「古典探究」）

／まとめ。実施した模擬授業形式の活用法発表についての履修者相互の振り返りと各自の改訂プラン作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

模擬授業形式の発表のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :45%

平常点割合 :55% 発表・報告:35% 積極的な質問・発言:20%

2/3 以上の出席をしていない場合は単位修得不可。

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－国語編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－国語編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

授業で紹介する。

社会・地理歴史科教育法 2 (A)

Method of Social Studies, Geography and History 2(A)

奈須 恵子 (NASU KEIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GA612

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CET3200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 春学期「社会・地理歴史科教育法 1」を修得済または同時履修の者対象。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2018 年度以前入学者は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

中学校社会科及び高等学校地理歴史科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校地理歴史科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

中学校社会科及び高等学校地理歴史科の学習内容について、教材及び ICT の効果的な活用法を理解した上で、履修者各自が活用法を考えた授業設計を行い、その授業計画を発表、振り返りを行う。あわせて、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の分野・科目に即した年間指導計画の作成・発表、学習評価の模擬的実践（学習指導案の「生徒観」に即応した定期試験用の試験問題の作成・発表）などを通して、より実践的に授業設計の向上に取り組む力量を養成する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

- 2回：教材及びICT活用法の実践例紹介（中学校社会科の具体例）
 3回：教材及びICT活用法の実践例紹介（高等学校地理歴史科の具体例）
 4回：発展的な学習内容についての探究と実践例紹介（中学校社会科の具体例）
 5回：発展的な学習内容についての探究と実践例紹介（高等学校地理歴史科の具体例）
 6回：グループワークを採り入れた授業設計の実践例紹介（中学校社会科の具体例）
 7回：グループワークを採り入れた授業設計の実践例紹介（高等学校地理歴史科の具体例）
 8回：年間指導計画の作成・発表（1）中学校社会科地理的分野
 9回：年間指導計画の作成・発表（2）中学校社会科歴史的分野
 10回：年間指導計画の作成・発表（3）中学校社会科公民的分野
 11回：年間指導計画の作成・発表（4）高等学校地理歴史科地理関係科目（「地理総合」「地理探究」）
 12回：年間指導計画の作成・発表（5）高等学校地理歴史科歴史関係科目（「歴史総合」「世界史探究」「日本史探究」）
 13回：学習評価の模擬的实践（その1・中学校社会科）
 14回：学習評価の模擬的实践（その2・高等学校地理歴史科）
 /まとめ。実施した年間指導計画の発表についての履修者相互の振り返りと各自の改訂プラン作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド（パワポ等）の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	: ○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	:	校内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
 また、授業の後半で実施する年間指導計画作成の課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% グループ作業への参加・貢献度:50% 各自の課題の発表と発表のふり返りを踏まえた改訂プランの提出:50%

毎回の出席が大前提。無断欠席のある場合はD評価となるので注意すること。

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－社会編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－地理歴史編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

その他 / Others

授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

社会・地理歴史科教育法演習 2 (A)

Seminar of Teaching Methods in Social Studies, Geography and History 2(A)

奈須 恵子 (NASU KEIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA614
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3210
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「社会・地理歴史科教育法 1」および「社会・地理歴史科教育法 2 (A)」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2018 年度以前入学者は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

中学校社会科及び高等学校地理歴史科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校地理歴史科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

「社会・地理歴史科教育法 2」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の各分野・科目について、履修者各自が作成した教材及び ICT の効果的な活用を考えた授業設計に基づき模擬授業を実施する。実施後に履修者相互の振り返りを行い、改善点を見出し、改訂プランを作成することを通して、教材及び ICT の活用実践的かつ発展的に取り組むことのできる力量を養成する。あわせて実践研究の動向を学び、中学生・高校生の実態に即した授業設計とその実践に取り組む続けることのできる教科の授業実践者としての資質を高める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）
- 2 回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（中学校社会科 1）
- 3 回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（中学校社会科 2）
- 4 回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（高等学校地理歴史科 1）
- 5 回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（高等学校地理歴史科 2）
- 6 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及び ICT の活用法・その 1－社会科地理的分野）
- 7 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及び ICT の活用法・その 2－社会科歴史的分野）
- 8 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及び ICT の活用法・その 3－社会科公民的分野）
- 9 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及び ICT の活用法・その 4－地理歴史科「地理総合」）
- 10 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及び ICT の活用法・その 5－地理歴史科「地理探究」）
- 11 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及び ICT の活用法・その 6－地理歴史科「歴史総合」（1））
- 12 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及び ICT の活用法・その 7－地理歴史科「歴史総合」（2））
- 13 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及び ICT の活用法・その 8－地理歴史科「世界史探究」）
- 14 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及び ICT の活用法・その 9－地理歴史科「日本史探究」）
- ／まとめ。実施した模擬授業形式の活用法発表についての履修者相互の振り返りと各自の改訂プラン作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

模擬授業形式の発表のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% グループ作業や他の参加者の発表へのコメントなどの参加・貢献度:50% 各自の課題の発表と発表のふり返りを踏まえた改訂プランの提出:50%

毎回の出席が大前提。無断欠席のある場合は D 評価となるので注意すること。

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－社会編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－地理歴史編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

その他/ Others

授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

社会・地理歴史科教育法 2 (B)

Method of Social Studies, Geography and History 2(B)

大西 信行 (ONISHI NOBUYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GA616

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CET3200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 春学期「社会・地理歴史科教育法 1」を修得済または同時履修の者対象。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2018 年度以前入学者は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

中学校社会科及び高等学校地理歴史科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校地理歴史科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

中学校社会科及び高等学校地理歴史科の学習内容について、教材及び ICT の効果的な活用法を理解した上で、履修者各自が活用法を考えた授業設計を行い、その授業計画を発表、振り返りを行う。あわせて、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の分野・科目に即した年間指導計画の作成・発表、学習評価の模擬的実践（学習指導案の「生徒観」に即応した定期試験用の試験問題の作成・発表）などを通して、より実践的に授業設計の向上に取り組む力量を養成する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

- 2回：教材及びICT活用法の実践例紹介（中学校社会科の具体例）
 3回：教材及びICT活用法の実践例紹介（高等学校地理歴史科の具体例）
 4回：発展的な学習内容についての探究と実践例紹介（中学校社会科の具体例）
 5回：発展的な学習内容についての探究と実践例紹介（高等学校地理歴史科の具体例）
 6回：グループワークを採り入れた授業設計の実践例紹介（中学校社会科の具体例）
 7回：グループワークを採り入れた授業設計の実践例紹介（高等学校地理歴史科の具体例）
 8回：年間指導計画の作成・発表（1）中学校社会科地理的分野
 9回：年間指導計画の作成・発表（2）中学校社会科歴史的分野
 10回：年間指導計画の作成・発表（3）中学校社会科公民的分野
 11回：年間指導計画の作成・発表（4）高等学校地理歴史科地理関係科目（「地理総合」「地理探究」）
 12回：年間指導計画の作成・発表（5）高等学校地理歴史科歴史関係科目（「歴史総合」「世界史探究」「日本史探究」）
 13回：学習評価の模擬的实践（その1・中学校社会科）
 14回：学習評価の模擬的实践（その2・高等学校地理歴史科）
 /まとめ。実施した年間指導計画の発表についての履修者相互の振り返りと各自の改訂プラン作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	校内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
 また、授業の後半で実施する年間指導計画作成の課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% グループ作業への参加・貢献度:50% 各自の課題の発表・総括の提出:50%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－社会編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－地理歴史編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

その他 / Others

授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

社会・地理歴史科教育法演習 2 (B)

Seminar of Teaching Methods in Social Studies, Geography and History 2(B)

大西 信行 (ONISHI NOBUYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA618
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3210
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「社会・地理歴史科教育法 1」および「社会・地理歴史科教育法 2 (B)」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2018 年度以前入学者は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

中学校社会科及び高等学校地理歴史科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校地理歴史科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

「社会・地理歴史科教育法 2」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の各分野・科目について、履修者各自が作成した教材及び ICT の効果的な活用を考えた授業設計に基づき模擬授業を実施する。実施後に履修者相互の振り返りを行い、改善点を見出し、改訂プランを作成することを通して、教材及び ICT の活用実践的かつ発展的に取り組むことのできる力量を養成する。あわせて実践研究の動向を学び、中学生・高校生の実態に即した授業設計とその実践に取り組む続けることのできる教科の授業実践者としての資質を高める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入（目標・概要・進め方）
- 2回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（中学校社会科1）
- 3回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（中学校社会科2）
- 4回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（高等学校地理歴史科1）
- 5回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（高等学校地理歴史科2）
- 6回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その1－社会科地理的分野）
- 7回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その2－社会科歴史的分野）
- 8回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その3－社会科公民的分野）
- 9回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その4－地理歴史科「地理総合」）
- 10回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及びICTの活用法・その5－地理歴史科「地理探究」）
- 11回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及びICTの活用法・その6－地理歴史科「歴史総合」（1））
- 12回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及びICTの活用法・その7－地理歴史科「歴史総合」（2））
- 13回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及びICTの活用法・その8－地理歴史科「世界史探究」）
- 14回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及びICTの活用法・その9－地理歴史科「日本史探究」）
- ／まとめ。実施した模擬授業形式の活用法発表についての履修者相互の振り返りと各自の改訂プラン作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

模擬授業形式の発表のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 模擬授業の準備・実施・総括:60% 他の学生の模擬授業の討論への参加・貢献:40%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－社会編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－地理歴史編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings**その他 / Others**

授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

社会・公民科教育法 2 (A)

Method of Social Studies and Civics 2(A)

下地 秀樹 (SHIMOJI HIDEKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GA622

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CET3200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 春学期「社会・公民科教育法 1」を修得済または同時履修の者対象。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2018 年度以前入学者は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

中学校社会科及び高等学校公民科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校公民科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、中学校社会科及び高等学校公民科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

中学校社会科及び高等学校公民科の学習内容について、教材及び ICT の効果的な活用法を理解した上で、履修者各自が活用法を考えた授業設計を行い、その授業計画を発表、振り返りを行う。あわせて、中学校社会科及び高等学校公民科の分野・科目に即した年間指導計画の作成・発表、学習評価の模擬的実践（学習指導案の「生徒観」に即応した定期試験用の試験問題の作成・発表）などを通して、より実践的に授業設計の向上に取り組む力を養成する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

- 2回：教材及びICT活用法の実践例紹介（中学校社会科の具体例）
 3回：教材及びICT活用法の実践例紹介（高等学校公民科の具体例）
 4回：発展的な学習内容についての探究と実践例紹介（中学校社会科の具体例）
 5回：発展的な学習内容についての探究と実践例紹介（高等学校公民科の具体例）
 6回：グループワークを採り入れた授業設計の実践例紹介（中学校社会科の具体例）
 7回：グループワークを採り入れた授業設計の実践例紹介（高等学校公民科の具体例）
 8回：年間指導計画の作成・発表（1）中学校社会科地理的分野
 9回：年間指導計画の作成・発表（2）中学校社会科歴史的分野
 10回：年間指導計画の作成・発表（3）中学校社会科公民的分野
 11回：年間指導計画の作成・発表（4）高等学校公民科その1（「公共」）
 12回：年間指導計画の作成・発表（5）高等学校公民科その2（「倫理」「政治・経済」）
 13回：学習評価の模擬的实践（その1・中学校社会科）
 14回：学習評価の模擬的实践（その2・高等学校公民科）
 ／まとめ。実施した年間指導計画の発表についての履修者相互の振り返りと各自の改訂プラン作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
 また、授業の後半で実施する年間指導計画作成の課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内の提出物:30% 発表:30% 総括レポート:40%

グループワーク等の計画を立てるので、初回か第2回目には必ず出席すること。

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－社会編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－公民編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

その他 / Others

授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

社会・公民科教育法演習 2 (A)

Seminar of Teaching Methods in Social Studies and Civics 2(A)

下地 秀樹 (SHIMOJI HIDEKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA624
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3210
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「社会・公民科教育法 1」および「社会・公民科教育法 2 (A)」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2018 年度以前入学者履修は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

中学校社会科及び高等学校公民科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校公民科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、中学校社会科及び高等学校公民科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

「社会・公民科教育法 2」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、中学校社会科及び高等学校公民科の各分野・科目について、履修者各自が作成した教材及び ICT の効果的な活用を考えた授業設計に基づき、模擬授業を実施する。実施後に履修者相互の振り返りを行い、改善点を見出し、改訂プランを作成することを通して、教材及び ICT の活用実践的かつ発展的に取り組むことのできる力量を養成する。あわせて実践研究の動向を学び、中学生・高校生の実態に即した授業設計とその実践に取り組む続けることのできる教科の授業実践者としての資質を高める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）
- 2 回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（中学校社会科 1）
- 3 回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（中学校社会科 2）
- 4 回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（高等学校公民科 1）
- 5 回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（高等学校公民科 2）
- 6 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及び ICT の活用法・その 1－社会科地理的分野）
- 7 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及び ICT の活用法・その 2－社会科歴史的分野）
- 8 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及び ICT の活用法・その 3－社会科公民的分野（1））
- 9 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及び ICT の活用法・その 4－社会科公民的分野（2））
- 10 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及び ICT の活用法・その 5－公民科「公共」（1））
- 11 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及び ICT の活用法・その 6－公民科「公共」（2））
- 12 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及び ICT の活用法・その 7－公民科「倫理」）
- 13 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及び ICT の活用法・その 8－公民科「政治・経済」（1））
- 14 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及び ICT の活用法・その 9－公民科「政治・経済」（2））
- ／まとめ。実施した模擬授業形式の活用法発表についての履修者相互の振り返りと各自の改訂プラン作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
模擬授業形式の発表のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 模擬授業の実施内容:20% 他者の模擬授業への批評:60% 総括レポート:20%
模擬授業の計画を立てるので、初回か第 2 回目には必ず出席すること。

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－社会編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－公民編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings**その他 / Others**

授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

社会・公民科教育法 2 (B)

Method of Social Studies and Civics 2(B)

菅間 正道 (SUGAMA MASAMICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA626
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「社会・公民科教育法 1」を修得済または同時履修の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2018 年度以前入学者は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

中学校社会科及び高等学校公民科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校公民科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、中学校社会科及び高等学校公民科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

中学校社会科及び高等学校公民科の学習内容について、教材及び ICT の効果的な活用法を理解した上で、履修者各自が活用法を考えた授業設計を行い、その授業計画を発表、振り返りを行う。あわせて、中学校社会科及び高等学校公民科の分野・科目に即した年間指導計画の作成・発表、学習評価の模擬的実践（学習指導案の「生徒観」に即応した定期試験用の試験問題の作成・発表）などを通して、より実践的に授業設計の向上に取り組む力を養成する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

- 2回：教材及びICT活用法の実践例紹介（中学校社会科の具体例）
 3回：教材及びICT活用法の実践例紹介（高等学校公民科の具体例）
 4回：発展的な学習内容についての探究と実践例紹介（中学校社会科の具体例）
 5回：発展的な学習内容についての探究と実践例紹介（高等学校公民科の具体例）
 6回：グループワークを採り入れた授業設計の実践例紹介（中学校社会科の具体例）
 7回：グループワークを採り入れた授業設計の実践例紹介（高等学校公民科の具体例）
 8回：年間指導計画の作成・発表（1）中学校社会科地理的分野
 9回：年間指導計画の作成・発表（2）中学校社会科歴史的分野
 10回：年間指導計画の作成・発表（3）中学校社会科公民的分野
 11回：年間指導計画の作成・発表（4）高等学校公民科その1（「公共」）
 12回：年間指導計画の作成・発表（5）高等学校公民科その2（「倫理」「政治・経済」）
 13回：学習評価の模擬的实践（その1・中学校社会科）
 14回：学習評価の模擬的实践（その2・高等学校公民科）
 ／まとめ。実施した年間指導計画の発表についての履修者相互の振り返りと各自の改訂プラン作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
 また、授業の後半で実施する年間指導計画作成の課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% レスポンスコメント（複数回）：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－社会編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－公民編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

- 菅間正道 『憲法はだれに向けて書かれているの？』 新日本出版社 2014 9784406057943
 菅間正道 『人の心に国は立ち入れない』 新日本出版社 2014 9784406058117
 菅間正道 『人間らしく生きるために』 新日本出版社 2015 9784406058810
 菅間正道 『憲法9条と沖縄』 新日本出版社 2015 9784406058827

社会・公民科教育法演習 2 (B)

Seminar of Teaching Methods in Social Studies and Civics 2(B)

菅間 正道 (SUGAMA MASAMICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA628
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3210
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「社会・公民科教育法 1」および「社会・公民科教育法 2 (B)」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2018 年度以前入学者は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

中学校社会科及び高等学校公民科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校公民科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、中学校社会科及び高等学校公民科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

「社会・公民科教育法 2」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、中学校社会科及び高等学校公民科の各分野・科目について、履修者各自が作成した教材及び ICT の効果的な活用を考えた授業設計に基づき、模擬授業を実施する。実施後に履修者相互の振り返りを行い、改善点を見出し、改訂プランを作成することを通して、教材及び ICT の活用実践的かつ発展的に取り組むことのできる力量を養成する。あわせて実践研究の動向を学び、中学生・高校生の実態に即した授業設計とその実践に取り組む続けることのできる教科の授業実践者としての資質を高める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）
- 2 回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（中学校社会科1）
- 3 回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（中学校社会科2）
- 4 回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（高等学校公民科1）
- 5 回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（高等学校公民科2）
- 6 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その1－社会科地理的分野）
- 7 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その2－社会科歴史的分野）
- 8 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その3－社会科公民的分野（1））
- 9 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その4－社会科公民的分野（2））
- 10 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その5－公民科「公共」（1））
- 11 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その6－公民科「公共」（2））
- 12 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その7－公民科「倫理」）
- 13 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及びICTの活用法・その8－公民科「政治・経済」（1））
- 14 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及びICTの活用法・その9－公民科「政治・経済」（2））
- ／まとめ。実施した模擬授業形式の活用法発表についての履修者相互の振り返りと各自の改訂プラン作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

模擬授業形式の発表のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 模擬授業発表:30% レスポンスコメント:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－社会編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－公民編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

数学科教育法 2

Methods in Teaching Mathematics 2

砂井 博光 (SAI HIROMITSU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA632
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「数学科教育法 1」を修得済または同時履修の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2018 年度以前入学者は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

数学科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された数学科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、数学科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

中学校及び高等学校数学科の学習内容について、教材及び ICT の効果的な活用法を理解した上で、履修者各自が活用法を考えた授業設計を行い、その授業計画を発表、振り返りを行う。あわせて、数学科の学年・科目に即した年間指導計画の作成・発表、学習評価の模擬的実践（学習指導案の「生徒観」に即応した定期試験用の試験問題の作成・発表）などを通して、より実践的に授業設計の向上に取り組む力量を養成する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）
- 2 回：教材及び ICT 活用法の実践例紹介（中学校数学科の具体例）
- 3 回：教材及び ICT 活用法の実践例紹介（高等学校数学科の具体例）

- 4回：発展的な学習内容についての探究と実践例紹介（中学校数学科の具体例）
 5回：発展的な学習内容についての探究と実践例紹介（高等学校数学科の具体例）
 6回：グループワークを採り入れた授業設計の実践例紹介（中学校数学科の具体例）
 7回：グループワークを採り入れた授業設計の実践例紹介（高等学校数学科の具体例）
 8回：年間指導計画の作成・発表（1）中学校数学科その1
 9回：年間指導計画の作成・発表（2）中学校数学科その2
 10回：年間指導計画の作成・発表（3）高等学校数学科科目その1
 11回：年間指導計画の作成・発表（4）高等学校数学科科目その2
 12回：年間指導計画の作成・発表（5）高等学校数学科科目その3
 13回：学習評価の模擬的实践（その1・中学校数学科）
 14回：学習評価の模擬的实践（その2・高等学校数学科）
 ／まとめ。実施した年間指導計画の発表についての履修者相互の振り返りと各自の改訂プラン作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
 また、授業の後半で実施する年間指導計画作成の課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回のテーマレポート：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－数学編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－数学編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

数学科教育法演習 2

Seminar of Methods in Teaching Mathematics 2

砂井 博光 (SAI HIROMITSU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA634
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3210
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「数学科教育法 1」および「数学科教育法 2」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2018 年度以前入学者は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

数学科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された数学科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、数学科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

「数学科教育法 2」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、中学校及び高等学校数学科の各学年・科目について、履修者各自が作成した教材及び ICT の効果的な活用を考えた授業設計に基づき模擬授業を実施する。実施後に履修者相互の振り返りを行い、改善点を見出し、改訂プランを作成することを通して、教材及び ICT の活用実践的かつ発展的に取り組むことのできる力量を養成する。あわせて実践研究の動向を学び、中学生・高校生の実態に即した授業設計とその実践に取り組むことのできる教科の授業実践者としての資質を高める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

- 2回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（中学校数学科1）
 3回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（中学校数学科2）
 4回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（高等学校数学科1）
 5回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（高等学校数学科2）
 6回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その1－中学校第1学年）
 7回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その2－中学校第2学年）
 8回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その3－中学校第3学年）
 9回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その4－「数学Ⅰ」）
 10回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その5－「数学Ⅱ」）
 11回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その6－「数学Ⅲ」）
 12回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その7－「数学A」）
 13回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その8－「数学B」）
 14回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その9－「数学C」）
 ／まとめ。実施した模擬授業形式の活用法発表についての履修者相互の振り返りと各自の改訂プラン作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
 模擬授業形式の発表のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回のテーマレポート：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－数学編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－数学編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

理科教育法 2

Methods in Teaching Science 2

渡部 智博 (WATANABE TOMOHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA642
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「理科教育法 1」を修得済または同時履修の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2018 年度以前入学者は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

理科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、理科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

中学校及び高等学校理科の学習内容について、教材及び ICT の効果的な活用法を理解した上で、履修者各自が活用法を考えた授業設計を行い、その授業計画を発表、振り返りを行う。あわせて、理科の分野・科目に即した年間指導計画の作成・発表、学習評価の模擬的実践（学習指導案の「生徒観」に即応した定期試験用の試験問題の作成・発表）などを通して、より実践的に授業設計の向上に取り組む力量を養成する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）
- 2 回：教材及び ICT 活用法の実践例紹介（中学校理科の具体例）
- 3 回：教材及び ICT 活用法の実践例紹介（高等学校理科の具体例）

- 4回：発展的な学習内容についての探究と実践例紹介（中学校理科の具体例）
 5回：発展的な学習内容についての探究と実践例紹介（高等学校理科の具体例）
 6回：グループワークを採り入れた授業設計の実践例紹介（中学校理科の具体例）
 7回：グループワークを採り入れた授業設計の実践例紹介（高等学校理科の具体例）
 8回：年間指導計画の作成・発表（1）中学校理科第1分野
 9回：年間指導計画の作成・発表（2）中学校理科第2分野
 10回：年間指導計画の作成・発表（3）高等学校理科「科学と人間生活」
 11回：年間指導計画の作成・発表（4）高等学校理科物理・化学関係科目
 12回：年間指導計画の作成・発表（5）高等学校理科生物・地学関係科目
 13回：学習評価の模擬的实践（その1・中学校理科）
 14回：学習評価の模擬的实践（その2・高等学校理科）

／まとめ。実施した年間指導計画の発表についての履修者相互の振り返りと各自の改訂プラン作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
 また、授業の後半で実施する年間指導計画作成の課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内レポート:40% 小レポート（リアクションペーパー等）:20% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－理科編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－理科編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

必要に応じて授業中に紹介する。

理科教育法演習 2

Seminar of Methods in Teaching Science 2

島野 誠大／墨野倉 伸彦 (SHIMANO MASAHIRO／SUMINOKURA NOBUHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GA644

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CET3210

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 春学期「理科教育法 1」および「理科教育法 2」を修得済の者対象。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2018 年度以前入学者は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

理科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、理科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

「理科教育法 2」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、中学校及び高等学校理科の各分野・科目について、履修者各自が作成した教材及び ICT の効果的な活用を考えた授業設計に基づき模擬授業を実施する。実施後に履修者相互の振り返りを行い、改善点を見出し、改訂プランを作成することを通して、教材及び ICT の活用実践的かつ発展的に取り組むことのできる力量を養成する。あわせて実践研究の動向を学び、中学生・高校生の実態に即した授業設計とその実践に取り組むことのできる教科の授業実践者としての資質を高める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

- 2回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（中学校理科1）
 3回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（中学校理科2）
 4回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（高等学校理科1）
 5回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（高等学校理科2）
 6回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
 （教材及びICTの活用法・その1－中学校第1分野（1）物理領域）
 7回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
 （教材及びICTの活用法・その2－中学校第1分野（2）化学領域）
 8回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
 （教材及びICTの活用法・その3－中学校第2分野（1）生物領域）
 9回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
 （教材及びICTの活用法・その4－中学校第2分野（2）地学領域）
 10回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その5－「科学と人間生活」）
 11回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その6－「物理基礎」「物理」）
 12回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その7－「化学基礎」「化学」）
 13回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その8－「生物基礎」「生物」）
 14回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その9－「地学基礎」「地学」）
 /まとめ。実施した模擬授業形式の活用法発表についての履修者相互の振り返りと各自の改訂プラン作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
 模擬授業形式の発表のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 実験授業のための学習指導案:30% 授業評価:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－理科編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－理科編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

必要に応じて授業中に紹介する。

その他 / Others

授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

英語科教育法 2 (A)

Methods in Teaching English Language 2(A)

渡邊 万里子 (WATANABE MARIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA652
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「英語科教育法 1」を修得済または同時履修の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 異文化コミュニケーション学科学生履修不可。

2018 年度以前入学文学科英米文学専修学生は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。

授業の内容 / Course Contents

中学校及び高等学校英語科における 3 つの資質・能力を踏まえた「5 つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導についての基本的な知識と技能を身に付けるとともに、複数の領域を統合した言語活動の指導方法の基礎を学ぶ。また、教材及び ICT の活用方法を知るとともに、英語による授業展開や ALT 等とのティーム・ティーチングの方法の基礎を学び、生徒の特性・習熟度に対応した指導について理解する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

2 回：聞くことの指導についてとその実践例

- 3回：読むことの指導についてとその実践例
 4回：話すこと[やり取り・発表]の指導についてとその実践例
 5回：書くことの指導についてとその実践例
 6回：複数の領域を統合した言語活動の指導についてとその実践例
 7回：英語の音声的な特徴に関する指導についてとその実践例
 8回：文字の指導についてとその実践例
 9回：語彙、表現に関する指導についてとその実践例
 10回：文法に関する指導についてとその実践例
 11回：異文化理解に関する指導についてとその実践例
 12回：教材及びICTの活用について（概略）
 13回：英語による授業展開、ALT等とのチーム・ティーチングについてとその実践例
 14回：生徒の特性・習熟度への対応について（概略）
 /まとめ。生徒の資質・能力を高める指導についての振り返り。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（意見交換、授業内発表、提出コメントを含む）：40% 小課題：30%

最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－外国語編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－外国語編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

英語科教育法演習 2 (A)

Seminar of Teaching Methods in English Language 2(A)

渡邊 万里子 (WATANABE MARIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA654
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3210
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「英語科教育法 1」および「英語科教育法 2 (A)」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 異文化コミュニケーション学科学生履修不可。

2018 年度以前入学文学科英米文学専修学生は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。

授業の内容 / Course Contents

「英語科教育法 1」「英語科教育法 2」で学習したことをもとに、中学校及び高等学校の学習指導要領に基づく英語科の各学年・科目の年間指導計画・単元計画の作成・発表、学習評価の模擬的実践を行う。また、履修者各自の作成した教材及び ICT の活用法を考えた授業設計について模擬授業形式で発表し、生徒の資質・能力を高める指導に取り組み続けることのできる力量を養成する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

2 回：年間指導・単元計画（ALT 等とのチーム・ティーチングプラン含む。）の作成・発表（1）中学校英語第 1 学年

3回：年間指導・単元計画（ALT等とのチーム・ティーチングプラン含む。）についての作成・発表

（2）中学校英語第2学年

4回：年間指導・単元計画（ALT等とのチーム・ティーチングプラン含む。）の作成・発表（3）中学校英語第3学年

5回：年間指導・単元計画（ALT等とのチーム・ティーチングプラン含む。）の作成・発表（4）高等学校英語科目

（「英語コミュニケーション」I・II・III）

6回：年間指導・単元計画（ALT等とのチーム・ティーチングプラン含む。）の作成・発表（5）高等学校英語科目

（「論理・表現」I・II・III）

7回：学習評価の模擬的実践（1）中学校英語その1

8回：学習評価の模擬的実践（2）中学校英語その2

9回：学習評価の模擬的実践（3）高等学校英語その1

10回：学習評価の模擬的実践（4）高等学校英語その2

11回：履修者各自による模擬授業形式の教材及びICT活用法発表（1）中学校英語その1

12回：履修者各自による模擬授業形式の教材及びICT活用法発表（2）中学校英語その2

13回：履修者各自による模擬授業形式の教材及びICT活用法発表（3）高等学校英語その1

14回：履修者各自による模擬授業形式の教材及びICT活用法発表（4）高等学校英語その2

／まとめ。年間指導・単元計画、学習評価についての全般的振り返りと、実施した模擬授業形式の教材及びICT活用法発表について履修者相互の振り返り・各自の改訂プラン作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

また、年間指導・単元計画課題の発表や模擬授業形式の発表のための教材研究、授業ノート、授業案作成などを各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（意見交換、提出コメントを含む）：20% 模擬授業の完成度：50%

最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－外国語編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－外国語編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

ドイツ語科教育法 2

Methods in Teaching German Language 2

吉村 暁子 (YOSHIMURA AKIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GA662

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CET3200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 春学期「ドイツ語科教育法 1」を修得済または同時履修の者対象。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2018 年度以前入学者は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

中学校及び高等学校における外国語（ドイツ語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。

授業の内容 / Course Contents

中学校及び高等学校外国語（ドイツ語）科における 3 つの資質・能力を踏まえた「5 つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導についての基本的な知識と技能を身に付けるとともに、複数の領域を統合した言語活動の指導方法の基礎を学ぶ。また、教材及び ICT の活用方法を知るとともに、ドイツ語による授業展開や ALT 等とのティーム・ティーチングの方法の基礎を学び、生徒の特性・習熟度に対応した指導について理解する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

2 回：聞くことの指導についてとその実践例

3 回：読むことの指導についてとその実践例

- 4回：話すこと[やり取り・発表]の指導についてとその実践例
 5回：書くことの指導についてとその実践例
 6回：複数の領域を統合した言語活動の指導についてとその実践例
 7回：ドイツ語の音声的な特徴に関する指導についてとその実践例
 8回：文字の指導についてとその実践例
 9回：語彙、表現に関する指導についてとその実践例
 10回：文法に関する指導についてとその実践例
 11回：異文化理解に関する指導についてとその実践例
 12回：教材及びICTの活用について（概略）
 13回：ドイツ語による授業展開、ALT等とのチーム・ティーチングについてとその実践例
 14回：生徒の特性・習熟度への対応について（概略）
 /まとめ。生徒の資質・能力を高める指導についての振り返り。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加、取り組み:50% 提出物、発表など:50%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－外国語編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－外国語編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

吉島茂、境一三 『ドイツ語教授法』 三修社 2003 4384020945

ドイツ語科教育法演習 2

Seminar of Methods in Teaching German Language 2

吉村 暁子 (YOSHIMURA AKIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GA664

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CET3210

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 春学期「ドイツ語科教育法 1」および「ドイツ語科教育法 2」を修得済の者対象。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2018 年度以前入学者履修は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

中学校及び高等学校における外国語（ドイツ語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。

授業の内容 / Course Contents

「ドイツ語科教育法 1」「ドイツ語科教育法 2」で学習したことをもとに、中学校及び高等学校の学習指導要領に基づくドイツ語科の各学年・科目の年間指導計画・単元計画の作成・発表、学習評価の模擬的実践を行う。また、履修者各自の作成した教材及び ICT の活用法を考えた授業設計について模擬授業形式で発表し、生徒の資質・能力を高める指導に取り組み続けることのできる力量を養成する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

2 回：年間指導・単元計画の作成・発表（1）中学校ドイツ語第 1 学年

3 回：年間指導・単元計画の作成・発表（2）中学校ドイツ語第 2 学年

4 回：年間指導・単元計画の作成・発表（3）中学校ドイツ語第 3 学年

- 5回：年間指導・単元計画の作成・発表（4）高等学校ドイツ語第1学年
 6回：年間指導・単元計画の作成・発表（5）高等学校ドイツ語第2・第3学年
 7回：学習評価の模擬的実践（1）中学校ドイツ語その1
 8回：学習評価の模擬的実践（2）中学校ドイツ語その2
 9回：学習評価の模擬的実践（3）高等学校ドイツ語その1
 10回：学習評価の模擬的実践（4）高等学校ドイツ語その2
 11回：履修者各自による模擬授業形式の教材及びICT活用法発表（1）中学校ドイツ語その1
 12回：履修者各自による模擬授業形式の教材及びICT活用法発表（2）中学校ドイツ語その2
 13回：履修者各自による模擬授業形式の教材及びICT活用法発表（3）高等学校ドイツ語その1
 14回：履修者各自による模擬授業形式の教材及びICT活用法発表（4）高等学校ドイツ語その2
 /まとめ。年間指導・単元計画、学習評価についての全般的振り返りと、実施した模擬授業形式の教材及びICT活用法発表について履修者相互の振り返り・各自の改訂プラン作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

また、年間指導・単元計画課題の発表や模擬授業形式の発表のための教材研究、授業ノート、授業案作成などを各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加、取り組み:30% 提出物、発表、模擬授業:70%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－外国語編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－外国語編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

吉島茂、境一三 『ドイツ語教授法』 三修社 2003 4384020945

フランス語科教育法 2

Methods in Teaching French Language 2

明石 伸子 (AKASHI NOBUKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	学校・社会教育講座
科目コード等：	GA672
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CET3200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	春学期「フランス語科教育法 1」を修得済または同時履修の者対象。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2018 年度以前入学者は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

中学校及び高等学校における外国語（フランス語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。

授業の内容 / Course Contents

中学校及び高等学校外国語（フランス語）科における 3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導についての基本的な知識と技能を身に付けるとともに、複数の領域を統合した言語活動の指導方法の基礎を学ぶ。また、教材及び ICT の活用方法を知るとともに、フランス語による授業展開や ALT 等とのチーム・ティーチングの方法の基礎を学び、生徒の特性・習熟度に対応した指導について理解する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）
- 2 回：聞くことの指導についてとその実践例
- 3 回：読むことの指導についてとその実践例

- 4回：話すこと[やり取り・発表]の指導についてとその実践例
 5回：書くことの指導についてとその実践例
 6回：複数の領域を統合した言語活動の指導についてとその実践例
 7回：フランス語の音声的な特徴に関する指導についてとその実践例
 8回：文字の指導についてとその実践例
 9回：語彙、表現に関する指導についてとその実践例
 10回：文法に関する指導についてとその実践例
 11回：異文化理解に関する指導についてとその実践例
 12回：教材及びICTの活用について（概略）
 13回：フランス語による授業展開、ALT等とのチーム・ティーチングについてとその実践例
 14回：生徒の特性・習熟度への対応について（概略）／まとめ。生徒の資質・能力を高める指導についての振り返り。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の授業の課題：90% 最終レポート：10%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－外国語編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－外国語編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

フランス語科教育法演習 2

Seminar of Methods in Teaching French Language 2

明石 伸子 (AKASHI NOBUKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	学校・社会教育講座
科目コード等：	GA674
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CET3210
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	春学期「フランス語科教育法 1」および「フランス語科教育法 2」を修得済の者対象。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2018 年度以前入学者は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

中学校及び高等学校における外国語（フランス語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。

授業の内容 / Course Contents

「フランス語科教育法 1」「フランス語科教育法 2」で学習したことをもとに、中学校及び高等学校の学習指導要領に基づくフランス語科の各学年・科目の年間指導計画・単元計画の作成・発表、学習評価の模擬的実践を行う。また、履修者各自の作成した教材及び ICT の活用方を考えた授業設計について模擬授業形式で発表し、生徒の資質・能力を高める指導に取り組み続けることのできる力量を養成する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）
- 2 回：年間指導・単元計画の作成・発表（1）中学校フランス語第 1 学年
- 3 回：年間指導・単元計画の作成・発表（2）中学校フランス語第 2 学年
- 4 回：年間指導・単元計画の作成・発表（3）中学校フランス語第 3 学年

- 5 回：年間指導・単元計画の作成・発表（4）高等学校フランス語第1学年
 6 回：年間指導・単元計画の作成・発表（5）高等学校フランス語第2・第3学年
 7 回：学習評価の模擬的実践（1）中学校フランス語その1
 8 回：学習評価の模擬的実践（2）中学校フランス語その2
 9 回：学習評価の模擬的実践（3）高等学校フランス語その1
 10 回：学習評価の模擬的実践（4）高等学校フランス語その2
 11 回：履修者各自による模擬授業形式の教材及びICT活用法発表（1）中学校フランス語その1
 12 回：履修者各自による模擬授業形式の教材及びICT活用法発表（2）中学校フランス語その2
 13 回：履修者各自による模擬授業形式の教材及びICT活用法発表（3）高等学校フランス語その1
 14 回：履修者各自による模擬授業形式の教材及びICT活用法発表（4）高等学校フランス語その2／まとめ。
- 年間指導・
 単元計画、学習評価についての全般的振り返りと、実施した模擬授業形式の教材及びICT活用法発表について
 履修者
 相互の振り返り・各自の改訂プラン作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
 また、年間指導・単元計画課題の発表や模擬授業形式の発表のための教材研究、授業ノート、授業案作成などを各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の授業の課題：90% 最終レポート：10%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－外国語編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－外国語編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

宗教科教育法 2

Methods in Teaching Religion 2

久保 彩奈 (KUBO AYANA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA682
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「宗教科教育法 1」を修得済または同時履修の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2018 年度以前入学者は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

宗教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、宗教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに宗教科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

中学校及び高等学校宗教科の学習内容について、教材及び ICT の効果的な活用法を理解した上で、履修者各自が活用法を考えた授業設計を行い、その授業計画を発表、振り返りを行う。あわせて、学年に即した年間指導計画の作成・発表、学習評価の模擬的実践（学習指導案の「生徒観」に即応した定期試験用の試験問題の作成・発表）などを通して、より実践的に授業設計の向上に取り組む力量を養成する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）
- 2 回：教材及び ICT 活用法の実践例紹介（中学校宗教科の具体例）
- 3 回：教材及び ICT 活用法の実践例紹介（高等学校宗教科の具体例）

- 4回：発展的な学習内容についての探究と実践例紹介（中学校宗教科の具体例）
 5回：発展的な学習内容についての探究と実践例紹介（高等学校宗教科の具体例）
 6回：グループワークを採り入れた授業設計の実践例紹介（中学校宗教科の具体例）
 7回：グループワークを採り入れた授業設計の実践例紹介（高等学校宗教科の具体例）
 8回：年間指導計画の作成・発表（1）中学校宗教科第1学年
 9回：年間指導計画の作成・発表（2）中学校宗教科第2学年
 10回：年間指導計画の作成・発表（3）中学校宗教科第3学年
 11回：年間指導計画の作成・発表（4）高等学校宗教科第1学年
 12回：年間指導計画の作成・発表（5）高等学校宗教科第2学年及び第3学年
 13回：学習評価の模擬的实践（その1・中学校宗教科）
 14回：学習評価の模擬的实践（その2・高等学校宗教科）

／まとめ。実施した年間指導計画の発表についての履修者相互の振り返りと各自の改訂プラン作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
 また、授業の後半で実施する年間指導計画作成の課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題提出:50% 授業への取り組み、姿勢:50%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領については、文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

参考文献は講義ごとに指定、指示します。

宗教科教育法演習 2

Seminar of Methods in Teaching Religion 2

久保 彩奈 (KUBO AYANA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA684
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3210
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「宗教科教育法 1」および「宗教科教育法 2」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2018 年度以前入学者は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

宗教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、宗教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、宗教科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

「宗教科教育法 2」で学習したことをもとに、教科の目標及び内容を踏まえ、中学校及び高等学校宗教科の各学年の学習内容について、履修者各自が作成した教材及び ICT の効果的な活用を考えた授業設計に基づき、模擬授業を実施する。実施後に履修者相互の振り返りを行い、改善点を見出し、改訂プランを作成することを通して、教材及び ICT の活用実践に実践的かつ発展的に取り組むことのできる力量を養成する。あわせて実践研究の動向を学び、中学生・高校生の実態に即した授業設計とその実践に取り組むことのできる教科の授業実践者としての資質を高める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

- 2回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（中学校宗教科1）
 3回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（中学校宗教科2）
 4回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（高等学校宗教科1）
 5回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（高等学校宗教科2）
 6回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その1－中学校宗教科（1））
 7回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その2－中学校宗教科（2））
 8回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その3－中学校宗教科（3））
 9回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その4－中学校宗教科（4））
 10回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その5－高等学校宗教科（1））
 11回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その6－高等学校宗教科（2））
 12回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その7－高等学校宗教科（3））
 13回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その8－高等学校宗教科（4））
 14回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その9－高等学校宗教科（5））

／まとめ。実施した模擬授業形式の活用法発表についての履修者相互の振り返りと各自の改訂プラン作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
 模擬授業形式の発表のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題提出:50% 授業への取り組み、姿勢:50%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領については、文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

参考文献は講義ごとに指定、指示します。

中・高教育実習事前指導（N）

Guidance on Teaching Practice (N)

岩瀧 大樹／下地 秀樹／奈須 恵子／逸見 敏郎／森田 満夫 (IWATAKI DAIJU/ SHIMOJI HIDEKI/
NASU KEIKO/ HEMMI TOSHIRO/ MORITA MITSUO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GA704

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 通年他

単位： 1

科目ナンバリング： CET3420

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 新座キャンパス所属学生対象

※2021 年度以降、科目コード登録に変更

授業の目標 / Course Objectives

2025 年度「中・高教育実習」の履修希望者を対象とし、教育実習の実際について理解を深めることを目標とする。

授業の内容 / Course Contents

中・高教育実習事前指導 I では、教育実習概要、教育実習に関わる諸手続き、授業作り入門（講義編・添削編）について説明を行う。

中・高教育実習事前指導 II では、授業作り入門の講義（講義編）を行う。

中・高教育実習事前指導 III では、先輩の教育実習経験（2024 年度）から教育実習の心構えを学ぶ。

中・高教育実習事前指導 IV では、授業作り入門の演習（添削編）を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：1) 「中・高教育実習事前指導 I」：オリエンテーション

※所属キャンパスに関わらず、以下の「いずれか1回」に必ず出席すること。

※教室は正式決定後、Canvas LMSにてインフォメーションを行う。

5月6日(月) 18:55~20:35 池袋キャンパス(4342教室)

5月10日(金) 18:55~20:35 新座キャンパス(N214教室)

5月11日(土) 13:25~15:05 池袋キャンパス(7102教室)

2)「中・高教育実習事前指導II」

○授業作り入門(授業案講義編)：6月15日(

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

・「中・高教育実習事前指導」の履修に際し、2025年度の教育実習の参加について、各自のキャリア設計に基づく進路選択とあわせて十分に検討しておくこと。

・授業時に配付する、立教大学教職課程編『教育実習ハンドブック』を熟読し、教育実習までの期間、自らの課題に取り組むこと。

・「各教科教育法1」及び「各教科教育法演習1」で学習する内容を各自よく復習すること。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業課題:100%

原則として、予定されているプログラムすべてに出席しなければ成績評価の対象とはならない(履修資格を失う)。全回出席した上で、提出された課題により評価を行う。

テキスト / Textbooks

立教大学教職課程編『教育実習ハンドブック』(授業時配付)

『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』(文科省HPを参照のこと)

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

その他 / Others

本授業は集中形式で行うが、4月期履修登録の期間に各自科目コード登録を行い、その上で、5月のオリエンテーションに必ず出席すること。

注意事項

所属キャンパス開講クラスについて、4月期に、各自で科目コード登録をすること。

中・高教育実習（N）

Field Work in Secondary Education(N)

岩瀧 大樹／下地 秀樹／奈須 恵子／逸見 敏郎／加藤 正和／加藤 仁子 (IWATAKI DAIJU/ SHIMOJI HIDEKI/ NASU KEIKO/ HEMMI TOSHIRO/ KATOU MASAKAZU/ KATO HIROKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GA705

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 通年他

単位： 4

科目ナンバリング： CET4420

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 学校・社会教育講座履修要項「教職課程 7 教育実習について（中学校・高等学校）」を確認すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 新座キャンパス所属学生対象

授業の目標 / Course Objectives

学校現場での実習を通じて、学校教育の現実を学び、教師となるための実践的指導力について最低限の要件をつかむことを目標とする。

授業の内容 / Course Contents

- ・「直前指導」で実習の概略と課題を確認し、各自の教育実習校で3週間の教育実習を行う。
- ・教育実習期間中の指導内容や気づきなどは、「教育実習の記録」に記載し、指導教諭の点検を受ける。
- ・教育実習全体を振り返り、「教育実習事後レポート」を作成し、「教育実習の記録」および「研究授業授業案」と一緒に、指定期日までに提出する。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回： 1. 直前指導 4月13日(土) 13:25～

池袋キャンパス 7102 教室

遅刻・欠席・早退は認めない（履修放棄と判断する）。

*変更等の可能性もあるため、必ず教職課程からのインフォメーションなどは、各自で確認をすること。

2. 教育実習（3週間）

各自が教育実習校で、指導教諭および関係する教諭・教頭・校長の指導のもと実習をおこなう。

教科指導、生徒指導、その他、学校の様々な活動と教師の役割について、実践的に学ぶ。

3. 「教育実習の記録」「教育実習事後レポート」を作成し、提出する（所定の期日までに

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド（パワー等）の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	: ○	学内の教室外施設の利用	: ○	校外実習・フィールドワーク	: ○
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『学校・社会教育講座履修要項』の「7. 教育実習について（中学校・高等学校）」、および既配布の教職課程編『教育実習ハンドブック』を熟読しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 「教育実習の記録」:50% 「教育実習事後レポート」:50%

教育実習を総合的に評価する。

テキスト / Textbooks

立教大学教職課程編『教育実習ハンドブック』

参考文献 / Readings

必要に応じて、直前指導時に紹介する。

注意事項

教育実習先修科目を全て修得済みで、教育実習手続等を完了していることを確認して大学が自動登録する。

高校教育実習（N）

Field Work in High Schools(N)

岩瀧 大樹/下地 秀樹/奈須 恵子/逸見 敏郎/加藤 正和/加藤 仁子 (IWATAKI DAIJU/ SHIMOJI HIDEKI/ NASU KEIKO/ HEMMI TOSHIRO/ KATOU MASAKAZU/ KATO HIROKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GA706

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 通年他

単位： 2

科目ナンバリング： CET4420

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 学校・社会教育講座履修要項「教職課程 7 教育実習について（中学校・高等学校）」を確認すること。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 新座キャンパス所属学生対象

授業の目標 / Course Objectives

学校現場での実習を通じて、学校教育の現実を学び、教師となるための実践的指導力について最低限の要件をつかむことを目標とする。

授業の内容 / Course Contents

- ・「直前指導」で実習の概略と課題を確認し、各自の教育実習校で2～3週間の教育実習を行う。
- ・教育実習期間中の指導内容や気づきなどは、「教育実習の記録」に記載し、指導教諭の点検を受ける。
- ・教育実習全体を振り返り、「教育実習事後レポート」を作成し、「教育実習の記録」および「研究授業授業案」と一緒に、指定期日までに提出する。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：1. 直前指導 4月13日(土) 13:25～

池袋キャンパス 7102 教室

遅刻・欠席・早退は認めない（履修放棄と判断する）。

*変更等の可能性もあるため、必ず教職課程からのインフォメーションなどは、各自で確認をすること。

2. 教育実習（2～3週間）

各自が教育実習校で、指導教諭および関係する教諭・教頭・校長の指導のもと実習をおこなう。

教科指導、生徒指導、その他、学校の様々な活動と教師の役割について、実践的に学ぶ。

3. 「教育実習の記録」「教育実習事後レポート」を作成し、提出する（所定の期日ま

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド（パワー等）の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	: ○	学内の教室外施設の利用	: ○	校外実習・フィールドワーク	: ○
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『学校・社会教育講座履修要項』の「7. 教育実習について（中学校・高等学校）」、および既配布の教職課程編『教育実習ハンドブック』を熟読しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 「教育実習の記録」:50% 「教育実習事後レポート」:50%

教育実習を総合的に評価する。

テキスト / Textbooks

立教大学教職課程編『教育実習ハンドブック』

参考文献 / Readings

必要に応じて、直前指導時に紹介する。

注意事項

教育実習先修科目を全て修得済みで、教育実習手続等を完了していることを確認して大学が自動登録する。

高校教育実習事前指導（N）

Guidance on Teaching Practice (N)

岩瀧 大樹/下地 秀樹/奈須 恵子/逸見 敏郎/森田 満夫 (IWATAKI DAIJU/ SHIMOJI HIDEKI/
NASU KEIKO/ HEMMI TOSHIRO/ MORITA MITSUO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GA707

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 通年他

単位： 1

科目ナンバリング： CET3420

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 新座キャンパス所属学生対象

2019 年度以降入学者履修不可

※2021 年度以降、科目コード登録に変更

授業の目標 / Course Objectives

2025 年度「高校教育実習」の履修希望者を対象とし、教育実習の実際について理解を深めることを目標とする。

授業の内容 / Course Contents

高校教育実習事前指導 I では、教育実習概要、教育実習に関わる諸手続き、授業作り入門（講義編・添削編）について説明を行う。

高校教育実習事前指導 II では、授業作り入門の講義（講義編）を行う。

高校教育実習事前指導 III では、先輩の教育実習経験（2024 年度）から教育実習の心構えを学ぶ。

高校教育実習事前指導 IV では、授業作り入門の演習（添削編）を行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：1)「中・高教育実習事前指導 I」：オリエンテーション

※所属キャンパスに関わらず、以下の「いずれか 1 回」に必ず出席すること。

※教室は正式決定後、Canvas LMS にてインフォメーションを行う。

5 月 6 日 (月) 18:55~20:35 池袋キャンパス (4342 教室)

5 月 10 日 (金) 18:55~20:35 新座キャンパス (N214 教室)

5 月 11 日 (土) 13:25~15:05 池袋キャンパス (7102 教室)

2)「中・高教育実習事前指導 II」

○授業作り入門 (授業案講義編)：6 月 15 日 (

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ・「高校教育実習事前指導」の履修に際し、2025 年度の教育実習の参加について、各自のキャリア設計に基づく進路選択とあわせて十分に検討しておくこと。
- ・授業時に配付する、立教大学教職課程編『教育実習ハンドブック』を熟読し、教育実習までの期間、自らの課題に取り組むこと。
- ・「各教科教育法 1」及び「各教科教育法演習 1」で学習する内容を各自よく復習すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業課題:100%

原則として、予定されているプログラムすべてに出席しなければ成績評価の対象とはならない (履修資格を失う)。全回出席した上で、提出された課題により評価を行う。

テキスト / Textbooks

立教大学教職課程編『教育実習ハンドブック』(授業時配付)

『高等学校学習指導要領』(文科省 HP を参照のこと)

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

その他 / Others

本授業は集中形式で行うが、4 月期履修登録の期間に各自科目コード登録を行い、その上で、5 月のオリエンテーションに必ず出席すること。

注意事項

所属キャンパス開講クラスについて、4 月期に、各自で科目コード登録をすること。

特別支援教育の理論と方法（中・高）（M）

Theories and Methods of Special Needs Education(M)

下川 和洋 (SHIMOKAWA KAZUHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA720
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2018 年度以前入学者履修不可

授業の目標 / Course Objectives

通常の学級にも在籍している特別な支援を必要とする生徒への対応のために、必要となる知識や支援方法について理解を図るとともに、高等学校においても導入される「通級における指導」のあり方等の理解を図る。

授業の内容 / Course Contents

インクルーシブ教育の実現に向けて、障害者権利条約や関係する制度等に関する理解、障害や配慮すべき事項などの知識、学校としての実施すべき対応等、今後の教員として必要な資質を高めるとともに、障害の状況に応じて「自立活動」の視点をもとにした具体的な対応についての考察を行う。また、障害はないが特別な配慮等が必要な生徒への対応についても考察を行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標、概要、進め方）、特別支援教育の理念
- 2 回：障害とは（ICFの理解）
- 3 回：障害者権利条約と障害者差別解消法
- 4 回：特別支援学校の教育課程
- 5 回：特別支援学級と通級における指導

- 6回：学校における合理的配慮とは
 7回：学校組織としての特別支援教育の体制整備
 8回：障害種別における対応（1）
 9回：障害種別における対応（2）
 10回：個別の教育支援計画と個別の指導計画
 11回：障害はないが特別の教育的ニーズのある児童・生徒への対応
 12回：関係機関との連携のあり方
 13回：特別支援教育の視点による生徒指導と進路指導のあり方
 14回：今後のインクルーシブ教育の実現に向けて今後求められる教員像

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

次の内容で、1時限100分（2時間）の講義に対し、合計200分の自学自修を課す。

1 事前学習

テキストとCanvas LMSにアップする講義のパワーポイントデータ（PDF）を参照して、テキスト準拠の「講義ノート」（授業の初回に配付する印刷物）の問題で予習を行う。

2 事後学習

各授業の最後にCanvas LMS上でリアクションペーパー課題を出し、その回答を踏まえて次の授業の最初に復習を行う。その際に質問等を行う場合もあるので、復習をしておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% リアクションペーパー課題：50% 授業への積極的取り組みの態度：10% 最終テスト割合：40%

第14回の授業において「最終テスト」を行う。テスト準備としては授業で取り上げるキーワードを説明できるようにしておくこと。具体的な内容・範囲等については授業内で説明する。

テキスト / Textbooks

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 『特別支援教育の基礎・基本2020』 ジアース教育新社 2020
 9784863715486 ○

文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編』。文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

各授業回で関連内容の参考文献を紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義のパワーポイントデータ（PDF）及び各授業の最後のリアクションペーパー課題は、Canvas LMSを使用するので、アクセス可能な端末を持参すること。

その他 / Others

1. 教材

以下の教材を使用する。なお、個人で用意していただきたい演習教材は事前に連絡する。

①テキスト ②授業の初回に配付する「講義ノート」 ③Canvas LMS にアップする講義のパワーポイントデータ (PDF)。

2. 授業の進め方

パワーポイントやビデオなど視聴覚教材を毎回使用し、演習等も行う。

3. 参考ホームページ

文部科学省特別支援教育 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main.htm

注意事項

新法適用科目であり、この授業の履修対象となる学生は、2019 年度以降の入学生（大学院含む）、2019 年度以降の科目等履修生である。

特別支援教育の理論と方法（中・高）（N）

Theories and Methods of Special Needs Education(N)

森 正樹 (MORI MASAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA721
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2018 年度以前入学者履修不可

授業の目標 / Course Objectives

通常の学級にも在籍している特別な支援を必要とする生徒への対応のために、必要となる知識や支援方法について理解を図るとともに、高等学校においても導入される「通級における指導」のあり方等の理解を図る。

授業の内容 / Course Contents

インクルーシブ教育の実現に向けて、障害者権利条約や関係する制度等に関する理解、障害や配慮すべき事項などの知識、学校としての実施すべき対応等、今後の教員として必要な資質を高めるとともに、障害の状況に応じて「自立活動」の視点をもとにした具体的な対応についての考察を行う。また、障害はないが特別な配慮等が必要な生徒への対応についても考察を行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標、概要、進め方）、特別支援教育の理念
- 2 回：障害とは（ICFの理解）
- 3 回：障害者権利条約と障害者差別解消法
- 4 回：特別支援学校の教育課程
- 5 回：特別支援学級と通級における指導

- 6回：学校における合理的配慮とは
 7回：学校組織としての特別支援教育の体制整備
 8回：障害種別における対応（1）
 9回：障害種別における対応（2）
 10回：個別の教育支援計画と個別の指導計画
 11回：障害はないが特別の教育的ニーズのある児童・生徒への対応
 12回：関係機関との連携のあり方
 13回：特別支援教育の視点による生徒指導と進路指導のあり方
 14回：今後のインクルーシブ教育の実現に向けて今後求められる教員像

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド（パワー等）の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	:	グループ発表	: ○	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献に書かれた内容について予習しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業参加姿勢:50%

テキスト / Textbooks

文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編』。文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

- ①グループワークがあります。学生同士で積極的に協力し合う姿勢、及びコミュニケーションを期待します。
- ②障害理解の科学的基盤として心理学の知識を重視します。教育心理学の復習しておくことを推奨します。
- ③障害のある児童生徒は勿論のこと、人間を理解しようとする誠実かつ真摯な姿勢を求めます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC やタブレット等をご用意ください。スマートフォンのみでの受講はお勧めいたしません。

注意事項

新法適用科目であり、この授業の履修対象となる学生は、2019年度以降の入学生（大学院含む）、2019年度以降の科目等履修生である。

教職概論 (M)

Introduction to the Teaching Profession(M)

福島 賢二 (FUKUSHIMA KENJI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA732
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET2000
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

現代社会における教職の重要性の高まりを、自らが教職に就き、実践者となることを想定して理解する。そのため、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等についての基本的な知識を身に付け、教職への意欲を高め、教職への適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解し、自ら学び続ける基礎的力量を養成する。

授業の内容 / Course Contents

教職の意義、教員の役割、教員の職務内容について、社会的意義や社会的要請、法制上の規定、歴史的過程から学習する。また、教職と他の職業との相違を理解した上での、教職に就くまでのプロセスや教職に就いた後の研修の在り方を理解するとともに、「チーム学校」の具体的な事例の学習を通して、「チーム学校」において教職員が学校内外の専門家等と連携・分担して働く重要性やその在り方への理解を深める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）
／現代日本における公教育と教員の役割
- 2 回：教職の職業的特徴

- 3回：教員養成の歴史（中等教育機関の教員養成について）
 4回：教員の役割（1）教職観の変遷
 5回：教員の役割（2）教員の求められる基礎的資質能力
 6回：教員の職務内容（1）仕事の実際（職務の全体像）
 7回：教員の職務内容（2）教員の服務上・身分上の義務及び身分保障（法制上の規定）
 8回：教員の職務内容（3）教員研修の意義及び制度上の位置づけ・専門職としての力量形成
 9回：教員になるまで（1）進路選択としての教員
 10回：教員になるまで（2）教員採用選考
 11回：チーム学校（1）学校の役割の多様化と学校内外の専門家との連携・分担／連携・協働
 12回：チーム学校（2）チーム学校運営の事例紹介①（中学校）
 13回：チーム学校（3）チーム学校運営の事例紹介②（高等学校）
 14回：まとめ。これからの学校と教員の役割

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

何故自分は教員を目指すのか、自分自身の言葉で確認しておくこと。
 日頃から新聞などに目を通し、教育問題に関心を持つように努めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終試験あるいは最終レポート：40% 授業内での確認テスト及び小レポートの内容（なお、リアクションペーパーは内容によって加味する場合がある）：60%

授業の実施回数の2／3以上の出席がなければ単位認定しない。

テキスト / Textbooks

毎回、授業プリントを配布する

参考文献 / Readings

授業の中で適宜紹介、資料を配付する。

教職概論（N）

Introduction to the Teaching Profession(N)

鵜殿 篤 (UDONO ATSUSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA733
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET2000
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

現代社会における教職の重要性の高まりを、自らが教職に就き、実践者となることを想定して理解する。そのため、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等についての基本的な知識を身に付け、教職への意欲を高め、教職への適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解し、自ら学び続ける基礎的力量を養成する。

授業の内容 / Course Contents

教職の意義、教員の役割、教員の職務内容について、社会的意義や社会的要請、法制上の規定、歴史的過程から学習する。また、教職と他の職業との相違を理解した上での、教職に就くまでのプロセスや教職に就いた後の研修の在り方を理解するとともに、「チーム学校」の具体的な事例の学習を通して、「チーム学校」において教職員が学校内外の専門家等と連携・分担して働く重要性やその在り方への理解を深める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）
／現代日本における公教育と教員の役割
2 回：教職の職業的特徴

- 3回：教員養成の歴史（中等教育機関の教員養成について）
 4回：教員の役割（1）教職観の変遷
 5回：教員の役割（2）教員の求められる基礎的資質能力
 6回：教員の職務内容（1）仕事の実際（職務の全体像）
 7回：教員の職務内容（2）教員の服務上・身分上の義務及び身分保障（法制上の規定）
 8回：教員の職務内容（3）教員研修の意義及び制度上の位置づけ・専門職としての力量形成
 9回：教員になるまで（1）進路選択としての教員
 10回：教員になるまで（2）教員採用選考
 11回：チーム学校（1）学校の役割の多様化と学校内外の専門家との連携・分担／連携・協働
 12回：チーム学校（2）チーム学校運営の事例紹介①（中学校）
 13回：チーム学校（3）チーム学校運営の事例紹介②（高等学校）
 14回：まとめ。これからの学校と教員の役割

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:							

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

何故自分は教員を目指すのか、自分自身の言葉で確認しておくこと。
 日頃から新聞などに目を通し、教育問題に関心を持つように努めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業中課題:35% 毎回の事後課題:35% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業の中で適宜紹介、資料を配付する。

教育方法論 (M)

Teaching Methods(M)

森 和宏 (MORI KAZUHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA740
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

授業の内容 / Course Contents

現代社会に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、指導技術について講義する。さらに情報機器を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用について講じる。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：教育方法とは何か
- 2 回：教育方法の基礎理論
- 3 回：教育方法のあり方
- 4 回：学習意欲：生徒を学習に向かわせる
- 5 回：学習の多様性：生徒の自らの学ぶ力を引き出す
- 6 回：学習を通じての自己形成：自分を見つめ直す
- 7 回：授業を構成する基礎的要件

- 8回：学習評価
 9回：授業を行うための技術
 10回：アクティブ・ラーニングの活用
 11回：学習指導案の作成
 12回：情報機器の活用
 13回：教材の活用
 14回：情報倫理とリテラシー／まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

既習または同時履修の「教育心理学」「教育原論」の授業内容を復習しておくこと。また授業見学や「授業案作成」などに際しては、授業で学んだ内容を活用することを意識化すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパーの記入・提出:30%

テキスト / Textbooks

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領及び各自の免許取得予定教科の学習指導要領解説。いずれも文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

教育方法論（N）

Teaching Methods(N)

坂本 保宏（SAKAMOTO YASUHIRO）

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GA742

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CET2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

授業の内容 / Course Contents

現代社会に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、指導技術について講義する。さらに情報機器を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用について講じる。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：教育方法とは何か

2 回：教育方法の基礎理論

3 回：教育方法のあり方

4 回：学習意欲：生徒を学習に向かわせる

5 回：学習の多様性：生徒の自らの学ぶ力を引き出す

6 回：学習を通じての自己形成：自分を見つめ直す

7 回：授業を構成する基礎的要件

- 8回：学習評価
 9回：授業を行うための技術
 10回：アクティブ・ラーニングの活用
 11回：学習指導案の作成
 12回：情報機器の活用
 13回：教材の活用
 14回：情報倫理とリテラシー／まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

本講座は、既習または同時履修の「生徒・進路指導の理論と方法」との連続性がとくに高いので、既習の場合にはよく復習しておくこと。それぞれの授業で学ぶ内容の相互活用を意識してください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回のリアクションペーパー:70% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領及び各自の免許取得予定教科の学習指導要領解説。いずれも文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

PDF データでその都度配付する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

正解のない問題をじっくり考察することへの耐性

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PDF テキストを閲覧できる機器を授業に持参できることが望ましい。

道徳教育の理論と方法（中学校）（M）

Theories and Methods of Moral Education(M)

小川 智瑞恵 (OGAWA CHIZUE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA750
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

道徳の意義や原理、道徳教育の歴史の変遷、今日の道徳的状況を踏まえ、教育活動全体を通じて行う道徳教育及び「特別の教科・道徳」の目標や内容、指導計画を理解する。教材研究を踏まえ、学習指導案を作成し模擬授業を行ない指導力を養う。

授業の内容 / Course Contents

課題ごとに目標に即して講義し、それぞれの資料に基づき学修する。実際の教材や指導案、授業記録をグループワークで検討する。協同で指導案を作成し模擬授業を行ない検討する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（本授業の見通し、概要、道徳教育を取り巻く現状）
- 2 回：道徳とは何か（人間と道徳の本質、道徳の意義や原理）
- 3 回：道徳教育の歴史の変遷（戦前編—封建的道徳観、教育勅語・修身科）
- 4 回：道徳教育の歴史の変遷（戦後編—学習指導要領の特設道徳、「特別の教科・道徳」）
- 5 回：学校の教育活動全体の道徳教育と「要」としての道徳の授業
- 6 回：「特別の教科・道徳」の目的と内容及び今日の道徳的課題

- 7回：子どもの成長と道徳性の発達（道徳性の発達諸理論）
 8回：道徳の授業方法1（問題解決型の授業等）
 9回：道徳の授業方法2（ロールプレイ等）
 10回：実際の道徳の授業に学ぶ（授業ビデオによる授業解説及び検討）
 11回：道徳教材の価値と教材研究の方法
 12回：授業案の作成（指導のねらい、授業構想、1時間の展開、評価の方法）
 13回：模擬授業と授業検討1（代表による問題解決型の授業とその検討）
 14回：模擬授業と授業検討2（代表による情報モラル教材の授業とその検討）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のトピックについて関心を持ち、テキストや参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% リアクション・ペーパー:40% 授業内に指示した提出物:30% 最終レポート:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

文部科学省 『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示） 東山書房

文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』 教育出版

中学校学習指導要領及び各教科等の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

道徳教育の理論と方法（中学校）（N）

Theories and Methods of Moral Education(N)

鵜殿 篤 (UDONO ATSUSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA751
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

道徳の意義や原理、道徳教育の歴史の変遷、今日の道徳的状況を踏まえ、教育活動全体を通じて行う道徳教育及び「特別の教科・道徳」の目標や内容、指導計画を理解する。教材研究を踏まえ、学習指導案を作成し模擬授業を行ない指導力を養う。

授業の内容 / Course Contents

課題ごとに目標に即して講義し、それぞれの資料に基づき学修する。実際の教材や指導案、授業記録をグループワークで検討する。協同で指導案を作成し模擬授業を行ない検討する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（本授業の見通し、概要、道徳教育を取り巻く現状）
- 2 回：道徳とは何か（人間と道徳の本質、道徳の意義や原理）
- 3 回：道徳教育の歴史の変遷（戦前編—封建的道徳観、教育勅語・修身科）
- 4 回：道徳教育の歴史の変遷（戦後編—学習指導要領の特設道徳、「特別の教科・道徳」）
- 5 回：学校の教育活動全体の道徳教育と「要」としての道徳の授業
- 6 回：「特別の教科・道徳」の目的と内容及び今日の道徳的課題

- 7回：子どもの成長と道徳性の発達（道徳性の発達諸理論）
 8回：道徳の授業方法1（問題解決型の授業等）
 9回：道徳の授業方法2（ロールプレイ等）
 10回：実際の道徳の授業に学ぶ（授業ビデオによる授業解説及び検討）
 11回：道徳教材の価値と教材研究の方法
 12回：授業案の作成（指導のねらい、授業構想、1時間の展開、評価の方法）
 13回：模擬授業と授業検討1（代表による問題解決型の授業とその検討）
 14回：模擬授業と授業検討2（代表による情報モラル教材の授業とその検討）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のトピックについて関心を持ち、テキストや参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 模擬授業:30% 模擬授業に対するレスポンス:10% 指導案:30% 毎回の課題:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

文部科学省 『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示） 文部科学省

文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』 文部科学省

中学校学習指導要領及び各教科等の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法（N）

Theories and Methods of Special Activities and the Period for Integrated Studies(N)

奈須 恵子／下地 秀樹／逸見 敏郎／岩瀧 大樹 (NASU KEIKO/ SHIMOJI HIDEKI/ HEMMI TOSHIRO/
IWATAKI DAIJU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GA760

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 通年他

単位： 2

科目ナンバリング： CET2220

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 新座キャンパス所属学生対象

2018 年度以前入学者履修不可

授業の目標 / Course Objectives

教育課程における「総合的な学習の時間」、「総合的な探究の時間」及び「特別活動」の目的や意義、その特質等を理解するとともに、各教科との関連や展開方法、評価方法についての理解を図る。

授業の内容 / Course Contents

「総合的な学習（探究）の時間」や「特別活動」によって育まれる資質や能力について実践事例をもとに考察し、各教科の学習との関連性を踏まえて、生徒の主体性の育成やキャリア発達に資する展開等について計画的・継続的な指導の工夫について議論を深める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業の目標、概要、進め方、教育課程の構造と教科以外の活動の役割
- 2 回：「総合的な学習（探究）の時間」の目標と展開
- 3 回：「総合的な学習（探究）の時間」の学習展開
- 4 回：探究的視点を育む展開

- 5回：各教科の学習と「総合的な学習（探究）の時間」の相互作用
 6回：学校生活において「総合的な学習（探究）の時間」が及ぼす影響
 7回：「特別活動」の歴史的な背景と現在の役割
 8回：学校教育における学級活動・ホームルーム活動の役割
 9回：学校行事の展開方法と配慮事項
 10回：生徒の主体性を促すための生徒会活動の役割
 11回：学校生活において「特別活動」が及ぼす影響
 12回：キャリア教育の視点から、「総合的な学習（探究）の時間」、「特別活動」を考える
 13回：「総合的な学習（探究）の時間」、「特別活動」における評価の在り方
 14回：「総合的な学習（探究）の時間」、「特別活動」を通じた主体性と集団性の育成

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献に書かれた内容について予習しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席状況と授業内レポート:100%

テキスト / Textbooks

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領。文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』、文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』、文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』、文部科学省『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』など。文部科学省 HP を見ること。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

本科目では、学習支援等活動に参加したレポート作成・提出も課す予定である。大学外での活動を行う自覚と責任感をもって参加することを求める。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

本科目では、オンデマンド教材の学修に基づくレポート作成・提出も課す予定である。オンデマンド教材を視聴・学修するための PC 等の機器は各自用意すること。

その他 / Others

〈重要〉

- 履修登録を忘れずにおこなうこと。
- 全体オリエンテーションは次の日程でおこなうので、いずれか1回に出席すること。

2024年4月15日（月）18:55～20:35 池袋 4342 教室

2024年4月18日（木）18:55～20:35 新座 N214 教室

2024年4月19日（金）18:55～20:35 池袋 4342 教室

なお、日程・時間・教室は R Guide>学校・社会教育講座>履修登録>各課程主要行事年間スケジュール>教

職課程でも確認すること。

授業の進め方等については、授業内

注意事項

新法適用科目であり、この授業の履修対象となる学生は、2019年度以降の入学生（大学院含む）、2019年度以降の科目等履修生である。

異文化コミュニケーション学科の学生で、今年度に「海外留学研修 A」「同 B」の履修を予定している学生は、今年度、本科目を履修することはできない。

また、今年度から翌年度春学期にかけて、「海外留学研修 C1」「同 C2」「Study Abroad in Asia A」「同 B」の履修を予定している者で、今年度本科目の履修を希望する者は、教務事務センターに申し出ること。

社会・地理歴史科教育法 1 (N)

Method of Social Studies, Geography and History 1(N)

中間 和洋 (NAKAMA KAZUHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA821
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： この科目の単位修得が秋学期「社会・地理歴史科教育法演習 1 (N)」履修の必須条件となる。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

中学校社会科及び高等学校地理歴史科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校地理歴史科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校地理歴史科の目標・内容・全体構造について理解し、対応する学問領域の特性を踏まえた教材研究の方法について学習する。あわせて、本科目と並行して履修する、あるいは本科目の履修の後に続く「社会・地理歴史科教育法演習 1」「社会・地理歴史科教育法 2」「社会・地理歴史科教育法演習 2」との関連性・継続性を考慮し、本科目の中で、学習指導案の作成の基礎を学び、実際に 1 単元・1 時間の授業設計を行い、学習指導案を各自作成して発表、振り返りを行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

2回：社会科・地理歴史科の教育目標について

／現行学習指導要領に至るまでの社会科・地理歴史科教育の歩み

3回：学習指導要領における中学校社会科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その1・中学校社会科地理的分野)

4回：学習指導要領における中学校社会科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その2・中学校社会科歴史的分野)

5回：学習指導要領における中学校社会科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その3・中学校社会科公民的分野)

6回：学習指導要領における高等学校地理歴史科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について(その1・地理関係科目「地理総合」「地理探究」)

7回：学習指導要領における高等学校地理歴史科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について(その2・歴史関係科目「歴史総合」)

8回：学習指導要領における高等学校地理歴史科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について(その3・世界史関係科目「世界史探究」)

9回：学習指導要領における高等学校地理歴史科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について(その4・日本史関係科目「日本史探究」)

10回：社会科・地理歴史科における教材及びICTの活用法について

11回：社会科・地理歴史科における授業設計と学習指導案の作成について

12回：社会科・地理歴史科学習指導案の作成・発表・改善策の検討(中学校社会科)

13回：社会科・地理歴史科学習指導案の作成・発表・改善策の検討(高等学校地理関係科目)

14回：社会科・地理歴史科学習指導案の作成・発表・改善策の検討(高等学校歴史関係科目)

／まとめ。学習指導案の作成と発表についての全体での振り返り。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:○	スライド(パワポ等)の使用	:○	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:○	グループ発表	:○	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

また、授業の後半で実施する学習指導案作成課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分:111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の講義後のリアクションペーパー:39% 学習指導案の作成・発表(中学校社会科):20% 学習指導案の作成・発表(高等学校地理歴史科):20% 課題レポート:21%

プリント配布等により特にテキストは使用しない。

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－社会編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指

導要領解説－地理歴史編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

社会・地理歴史科教育法演習 1 (N)

Seminar of Teaching Methods in Social Studies, Geography and History 1(N)

中間 和洋 (NAKAMA KAZUHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA823
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3210
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「社会・地理歴史科教育法 1 (N)」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

中学校社会科及び高等学校地理歴史科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校地理歴史科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

「社会・地理歴史科教育法 1」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の各分野・科目について、履修者各自が 1 単元・1 時間分の範囲について教材研究を行って教材を作成し、学習指導案を準備した上で模擬授業を行う。模擬授業の実施とその振り返りを通して、中学生・高校生の発達段階、学力状況の多様性に応じた授業設計ができる力量を養成する。あわせて、教材及び ICT の活用法、学習評価の考え方の基礎的理解についても実践的に学ぶ。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）（模擬授業実施についての概略説明）
- 2 回：中学生・高校生の発達段階、学力状況の多様性を踏まえた授業設計について

(異なる「生徒観」の学級での授業設計について)

- 3回：教材及びICTの活用法（実践例の学習）
 4回：模擬授業（1）中学校社会科地理的分野
 5回：模擬授業（2）中学校社会科歴史的分野
 6回：模擬授業（3）中学校社会科公民的分野
 7回：模擬授業（4）高等学校地理歴史科地理関係科目（「地理総合」）
 8回：模擬授業（5）高等学校地理歴史科地理関係科目（「地理探究」）
 9回：模擬授業（6）高等学校地理歴史科歴史関係科目（「歴史総合」その1）
 10回：模擬授業（7）高等学校地理歴史科歴史関係科目（「歴史総合」その2）
 11回：模擬授業（8）高等学校地理歴史科世界史関係科目（「世界史探究」その1）
 12回：模擬授業（9）高等学校地理歴史科世界史関係科目（「世界史探究」その2）
 13回：模擬授業（10）高等学校地理歴史科日本史関係科目（「日本史探究」その1）
 14回：模擬授業（11）高等学校地理歴史科日本史関係科目（「日本史探究」その2）
 ／まとめ。実施した模擬授業についての履修者相互の振り返りと各自の改訂案作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
 模擬授業実施のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の講義後のリアクションペーパー：39% 中学校社会科模擬授業（学習指導案）：10%
 中学校社会科模擬授業（実践）：10% 高等学校地理歴史科模擬授業（学習指導案）：10% 高等学校地理歴史科
 模擬授業（実践）：10% 課題レポート：21%

受講者の人数が少ない場合は、課題レポートを高等学校地理歴史科模擬授業（学習指導案・実践）に置き換える場合もあります。

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－社会編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－地理歴史編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

プリント配布等により特にテキストは使用しません。

参考文献 / Readings

社会・公民科教育法 1 (N)

Method of Social Studies and Civics 1(N)

竹内 久顕 (TAKEUCHI HISAAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA831
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： この科目の単位修得が秋学期「社会・公民科教育法演習 1 (N)」履修の必須条件となる。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

中学校社会科及び高等学校公民科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校公民科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、中学校社会科及び高等学校公民科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校公民科の目標・内容・全体構造について理解し、対応する学問領域の特性を踏まえた教材研究の方法について学習する。あわせて、本科目と並行して履修する、あるいは本科目の履修の後に続く「社会・公民科教育法演習 1」「社会・公民科教育法 2」「社会・公民科教育法演習 2」との関連性・継続性を考慮し、本科目の中で、学習指導案の作成の基礎を学び、実際に 1 単元・1 時間の授業設計を行い、学習指導案を各自作成して発表、振り返りを行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

2回：社会科・公民科の教育目標について

／現行学習指導要領に至るまでの社会科・公民科教育の歩み

3回：学習指導要領における中学校社会科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その1・中学校社会科地理的分野)

4回：学習指導要領における中学校社会科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その2・中学校社会科歴史的分野)

5回：学習指導要領における中学校社会科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その3・中学校社会科公民的分野)

6回：学習指導要領における高等学校公民科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その1・「公共」)

7回：学習指導要領における高等学校公民科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その2・「倫理」)

8回：学習指導要領における高等学校公民科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その3・「政治・経済」(1)政治領域)

9回：学習指導要領における高等学校公民科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について(その4・「政治・経済」(2)経済領域)

10回：社会科・公民科における教材及びICTの活用法について

11回：社会科・公民科における授業設計と学習指導案の作成について

12回：社会科・公民科学習指導案の作成・発表・改善策の検討(その1・中学校社会科)

13回：社会科・公民科学習指導案の作成・発表・改善策の検討(その2・高等学校公民科科目(1))

14回：社会科・公民科学習指導案の作成・発表・改善策の検討(その3・高等学校公民科科目(2))

／まとめ。学習指導案の作成と発表についての全体での振り返り。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

また、授業の後半で実施する学習指導案作成課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内レポート:30% 授業での発表:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト/Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－社会編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－公民編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

社会・公民科教育法演習 1 (N)

Seminar of Teaching Methods in Social Studies and Civics 1(N)

竹内 久顕 (TAKEUCHI HISAAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA833
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3210
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「社会・公民科教育法 1 (N)」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

中学校社会科及び高等学校公民科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校公民科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、中学校社会科及び高等学校公民科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

「社会・公民科教育法 1」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、中学校社会科及び高等学校公民科の各分野・科目について、履修者各自が 1 単元・1 時間分の範囲について教材研究を行って教材を作成し、学習指導案を準備した上で模擬授業を行う。模擬授業の実施とその振り返りを通して、中学生・高校生の発達段階、学力状況の多様性に応じた授業設計ができる力量を養成する。あわせて、教材及び ICT の活用法、学習評価の考え方の基礎的理解についても実践的に学ぶ。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）（模擬授業実施についての概略説明）
- 2 回：中学生・高校生の発達段階、学力状況の多様性を踏まえた授業設計について

(異なる「生徒観」の学級での授業設計について)

3回：教材及びICTの活用法の概略(実践例の学習)

4回：模擬授業(1)中学校社会科地理的分野

5回：模擬授業(2)中学校社会科歴史的分野

6回：模擬授業(3)中学校社会科公民的分野その1

7回：模擬授業(4)中学校社会科公民的分野その2

8回：模擬授業(5)高等学校公民科科目(「公共」その1)

9回：模擬授業(6)高等学校公民科科目(「公共」その2)

10回：模擬授業(7)高等学校公民科科目(「公共」その3)

11回：模擬授業(8)高等学校公民科科目(「倫理」その1)

12回：模擬授業(9)高等学校公民科科目(「倫理」その2)

13回：模擬授業(10)高等学校公民科科目(「政治・経済」その1)

14回：模擬授業(11)高等学校公民科科目(「政治・経済」その2)

／まとめ。実施した模擬授業についての履修者相互の振り返りと各自の改訂案作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

模擬授業実施のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内レポート:30% 授業での発表:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－社会編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－公民編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

福祉科教育法 1

Human Care Teaching Program 1

藤井 佳子 (FUJII YOSHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA851
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： この科目の単位修得が秋学期「福祉科教育法演習 1」履修の必須条件となる。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

高等学校教科「福祉」における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された教科「福祉」の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、教科「福祉」の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

学習指導要領に示された高等学校教科「福祉」の目標・内容・全体構造について理解し、対応する学問領域の特性を踏まえた教材研究の方法について学習する。あわせて、本科目の履修の後に続く「福祉科教育法演習 1」との継続性を考慮し、本科目の中で、学習指導案の作成の基礎を学び、実際に 1 単元・1 時間の授業設計を行い、学習指導案を各自作成して発表、振り返りを行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）
- 2 回：教科「福祉」の教育目標について
／現行学習指導要領に至るまでの教科「福祉」教育の歩み
- 3 回：学習指導要領における教科「福祉」の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方につ

いて

(その1・「社会福祉基礎」について)

4回：学習指導要領における教科「福祉」の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その2・「介護福祉基礎」「コミュニケーション技術」について)

5回：学習指導要領における教科「福祉」の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その3・「生活支援技術」「介護過程」について)

6回：学習指導要領における教科「福祉」の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その4「こころとからだの理解」「福祉情報」について)

7回：学習指導要領における教科「福祉」の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その5・「介護総合演習」「介護実習」について)

8回：教科「福祉」における教材及びICTの活用法について

9回：教科「福祉」における授業設計と学習指導案の作成について

10回：高校生の発達段階、学力状況の多様性を踏まえた授業設計について

(異なる「生徒観」の学級での授業設計について)

11回：教科「福祉」の学習指導案の作成・発表・改善策の検討(その1・「社会福祉基礎」)

12回：教科「福祉」の学習指導案の作成・発表・改善策の検討

(その2・「介護福祉基礎」「コミュニケーション技術」)

13回：教科「福祉」の学習指導案の作成・発表・改善策の検討

(その3・「生活支援技術」「介護過程」)

14回：教科「福祉」の学習指導案の作成・発表・改善策の検討

(その4・「こころとからだの理解」「福祉情報」)

／まとめ(学習指導案の作成と発表を踏まえた全体での振り返り)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

また、授業の後半で実施する学習指導案作成課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内に指示した提出物:30% 授業への積極的取組の態度:20% リアクションペーパー:20% 最終レポート:30%

テキスト/Textbooks

『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－福祉編－』。高等学校学習指導要領、及び各教科の学

習指導要領解説については、文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

授業内にて指示する。

福祉科教育法演習 1

Seminar of Human Care Teaching Program 1

藤井 佳子 (FUJII YOSHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA852
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3210
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「福祉科教育法 1」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

高等学校教科「福祉」における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された教科「福祉」の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、教科「福祉」の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

「福祉科教育法 1」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、教科「福祉」の科目について、履修者各自が 1 単元・1 時間分の範囲について教材研究を行って教材を作成し、学習指導案を準備した上で模擬授業を行う。模擬授業の実施とその振り返りを通して、高校生の発達段階、学力状況の多様性に応じた授業設計ができる力量を養成する。あわせて、教材及び ICT の活用法についての実践的な理解を深める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）
- 2 回：模擬授業（1）（「社会福祉基礎」）
- 3 回：模擬授業（2）（「介護福祉基礎」）

- 4回：模擬授業（3）（「コミュニケーション技術」）
 5回：模擬授業（4）（「介護過程」）
 6回：模擬授業（5）（「生活支援技術」）
 7回：発展的な学習内容についての探究と実践例紹介
 8回：グループワークを採り入れた授業設計の実践例紹介
 9回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例紹介
 10回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（1）（「社会福祉基礎」）
 11回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（2）（「介護福祉基礎」）
 12回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（3）（「コミュニケーション技術」）
 13回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（4）（「介護過程」）
 14回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（5）（「生活支援技術」）
 ／まとめ。実施した模擬授業、模擬授業形式の発表について履修者相互の振り返りと各自の改訂案作成

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
 模擬授業や発表実施のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 模擬授業:60% 模擬授業相互評価コメントペーパー:20% 最終レポート:20%

テキスト / Textbooks

『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－福祉編－』。高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

授業内にて指示する。

保健体育科教育法 1

Methods in Teaching Health and Physical Education 1

内田 雄三 (UCHIDA YUZO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA861
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： この科目の単位修得が秋学期「保健体育科教育法演習 1」履修の必須条件となる。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された保健体育科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、保健体育科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

学習指導要領に示された中学校及び高等学校保健体育科の目標・内容・全体構造について理解し、対応する学問領域の特性を踏まえた教材研究の方法について学習する。あわせて、本科目と並行して履修する、あるいは本科目の履修の後に続く「保健体育科教育法演習 1」「保健体育科教育法 2」「保健体育科教育法演習 2」との関連性・継続性を考慮し、本科目の中で、学習指導案の作成の基礎を学び、実際に 1 単元・1 時間の授業設計を行い、学習指導案を各自作成して発表、振り返りを行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）
- 2 回：保健体育科の教育目標について／現行学習指導要領に至るまでの保健体育科教育の歩み
- 3 回：学習指導要領における中学校保健体育科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方

について

(その1・体育分野第1学年及び第2学年)

4回：学習指導要領における中学校保健体育科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その2・体育分野第3学年)

5回：学習指導要領における中学校保健体育科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について

(その3・保健分野)

6回：学習指導要領における高等学校保健体育科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について(その1・「体育」(1))

7回：学習指導要領における高等学校保健体育科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について(その2・「体育」(2))

8回：学習指導要領における高等学校保健体育科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について(その3・「保健」(1))

9回：学習指導要領における高等学校保健体育科の目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方について(その4・「保健」(2))

10回：保健体育科における教材及びICTの活用法について

11回：保健体育科における授業設計と学習指導案の作成について

12回：保健体育科学習指導案の作成・発表・改善策の検討(その1・中学校保健体育科)

13回：保健体育科学習指導案の作成・発表・改善策の検討(その2・高等学校保健体育科科目「体育」)

14回：保健体育科学習指導案の作成・発表・改善策の検討(その3・高等学校保健体育科科目「保健」)

／まとめ。学習指導案の作成と発表についての全体での振り返り。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

また、授業の後半で実施する学習指導案作成課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内レポート・リアクションペーパー：40% 授業への参加態度：20% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－保健体育編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－保健体育編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

保健体育科教育法演習 1

Seminar of Teaching Methods in Health and Physical Education 1

内田 雄三 (UCHIDA YUZO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA863
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3210
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「保健体育科教育法 1」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された保健体育科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに保健体育科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

「保健体育科教育法 1」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、中学校及び高等学校保健体育科の各分野・科目について、履修者各自が 1 単元・1 時間分の範囲について教材研究を行って教材を作成し、学習指導案を準備した上で模擬授業を行う。模擬授業の実施とその振り返りを通して、中学生・高校生の発達段階、学力状況の多様性に応じた授業設計ができる力量を養成する。あわせて、教材及び ICT の活用法、学習評価の考え方の基礎的理解についても実践的に学ぶ。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）（模擬授業実施についての概略説明）
- 2 回：中学生・高校生の発達段階、学力状況の多様性を踏まえた授業設計について（異なる「生徒観」の学級での授業設計について）

- 3回：教材及びICTの活用法の概略（実践例の学習）
 4回：模擬授業（1）中学校保健体育科（体育分野第1学年及び第2学年）
 5回：模擬授業（2）中学校保健体育科（体育分野第3学年）
 6回：模擬授業（3）中学校保健体育科（保健分野（1））
 7回：模擬授業（4）中学校保健体育科（保健分野（2））
 8回：模擬授業（5）高等学校保健体育科科目（「体育」（1））
 9回：模擬授業（6）高等学校保健体育科科目（「体育」（2））
 10回：模擬授業（7）高等学校保健体育科科目（「体育」（3））
 11回：模擬授業（8）高等学校保健体育科科目（「体育」（4））
 12回：模擬授業（9）高等学校保健体育科科目（「保健」（1））
 13回：模擬授業（10）高等学校保健体育科科目（「保健」（2））
 14回：模擬授業（11）高等学校保健体育科科目（「保健」（3））

／まとめ。実施した模擬授業についての履修者相互の振り返りと各自の改訂案作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
 模擬授業実施のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内レポート・リアクションペーパー:40% 授業への参加態度:20% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－保健体育編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－保健体育編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

学校教育相談の理論と方法 (M)

Theories and Methods of School Counseling(M)

原 美香 (HARA MIKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA870
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

生徒への対応のために必要な教育相談の理論およびそれを支えるカウンセリングの基礎知識とスキルを習得する。加えてスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携しながら、生徒理解と学校への適応を高める方法について理解する。

授業の内容 / Course Contents

生徒が自己理解を深め、クラス内外での人間関係を構築し、集団のなかで適応的に活動するための教育相談の理論を取り扱う。また、生徒の心理的発達に応じた関わりに必要なカウンセリングの基礎理論、メタカウンセリング理論および技法について、ロールプレイやグループワークを取り入れながら学習する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：本授業の構成と目標

／中等教育段階における教育相談の理念

2 回：青年期の心理的発達とその特徴(1)学童期から青年期前期

3 回：青年期の心理的発達とその特徴(2)青年期中期から青年期後期

4 回：教育相談に関わる臨床心理学的基礎概念(1)自我の構造と機能

- 5回：教育相談に関わる臨床心理学的基礎概念(2)グループダイナミクス
 6回：教育相談に関わる臨床心理学的基礎概念(3)家族心理学とシステム論
 7回：生徒の不適応行動の種類と心理社会的意味(1)反社会的行動
 8回：生徒の不適応行動の種類と心理社会的意味(2)非社会的行動
 9回：教育相談の技法(1)対象生徒に対する見立てと方針の方法
 10回：教育相談の技法(2)「きく」こと「つたえる」こと
 11回：教育相談の技法(3)構成的エンカウンターグループの技法
 12回：養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携の方法
 13回：校内における教育相談体制の構築および校内研修のあり方
 14回：教育相談に関わる地域の社会的資源と連携の方法／まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

既習または同時履修の「教育心理学」「生徒・進路指導の理論と方法」などの授業の復習をしておくこと。またメディアで取り上げられる中学生高校生の「問題」行動に関わる報道に積極的に触れ、その背景などを授業内容などをもとにして調べておくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レポート:35% グループワーク・講義参加への姿勢:35% 小テスト・リアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領及び各自の免許取得予定教科の学習指導要領解説。いずれも文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

学校教育相談の理論と方法（N）

Theories and Methods of School Counseling(N)

百瀬 良 (MOMOSE RYO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA871
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

生徒への対応のために必要な教育相談の理論およびそれを支えるカウンセリングの基礎知識とスキルを習得する。加えてスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携しながら、生徒理解と学校への適応を高める方法について理解する。

授業の内容 / Course Contents

生徒が自己理解を深め、クラス内外での人間関係を構築し、集団のなかで適応的に活動するための教育相談の理論を取り扱う。また、生徒の心理的発達に応じた関わりに必要なカウンセリングの基礎理論、メタカウンセリング理論および技法について、ロールプレイやグループワークを取り入れながら学習する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：本授業の構成と目標 / 中等教育段階における教育相談の理念
- 2 回：青年期の心理的発達とその特徴(1)学童期から青年期前期
- 3 回：青年期の心理的発達とその特徴(2)青年期中期から青年期後期
- 4 回：教育相談に関わる臨床心理学的基礎概念(1)自我の構造と機能
- 5 回：教育相談に関わる臨床心理学的基礎概念(2)グループダイナミクス

- 6回：教育相談に関わる臨床心理学的基礎概念(3)家族心理学とシステム論
 7回：生徒の不適応行動の種類と心理社会的意味(1)反社会的行動
 8回：生徒の不適応行動の種類と心理社会的意味(2)非社会的行動
 9回：教育相談の技法(1)対象生徒に対する見立てと方針の方法
 10回：教育相談の技法(2)「きく」こと「つたえる」こと
 11回：教育相談の技法(3)構成的エンカウンターグループの技法
 12回：養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携の方法
 13回：校内における教育相談体制の構築および校内研修のあり方
 14回：教育相談に関わる地域の社会的資源と連携の方法／まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

既習または同時履修の「教育心理学」「生徒・進路指導の理論と方法」などの授業の復習をしておくこと。またメディアで取り上げられる中学生高校生の「問題」行動に関わる報道に積極的に触れ、その背景などを授業内容などをもとにして調べておくこと。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:30% ロールプレイ、ディスカッションなど講義参加への姿勢:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

適宜レジュメを配布する。

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領及び各自の免許取得予定教科の学習指導要領解説。いずれも文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

教職実践演習（中・高）（M）

Practice Teaching Seminar(Secondary Education)(M)

鈴木 裕子（SUZUKI YUKO）

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA881
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET4510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 新座キャンパス所属学生対象

授業の目標 / Course Objectives

教職課程履修の総仕上げとして、自己の教員としての適性や特徴を対象化すること、および今後の教員としての課題を認識する。

授業の内容 / Course Contents

少人数クラスを編成し、演習形式で講義とディスカッションを中心に展開する。

また中・高の現職教員や地域と学校に関わる関係者による講義をふまえ、教科指導、生活指導および学級運営等について模擬授業、ロールプレイなどをおして実践的理解を深める。

授業は、「クラス別授業」と「クラス合同授業」によって構成される。

「クラス合同授業」は、「教職実践演習(中・高)」履修の全学生が一同に介して受講する形態をとる。

「クラス別授業」は、各クラス担当者により授業計画に沿って授業が進行する。

履修希望クラスは、下記「注意事項」にしたがって、各自の秋学期履修計画に基づき手続きをおこなうこと。

クラス確定後のクラス変更は原則、認めない。

なお「クラス合同授業」の日程など授業実施の詳細は、7月初旬に発表される受講クラスと同時に連絡する。

各自確認すること。

卒業要件に必要な正課科目と重複する場合は、正課科目の授業を優先し、履修計画等を検討すること。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション 趣旨説明
- 2回：教育実習事後報告会
- 3回：クラス開きの実際
- 4回：教科指導(ICT活用事例を含む)実践研究(1)
- 5回：教科指導(ICT活用事例を含む)実践研究(2)
- 6回：教科指導(ICT活用事例を含む)実践研究(3)
- 7回：教科外指導(ICT活用事例を含む)実践研究(1)
- 8回：教科外指導(ICT活用事例を含む)実践研究(2)
- 9回：教科外指導(ICT活用事例を含む)実践研究(3)
- 10回：学校経営実践研究(1)
- 11回：学校経営実践研究(2)
- 12回：地域と学校教育の連携研究(1)
- 13回：地域と学校教育の連携研究(2)
- 14回：総括討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワー等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・各自、教育実習先修科目を復習、および教育実習の振り返りを行っておくこと。
- ・『履修の記録』の必要事項を記入しておくこと。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% クラス別授業時に毎回提出する「リアクションペーパー」:40% 合同クラス授業時に課される「小レポート」:40% 最終授業時に全クラス共通テーマ「立教大学で教職課程を履修して」の「レポート」:20%

テキスト/ Textbooks

教育実習事前指導の際に配付した、各自作成中の『履修の記録』(授業時に必ず持参)及び配付プリントを使用。

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

注意事項

- ・所属キャンパスで開講するクラスを受講すること。
- ・登録に際しては、4月の「教育実習直前指導」授業にて指示する「『教職実践演習(中・高)』履修希望届」入力フォームより希望科目を4月末までの指定された期日に入力することになる。
- 各自、秋学期の履修計画をもとに第3希望まで検討しておくこと。

- ・ 配当クラスについては，7月上旬に「Canvas LMS」で発表する

教職実践演習（中・高）（N）

Practice Teaching Seminar(Secondary Education)(N)

飯田 武志 (IIDA TAKESHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA882
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET4510
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 新座キャンパス所属学生対象

授業の目標 / Course Objectives

教職課程履修の総仕上げとして、自己の教員としての適性や特徴を対象化すること、および今後の教員としての課題を認識する。

授業の内容 / Course Contents

少人数クラスを編成し、演習形式で講義とディスカッションを中心に展開する。

また中・高の現職教員や地域と学校に関わる関係者による講義をふまえ、教科指導、生活指導および学級運営等について模擬授業、ロールプレイなどをおして実践的理解を深める。

授業は、「クラス別授業」と「クラス合同授業」によって構成される。

「クラス合同授業」は、「教職実践演習(中・高)」履修の全学生が一同に介して受講する形態をとる。

「クラス別授業」は、各クラス担当者により授業計画に沿って授業が進行する。

履修希望クラスは、下記「注意事項」にしたがって、各自の秋学期履修計画に基づき手続きをおこなうこと。

クラス確定後のクラス変更は原則、認めない。

なお「クラス合同授業」の日程など授業実施の詳細は、7月初旬に発表される受講クラスと同時に連絡する。

各自確認すること。

卒業要件に必要な正課科目と重複する場合は、正課科目の授業を優先し、履修計画等を検討すること。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション 趣旨説明
- 2回：教育実習事後報告会
- 3回：クラス開きの実際
- 4回：教科指導(ICT活用事例を含む)実践研究(1)
- 5回：教科指導(ICT活用事例を含む)実践研究(2)
- 6回：教科指導(ICT活用事例を含む)実践研究(3)
- 7回：教科外指導(ICT活用事例を含む)実践研究(1)
- 8回：教科外指導(ICT活用事例を含む)実践研究(2)
- 9回：教科外指導(ICT活用事例を含む)実践研究(3)
- 10回：学校経営実践研究(1)
- 11回：学校経営実践研究(2)
- 12回：地域と学校教育の連携研究(1)
- 13回：地域と学校教育の連携研究(2)
- 14回：総括討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワー等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・各自、教育実習先修科目を復習、および教育実習の振り返りを行っておくこと。
- ・『履修の記録』の必要事項を記入しておくこと。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% クラス別授業時に毎回提出する「リアクションペーパー」:40% 合同クラス授業時に課される「小レポート」:40% 最終授業時に全クラス共通テーマ「立教大学で教職課程を履修して」の「レポート」:20%

テキスト/ Textbooks

教育実習事前指導の際に配付した、各自作成中の『履修の記録』(授業時に必ず持参)及び配付プリントを使用。

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

注意事項

- ・所属キャンパスで開講するクラスを受講すること。
- ・登録に際しては、4月の「教育実習直前指導」授業にて指示する「『教職実践演習(中・高)』履修希望届」入力フォームより希望科目を4月末までの指定された期日に入力することになる。
- 各自、秋学期の履修計画をもとに第3希望まで検討しておくこと。

- ・ 配当クラスについては，7月上旬に「Canvas LMS」で発表する

社会・地理歴史科教育法 2 (N)

Method of Social Studies, Geography and History 2(N)

増山 智宏 (MASUYAMA TOMOHIRO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	学校・社会教育講座
科目コード等：	GA922
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CET3200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	春学期「社会・地理歴史科教育法 1」を修得済または同時履修の者対象。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2018 年度以前入学者は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

中学校社会科及び高等学校地理歴史科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校地理歴史科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

中学校社会科及び高等学校地理歴史科の学習内容について、教材及び ICT の効果的な活用法を理解した上で、履修者各自が活用法を考えた授業設計を行い、その授業計画を発表、振り返りを行う。あわせて、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の分野・科目に即した年間指導計画の作成・発表、学習評価の模擬的実践（学習指導案の「生徒観」に即応した定期試験用の試験問題の作成・発表）などを通して、より実践的に授業設計の向上に取り組む力量を養成する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

- 2回：教材及びICT活用法の実践例紹介（中学校社会科の具体例）
 3回：教材及びICT活用法の実践例紹介（高等学校地理歴史科の具体例）
 4回：発展的な学習内容についての探究と実践例紹介（中学校社会科の具体例）
 5回：発展的な学習内容についての探究と実践例紹介（高等学校地理歴史科の具体例）
 6回：グループワークを採り入れた授業設計の実践例紹介（中学校社会科の具体例）
 7回：グループワークを採り入れた授業設計の実践例紹介（高等学校地理歴史科の具体例）
 8回：年間指導計画の作成・発表（1）中学校社会科地理的分野
 9回：年間指導計画の作成・発表（2）中学校社会科歴史的分野
 10回：年間指導計画の作成・発表（3）中学校社会科公民的分野
 11回：年間指導計画の作成・発表（4）高等学校地理歴史科地理関係科目（「地理総合」「地理探究」）
 12回：年間指導計画の作成・発表（5）高等学校地理歴史科歴史関係科目（「歴史総合」「世界史探究」「日本史探究」）
 13回：学習評価の模擬的实践（その1・中学校社会科）
 14回：学習評価の模擬的实践（その2・高等学校地理歴史科）
 ／まとめ。実施した年間指導計画の発表についての履修者相互の振り返りと各自の改訂プラン作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	校内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
 また、授業の後半で実施する年間指導計画作成の課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回授業終了時に提出する小レポート:60% 年間授業計画案:20% 部分的授業実践:20%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－社会編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－地理歴史編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

中高時代の社会科教科書・資料集等があれば、参照できるようにしておくが良い。

その他 / Others

担当者の専門が日本史のため、事例紹介は日本史が中心となる。

社会・地理歴史科教育法演習 2 (N)

Seminar of Teaching Methods in Social Studies, Geography and History 2(N)

増山 智宏 (MASUYAMA TOMOHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA924
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3210
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「社会・地理歴史科教育法 1」および「社会・地理歴史科教育法 2 (N)」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2018 年度以前入学者は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

中学校社会科及び高等学校地理歴史科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校地理歴史科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

「社会・地理歴史科教育法 2」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の各分野・科目について、履修者各自が作成した教材及び ICT の効果的な活用を考えた授業設計に基づき模擬授業を実施する。実施後に履修者相互の振り返りを行い、改善点を見出し、改訂プランを作成することを通して、教材及び ICT の活用実践的かつ発展的に取り組むことのできる力量を養成する。あわせて実践研究の動向を学び、中学生・高校生の実態に即した授業設計とその実践に取り組む続けることのできる教科の授業実践者としての資質を高める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入（目標・概要・進め方）
- 2回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（中学校社会科1）
- 3回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（中学校社会科2）
- 4回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（高等学校地理歴史科1）
- 5回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（高等学校地理歴史科2）
- 6回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その1－社会科地理的分野）
- 7回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その2－社会科歴史的分野）
- 8回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その3－社会科公民的分野）
- 9回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その4－地理歴史科「地理総合」）
- 10回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及びICTの活用法・その5－地理歴史科「地理探究」）
- 11回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及びICTの活用法・その6－地理歴史科「歴史総合」（1））
- 12回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及びICTの活用法・その7－地理歴史科「歴史総合」（2））
- 13回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及びICTの活用法・その8－地理歴史科「世界史探究」）
- 14回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及びICTの活用法・その9－地理歴史科「日本史探究」）
- ／まとめ。実施した模擬授業形式の活用法発表についての履修者相互の振り返りと各自の改訂プラン作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
模擬授業形式の発表のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回授業終了時に提出する小レポート：60% 模擬授業案：20% 模擬授業：20%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－社会編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－地理歴史編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

中高時代の社会科教科書・資料集等があれば、参照できるようにしておくが良い。

その他/ Others

担当者の専門が日本史のため、事例紹介は日本史が中心となる。

社会・公民科教育法 2 (N)

Method of Social Studies and Civics 2(N)

名取 克也 (NATORI KATSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GA932

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CET3200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 春学期「社会・公民科教育法 1」を修得済または同時履修の者対象。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2018 年度以前入学者は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

中学校社会科及び高等学校公民科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校公民科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、中学校社会科及び高等学校公民科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

中学校社会科及び高等学校公民科の学習内容について、教材及び ICT の効果的な活用法を理解した上で、履修者各自が活用法を考えた授業設計を行い、その授業計画を発表、振り返りを行う。あわせて、中学校社会科及び高等学校公民科の分野・科目に即した年間指導計画の作成・発表、学習評価の模擬的実践（学習指導案の「生徒観」に即応した定期試験用の試験問題の作成・発表）などを通して、より実践的に授業設計の向上に取り組む力を養成する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

- 2回：教材及びICT活用法の実践例紹介（中学校社会科の具体例）
 3回：教材及びICT活用法の実践例紹介（高等学校公民科の具体例）
 4回：発展的な学習内容についての探究と実践例紹介（中学校社会科の具体例）
 5回：発展的な学習内容についての探究と実践例紹介（高等学校公民科の具体例）
 6回：グループワークを採り入れた授業設計の実践例紹介（中学校社会科の具体例）
 7回：グループワークを採り入れた授業設計の実践例紹介（高等学校公民科の具体例）
 8回：年間指導計画の作成・発表（1）中学校社会科地理的分野
 9回：年間指導計画の作成・発表（2）中学校社会科歴史的分野
 10回：年間指導計画の作成・発表（3）中学校社会科公民的分野
 11回：年間指導計画の作成・発表（4）高等学校公民科その1（「公共」）
 12回：年間指導計画の作成・発表（5）高等学校公民科その2（「倫理」「政治・経済」）
 13回：学習評価の模擬的实践（その1・中学校社会科）
 14回：学習評価の模擬的实践（その2・高等学校公民科）
 ／まとめ。実施した年間指導計画の発表についての履修者相互の振り返りと各自の改訂プラン作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。

また、授業の後半で実施する年間指導計画作成の課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内課題等における取り組み内容:30% 各講義におけるリアクションペーパー・批評等:40% 最終レポート割合：:30%

第1回・第2回のどちらかの講義には、必ず出席すること。また、講義を3回以上欠席した場合は、評価対象外とする。

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－社会編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－公民編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

必要に応じて紹介します。

また、ご自身が過去に使った中学社会・高校地歴公民の教材（教科書や資料集）がお手元にある場合は、処分せずそのままお持ちください。

その他 / Others

各講義で扱う内容・課題等は、受講者の人数などによって変更する場合があります。詳細は、受講状況を確認した上で、授業開始後にお伝えします。

社会・公民科教育法演習 2 (N)

Seminar of Teaching Methods in Social Studies and Civics 2(N)

名取 克也 (NATORI KATSUYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA934
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3210
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「社会・公民科教育法 1」および「社会・公民科教育法 2 (N)」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2018 年度以前入学者は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

中学校社会科及び高等学校公民科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された中学校社会科及び高等学校公民科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、中学校社会科及び高等学校公民科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

「社会・公民科教育法 2」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、中学校社会科及び高等学校公民科の各分野・科目について、履修者各自が作成した教材及び ICT の効果的な活用を考えた授業設計に基づき、模擬授業を実施する。実施後に履修者相互の振り返りを行い、改善点を見出し、改訂プランを作成することを通して、教材及び ICT の活用実践的かつ発展的に取り組むことのできる力量を養成する。あわせて実践研究の動向を学び、中学生・高校生の実態に即した授業設計とその実践に取り組み続けることのできる教科の授業実践者としての資質を高める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）
- 2 回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（中学校社会科1）
- 3 回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（中学校社会科2）
- 4 回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（高等学校公民科1）
- 5 回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（高等学校公民科2）
- 6 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その1－社会科地理的分野）
- 7 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その2－社会科歴史的分野）
- 8 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その3－社会科公民的分野（1））
- 9 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その4－社会科公民的分野（2））
- 10 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その5－公民科「公共」（1））
- 11 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その6－公民科「公共」（2））
- 12 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表（教材及びICTの活用法・その7－公民科「倫理」）
- 13 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及びICTの活用法・その8－公民科「政治・経済」（1））
- 14 回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及びICTの活用法・その9－公民科「政治・経済」（2））
- ／まとめ。実施した模擬授業形式の活用法発表についての履修者相互の振り返りと各自の改訂プラン作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
模擬授業形式の発表のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題・模擬授業等の実施内容:30% 各講義におけるリアクションペーパー・批評内容等:40% 最終レポート割合：:30%

第1回・第2回のどちらかの講義には、必ず出席すること。また、講義を3回以上欠席した場合は、評価対象外とする。

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－社会編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－公民編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

必要に応じて紹介します。

また、ご自身が過去に使った中学社会・高校地歴公民の教材（教科書や資料集）がお手元にある場合は、処分せずそのままお持ちください。

その他/ Others

各講義で扱う内容・課題等は、受講者の人数などによって変更する場合があります。詳細は、受講状況を確認した上で、授業開始後にお伝えします。

また、講義中に実施する模擬授業の回数等は、受講者の人数などによって変更される場合があります。

保健体育科教育法 2

Methods in Teaching Health and Physical Education 2

内田 雄三 (UCHIDA YUZO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GA962
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET3200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「保健体育科教育法 1」を修得済または同時履修の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2018 年度以前入学者は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された保健体育科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに保健体育科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

中学校及び高等学校保健体育科の学習内容について、教材及び ICT の効果的な活用法を理解した上で、履修者各自が活用法を考えた授業設計を行い、その授業計画を発表、振り返りを行う。あわせて、保健体育科の分野・科目に即した年間指導計画の作成・発表、学習評価の模擬的実践（学習指導案の「生徒観」に即応した定期試験用の試験問題の作成・発表）などを通して、より実践的に授業設計の向上に取り組む力量を養成する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入（目標・概要・進め方）
- 2 回：教材及び ICT 活用法の実践例紹介（中学校保健体育科の具体例）
- 3 回：教材及び ICT 活用法の実践例紹介（高等学校保健体育科の具体例）

- 4回：発展的な学習内容についての探究と実践例紹介（中学校保健体育科の具体例）
 5回：発展的な学習内容についての探究と実践例紹介（高等学校保健体育科の具体例）
 6回：グループワークを採り入れた授業設計の実践例紹介（中学校保健体育科の具体例）
 7回：グループワークを採り入れた授業設計の実践例紹介（高等学校保健体育科の具体例）
 8回：年間指導計画の作成・発表（1）中学校保健体育科体育分野第1学年及び第2学年
 9回：年間指導計画の作成・発表（2）中学校保健体育科体育分野第3学年
 10回：年間指導計画の作成・発表（3）中学校保健体育科保健分野
 11回：年間指導計画の作成・発表（4）高等学校保健体育科科目「体育」
 12回：年間指導計画の作成・発表（5）高等学校保健体育科科目「保健」
 13回：学習評価の模擬的实践（その1・中学校保健体育）
 14回：学習評価の模擬的实践（その2・高等学校保健体育）

／まとめ。実施した年間指導計画の発表についての履修者相互の振り返りと各自の改訂プラン作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
 また、授業の後半で実施する年間指導計画作成の課題発表に向けた準備を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内レポート・リアクションペーパー:40% 授業への参加態度:20% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－保健体育編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－保健体育編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

保健体育科教育法演習 2

Seminar of Teaching Methods in Health and Physical Education 2

内田 雄三 (UCHIDA YUZO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GA964

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CET3210

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 春学期「保健体育科教育法 1」および「保健体育科教育法 2」を修得済の者対象。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2018 年度以前入学者は「その他登録」となるため、詳細を R Guide で確認して申請すること。

授業の目標 / Course Objectives

保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された保健体育科の学習内容について背景となる学問領域と関連させた理解を深める。それとともに、保健体育科の様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の内容 / Course Contents

「保健体育科教育法 2」で学習したことをもとに、学習指導要領に示された教科の目標及び内容を踏まえ、中学校及び高等学校保健体育科の各分野・科目について、履修者各自が作成した教材及び ICT の効果的な活用を考えた授業設計に基づき模擬授業を実施する。実施後に履修者相互の振り返りを行い、改善点を見出し、改訂プランを作成することを通して、教材及び ICT の活用実践的かつ発展的に取り組むことのできる力量を養成する。あわせて実践研究の動向を学び、中学生・高校生の実態に即した授業設計とその実践に取り組むことのできる教科の授業実践者としての資質を高める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（目標・概要・進め方）

- 2回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（中学校保健体育科1）
- 3回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（中学校保健体育科2）
- 4回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（高等学校保健体育科1）
- 5回：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践例（高等学校保健体育科2）
- 6回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及びICTの活用法・その1－中学校保健体育科体育分野第1学年）
- 7回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及びICTの活用法・その2－中学校保健体育科体育分野第2学年）
- 8回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及びICTの活用法・その3－中学校保健体育科体育分野第3学年）
- 9回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及びICTの活用法・その4－中学校保健体育科保健分野）
- 10回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及びICTの活用法・その5－高等学校「体育」（1））
- 11回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及びICTの活用法・その6－高等学校「体育」（2））
- 12回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及びICTの活用法・その7－高等学校「体育」（3））
- 13回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及びICTの活用法・その8－高等学校「保健」（1））
- 14回：履修者各自による模擬授業形式の活用法発表
（教材及びICTの活用法・その9－高等学校「保健」（2））

／まとめ。実施した模擬授業形式の活用法発表についての履修者相互の振り返りと各自の改訂プラン作成。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	校内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から教科に関するトピックに関心をもって文献を読み、新聞などに目を通すように努めること。
模擬授業形式の発表のための教材研究、授業ノート作成、授業案作成を各自進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内レポート・リアクションペーパー：40% 授業への参加態度：20% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

『中学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領解説－保健体育編－』、『高等学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領解説－保健体育編－』。中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省HPを見ること。

参考文献 / Readings

博物館経営論

Museum Management

亀川 泰照 (KAMEKAWA YASUTERU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GB221
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CEM1200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

博物館はそれぞれ個性的です。独自の資源を活用し、各館が掲げる使命を帯びた運営がなされているからです。

本講義では、博物館の公共性やそれを支える運営組織、実現するための仕組み、他機関との連携などに関する基本的な知識を身につけること、またそれらに向き合う際の学芸員としての思考回路・考え方を身につけることを目標とします。

授業の内容 / Course Contents

実際の博物館、特に地域博物館の運営の実情や課題を考えるため、各テーマについて、一般論としての理念と具体例を交互に往復しながら講義します。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：博物館の公共性と社会的使命及び法律・制度
- 2 回：博物館の運営組織
- 3 回：博物館の建物・設備・ホスピタリティ
- 4 回：博物館評価

- 5回：ミュージアム・マーケティング
 6回：博物館の広報
 7回：博物館のネットワーク活動 ―博物館とボランティア・友の会―
 8回：博物館のネットワーク活動 ―博物館と観光―
 9回：博物館のネットワーク活動 ―博物館と町おこし―
 10回：博物館のネットワーク活動 ―博物館と学校―
 11回：博物館のネットワーク活動 ―ミュージアム間の連携―
 12回：博物館の課題 ―危機管理―
 13回：博物館の課題 ―財政―
 14回：博物館の課題と未来

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日ごろから博物館・美術館・文化財に関するニュースに目を通すこと。またできれば博物館に足を運ぶこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内での提出物:20% 授業への参画度:30%

テキスト / Textbooks

特に教科書は使わない。その都度プリントを配布する。

参考文献 / Readings

- 大堀哲・水嶋英治編 『博物館学』3 博物館情報・メディア論・博物館経営論 学文社 2012 4762022861
 河島伸子・小林真理・土屋正臣 『新時代のミュージアム』 ミネルヴァ書房 2020 9784623089741

博物館資料保存論

Conservation of Museum Collection

内呂 博之 (UCHIRO HIROYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GB222
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CEM1400
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

博物館学芸員の活動において必要となる「資料保存」について学習する。博物館の資料を展示公開して一般公衆の利用に供するため、それらを適切に保存管理できる能力を身につけ、将来へ継承していくことに対する意識の向上をめざす。

授業の内容 / Course Contents

授業では、まず資料を構成する素材とその劣化要因について学ぶ。次に、資料を適切に保存するための環境管理の方法を習得する。最後に伝統的な保存方法や修復方法に関する知識を身につける。計 14 回の授業によって、各資料の特性に応じた取り扱いができるようになることが目標である。

※状況に応じて、授業計画の順序が前後する可能性あり。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：博物館における資料保存の意義
- 2 回：資料保存の制度
- 3 回：資料の構成要素
- 4 回：資料の劣化要因と対策①（光環境）

- 5回：資料の劣化要因と対策②（温湿度環境）
 6回：資料の劣化要因と対策③（空気環境）
 7回：資料の劣化要因と対策④（生物および微生物）
 8回：災害と保全対策
 9回：伝統的な保存方法
 10回：歴史的建造物の保存
 11回：状態調査と科学調査
 12回：資料の修復・保存処理
 13回：梱包と輸送
 14回：まとめ（博物館の役割）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

様々な美術館・博物館に足を運び、資料保存の観点から展覧会を鑑賞する。また、各美術館・博物館の施設概要や建築概要等を入手し、内容を確認する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業中の態度:40% リアクションペーパー:40% 最終レポート割合 :20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

石崎武志（編著） 『博物館資料保存論』 講談社 2012 9784061565036

東京文化財研究所（編） 『文化財の保存環境』 中央公論美術出版 2013（2011） 9784805506486

博物館展示論（A）

Exhibition of Museum(A)

博物館展示の理論と現状

滝口 正哉（TAKIGUCHI MASAYA）

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GB223

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CEM1500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 「博物館展示論（B）」と同一科目

授業の目標 / Course Objectives

展示活動の意義と具体的な流れを体系的に理解するとともに、展示を見学者としてだけでなく、実施者としての視点を培う。そして博物館のあり方が問われている状況のなかで、展示活動として何が発信できるのかについて、自分なりの見解を持てるようにする。

授業の内容 / Course Contents

博物館のもつ外的事業性の軸となる展示活動について、具体的な展示の流れを把握するとともに、その意義や社会的役割を学んでいく。その上で博物館活動全体のなかでの位置付けや有効的な展示活動の展開について考えていきたい。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：日本における展示の歴史

2 回：展示の意義

3 回：展示の諸形態

4 回：展示案の検討

- 5回：展示資料の検討
 6回：展示案・展示計画の確定と諸手続き
 7回：キャプション・パネルの制作
 8回：展示会場と設営
 9回：展示と照明
 10回：展示関連事業（講座・講演会他）
 11回：広報活動（ポスター・チラシ・ホームページ他）
 12回：撤収と資料返却
 13回：展示の評価と改善
 14回：展示の社会的意義と直面する課題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

博物館・美術館の展示をできる限りたくさん見て、展示を観察する眼を養うこと。なお、その際には単に展示内容だけでなく、設営方法や配置、パネル・キャプションや図録、さらにはチラシやポスター、ホームページ、展示関連事業などにも注目すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% コメントシート:20% 出席状況（遅刻を含む）ならびに授業態度:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 日本展示学会 『展示論—博物館の展示をつくる—』 雄山閣 2010 9784639021490
 黒沢浩 『博物館展示論—学芸員の現場で役立つ基礎と実践—』 講談社 2014 9784061565319
 青木豊 『集客力を高める博物館展示論 普及版』 雄山閣 2018 9784639026044
 滝登くらげ 『学芸員の観察日記 ミュージアムのうらがわ』 文学通信 2023 9784909658937
 駒見和夫 編 『総説 博物館を学ぶ』 同成社 2024 9784886219329

他の参考文献は随時指示する。

博物館展示論（B）

Exhibition of Museum(B)

博物館展示の理論と現状

滝口 正哉（TAKIGUCHI MASAYA）

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GB224

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CEM1500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 「博物館展示論（A）」と同一科目

授業の目標 / Course Objectives

展示活動の意義と具体的な流れを体系的に理解するとともに、展示を見学者としてだけでなく、実施者としての視点を培う。そして博物館のあり方が問われている状況のなかで、展示活動として何が発信できるのかについて、自分なりの見解を持てるようにする。

授業の内容 / Course Contents

博物館のもつ外的事業性の軸となる展示活動について、具体的な展示の流れを把握するとともに、その意義や社会的役割を学んでいく。その上で博物館活動全体のなかでの位置付けや有効的な展示活動の展開について考えていきたい。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：日本における展示の歴史

2 回：展示の意義

3 回：展示の諸形態

4 回：展示案の検討

- 5回：展示資料の検討
 6回：展示案・展示計画の確定と諸手続き
 7回：キャプション・パネルの制作
 8回：展示会場と設営
 9回：展示と照明
 10回：展示関連事業（講座・講演会他）
 11回：広報活動（ポスター・チラシ・ホームページ他）
 12回：撤収と資料返却
 13回：展示の評価と改善
 14回：展示の社会的意義と直面する課題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

博物館・美術館の展示をできる限りたくさん見て、展示を観察する眼を養うこと。なお、その際には単に展示内容だけでなく、設営方法や配置、パネル・キャプションや図録、さらにはチラシやポスター、ホームページ、展示関連事業などにも注目すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% コメントシート:20% 出席状況（遅刻を含む）ならびに授業態度:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 日本展示学会 『展示論—博物館の展示をつくる—』 雄山閣 2010 9784639021490
 黒沢浩 『博物館展示論—学芸員の現場で役立つ基礎と実践—』 講談社 2014 9784061565319
 青木豊 『集客力を高める博物館展示論 普及版』 雄山閣 2018 9784639026044
 滝登くらげ 『学芸員の観察日記 ミュージアムのうらがわ』 文学通信 2023 9784909658937
 駒見和夫 編 『総説 博物館を学ぶ』 同成社 2024 9784886219329
 他の参考文献は随時指示する。

博物館資料論（A）

Museum Collection(A)

博物館における資料の在り方と現実的課題を考える

滝口 正哉（TAKIGUCHI MASAYA）

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GB225

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CEM1300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 「博物館資料論（B）」と同一科目

授業の目標 / Course Objectives

博物館において、資料の集積は、博物館活動の基礎となる部分である。本講義では、資料の調査・収集から活用・展示に至るプロセスを通して、博物館活動における資料の重要性とその特性を理解する。

授業の内容 / Course Contents

博物館で扱う資料にはどのようなものがあり、どのように分類されているのか。また、資料からどのような情報を読み取り、調査・研究に役立て、展覧会につなげていくのか。

資料の収集や保管の方法、資料をもとにした調査・研究活動についての理解を深めることにより、博物館活動の基礎を学ぶ。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：博物館資料の概念

3 回：博物館資料の歴史（コレクションの成り立ち、海外）

4 回：博物館資料の歴史（コレクションの成り立ち、日本）

- 5回：博物館資料の収集方法
- 6回：博物館資料の保存
- 7回：博物館資料の整理（分類）
- 8回：博物館資料の整理（資料カード作成）
- 9回：博物館資料の調査・研究（概論）
- 10回：博物館資料の調査・研究（資料の公開）
- 11回：博物館活動と資料（概論）
- 12回：博物館活動と資料（権利関係）
- 13回：博物館資料の活用（概論）
- 14回：博物館資料の活用（資料の修復、複製制作）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

美術館、博物館、ギャラリーなど、様々な展示施設を訪れ、数多くの展覧会を見ること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内での提出物:20% 出席状況（遅刻を含む）ならびに授業態度:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 中村俊介 『「文化財」から「世界遺産」へ』 雄山閣 2022 9784639028659
 - 時実象一 『デジタルアーカイブの新展開』 勉誠出版 2023 9784585300090
 - 金山喜昭 編 『博物館とコレクション管理』 雄山閣 2023 9784639029014
 - 地方史研究協議会 編 『「非常時」の記録保存と記憶化』 岩田書院 2023 9784866021553
- 参考文献は随時指示する。

博物館資料論（B）

Museum Collection(B)

博物館における資料の在り方と現実的課題を考える

滝口 正哉（TAKIGUCHI MASAYA）

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GB226

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CEM1300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 「博物館資料論（A）」と同一科目

授業の目標 / Course Objectives

博物館において、資料の集積は、博物館活動の基礎となる部分である。本講義では、資料の調査・収集から活用・展示に至るプロセスを通して、博物館活動における資料の重要性とその特性を理解する。

授業の内容 / Course Contents

博物館で扱う資料にはどのようなものがあり、どのように分類されているのか。また、資料からどのような情報を読み取り、調査・研究に役立て、展覧会につなげていくのか。

資料の収集や保管の方法、資料をもとにした調査・研究活動についての理解を深めることにより、博物館活動の基礎を学ぶ。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：博物館資料の概念

3 回：博物館資料の歴史（コレクションの成り立ち、海外）

4 回：博物館資料の歴史（コレクションの成り立ち、日本）

- 5回：博物館資料の収集方法
 6回：博物館資料の保存
 7回：博物館資料の整理（分類）
 8回：博物館資料の整理（資料カード作成）
 9回：博物館資料の調査・研究（概論）
 10回：博物館資料の調査・研究（資料の公開）
 11回：博物館活動と資料（概論）
 12回：博物館活動と資料（権利関係）
 13回：博物館資料の活用（概論）
 14回：博物館資料の活用（資料の修復、複製制作）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

美術館、博物館、ギャラリーなど、様々な展示施設を訪れ、数多くの展覧会を見ること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内での提出物:20% 出席状況（遅刻を含む）ならびに授業態度:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 中村俊介 『「文化財」から「世界遺産」へ』 雄山閣 2022 9784639028659
 時実象一 『デジタルアーカイブの新展開』 勉誠出版 2023 9784585300090
 金山喜昭 編 『博物館とコレクション管理』 雄山閣 2023 9784639029014
 地方史研究協議会 編 『「非常時」の記録保存と記憶化』 岩田書院 2023 9784866021553
 参考文献は随時指示する。

博物館情報・メディア論

Information and Media of Museum

真田 妙子 (SANADA TAEKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GB227
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CEM1700
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

今日の博物館を取り巻く情報・メディア環境を理解し、博物館が情報社会にどのように対応していくべきかを考える。

授業の内容 / Course Contents

デジタル技術やネットワーク技術の発達により変化し複雑化する情報社会の特徴や、情報社会で重要とされる法制度を概観したうえで、博物館における情報・メディアの意義や情報技術の活用方法などを学ぶ。また、ビデオやインターネットを使用しながら、情報社会の諸問題や博物館活動の情報化についての具体的な事例を紹介し、理論だけでなく実践的な理解も深めていく。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：情報・メディアの発展，情報の定義
- 3 回：デジタル化・ネットワーク化（1）
- 4 回：デジタル化・ネットワーク化（2）
- 5 回：情報社会の特徴

- 6回：情報社会の諸問題
 7回：前半まとめ
 8回：博物館における情報・メディアの意義
 9回：博物館活動の情報化
 10回：博物館における情報発信，情報技術の活用
 11回：情報社会と法制度（1）
 12回：情報社会と法制度（2）
 13回：情報社会における博物館の課題と対応
 14回：後半まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

博物館や美術館などの施設を訪問し，様々な展示を鑑賞すること。その際に，施設や展示資料について事前にインターネットで調べて，できるだけ情報収集すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内に指示した提出物:40% 出席・リアクションペーパー:20% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業中に随時紹介する。

博物館教育論（A）

Education Activity of Museum(A)

藤井 明広 (FUJII AKIHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GB228
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CEM1600
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 「博物館教育論（B）」と同一科目

授業の目標 / Course Objectives

博物館における教育活動の基礎となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。

授業の内容 / Course Contents

博物館における教育普及活動の目的や意義、基本的な考え方について国内の事例を中心に紹介する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス-博物館における教育活動-
- 2 回：博物館教育とは何か
- 3 回：博物館教育の歴史
- 4 回：博物館教育を担う学芸員の役割と活動
- 5 回：博物館展示の教育的意義
- 6 回：展示と来館者をつなぐ補助教材
- 7 回：ワークショップとハンズオン
- 8 回：資源の蓄積と公開

- 9回：ユニバーサル・ミュージアム
 10回：学校教育と博物館
 11回：地域と博物館
 12回：観光と博物館
 13回：教育プログラムの作成①
 14回：教育プログラムの作成②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

具体例を知るために、博物館など様々な展示施設を訪れ、数多くの展示を見ること。また、博物館で行われる展示以外の教育活動についても実際に訪れて現地を見ること、参加すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 出席状況（遅刻含む）および授業態度:40%

テキスト / Textbooks

必要な資料については、毎回講義内でのみ配布する。

参考文献 / Readings

黒沢浩 『博物館教育論』 講談社 2015

その他 / Others

状況により授業計画を変更する場合がある。

博物館教育論（B）

Education Activity of Museum(B)

藤井 明広 (FUJII AKIHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GB229
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CEM1600
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 「博物館教育論（A）」と同一科目

授業の目標 / Course Objectives

博物館における教育活動の基礎となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を養う。

授業の内容 / Course Contents

博物館における教育普及活動の目的や意義、基本的な考え方について国内の事例を中心に紹介する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス-博物館における教育活動-
- 2 回：博物館教育とは何か
- 3 回：博物館教育の歴史
- 4 回：博物館教育を担う学芸員の役割と活動
- 5 回：博物館展示の教育的意義
- 6 回：展示と来館者をつなぐ補助教材
- 7 回：ワークショップとハンズオン
- 8 回：資源の蓄積と公開

- 9回：ユニバーサル・ミュージアム
 10回：学校教育と博物館
 11回：地域と博物館
 12回：観光と博物館
 13回：教育プログラムの作成①
 14回：教育プログラムの作成②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

具体例を知るために、博物館など様々な展示施設を訪れ、数多くの展示を見ること。また、博物館で行われる展示以外の教育活動についても実際に訪れて現地を見ること、参加すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 出席状況（遅刻含む）および授業態度:40%

テキスト / Textbooks

必要な資料については、毎回講義内でのみ配布する。

参考文献 / Readings

黒沢浩 『博物館教育論』 講談社 2015

その他 / Others

状況により授業計画を変更する場合がある。

見学・学内実習（A）

Inspection and Training(A)

山形 真理子／滝口 正哉／西 光三 (YAMAGATA MARIKO/ TAKIGUCHI MASAYA/ NISHI KOZO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GB241
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 通年他
単位： 2
科目ナンバリング： CEM2820
使用言語： 日本語
授業形式： 実習
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 学校・社会教育講座履修要項「学芸員課程 3履修上の注意」を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 「見学・学内実習（B）」と同一科目

授業の目標 / Course Objectives

さまざまな博物館を見学することにより、博物館の多様なあり方について理解を深めるとともに、学芸員をはじめとする関係者の実際の活動について学ぶ。さらに学内実習によって博物館の基礎的な実務の一端を学ぶ。

授業の内容 / Course Contents

見学実習ではさまざまな博物館を訪ね、学芸員をはじめとする関係者の方々の作業の実際と施設を見学する。学内実習では、外部の専門家も招いて、学芸員の職務に必要な実践的な知識と技術の基本を学ぶ。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1回：見学実習では2泊3日の日程で国内の博物館、美術館、記念館などを訪ね、学芸員をはじめとする多くの関係者から話を聞くと同時に、業務の実際と施設を見学する。同様に、都内周辺における1日の見学も実施する。これらをふまえて参加者相互で意見交換を行う。学内実習では担当教員に加えて外部の専門家も招いて、以下の内容について基本的な知識と技術・技能を学ぶ。

- ・歴史資料（古文書、和書）と民俗資料の取り扱い
- ・美術品（掛け軸、茶碗）の取り扱い

- ・写真撮影（資料、人物、建物）
- ・ビデオの撮影と編集（映像作品の制作）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日ごろから意識的に様々な博物館、美術館などを訪れることが望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 実習への積極的な取り組み姿勢や参画度など:70% レポート:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

追って、実習前に別途指示する。

その他 / Others

見学実習については、事前に指定された図書を読んでレポートを提出する。また、事後にも実習の成果についてレポートを提出する。詳細は追って指示する。

見学・学内実習（B）

Inspection and Training(B)

山形 真理子／宮内 洋平／西 光三 (YAMAGATA MARIKO/ MIYAUCHI YOHEI/ NISHI KOZO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GB242
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 通年他
単位： 2
科目ナンバリング： CEM2820
使用言語： 日本語
授業形式： 実習
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 学校・社会教育講座履修要項「学芸員課程 3履修上の注意」を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 「見学・学内実習（A）」と同一科目

授業の目標 / Course Objectives

さまざまな博物館を見学することにより、博物館の多様なあり方について理解を深めるとともに、学芸員をはじめとする関係者の実際の活動について学ぶ。さらに学内実習によって博物館の基礎的な実務の一端を学ぶ。

授業の内容 / Course Contents

見学実習ではさまざまな博物館を訪ね、学芸員をはじめとする関係者の方々の作業の実際と施設を見学する。学内実習では、外部の専門家も招いて、学芸員の職務に必要な実践的な知識と技術の基本を学ぶ。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：見学実習では2泊3日の日程で国内の博物館、美術館、記念館などを訪ね、学芸員をはじめとする多くの関係者から話を聞くと同時に、業務の実際と施設を見学する。同様に、都内周辺における1日の見学も実施する。これらをふまえて参加者相互で意見交換を行う。学内実習では担当教員に加えて外部の専門家も招いて、以下の内容について基本的な知識と技術・技能を学ぶ。

- ・歴史資料（古文書、和書）と民俗資料の取り扱い
- ・美術品（掛け軸、茶碗）の取り扱い

- ・写真撮影（資料、人物、建物）
- ・ビデオの撮影と編集（映像作品の制作）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日ごろから意識的に様々な博物館、美術館などを訪れることが望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 実習への積極的な取り組み姿勢や参画度など:70% レポート:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

追って、実習前に別途指示する。

その他 / Others

見学実習については、事前に指定された図書を読んでレポートを提出する。また、事後にも実習の成果についてレポートを提出する。詳細は追って指示する。

博物館実習（館園実習）

Practical Training in Museums

滝口 正哉／山形 眞理子（TAKIGUCHI MASAYA/YAMAGATA MARIKO）

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GB243
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 通年他
単位： 1
科目ナンバリング： CEM3820
使用言語： 日本語
授業形式： 実習
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 学校・社会教育講座履修要項「学芸員課程 3履修上の注意」を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

学芸員課程の最終的な仕上げとして、博物館での実習を通して多様な博物館の姿と業務の実際を知り、実践的な能力を身につける。

授業の内容 / Course Contents

事前講義と実習（1～2 週間）、実習報告などによって構成される。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：大学で事前講義を受けた後、各自が選んだ実習先の博物館等で 1～2 週間にわたって、指示されたプログラムにしたがって実習を行う。実習終了後、実習報告を提出する。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ふだんから意識して博物館、美術館を訪ねるとともに、指示された文献を中心に関連の図書を読んでおくことが求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 実習への積極的な取り組み姿勢や参画度など:70% レポート:30%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

日本博物館協会 編 博物館資料取扱いガイドブック 第2次改訂版 ぎょうせい 2023 9784324112212
追って指示する。

その他 / Others

事後にレポートを提出する。詳細は追って指示する。

日本文化史 1

Cultural History of Japan 1

日本美術史の流れ

石田 佳也 (ISHIDA YOSHIYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GB251

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CEM1900

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本美術史における主要作品や画家に関する基本事項を学びながら、とくに近世の絵画史に関して理解を深める。絵画のみならず工芸など様々な作品を比較することにより、日本美術史の概要を把握する。

授業の内容 / Course Contents

日本の美術史の流れを確認しつつ、毎回特定の画家や作品を選び、描かれた主題を中心に詳しく紹介する。美術史にとどまらず広く日本文化史の中での位置づけや意義を検討する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：日本美術の基礎知識（基本用語解説）
- 2 回：日本絵画の画面形式と技法（屏風・絵巻など）
- 3 回：日本絵画の画家と流派（狩野派、長谷川派、琳派など）
- 4 回：日本絵画にみる宴のイメージ（遊楽図の概観①）
- 5 回：日本絵画にみる祭礼のイメージ（遊楽図の概観②）
- 6 回：日本絵画にみる舞踊・ファッションのイメージ（遊楽図の概観③）

- 7回：日本絵画にみる象のイメージ（仏教絵画の概観）
 8回：日本絵画にみる鳳凰のイメージ（花鳥画の変遷）
 9回：日本絵画にみる和歌のイメージ（花鳥風月の表現①）
 10回：日本絵画にみる和歌のイメージ（花鳥風月の表現②）
 11回：日本絵画にみる和歌のイメージ（花鳥風月の表現③）
 12回：雪舟の画業（水墨画の概観）
 13回：与謝蕪村の画業（文人画の概観）
 14回：日本絵画の流れ 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回授業中に参考文献を紹介する。また適宜、鑑賞すべき展覧会を紹介する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業中に随時指示する。

考古学 1

Archaeology 1

山形 真理子 (YAMAGATA MARIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GB253
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CEM1900
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

考古学の理論と方法、考古資料の扱い方、日本とアジアの考古学について学ぶことを通して、学芸員として必要な考古学の基礎知識を身につける。

授業の内容 / Course Contents

まず、考古学の基礎的な概念と理論、方法論について概説する。続いて、日本列島の考古学を時代別・テーマ別に概説する。さらに、日本との比較をふまえてアジアの遺跡・遺物を取り上げて論じる。講義が中心であるが、考古資料の実測や拓本の実習も行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：考古学の目的
- 2 回：考古学の基礎：型式学、層位学、年代測定法
- 3 回：考古学の基礎：時代区分、遺跡と遺物の調査方法
- 4 回：初期人類史：人類の誕生と進化、世界各地への拡散
- 5 回：日本考古学概論：旧石器時代の遺跡と遺物
- 6 回：日本考古学概論：縄文時代の豊かな採集狩猟民の文化

- 7回：日本考古学概論：日本列島の弥生時代
 8回：日本考古学概論：前方後円墳とヤマト王権
 9回：実習：土器の拓本と実測
 10回：アジアの考古学：稲作の始まりと東南アジアへの伝播
 11回：アジアの考古学：鉄器時代の東南アジア
 12回：アジアの考古学：古代瓦からみた東アジア世界
 13回：アジアの考古学：交易の時代と貿易陶磁
 14回：授業のまとめとふりかえり

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業のなかで参考文献を指示するので、それらを読んでおくこと。また、博物館や遺跡公園などに足を運び、遺跡と遺物を見学すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内レポート:40% 各回の授業内容に関する小テスト:40% 実習の提出物:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

参考文献は授業時に指示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配布、課題の提出などに「Canvas LMS」を使用する。

美術史 1

History of Arts 1

佐藤 真実子 (SATO MAMIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GB255
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） 対面（一部オンライン）。ディスクリプション課題等により集中して取り組む機会を設けるため、第2回、第5回、第7回、第8回、第11回はオンライン授業とする。
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CEM1900
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

西洋を中心とした 15 世紀から現代までの美術の変遷をたどり、基礎的な知識を修得するとともに、作品を多角的に考察し、自らの言葉で語るができるようになる。

授業の内容 / Course Contents

この授業では、15 世紀から現代にいたる主に西洋の代表的な美術作品を取り上げ、その造形的特徴や芸術家の活動、および各時代の社会的・政治的・文化的背景に関して論じながら、作品を言葉で説明する方法（ディスクリプション）を解説する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：美術史学とは？ ディスクリプションとは？
- 2 回：初期ルネサンス
- 3 回：盛期ルネサンス
- 4 回：マニエリスム、バロック
- 5 回：ロココ、新古典主義、ロマン主義

- 6回：レアリズム，印象派
 7回：版画というジャンル：西洋における版画の変遷/浮世絵とジャポニスム
 8回：ポスト印象派，象徴主義，世紀末芸術
 9回：フォーヴィスム，キュビスム，ドイツ表現主義
 10回：ダダ，シュルレアリスム
 11回：戦後アメリカ美術，フォーク・アート
 12回：アール・ブリュット，アウトサイダー・アート
 13回：2000年代以降の美術「作品」
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・参考文献および授業中に指示する書籍を読み，授業で取り上げた作品について復習を行うこと。
- ・授業内で紹介する展覧会をはじめ，博物館，美術館の展覧会（オンライン展覧会を含む）を見学することが望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 出席，リアクションペーパー，ディスクリプション課題:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 秋山聰，田中正之監修 『西洋美術史(美術出版ライブラリー 歴史編)』 美術出版社 2021
 小佐野重利，小池寿子，三浦篤編 『西洋美術の歴史』4-8巻 中央公論新社 2016-17
 佐々木英也ほか編 『世界美術大全集 西洋篇』11-28巻 小学館 1992-96

その他 / Others

- ・授業の中で，都内の美術館で展覧会見学を行う場合がある。日程等については，授業開始後に調整を行う。

民俗学 1

Folklore 1

受け継がれてきた生活文化へのアプローチ

滝口 正哉 (TAKIGUCHI MASAYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GB257

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CEM1900

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

学芸員として必要とされる民俗学の基礎的な知識を得る。

授業の内容 / Course Contents

かつて日本の日常生活に当然のように存在していた習慣や事象に注目し、それらを通して私たちに受け継がれてきた生活文化の意味や社会的役割を考察する。さらに博物館における民俗学の実態を資料収集と展示などの実例を示しながら、現在の博物館における民俗学の役割、可能性、有効な民俗資料の活用について考えていく。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：民俗学とは何か

2 回：年中行事（1） 暦と季節感

3 回：年中行事（2） 春の行事

4 回：年中行事（3） 夏・秋の行事

5 回：年中行事（4） 冬の行事

- 6回：信仰の民俗（1） 願掛けとパワースポット
 7回：信仰の民俗（2） 絵馬
 8回：信仰の民俗（3） 富士講
 9回：信仰の民俗（4） 千社札
 10回：人生儀礼と民俗
 11回：職人調査の方法
 12回：民具調査の方法
 13回：祭礼調査の方法
 14回：博物館の民俗学 資料の収集と展示（講義のまとめ）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前の予習として、講義（レジュメ）で取り上げる人生儀礼などの自身が経験した行事を認識し直すことも有益である。また、事後の復習として講義で紹介する関連の展示図録などを学習することも講義内容の理解を得るために有益である。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% コメントシート:20% 出席状況（遅刻を含む）ならびに授業態度:20%

テキスト / Textbooks

課題テーマ毎にテキストとしてレジュメプリントを配付する。

参考文献 / Readings

斎藤月岑（朝倉治彦校注）『東都歳事記1～3（東洋文庫）』 平凡社 1970-1972

上野和男 他編 『民俗調査ハンドブック 新版』 吉川弘文館 1987 4642072683

福田アジオ 他編 『日本民俗大辞典 上・下』 吉川弘文館 1999-2000

民俗学事典編集委員会 編 『民俗学事典』 丸善出版 2014 9784621087732

滝口正哉 『江戸の祭礼と寺社文化』 同成社 2018 9784886217882

日本民具学会 編 『民具学事典』 丸善出版 2020 9784621304655

岩本通弥 他編 『民俗学の思考法』 慶應義塾大学出版会 2021 9784766427318

参考文献は随時指示する。

その他 / Others

授業形態はプリントを中心に、必要に応じて写真、映像資料を使用する。

課題に対するフィードバックについては、リアクションペーパーに対して次回授業時にフィードバックする。

博物館論演習

Seminar on Museum Studies

高木 真喜子 (TAKAGI MAKIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GB259
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CEM1910
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

ミュージアムおよびミュージアム・スタディーズに関するテキストを読み、博物館・美術館を対象とした研究における多様な視点や方法論について学ぶ。その上で、①自分なりの切り口からテーマを設定し、②資料を参考にしながら考察を深め、③それを論理的な文章としてまとめる力を養う。

授業の内容 / Course Contents

- 前半は主にテキストに基づいた意見交換を行う。
- 後半は担当を決めた発表と意見交換を行う。
- レポートの作成をとおして考察力や文章力を養うことに重点を置く。そのため、レポートは学期の最後に課すのではなく授業の中で着手し、意見交換や指導を重ねて書き直し、最終的に完成させたものを学習成果として提出することとする。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：テキストの内容理解と意見交換

- 3回：テキストの内容理解と意見交換
 4回：テキストの内容理解と意見交換
 5回：テキストの内容理解と意見交換
 6回：テキストの内容理解と意見交換
 7回：テキストの内容理解と意見交換
 8回：担当者による発表と意見交換
 9回：担当者による発表と意見交換
 10回：レポートのテーマ検討、意見交換
 11回：レポートのテーマ検討、意見交換
 12回：考察の経過報告、意見交換
 13回：考察の経過報告、意見交換
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ・立教大学 大学教育開発・支援センター発行の『Master of Writing』を読んでおく。
- ・授業に参加するにあたっては、指定されたテキストを必ず事前に読んでおく。
- ・発表担当者はプレゼンテーションのための PowerPoint 等を準備する。
- ・普段からミュージアムに関心を持って、美術館や博物館などの館園に足を運ぶよう心がけてください。学校・社会教育講座の資料室 (池袋) に、展覧会のチラシや割引券・招待券などが置いてありますので活用してください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参画度:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

- 木下直之編 『芸術の生まれる場』 東信堂 2009 -
 川口幸也編 『ミュージアムの憂鬱：揺れる展示とコレクション』 水声社 2020 -
 キャロル・ダンカン／川口幸也訳 『美術館という幻想—儀礼と権力』 水声社 2011 -

どのテキストをメインで使用するかは、履修者の専攻や習熟度をふまえて決めます。

いずれのテキストも学芸員課程から貸与、もしくは講読する部分をコピーして渡しますので、購入の必要はありません。

参考文献 / Readings

随時紹介します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業に関する連絡や課題提出には、原則として Canvas LMS を使用します。

図書館実習

Library Practicum

中村 百合子／片山 信子 (NAKAMURA YURIKO/KATAYAMA NOBUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GC310
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 通年他
単位： 2
科目ナンバリング： CEL4420
使用言語： 日本語
授業形式： 実習
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 学校・社会教育講座履修要項「司書課程 図書館司書コース 4 図書館実習」を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

司書課程図書館司書コースにおける図書館情報学の講義や演習で学んだ知識を、図書館現場における実際の仕事のなかで相互に結びあわせ、理解を深める。また、各人が自らの司書、ひいては図書館情報専門職としての可能性について考える。

授業の内容 / Course Contents

原則として、2024 年 8 月から 10 月の間に 2 週間、図書館等の現場において実習を行う。また学校図書館司書教諭コースの実習参加者とともに履修生全員で集まり、協働して実習のための事前準備を行い、事後の振り返りを行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：以下で構成する。

事前指導 2 回：事前指導 I は 2023 年度中に実施した。事前指導 II は 2024 年 6 月中の土曜日の 13:25～16:00 を予定している。

図書館実習： 原則として、2024 年 8 月から 10 月の間に 2 週間

事後指導 1 回：2024 年 11 月中の土曜日の 13:25～16:00 を予定している。

なお、事前指導、事後指導は終了時刻が若干遅くなる場合がある（最長 30 分）。

日時と場所については 2024 年度の R Guide に示すので、必ず確認のこと。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド（パワー等）の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	: ○	グループ発表	: ○	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	: ○	学内の教室外施設の利用	: ○	校外実習・フィールドワーク	: ○
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

先修科目が定められているので履修要項を確認のこと。

2023 年 12 月実施の事前指導 I に参加していない者は、この科目を履修することはできない。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 事前指導 I、事前指導 II、事後指導への参加と学習態度、実習館からの評価、実習記録、その他の提出物を総合的に評価する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

以下に該当する場合は単位を認めない。

- ・事前指導 I、事前指導 II、事後指導、図書館実習のいずれか 1 つでも無断で遅刻・早退・欠席した場合
- ・図書館実習に関わる提出物のいずれか 1 点でも期限内に提出しなかった場合

図書館実習（司書教諭）

Library Practicum (Teacher-librarian)

中村 百合子／片山 信子 (NAKAMURA YURIKO/KATAYAMA NOBUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GC350
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 通年他
単位： 2
科目ナンバリング： CES4420
使用言語： 日本語
授業形式： 実習
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 学校・社会教育講座履修要項「司書課程 学校図書館司書教諭コース 4 図書館実習（司書教諭）」を確認すること。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

司書課程図書館司書コースにおける図書館情報学の講義や演習で学んだ知識を、図書館現場における実際の仕事のなかで相互に結びあわせ、理解を深める。また、各人が自らの司書、ひいては図書館情報専門職としての可能性について考える。

授業の内容 / Course Contents

原則として、2024 年 8 月から 10 月の間に 2 週間、学校図書館の現場において実習を行う。また図書館司書コースの実習参加者とともに履修生全員で集まり、協働して実習のための事前準備を行い、事後の振り返りを行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：以下で構成する。

事前指導 2 回：事前指導 I は 2023 年度中に実施した。事前指導 II は 2024 年 6 月中の土曜日の 13:25～16:00 を予定している。

図書館実習：原則として、2024 年 8 月から 10 月の間に 2 週間

事後指導 1 回：2024 年 11 月中の土曜日の 13:25～16:00 を予定している。

なお、事前指導、事後指導は終了時刻が若干遅くなる場合がある（最長 30 分）。

日時と場所については 2024 年度の R Guide に示すので、必ず確認のこと。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	: ○	グループ発表	: ○	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	: ○	学内の教室外施設の利用	: ○	校外実習・フィールドワーク	: ○
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

先修科目が定められているので履修要項を確認のこと。

2023 年 12 月実施の事前指導 I に参加していない者は、この科目を履修することはできない。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 事前指導 I、事前指導 II、事後指導への参加と学習態度、実習館からの評価、実習記録、その他の提出物を総合的に評価する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

以下に該当する場合は単位を認めない。

- ・事前指導 I、事前指導 II、事後指導、図書館実習のいずれか 1 つでも無断で遅刻・早退・欠席した場合
- ・図書館実習に関わる提出物のいずれか 1 点でも期限内に提出しなかった場合

学校経営と学校図書館

School Administration and School Libraries

中村 百合子 (NAKAMURA YURIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GC351
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CES2000
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教育、学校教育、学校経営といった観点から、学校図書館と司書教諭の意義・使命・活動を考え、総合的な理解に至る。学校図書館に関わる基礎理論を理解する。

授業の内容 / Course Contents

毎授業時、事前に教科書の当該章を読んできるところを宿題とし、意見を表明することを求める。また、各授業について、履修生から進行役（ファシリテーター）と記録作成者（ノートテイカー）を各1名決めて実施する。全面的に、学生の主体的な授業参加を期待する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業の概要説明

第1章 司書教諭になるための学習

2 回：第2章 福島第一原子力発電所事故後の世界と新しい知的社会

3 回：第3章 これからの学校教育とあるべき学びの形

4 回：第4章 メディアと人間の循環

5 回：第5章 学校の中の図書館

- 6回：第6章 学校図書館の歴史（アメリカ）
 第7章 学校図書館の歴史（日本）
 7回：第8章 日本の学校図書館の現状
 8回：第9章 学校図書館の目的と機能
 9回：第10章 学校図書館の図書館サービス
 10回：第11章 学校図書館の教育活動
 11回：第12章 学校図書館の担当者
 第13章 学校図書館のマネジメント
 12回：第14章 学校図書館の設計（ゲストスピーカーのお話を予定）
 13回：最終テスト
 14回：テストの返却
 第15章 学校図書館研究と学校図書館の発展

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

初回授業には必ず出席のこと。またこのとき、教科書の第1章を読んてくること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席と積極的参加:40% 宿題（教科書を事前に読んでくる）:30% 最終テスト割合：:30%

テキスト / Textbooks

中村百合子編著 『学校経営と学校図書館 改訂』 樹村房 2022 9784883673612 ○

教科書は、必ず毎授業時、持参のこと。

参考文献 / Readings

初回の授業で示す。

その他 / Others

学校図書館司書教諭コースで最初に履修して欲しい科目である。

図書館実習に際して学校図書館を希望する者は、事前に必ず履修すること。

学習指導と学校図書館

Teaching, Guidance, and School Libraries

学び方の指導・情報活用能力の育成をデザインする司書教諭の仕事

青山 比呂乃 (AOYAMA HIRONO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	学校・社会教育講座
科目コード等：	GC352
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面（全回対面）
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CES3100
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

学校現場での学習と教授における各種メディアと図書館の効果的な活用、特に情報活用能力育成の指導法、学校におけるそれらのメディア整備と関連の図書館サービスの提供について理解を深める。そして、そうした教育活動を教員と協働して行うための基礎力を養う。

授業の内容 / Course Contents

現行の学習指導要領では、各教科の基礎的・基本的な知識・技能を「習得」し「活用」する活動を、教科を横断した「探究」へと発展させることが求められている。これから教職に就く者は、観察・実験をもとにレポートを作成し、文献等を読んで自分の考えをまとめて論述する活動（「活用」）や、自らの課題を迫及する活動（「探究」）を指導する能力を身につけておく必要がある。

そのために、本授業では教科書を用いて『学習指導と学校図書館』について解説、議論するとともに、生徒の立場で資料や情報を活用する学び方や課題解決型学習のプロセスを体験的に理解することを通して、受講者自らの情報リテラシーと思考法の向上をはかる。その活動をとおして、学校での授業の設計と実施について、司書教諭として教員らと協働するための基礎力を養う。この授業は講義および演習形式で行われる。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：学校教育と学校図書館
- 2回：教育課程の編成と学校図書館
- 3回：学習指導要領と学校図書館 各教科との協働に向けて
- 4回：学校図書館における情報活用能力の育成
- 5回：情報活用のプロセス・モデルの指導法 1)
- 6回：情報活用のプロセス・モデルの指導法 2)
- 7回：情報活用のプロセス・モデルの指導法 3)
- 8回：情報活用のプロセス・モデルの指導法 4)
- 9回：情報サービスと学校図書館
- 10回：学習指導を支えるコレクション形成と環境整備・ニーズに応じたメディア選択
- 11回：課題解決型学習の評価：評価の問題
- 12回：教科等の学習指導の実際，総合的な学習・探究の時間・特別な教育的ニーズと学校図書館：パスファインダー・授業案作成について
- 13回：学習指導にかかわる司書教諭の役割
- 14回：ふりかえりとまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に、PCを利用したプレゼン・レポート作成を開始し、作成方法を指示、実習するが、各自が授業中におこなうシミュレーション授業のプレゼンテーションおよび、シミュレーション生徒としてのレポート作成は時間外の作業が必要。授業中も、毎回PCを使ったレポート・プレゼン作成をするため、各自のPCを持参のこと。

なお、受講生の人数によって、プレゼン発表の授業計画日程を調整する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業での積極的参加（ディスカッションでの発言、コメント）：15% 模擬授業としてのプレゼンテーションとレポート：35% 授業内に指示した提出物：10% 最終テスト割合：40%

最終テストは、主にテキストの内容について行う。電子資料以外持ち込み可。

テキスト / Textbooks

「探究 学校図書館学」編集委員会編著 『学習指導と学校図書館』（探究 学校図書館学第3巻）全国学校図書館協議会 2020 9784793322761 ○

教科書は持込可の試験のためにも必要。

参考文献 / Readings

登本洋子（ほか） 『学びの技：14歳からの探究・論文・プレゼンテーション』改訂版 玉川大学出版部 2023.11 9784472406317

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回の授業は、各自がPCを持参していることを前提で進める。

その他/ Others

授業形態：教科書を用いた板書の講義とディスカッション，PCを用いた電子百科事典などを使ったプレゼン・レポート作成実習，発表，相互コメントを行う。毎回，ワープロ，インターネット，スライド作成ソフトを使用する。なお，受講者数により，演習・講義のスケジュールが前後する可能性がある。

注意事項

授業の進め方，プレゼンテーションの日程は，履修者数によって変わるが，希望調査の上，決定する。

読書と豊かな人間性

Study of Reading and the Media Center

学校教育における読書指導

中山 美由紀 (NAKAYAMA MIYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GC353

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CES2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

司書教諭として行う児童・生徒への読書指導の意義と方法を理解する。

授業の内容 / Course Contents

読書の意義と、児童・生徒の発達と成長や学習とのかかわりを講義する。

青少年の読書材と作家，子どもと本をつなぐ技術や指導方法を紹介するとともに，受講者にも読む，表現する営みを通しての理解を促す。

総合的に読書活動の推進者としての司書教諭の役割を討論も交えながら明らかにしていく。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業概要の説明

これまでの読書生活を振り返る

ブックスタート（赤ちゃん絵本等）について

2 回：読みの指導における学校図書館の役割

未就学児の読書生活（昔話と素話）と学校の読書生活

中間課題の提示

3回：読み聞かせの実際

(創作絵本と科学絵本)

4回：発達段階に応じた読書興味と読書指導

ノンフィクションのすすめ(たくさんのふしぎ等)

5回：読書資料の種類と特性(フィクションとノンフィクション)

コレクションの構築

新書を用いた読書活動の実際

6回：国語教科書にみるブックリストと学習指導要領における読みの指導

(伝記)

7回：中間課題の発表

(海外YA文学)

8回：教養としての読書

名作を読む手立てを考える

ロングセラーの作品と作家

9回：読書調査にみる子どもの実態と生活

読書推進運動協議会について

10回：ブックトークの実際・発表

(集団と個の営みについて)

11回：読書推進に関する国の施策と計画

地域連携

12回：多様な子どもの Specific needs に対応する読書活動

(バリアフリー資料)

13回：学校における読書生活の年間計画と実践

14回：まとめ

子どもを取り巻く読書の環境と課題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

児童・生徒が読む作品を実際に読みこんで活動を行ってこること、配付した資料をあらかじめ読んでこること、振り返ることなど、必要に応じて指示をする。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業態度:10% 授業内で作成する課題作品:30% 中間レポート:30%

最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

- 「探究 学校図書館学」編集委員会・編著 『読書と豊かな人間性』（探究 学校図書館学 4巻） 全国学校図書館協議会 2020 9784793322778
- 徐奈美 『今日から始めるブックトーク』 少年写真新聞社 2010 9784879813565
- 世界とつながる子どもの本棚プロジェクト 『多文化に会うブックガイド』 読書工房 2011 9784902666250
- 宇野和美ほか 『明日の平和をさがす本 戦争と平和を考える絵本から YA まで 300』 岩崎書店 2016 9784265802289
- ナンシー アトウェル 著 小坂敦子・澤田英輔・吉田新一郎 編訳 『イン・ザ・ミドル ナンシー・アトウェルの教室』 三省堂 2018 9784385360638
- 東京子ども図書館 『よみきかせのきほん——保育園・幼稚園・学校での実践ガイド（TCL ブックレット）』 東京子ども図書館 2018 9784885692277
- 児島陽子／入川加代子ほか 『多様なニーズによりそう学校図書館：特別支援学校の合理的配慮を例に』 少年写真新聞社 2019 9784879816894
- 読書工房編『読書バリアフリー 見つけよう！自分にあった読書のカタチ』国土社 2023
ISBN:9784337289505

その他 / Others

- 子ども読書の情報館 文部科学省 <https://www.kodomodokusyo.go.jp/>
- 公益法人 読書推進運動協議会 <http://www.dokusyo.or.jp/>
- 国際子ども図書館 <https://www.kodomo.go.jp/index.html>
- 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
- 先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース
<http://www.u-gakugei.ac.jp/~schoolib/htdocs/>
- 科学道 100 冊

情報メディアの活用

Utilization of Information Media

中村 百合子 (NAKAMURA YURIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GC354
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CES2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

新たに登場している情報メディアや電子情報資源の学校教育および学校図書館における活用のための基礎的な知識とスキルを育成する。

授業の内容 / Course Contents

学校図書館司書教諭が学校内でメディアと情報の専門家として、新たに登場している各種情報メディアや電子情報資源の教育および学習活動における活用を促進するための方策やリーダーシップのあり方を学ぶ。各教科の学習だけでなく、教科を横断する学習や教育課程全般における活用法を習得し創造する。下記の授業計画にあげる内容を学んでいくとともに、毎回の授業の冒頭は学生から、一週間の間に触れた情報の中で気になったひとつを語ってもらい、講師からコメントをすることで、受講生のメディアリテラシーと情報リテラシーを育成する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業の概要説明；参考文献および有用な情報源の紹介；ゲームの教育活用（ボードゲーム、カードゲーム、テレビゲーム、e スポーツなど）
- 2 回：各種メディアの発達；新しい情報機器と情報資源；オープン・ラーニング・イニシアチブおよびオープン

ン・サイエンスの思想と実践；テクノロジー疲れその他のメンタルヘルスの課題への対応法

3回：STEAMの思想と実践；メイカースペースとしての学校図書館；リーダーシップのあり方；学習指導案または教材作成課題のためのグループ分け

4回：メディアリテラシーと情報リテラシーの育成のモデルの活用（メディアと情報の評価を中心に）

5回：データベースと検索エンジンを用いた情報探索と情報検索の指導（前半）

6回：データベースと検索エンジンを用いた情報探索と情報検索の指導（後半）

7回：学習指導案または教材作成のグループワーク（アイディア出し）

8回：各種ソフトウェアを用いた情報の整理・統合・創造の指導（データの視覚化を中心に）

9回：デジタルシティズンシップ教育の思想と実践；著作権とプライバシーに関する指導

10回：動画共有サービスと各種SNSにおける情報発信の指導（デジタルストーリーテリングを中心に）

11回：学習指導案または教材の発表・検討会1）

12回：学習指導案または教材の発表・検討会2）

13回：学習指導案または教材の発表・検討会3）

14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の進行によって、授業計画を変更する場合がある。

グループ発表のためのグループワークは、授業以外の時間でも行う必要がある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席と積極的な参加:20% 電子掲示板でのディスカッションへの貢献:20% グループ発表:30% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

初回の授業で示すと共に、授業の進行とともに、インターネット上の情報源を含めて追加で紹介していく。

図書館制度・経営論

Library Management and Systems

棚橋 佳子 (TANAHASHI YOSHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GC361
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CEL2000
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

図書館を制度と経営という視点から理解し、図書館や情報を扱う組織の課題を考える。また組織の経営やマーケティングについて基礎知識を習得し、社会環境の変化に合わせて、現代の図書館制度・運営における改革・改善の方法論を考える。

授業の内容 / Course Contents

対象は図書館法上の公共図書館と、館種を超えた多様な図書館を考慮しながら、組織の経営やマーケティングについて理解を深める。図書館に関わる諸法規や基準、図書館の使命、目標、評価の方法を学び、図書館活動の企画運営に関する知識を深める。小グループで任意に選んだ公共図書館について、その活動の現状をクロス SWOT 分析し発表する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業概要の説明 図書館を取り巻く法律や制度：図書館法の成り立ち
- 2 回：経営、マーケティングとは何か
- 3 回：図書館の経営
- 4 回：図書館サービスの設計

- 5回：情報資源の経営
 6回：図書館施設の経営
 7回：人的資源の経営/図書館管理形態の多様化
 8回：図書館財務、外的資金との連携
 9回：経営戦略策定のための調査・分析
 10回：PRとマーケティング
 11回：SWOT分析による図書館の現状分析
 12回：戦略アクションプラン発表
 13回：最終テスト
 14回：復習最終テストの復習・解説・まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

初回授業にて指示する： 授業の予習として、LMS上に示される授業投影スライドから、授業前半の講義内容の目標を確認し、授業後には、修得すべき講義内容を復習する。授業後半のグループディスカッションに用いる課題文献を読んで、リアクションペーパーを準備する。授業後には、リアクションペーパーを仕上げ提出する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への出席と積極的参加:20% リアクションペーパー:20% グループワーク課題発表:20% 最終テスト割合 :40%

テキスト / Textbooks

特に使用しない。LMSを使用して、資料を配布します。

参考文献 / Readings

授業時に指示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Canvas LMS内のメールが受信できるように、各自メール設定を完了しておくこと。

図書館情報技術論

Library Information Technology

中島 玲子 (NAKAJIMA REIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GC362
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CEL2000
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

変化の激しい高度情報社会において、情報基盤として図書館の役割はますます大きくなっていく。図書館における情報技術（IT）活用の現状を知り、司書として必要な情報技術に関する基礎的な知識と技術を身につける。

コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、コンピュータシステム、データベース、セキュリティ、検索エンジン、電子資料、等について理解し、図書館業務に必要な基礎的な情報技術を習得することを目標とする。

授業の内容 / Course Contents

講義および視聴覚資料を適宜利用する。

対面授業に参加できない事情がある場合は、担当教員との相談により教科書の指定範囲と授業支援システム（LMS）に配信する授業資料により学習し、期日内に課題を提出する。

事前に教科書の各回の該当箇所を通読しておく。また事後においては復習および講義ノートの整理、用語の確認をしておくこと。

授業で紹介したシステムや図書館のサービス等について、実際に自分で利用するなどして浸透度やインターフェースなどを確かめることが望ましい。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：情報技術と社会：身の回りの情報技術と生活の変化について認識を深め、授業カリキュラムと到達目標について理解する。
- 2回：コンピュータの歴史・情報倫理：コンピュータの誕生から進化の過程を理解する。高度情報社会において注意すべき情報倫理について理解する。教科書第3章。
- 3回：データベースの種類と構造・演習課題出題：データベースの種類について、使用目的や技術的による分類について知る。またデータベースの構造について理解する。教科書第4章。
- 4回：検索エンジン（サーチエンジン）の仕組み：Web ページを表示する仕組みと身近な検索システムである検索エンジンと種類について知る。教科書第2章(3)と第5章。
- 5回：電子資料の活用(1)電子資料の管理技術：電子ジャーナルや電子書籍について、活用の実例を閲覧しながら活用方法、長所・短所などを知る。教科書第8章および p111。
- 6回：電子資料の活用(2)電子図書館の機能を支える情報技術：図書館サービスの電子化に使われる情報技術とデジタルアーカイブについてインターネット上の情報源や動画などを交えながら理解を深める。教科書第9章。
- 7回：データベース構築とデータ収集の実際・演習課題のレビュー：演習課題の授業内レビューを行い、データベース構築とデータ収集の実際を体験する。
- 8回：コンピュータとネットワーク(1)コンピュータの仕組みとデータの扱い：コンピュータの仕組みや入出力装置、データの扱いや文字コードの問題などについて知る。教科書第1章。
- 9回：コンピュータとネットワーク(2)ネットワークの基礎とインターネット：日常的に利用しているネットワークやインターネットの仕組みと基本的な用語や技術について理解を深める。教科書第2章。
- 10回：コンピュータシステム管理：基本ソフト（OS）の基礎と役割について知る。コンピュータやネットワークの脅威について知る。教科書第6章前半。
- 11回：情報システムのセキュリティ：情報システムの脆弱性を排除するためのセキュリティ対策や暗号などの技術について学ぶ。教科書第6章後半。
- 12回：情報技術と図書館(1)図書館における情報技術活用の現状：図書館の業務やサービスを行なう図書館システムを概観し、個々の役割について理解する。図書館で使われるシステムの進化の過程を知る。教科書第7章前半。
- 13回：情報技術と図書館(2)図書館業務システムの変化：図書館業務システムに使われている技術や個別のシステムについて、インターネット上の情報源や動画などを交えながら理解を深める。図書館の業務システムの導入の留意点について知る。教科書第7章後半。
- 14回：授業総括および授業内テスト：1回から14回までの講義を振り返り、今学期学んだ知識をしっかりと身につける。授業内でテストを行う。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

第1回目までにシラバスを一読する。第2回以降はシラバスに示す教科書の範囲を確認する予習や授業内レビューの準備を各自行う。毎回の講義内容を説明できるように復習する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習課題:10% チェック課題（理解度確認テスト）14*4%:56% 最終テスト
割合 :34%

テキスト / Textbooks

岡 紀子, 田中 邦英ほか 『3訂 図書館と情報技術』 樹村房 2023 9784883673742 ○

参考文献 / Readings

中島玲子ほか 『スキルアップ! 情報検索 基本と実践 新訂第2版』 日外アソシエーツ 2021
9784816928628

その他 / Others

積極的な授業参加およびコメントを期待する。

講義は教科書に沿って進める。毎回持参すること。

図書館サービス概論

Introduction to Library Services

中村 佳史 (NAKAMURA YOSHIFUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GC363

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）以下の回をオンラインにて実施する予定である。

第5回 情報提供サービス

第6回 資料提供サービス

第11回 これからの図書館サービス（3）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CEL1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

図書館が提供している多様なサービスを理解し、現在取組まれている様々な事例を通して、図書館が今後果たしていくべき、あるいは重視していくべきサービスについて考察する。とくに「情報」をキーワードに、図書館の可能性や、それを支える図書館員の役割について、自分自身の考えを深めることを目標とする。

授業の内容 / Course Contents

図書館サービスを支える理念を理解しながら、具体的かつ実践的な活動を紹介する。さまざまな事例について、その内容や意義を学びつつ、公共図書館を中心に、図書館がどのようなサービスを展開できるか、またその展開のなかで図書館員がどのような役割を果たせるかについて、各自で考え、発表を行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション

講義の概要と進め方などについて説明する

2回：図書館サービスの概要と変遷について

図書館サービスの概要、歴史的経緯を知るとともに、その役割や意義について考える

3回：図書館サービスの理念について

図書館サービスを支える理念について学ぶ

4回：図書館サービスの種類と方法

基本的な図書館サービスについて学ぶ

5回：情報提供サービス

国立国会図書館などを事例に、情報提供サービスの現状と今後について考える。

6回：資料提供サービス

公共図書館を事例に、資料提供サービスや利用者特性に応じたサービスの現状と今後について考える。

7回：レファレンスサービス

大学図書館なども参考に、レファレンスサービスや情報リテラシー教育の現状と今後について考える。

8回：外部機関連携サービス

専門図書館なども参考に、図書館利用に関する広報や外部機関との連携の現状と今後について考える。

9回：これからの図書館サービス (1)

レファレンスサービスの充実について、最新事例を通して考える。

10回：これからの図書館サービス (2)

課題解決支援機能の強化について、最新事例を通して考える。

11回：これからの図書館サービス (3)

デジタル情報の活用について、最新事例を通して考える。

12回：これからの図書館サービス (4)

地域の情報拠点としての機能について、最新事例を通して考える。

13回：これからの図書館サービス (5)

ミュージアムや他機関との連携について、最新事例を通して考える。

14回：全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

まずは身近な大学図書館や公共図書館等で、図書館サービスを見学したり、実際に経験したりしてください。また図書館に限らず、情報サービスを担っているパブリックな場について、日常的に観察してください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内で指示するワークシート等:40% 各回のリアクションペーパーの内容:20%

最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

必要に応じてプリント等を配布する。

参考文献 / Readings

適宜提示する。

情報サービス論

Study of Library Services

吉田 倫子 (YOSHIDA MICHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GC364
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CEL2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： この科目の単位修得が秋学期「情報検索演習」及び「情報サービス演習」履修の必須条件となる。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、図書館のレファレンスを始めとする様々な情報サービスの方法、情報源、利用者教育などの現状を知ることができます。そして、これからの社会の中で図書館の情報サービスはどうかを想像し、説明する事ができるようになります。また、情報の重要性を理解し、その探索・評価・活用法を身につけることができます。

授業の内容 / Course Contents

この授業では図書館における、レファレンスサービスを始めとする様々な情報サービスの方法や情報源、利用者教育などについて、教員の実務経験等による豊富な実践例を紹介しながら解説します。教員が協力・監修を務めたレファレンスマンガ『夜明けの図書館』等を活用し、利用者がレファレンスで変わっていく姿をリアルに想像できるような授業を行います。デジタルネイティブである学生の皆さんと一緒に、これからの図書館の情報サービスがどうあるべきか、その方向性を考えます。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス、情報社会と図書館の情報サービス

- 2回：図書館における情報サービスの種類
 3回：レファレンスサービスの理論と実際Ⅰ～レファレンスインタビュー
 4回：レファレンスサービスの理論と実際Ⅱ～レファレンスプロセス
 5回：情報検索の理論と方法
 6回：図書館利用教育
 7回：発信型情報サービスの意義と方法
 8回：情報サービス各論（課題解決型サービスなど）
 9回：各種情報源Ⅰ～その特徴と利用法
 10回：各種情報源Ⅱ～図書館で参考文献を使ってみる（図書館実習）
 11回：各種情報源Ⅲ～各種情報源の解説と評価
 12回：各種情報源Ⅳ～各種情報源の組織化
 13回：期末課題発表会
 14回：「情報サービス」の展望と課題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前・事後に指示する文書は期日までにお読みください。また毎回、授業内容に応じて課題（振り返りワーク等）を提出していただきます。

後半、期末課題のための調査や発表準備（PPT等作成）時間も必要となります。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加（積極的に質問や意見を発し、授業に参加している。）：20% 授業課題（リアクションペーパー等；設問回答に意欲的に取り組み、自らの発見や意見など考えを記述している。）：50% 期末課題（授業で扱ったテーマを理解し、文献等を参照して適切な根拠を元に持論を展開できる。）：30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

埜納タオ 『夜明けの図書館』（全7冊，JOUR COMICS）. 双葉社 2011-2021

山口真也,千錫烈,望月道浩 『情報サービス論』（講座・図書館情報学;6） ミネルヴァ書房 2018
9784623082582

長澤雅男,石黒祐子 『問題解決のためのレファレンスサービス 改訂版』 日本図書館協会 2023
9784820423058

長澤雅男,石黒祐子 『レファレンスブックス 選びかた・使いかた 四訂版』 日本図書館協会 2018
9784820420019

小林昌樹 『調べる技術 国会図書館秘伝のレファレンス・チップス』 皓星社 2022 9784774407760

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

パソコン

その他 / Others

授業形態： パワーポイントを使用した講義形式で、現物資料等を適宜使用します。図書館での実習があります。学生の感想の共有や、学生から発表（プレゼンテーション）を行う機会を設け、双方向の学びを工夫します。

課題等へのフィードバックの方法： リアクションペーパーは次回授業で共有してコメントを返して解説を行う反復学習を行います。

この科目の単位習得が秋学期「情報検索演習」及び「情報サービス演習」履修の必須条件となります。

児童サービス論（A）

Study of Children's Services(A)

公共図書館が提供する子どもを対象にするサービスについての
専門的な知識と技能を学ぶ

青柳 啓子 (AOYAGI KEIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	学校・社会教育講座
科目コード等：	GC365
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CEL2100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	「児童サービス論（B）」と同一科目

授業の目標 / Course Objectives

公共図書館で提供する子ども向けの資料、各種サービスについて総合的に理解し、これからの望ましい児童サービスについて自らの視点で意見を述べることができる。子どもと本を結ぶ技術を習得する。

授業の内容 / Course Contents

①子どもの特性について ②各種児童資料について ③子どもと本を結ぶ技術について の3点を中心に、実際の児童サービスの事例を参考にしながら実践的に学んでいく。③についてはワークショップ形式で図書館現場に適用できる力を養成する。

諸外国の先進的な例にも触れ、現代社会における児童サービスの意義を多角的にとらえる。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション：講義の方針 / 授業内予定の演習とその準備について / 中間レポートと最終レポート / 児童サービスの定義と意義

2 回：子どもの発達段階と読書：年齢による読書興味 / IFLA とは:ガイドライン / 海外の児童サービス：ニュ

ーヨーク公共図書館の例 / グループディスカッション

3回：ヤングアダルト資料とサービス：サービス誕生の背景と現状・YA新書 / 児童サービスを提供する施設・設備：場としての図書館の魅力とは / ビブリオバトル

4回：ビブリオバトル演習 / 絵本 / グループディスカッション

5回：様々な読書推進の方法と特徴 / ストーリーテリング・読み聞かせ・ブックトーク

6回：読み聞かせ演習 / (中間レポート：図書館訪問レポート提出)

7回：児童資料の種別・ジャンル・特性 / フィクション / 中間レポートによるグループディスカッション

8回：児童資料：ノンフィクション：科学読み物・伝承文学 / レファレンスサービス / グループディスカッション

9回：ゲスト講師による講義

10回：児童書の新テーマ / 多文化共生社会へ / 特別なニーズを持つ子どもへの資料とサービス / グループディスカッション

11回：児童コレクションの構築 / DX時代の児童サービス / メイカースペース / 読書感想文

12回：読書へのアニメーション：講義と演習

13回：子どもの読書と法律 / ブックスタート / 著作権 / グループディスカッション

14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:		:			:		

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ・身近な公共図書館の児童サービスについて、講義の初回から1ヵ月以内に実際に現地を訪問して、レポートにまとめる。
- ・授業内で行うグループディスカッションまたは演習について準備する。
- ・授業の発表で使う児童資料は、各自で準備する。
- ・その他の授業の準備や課題については、各回に指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への出席と積極的参加:20% 授業内での課題発表:30% 中間レポート:20%
最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

堀川照代 『児童サービス論 新訂版』 日本図書館協会 2020 9784820419099 ○

参考文献 / Readings

リリアン・H・スミス 『児童文学論』 (岩波現代文庫) 岩波書店 2016 9784006022822

菅谷明子 『未来をつくる図書館』 (岩波新書) 岩波書店 2003 9784004308379

アントネッラ・アンニョリ 『拝啓 市長さま、こんな図書館をつくりましょう』 みすず書房 2016
9784622079378

マリア・モンセラット・サルト 『読書へのアニメーションー75の作戦』 柏書房 2001 9784760120307

吉田 右子 『オランダ公共図書館の挑戦』 新評論 2018 9784794811028

ジャンニ・ロダーリ 『ファンタジーの文法』 筑摩書房 1990 9784480024817

東京子ども図書館 『よみきかせのきほん』 東京子ども図書館 2018 9784885692277

その他は授業で提示

その他/ Others

初回の授業には必ず出席すること。

児童サービス論（B）

Study of Children's Services(B)

公共図書館が提供する子どもを対象にするサービスについての
専門的な知識と技能を学ぶ

青柳 啓子 (AOYAGI KEIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	学校・社会教育講座
科目コード等：	GC366
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CEL2100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	「児童サービス論（A）」と同一科目

授業の目標 / Course Objectives

公共図書館で提供する子ども向けの資料、各種サービスについて総合的に理解し、これからの望ましい児童サービスについて自らの視点で意見を述べることができる。子どもと本を結ぶ技術を習得する。

授業の内容 / Course Contents

①子どもの特性について ②各種児童資料について ③子どもと本を結ぶ技術について の3点を中心に、実際の児童サービスの事例を参考にしながら実践的に学んでいく。③についてはワークショップ形式で図書館現場に適用できる力を養成する。

諸外国の先進的な例にも触れ、現代社会における児童サービスの意義を多角的にとらえる。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション：講義の方針 / 授業内予定の演習とその準備について / 中間レポートと最終レポート / 児童サービスの定義と意義

2 回：子どもの発達段階と読書：年齢による読書興味 / IFLA とは:ガイドライン / 海外の児童サービス：ニュ

ーヨーク公共図書館の例 / グループディスカッション

3回：ヤングアダルト資料とサービス：サービス誕生の背景と現状・YA新書 / 児童サービスを提供する施設・設備：場としての図書館の魅力とは / ビブリオバトル

4回：ビブリオバトル演習 / 絵本 / グループディスカッション

5回：様々な読書推進の方法と特徴 / ストーリーテリング・読み聞かせ・ブックトーク

6回：読み聞かせ演習 / (中間レポート：図書館訪問レポート提出)

7回：児童資料の種別・ジャンル・特性 / フィクション / 中間レポートによるグループディスカッション

8回：児童資料：ノンフィクション：科学読み物・伝承文学 / レファレンスサービス / グループディスカッション

9回：ゲスト講師による講義

10回：児童書の新テーマ / 多文化共生社会へ / 特別なニーズを持つ子どもへの資料とサービス / グループディスカッション

11回：児童コレクションの構築 / DX時代の児童サービス / メイカースペース / 読書感想文

12回：読書へのアニメーション：講義と演習

13回：子どもの読書と法律 / ブックスタート / 著作権 / グループディスカッション

14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:		:			:		

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・身近な公共図書館の児童サービスについて、講義の初回から1ヵ月以内に実際に現地を訪問して、レポートにまとめる。
- ・授業内で行うグループディスカッションまたは演習について準備する。
- ・授業の発表で使う児童資料は、各自で準備する。
- ・その他の授業の準備や課題については、各回に指示する。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分:111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への出席と積極的参加:20% 授業内での課題発表:30% 中間レポート:20%
最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

堀川照代 『児童サービス論 新訂版』 日本図書館協会 2020 9784820419099 ○

参考文献 / Readings

リリアン・H・スミス 『児童文学論』(岩波現代文庫) 岩波書店 2016 9784006022822

菅谷明子 『未来をつくる図書館』(岩波新書) 岩波書店 2003 9784004308379

アントネッラ・アンニョリ 『拝啓 市長さま、こんな図書館をつくりましょう』 みすず書房 2016
9784622079378

マリア・モンセラット・サルト 『読書へのアニメーションー75の作戦』 柏書房 2001 9784760120307

吉田 右子 『オランダ公共図書館の挑戦』 新評論 2018 9784794811028

ジャンニ・ロダーリ 『ファンタジーの文法』 筑摩書房 1990 9784480024817

東京子ども図書館 『よみきかせのきほん』 東京子ども図書館 2018 9784885692277

その他は授業で提示

その他/ Others

初回の授業には必ず出席すること。

情報検索演習（A）

Training in Information Retrieval(A)

ネットワークとデータベースを活用した情報の探索

山田 翔平 (YAMADA SHOHEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GC367

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CEL3110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 春学期「情報サービス論」を修得済の者対象。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 「情報検索演習（B）」と同一科目

授業の目標 / Course Objectives

いまや情報検索は日常的な行為であるが、図書館員（司書）は、一般利用者よりもはるかに専門的な情報検索の知識と技能を身につけていなければならない。本授業では、コンピュータ上に蓄積された膨大な情報の中から、ネットワークを利用して、図書館利用者の要求を満たす情報を迅速・的確・効率的に検索するための基礎的な知識と実践的技術を習得する。

授業の内容 / Course Contents

授業は毎回、前半で講義、後半で実習を行う。前半の講義では、情報検索の基礎知識と初歩的な理論、データベースと情報検索システムの基本的な仕組みなどを学習する。さらに関連する課題にその場で取り組んでもらうこともある。後半の実習では、オンラインデータベースやウェブで利用可能な無料検索システムなどを用い、与えられた検索問題に回答するために実際に検索を行う。答え合わせは、一定時間後に、その場でインタラクティブに行い、解説する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業の概要説明および導入

- 2回：情報検索と情報要求の3つのタイプ
 3回：情報検索の一般的手法
 4回：データベースの基礎知識
 5回：特別講義：立教大学図書館 OPAC と契約データベースの使い方
 6回：情報検索の評価
 7回：検索語と索引語(1)：語彙統制
 8回：検索語と索引語(2)：件名標目表とシソーラス
 9回：文献検索サービス
 10回：インターネット検索(1)：WWW とサーチエンジン
 11回：インターネット検索(2)：ウェブ情報の信頼性の判定
 12回：情報検索の現在と未来(1)：新しいアクセスポイント
 13回：情報検索の現在と未来(2)：生成 AI を用いた情報検索
 14回：小テストおよび解説

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。予習・復習に関する情報は Canvas LMS に逐次追加する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レポート 3 回:50% 出席および授業参加度:15% 最終テスト割合 :35%

テキスト / Textbooks

特に使用しない。毎回プリントを配付し、さらに本科目の Canvas LMS 上で資料紹介や情報提供を行う。

参考文献 / Readings

授業中および本科目の Canvas LMS 上で適宜紹介する。

その他 / Others

課題の提出や各種資料の配付には本科目の Canvas LMS を活用する。

注意事項

履修に際しては、司書課程 Canvas LMS で詳細を確認のこと。

情報検索演習（B）

Training in Information Retrieval(B)

ネットワークとデータベースを活用した情報の探索

山田 翔平 (YAMADA SHOHEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GC368

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CEL3110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 春学期「情報サービス論」を修得済の者対象。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 「情報検索演習（A）」と同一科目

授業の目標 / Course Objectives

いまや情報検索は日常的な行為であるが、図書館員（司書）は、一般利用者よりもはるかに専門的な情報検索の知識と技能を身につけていなければならない。本授業では、コンピュータ上に蓄積された膨大な情報の中から、ネットワークを利用して、図書館利用者の要求を満たす情報を迅速・的確・効率的に検索するための基礎的な知識と実践的技術を習得する。

授業の内容 / Course Contents

授業は毎回、前半で講義、後半で実習を行う。前半の講義では、情報検索の基礎知識と初歩的な理論、データベースと情報検索システムの基本的な仕組みなどを学習する。さらに関連する課題にその場で取り組んでもらうこともある。後半の実習では、オンラインデータベースやウェブで利用可能な無料検索システムなどを用い、与えられた検索問題に回答するために実際に検索を行う。答え合わせは、一定時間後に、その場でインタラクティブに行い、解説する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業の概要説明および導入

- 2回：情報検索と情報要求の3つのタイプ
 3回：情報検索の一般的手法
 4回：データベースの基礎知識
 5回：特別講義：立教大学図書館 OPAC と契約データベースの使い方
 6回：情報検索の評価
 7回：検索語と索引語(1)：語彙統制
 8回：検索語と索引語(2)：件名標目表とシソーラス
 9回：文献検索サービス
 10回：インターネット検索(1)：WWW とサーチエンジン
 11回：インターネット検索(2)：ウェブ情報の信頼性の判定
 12回：情報検索の現在と未来(1)：新しいアクセスポイント
 13回：情報検索の現在と未来(2)：生成 AI を用いた情報検索
 14回：小テストおよび解説

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。予習・復習に関する情報は Canvas LMS に逐次追加する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レポート 3 回:50% 出席および授業参加度:15% 最終テスト割合 :35%

テキスト / Textbooks

特に使用しない。毎回プリントを配付し、さらに本科目の Canvas LMS 上で資料紹介や情報提供を行う。

参考文献 / Readings

授業中および本科目の Canvas LMS 上で適宜紹介する。

その他 / Others

課題の提出や各種資料の配付には本科目の Canvas LMS を活用する。

注意事項

履修に際しては、司書課程 Canvas LMS で詳細を確認のこと。

情報サービス演習（A）

Training in Information Service(A)

未定（）

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GC369
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CEL3110
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「情報サービス論」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 「情報サービス演習（B）」と同一科目

授業の目標 / Course Objectives

「情報サービス論」で学習した基礎知識を元に情報サービスの演習を行います。演習のねらいは以下の通り：

- 1) 理論と実践を結びつける
- 2) 各種情報サービスに必要なスキルの練習
- 3) 問題解決のためのさまざまなアプローチの理解
- 4) コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキルの向上

授業の内容 / Course Contents

情報サービスに関する以下の講義、演習を行います：

- 1) レファレンスツールの種類、評価
- 2) レファレンスインタビューと質問回答のための情報探索
- 3) 図書館利用教育、情報リテラシー教育の企画
- 4) 発信型情報サービスの実践

講義を行う回は、授業中、授業最後のリアクションペーパーにより講義内容の理解度を確認することがあります。演習は内容に応じて小グループでのグループワーク、個人課題のいずれかの形式で行います。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業説明
- 2 回：情報サービスの動向
- 3 回：レファレンスツールの種類、レファレンスコレクションの構築
- 4 回：レファレンスツール比較演習（1）
- 5 回：レファレンスツール比較演習（2）
- 6 回：レファレンスサービス、レファレンスインタビュー
- 7 回：レファレンス質問回答演習（1）
- 8 回：レファレンス質問回答演習（2）
- 9 回：レファレンス質問回答演習（3）
- 10 回：図書館利用教育と情報リテラシー教育
- 11 回：図書館利用教育／情報リテラシー教育演習
- 12 回：発信型情報サービス
- 13 回：パスファインダー作成演習（1）
- 14 回：パスファインダー作成演習（2）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：							

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

演習のための準備（小課題、リーディング等）が指示された場合は授業開始までにそれらを終わらせておく必要があります。演習のための個人課題、グループワークを授業時間外に行うよう指示することがあります。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各演習の成果物 (20%×4) :80% 授業・演習への積極的な参加:20%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

山口真也、千錫烈、望月道浩（編著） 『情報サービス論：情報と人びとをつなぐ図書館員の専門性』 ミネルヴァ書房 2018 9784623082582

上記以外の参考文献に関しては授業中に適宜指示し、Canvas LMS を使用して共有します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

学修支援システムとして Canvas LMS を使用する予定です。

その他 / Others

リアクションペーパー、演習の成果物については、授業中や次回授業時にフィードバックを行います。

注意事項

履修に際しては、司書課程 Canvas LMS で詳細を確認のこと。

情報サービス演習（B）

Training in Information Service(B)

未定（）

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GC370
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CEL3110
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「情報サービス論」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 「情報サービス演習（A）」と同一科目

授業の目標 / Course Objectives

「情報サービス論」で学習した基礎知識を元に情報サービスの演習を行います。演習のねらいは以下の通り：

- 1) 理論と実践を結びつける
- 2) 各種情報サービスに必要なスキルの練習
- 3) 問題解決のためのさまざまなアプローチの理解
- 4) コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキルの向上

授業の内容 / Course Contents

情報サービスに関する以下の講義、演習を行います：

- 1) レファレンスツールの種類、評価
- 2) レファレンスインタビューと質問回答のための情報探索
- 3) 図書館利用教育、情報リテラシー教育の企画
- 4) 発信型情報サービスの実践

講義を行う回は、授業中、授業最後のリアクションペーパーにより講義内容の理解度を確認することがあります。演習は内容に応じて小グループでのグループワーク、個人課題のいずれかの形式で行います。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業説明
- 2 回：情報サービスの動向
- 3 回：レファレンスツールの種類、レファレンスコレクションの構築
- 4 回：レファレンスツール比較演習（1）
- 5 回：レファレンスツール比較演習（2）
- 6 回：レファレンスサービス、レファレンスインタビュー
- 7 回：レファレンス質問回答演習（1）
- 8 回：レファレンス質問回答演習（2）
- 9 回：レファレンス質問回答演習（3）
- 10 回：図書館利用教育と情報リテラシー教育
- 11 回：図書館利用教育／情報リテラシー教育演習
- 12 回：発信型情報サービス
- 13 回：パスファインダー作成演習（1）
- 14 回：パスファインダー作成演習（2）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：							

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

演習のための準備（小課題、リーディング等）が指示された場合は授業開始までにそれらを終わらせておく必要があります。演習のための個人課題、グループワークを授業時間外に行うよう指示することがあります。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各演習の成果物 (20%×4) :80% 授業・演習への積極的な参加:20%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

山口真也、千錫烈、望月道浩（編著） 『情報サービス論：情報と人びとをつなぐ図書館員の専門性』 ミネルヴァ書房 2018 9784623082582

上記以外の参考文献に関しては授業中に適宜指示し、Canvas LMS を使用して共有します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

学修支援システムとして Canvas LMS を使用する予定です。

その他 / Others

リアクションペーパー、演習の成果物については、授業中や次回授業時にフィードバックを行います。

注意事項

履修に際しては、司書課程 Canvas LMS で詳細を確認のこと。

図書館情報資源概論

Introduction to Library Information Resources

長谷川 優子 (HASEGAWA YUUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GC371
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CEL1200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

授業のテーマ及び到達目標

- 「図書館情報資源」の類型や特徴、歴史的背景を把握し、説明することができる。また昨今のデジタルコンテンツに関わる図書館の方向性にも留意することができる。
- コレクション形成の意義とプロセスを理解し、基本的知識をもとに実行することができ、また関連する諸課題について、説得力ある意見を述べることができる。
- 形成されたコレクションを評価し、的確な再形成を企画提案することができる。

授業の内容 / Course Contents

各情報資源の特徴、入手方法などコレクション形成に不可欠な基礎知識を把握した上で、現場でのコレクション形成の各側面での諸課題（選書論、著作権、「図書館の自由」、出版流通）を取り上げ、実践力につなげていきます。講義とグループワークを組み合わせる実施予定。グループワークは、事前課題に基づいて行う予定です。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス 図書館と「情報資源」とは

- 2回：図書館情報資源の歴史と図書館のこれまで
 3回：印刷資料
 4回：非印刷資料・読書バリアフリーのための情報資源
 5回：電子資料① 電子書籍・データベース・ネットワーク情報資源
 6回：電子資料② 灰色文献・地域資料とデジタルアーカイブ
 7回：出版・流通構造の変化と収集
 8回：コレクション形成のプロセスと意義
 9回：事例に学ぶ収集の実際、選定のための情報源、人文・社会科学分野の情報資源とその特性、科学技術分野、生活分野の情報資源とその特性
 10回：コレクション形成と知的自由（「図書館の自由」）
 11回：コレクションの評価法と再形成
 12回：組織化と保存、資源共有
 13回：授業内確認小テストとコレクション分析のための振り返り
 14回：授業内小テスト解説
 学生による図書館コレクション分析報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 事前課題提出（原則毎時）：40% グループワークへの積極的参加：10% 図書館コレクション分析レポート：30% 最終テスト：20%

特別な事情がなく欠席回数が4回を超えた者は、評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

馬場俊明 『図書館情報資源概論（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ-8）』 日本図書館協会 2024
 9784883673384 ○

参考文献 / Readings

竹内愨 『生きるための図書館 一人ひとりのために』 岩波書店 2019 9784004317838

蛭田廣一 『地域資料サービスの実践 補訂版』 日本図書館協会 2023 9784820422143

図書館雑誌編集委員会 『図書館雑誌』 日本図書館協会

初回のガイダンスのほか、随時紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配布、授業中の課題の提出には CanvasLMS を使用するため、閲覧記述可能な機器の持ち込みを推奨する。

国立国会図書館のデジタルコレクション等 WEB 上の電子資料のアクセス等が可能な機器の持ち込みを推奨する。

その他/ Others

自宅のある自治体の図書館、もしくは

豊島区立図書館に登録し、公共図書館の電子図書館サービスが利用可能な環境としておいて下さい。

TRC 豊島電子図書館

<https://web.d-library.jp/trctoshima/g0102/libcontents/search/?gid=1016&pkn=TRC->

[DL%E3%83%9E%E3%82%AC%E3%82%B8%E3%83%B3%E3%80%80%E9%9B%BB%E5%AD%90%E9%9B%91%E8%AA%8C%E9%96%B](https://web.d-library.jp/trctoshima/g0102/libcontents/search/?gid=1016&pkn=TRC-DL%E3%83%9E%E3%82%AC%E3%82%B8%E3%83%B3%E3%80%80%E9%9B%BB%E5%AD%90%E9%9B%91%E8%AA%8C%E9%96%B)

情報資源組織論

Study of Organization of Information Resources

松山 巖 (MATSUYAMA IWAO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GC372
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CEL2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： この科目の単位修得が秋学期「メタデータ演習」及び「情報アーキテクチャ演習」履修の必須条件となる。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

司書課程の必修科目の一つです。情報資源の組織化の意義と内容を十分に理解し、説明することができ、また実際の組織化業務に役立てられることを目標とします。

授業の内容 / Course Contents

図書館は情報資源（たとえば図書）を入手すると、タイトルや著者名といった書誌情報を一定のルール（目録規則）に基づいてコンピュータに入力（以前はカードに記入）して、目録を作成します。また、情報資源の主題を分析して、記号や言葉で表します。これらのプロセスを情報資源の組織化といい、情報を効果的に探すために欠かせない作業です。本講義ではその基礎知識を身につけ、「メタデータ演習」及び「情報アーキテクチャ演習」への足がかりとします。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：情報資源組織とは何か：その意義と理論，既知資料検索と未知資料検索，書架分類法と目録法，書誌記述とアクセスポイント

2 回：目録法の基本的な考え方（従来の）：カードと OPAC，識別機能と集中機能，記述と標目，基本記入と等

価標目

- 3回：目録法の基本的な考え方（最近の）：目録の機能，典拠コントロール，著作と版
 4回：データベース設計の基礎：リレーショナルデータベース，実体・属性・関連
 5回：FRBRモデル，実体の属性，実体に対する統制形アクセスポイント，実体間の関連
 6回：インターネットとウェブ，OPAC，MARCとMARCフォーマット，分担目録作業
 7回：メタデータ概説：メタデータスキーマ，ダブリンコア，アプリケーションプロファイル，XML
 8回：インターネット上の情報資源のメタデータ：RDF，LOD，文書のウェブとデータのウェブ
 9回：主題組織法：意義と手法
 10回：分類法：分類の基本原則，図書館における分類法の意義・役割・機能，分類法を分類する，主題分析
 11回：NDC（日本十進分類法）：概要，構成
 12回：分類規程，所在記号
 13回：語による主題組織法：自然語と統制語，シソーラス，件名標目表
 14回：書誌コントロール

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃から図書館に通って、資料がどのように並べられているか、図書館の背中のラベルには何が書いてあるか、またOPAC（検索システム）ではどのような探し方が可能で、検索結果にはどのような情報が表示されているかなど、実際に組織化がどのように行われているか、注意して見るようにしてください。

また、基本的に毎回、学習内容を振り返る小テスト、およびNDCの第2次区分を答える小テストをオンラインで出しますので、次の授業までに回答してください。（第2次区分とは、図書館の主題を表す2桁の数字で、たとえば日本史→21，地球科学→4

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% NDCの小テスト:10% 毎回実施する復習テスト:10%

原則として2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としません。ただし、やむを得ない事情がある場合はこの限りではないので、授業担当者に相談してください。

テキスト / Textbooks

田窪直規編著 『3訂 情報資源組織論』 樹村房 2020 9784883673391 ○

参考文献 / Readings

授業内で随時紹介します。

その他 / Others

- 1 授業についての質問はいつでもメールで受け付けます。
- 2 授業中の私語、内職等に関しては厳しく対処します。
- 3 毎回プリントを配付し、プリントとテキストを参照しつつ、板書も併用して講義形式で行います。また、随時パソコンの画面をスクリーンに投影しますが、主としてウェブサイトの参照を中心とし、パワーポイントは使用しない予定です。

4 リアクションペーパーは、基本的に出席カードの裏面を使います（ただし、より多くの字数が必要な場合は別途用紙を配付することもあり得ます）。次回の授業時に、全員分の内容を並べた

メタデータ演習（A）

Metadata Theory and Practice(A)

鶴田 拓哉 (TOKITA TAKUYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GC373
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CEL3210
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
春学期「情報資源組織論」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 「メタデータ演習（B）」と同一科目

授業の目標 / Course Objectives

- メタデータの作成作業を支える主要なツールの概要および使用方法を理解する。
- ツールを利用した演習問題を通して、理論と実践の両側面からメタデータの作成および情報資源組織について理解する。
- 1 および 2 を通して身につけた知識を今後の自身の情報検索に生かすことができる。

授業の内容 / Course Contents

情報資源組織の具体的な事例に、書誌データの作成（目録作業）、分類記号を付与する分類作業、件名を付与する件名作業がある。これらの作業はメタデータを作成する作業ともいえる。この授業では、メタデータの作成作業を支える主要なツール、具体的には『日本目録規則（NCR）』（2018年版）、『日本十進分類法（NDC）』（新訂10版）、『基本件名標目表（BSH）』（第4版）の概要および使用法について講義する。そして、演習問題を通して理論と実践の両側面からメタデータの作成および情報資源組織に対する理解を深める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス：情報資源組織とは、情報資源組織における目録作業、分類作業、件名作業の位置づけ

- 2回：NCRの概要および基本的な使い方，記録する際の基本となる決まり
 3回：図書を対象とした書誌データの作成（1）：タイトルと責任表示
 4回：図書を対象とした書誌データの作成（2）：版，出版・頒布等，形態
 5回：図書を対象とした書誌データの作成（3）：シリーズ，注記，ISBN
 6回：演習問題（図書を対象とした書誌データの作成），標目
 7回：図書以外の資料を対象とした書誌データの作成，中間テスト
 8回：NDCの概要および基本的な使い方，相関索引の使い方
 9回：固有補助表，一般補助表（形式区分，地理区分）の付与
 10回：一般補助表（海洋区分，言語区分）の付与，分類規程
 11回：BSHの概要および基本的な使い方
 12回：細目（一般細目，分野ごとの共通細目，言語細目）の使用方法
 13回：細目（地名のものと主題細目，地名細目，時代細目）の使用方法，件名規程
 14回：演習問題（分類記号と件名の付与）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は，必要に応じて別途指示する。また，Canvas LMSを利用した授業時間外の学習に関する指示および連絡を行うこともあるので，各自で適宜 Canvas LMSを確認していただきたい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :45%

平常点割合 :55% 中間テスト:40% リアクションペーパー:15%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

その他 / Others

授業で配付した資料の添付，授業時間外（予習・復習）の学習用資料の添付，授業に関する連絡（授業内で行った連絡も含む）などに Canvas LMS を使用する。

注意事項

履修に際しては，司書課程 Canvas LMS で詳細を確認のこと。

メタデータ演習（B）

Metadata Theory and Practice(B)

鶴田 拓哉 (TOKITA TAKUYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GC374
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CEL3210
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
春学期「情報資源組織論」を修得済の者対象。
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 「メタデータ演習（A）」と同一科目

授業の目標 / Course Objectives

- メタデータの作成作業を支える主要なツールの概要および使用方法を理解する。
- ツールを利用した演習問題を通して、理論と実践の両側面からメタデータの作成および情報資源組織について理解する。
- 1 および 2 を通して身につけた知識を今後の自身の情報検索に生かすことができる。

授業の内容 / Course Contents

情報資源組織の具体的な事例に、書誌データの作成（目録作業）、分類記号を付与する分類作業、件名を付与する件名作業がある。これらの作業はメタデータを作成する作業ともいえる。この授業では、メタデータの作成作業を支える主要なツール、具体的には『日本目録規則（NCR）』（2018年版）、『日本十進分類法（NDC）』（新訂10版）、『基本件名標目表（BSH）』（第4版）の概要および使用法について講義する。そして、演習問題を通して理論と実践の両側面からメタデータの作成および情報資源組織に対する理解を深める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス：情報資源組織とは、情報資源組織における目録作業、分類作業、件名作業の位置づけ

- 2回：NCRの概要および基本的な使い方，記録する際の基本となる決まり
 3回：図書を対象とした書誌データの作成（1）：タイトルと責任表示
 4回：図書を対象とした書誌データの作成（2）：版，出版・頒布等，形態
 5回：図書を対象とした書誌データの作成（3）：シリーズ，注記，ISBN
 6回：演習問題（図書を対象とした書誌データの作成），標目
 7回：図書以外の資料を対象とした書誌データの作成，中間テスト
 8回：NDCの概要および基本的な使い方，相関索引の使い方
 9回：固有補助表，一般補助表（形式区分，地理区分）の付与
 10回：一般補助表（海洋区分，言語区分）の付与，分類規程
 11回：BSHの概要および基本的な使い方
 12回：細目（一般細目，分野ごとの共通細目，言語細目）の使用方法
 13回：細目（地名のものと主題細目，地名細目，時代細目）の使用方法，件名規程
 14回：演習問題（分類記号と件名の付与）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は，必要に応じて別途指示する。また，Canvas LMSを利用した授業時間外の学習に関する指示および連絡を行うこともあるので，各自で適宜 Canvas LMSを確認していただきたい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :45%

平常点割合 :55% 中間テスト:40% リアクションペーパー:15%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

その他 / Others

授業で配付した資料の添付，授業時間外（予習・復習）の学習用資料の添付，授業に関する連絡（授業内で行った連絡も含む）などに Canvas LMS を使用する。

注意事項

履修に際しては，司書課程 Canvas LMS で詳細を確認のこと。

情報アーキテクチャ演習（A）

Information Architecture Theory and Practice(A)

インターネット時代における情報資源を整理する情報設計の仕方

安藤 幸央 (ANDO YUKIO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GC375

授業形態： ハイフレックス

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CEL3210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

春学期「情報資源組織論」を修得済の者対象。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 「情報アーキテクチャ演習（B）」と同一科目

授業の目標 / Course Objectives

大量の情報が溢れる現代、図書館員や司書のみならず、さまざまな職種において大量の情報を整理し、適切に扱うための情報スペシャリストとしての手法や技能を必要とする時代となった。

本授業では、膨大な情報の中から、インターネットやデジタルデバイスを利用し、図書館利用者の要求を満たす情報を的確に整理、分類するための国際的に通用する実践的技術を習得する。

授業の内容 / Course Contents

授業は毎回、前半で講義、後半で演習を行う。

講義では、情報設計の基礎知識と基本的な手法、様々な状況における適切な手順などを説明する。

演習では、図書館、ウェブ、インターネットほかデジタルデバイスを活用し、実際に情報を整理し、各種手法の演習を行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業の概要説明および 導入

- 2回：情報を理解する仕組み、人の理解の構造とは
 3回：情報検索と探索、情報の整理と発見について
 4回：LATCH「位置／文字／時間／種類／階層」での情報分類
 5回：図書館、書店、店舗といった空間における情報設計のあり方
 6回：位置情報と記憶、地図や辞書、書籍における情報設計
 7回：デジタルデバイスにおける情報の取り扱いと情報設計、図書館 Web サイト評価の観点
 8回：単なる混沌と、整理され構造化された混沌の情報設計
 9回：タグ分類、タクソノミー、カテゴリ分けの現代的な手法について
 10回：世の中の身近な情報を整理し理解するための情報設計
 11回：人の理解、汎用性、多様性、情報規模の拡大への考察
 12回：取り扱い易さという観点からの情報設計
 13回：ネットワーク情報資源のメタデータ作成の実際
 14回：小テストおよび解説

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。また、予習・復習に必要な資料は CanvasLMS、Google Classroom にて公開する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レポートやリアクションペーパーの提出:50% 出席および授業参加度:25% 最終テスト割合 :25%

テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてプリントやPDF ファイルを配付し、さらに CanvasLMS と Google Classroom を利用して資料紹介や情報提供を行う。

参考文献 / Readings

授業中および CanvasLMS と Google Classroom で 適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

前提知識は特にありませんが、立教大学の図書館に入退室できるよう図書館の入館カードを作成、または更新しておいてください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業中のメモや配布資料の確認用にパソコンやスマートフォンがあると便利ですが、必須ではありません。必要に応じて紙の印刷物も配布しますので、授業にはパソコン無しで参加してもかまいません。もちろんパソコンやスマートフォンは持ち込んで授業で活用していただいてもかまいません。

その他 / Others

図書館や書店、本にまつわる、さまざまな知識や話題を取り上げていきます。ハイフレックスタイプの授業なので、教室での対面授業でも、オンラインでの参加でも、毎回どちらでもかまいません。どちらの場合でも不

利になることはありませんので、都合により自由にご選択ください。

注意事項

履修に際しては、司書課程 Canvas LMS で詳細を確認のこと。

情報アーキテクチャ演習（B）

Information Architecture Theory and Practice(B)

インターネット時代における情報資源を整理する情報設計の仕方

安藤 幸央 (ANDO YUKIO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GC376

授業形態： ハイフレックス

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CEL3210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

春学期「情報資源組織論」を修得済の者対象。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 「情報アーキテクチャ演習（A）」と同一科目

授業の目標 / Course Objectives

大量の情報が溢れる現代、図書館員や司書のみならず、さまざまな職種において大量の情報を整理し、適切に扱うための情報スペシャリストとしての手法や技能を必要とする時代となった。

本授業では、膨大な情報の中から、インターネットやデジタルデバイスを利用し、図書館利用者の要求を満たす情報を的確に整理、分類するための国際的に通用する実践的技術を習得する。

授業の内容 / Course Contents

授業は毎回、前半で講義、後半で演習を行う。

講義では、情報設計の基礎知識と基本的な手法、様々な状況における適切な手順などを説明する。

演習では、図書館、ウェブ、インターネットほかデジタルデバイスを活用し、実際に情報を整理し、各種手法の演習を行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業の概要説明および 導入

- 2回：情報を理解する仕組み、人の理解の構造とは
 3回：情報検索と探索、情報の整理と発見について
 4回：LATCH「位置／文字／時間／種類／階層」での情報分類
 5回：図書館、書店、店舗といった空間における情報設計のあり方
 6回：位置情報と記憶、地図や辞書、書籍における情報設計
 7回：デジタルデバイスにおける情報の取り扱いと情報設計、図書館 Web サイト評価の観点
 8回：単なる混沌と、整理され構造化された混沌の情報設計
 9回：タグ分類、タクソノミー、カテゴリ分けの現代的な手法について
 10回：世の中の身近な情報を整理し理解するための情報設計
 11回：人の理解、汎用性、多様性、情報規模の拡大への考察
 12回：取り扱い易さという観点からの情報設計
 13回：ネットワーク情報資源のメタデータ作成の実際
 14回：小テストおよび解説

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。また、予習・復習に必要な資料は CanvasLMS、Google Classroom にて公開する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レポートやリアクションペーパーの提出:50% 出席および授業参加度:25% 最終テスト割合 :25%

テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてプリントや PDF ファイルを配付し、さらに CanvasLMS と Google Classroom を利用して資料紹介や情報提供を行う。

参考文献 / Readings

授業中および CanvasLMS と Google Classroom で 適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

前提知識は特にありませんが、立教大学の図書館に入退室できるよう図書館の入館カードを作成、または更新しておいてください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業中のメモや配布資料の確認用にパソコンやスマートフォンがあると便利ですが、必須ではありません。必要に応じて紙の印刷物も配布しますので、授業にはパソコン無しで参加してもかまいません。もちろんパソコンやスマートフォンは持ち込んで授業で活用していただいてもかまいません。

その他 / Others

図書館や書店、本にまつわる、さまざまな知識や話題を取り上げていきます。ハイフレックスタイプの授業なので、教室での対面授業でも、オンラインでの参加でも、毎回どちらでもかまいません。どちらの場合でも不

利になることはありませんので、都合により自由にご選択ください。

注意事項

履修に際しては、司書課程 Canvas LMS で詳細を確認のこと。

アーカイブズ概論

Introduction to Archives

金 甫榮 (KIM BOYOUNG)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GC377

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CEL3310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- アーカイブズの基本概念を理解し、関連領域とアーカイブズの連携について考える。
- 社会におけるアーカイブズの役割と意義について考える。

授業の内容 / Course Contents

本授業では、アーカイブズ資料の保存・管理に必要な基礎知識を学ぶだけでなく、多様なアーカイブズについて理解を深め、幅広い観点からアーカイブズとは何か、また、その社会的意義と活用可能性について学ぶことを目指します。授業の前半では、記録およびアーカイブズの基礎概念について講義を行います。基礎知識がついた中盤からは、様々なアーカイブズについて調査し、議論を交えながら授業を行います。なお、以下の授業計画は、履修人員の多寡や受講生の理解度などによって若干の変更があります。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（授業の進め方、授業の概要説明など）
- 2回：記録とアーカイブズ（スライド使用）
- 3回：理論と評価選別（スライド使用）
- 4回：編成と記述（スライド使用）

- 5回：日本と海外の動向（スライド使用）
 6回：保存（スライド使用）
 7回：デジタル記録（スライド使用）
 8回：利用と公開：AtoMを使ってみる（パソコンを使った実習）
 9回：事例研究1：公的機関、大学（グループ発表と質疑応答）
 10回：事例研究2：企業、団体などの民間機関（グループ発表と質疑応答）
 11回：事例研究3：特定テーマや個人（グループ発表と質疑応答）
 12回：関連領域（図書館、博物館、デジタル・アーカイブ、デジタル・キュレーション、デジタル・ヒューマニティーズなど）の理解（スライド使用）
 13回：アーキビスト倫理（スライド使用、ディスカッション）
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で紹介するアーカイブズ機関を実際に訪問したり、各機関のウェブサイトや各種デジタルアーカイブを積極的に利用・閲覧していただくことを心がけてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加および授業内に指示する提出物:70% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

必要に応じてプリントを配布するか、事前に授業に必要な情報提供を行います。

参考文献 / Readings

参考文献は、授業中に適宜紹介します。

その他 / Others

パワーポイントを使った授業形式で、必要に応じてグループワークを行います。

図書館サービス特論

Seminar on Library Services

多文化サービスと国際児童文学

中村 百合子 (NAKAMURA YURIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GC378

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CEL3310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

図書館による多文化サービスの提供の意義とその可能性を理解し、サービスの対象となるコミュニティに適した多文化サービスプログラムを立案できるようになる。また、児童文学と子ども向けのメディアについて、国際動向を把握し、その社会的意義を理解して、図書館サービスにおける活用を説得的に提案できるようになる。

授業の内容 / Course Contents

図書館による多文化サービスの提供の意義とその可能性を国内外の事例から学ぶ。コミュニティの特徴と潜在的なニーズを把握し、それに応える多文化サービスプログラムを立案できるようになる。一方で、国内外の児童文学と子ども向けのメディアの現状を文献とゲストスピーカーから学ぶ。主として英語、スペイン語、中国語の児童文学と子ども向けのメディアを取りあげ、各言語の作品等を作家論・作品論・読者論などの観点から批評することを試みる。国際子ども図書館をクラスで訪問するとともに、児童書や子ども向けのメディアの専門店を受講生個人やグループで訪れ、それらを多文化サービスや児童サービスの企画と実施に活用できるようになる。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業の概要説明
- 2回：多文化サービス概論；サービス対象のコミュニティの特徴と潜在的ニーズの把握法；多文化サービスの立案法
- 3回：児童文学の国際動向概説；児童文学の出版流通と世界の児童文学関連の専門図書館；児童文学や子ども向けメディアの社会的意義とその批評という課題
- 4回：多文化サービスの事例（日本）
- 5回：多文化サービスの事例（アメリカ合衆国）
- 6回：国立国会図書館国際子ども図書館見学会
- 7回：英語の児童文学の検討
- 8回：スペイン語の児童文学の検討
- 9回：中国語の児童文学の検討
- 10回：そのほかの言語の児童文学の検討
- 11回：グループ発表準備
- 12回：多文化サービスの具体的な提案（グループ発表1）
- 13回：多文化サービスの具体的な提案（グループ発表2）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

リーディング課題を渡す回がある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席と積極的な参加:20% 電子掲示板でのディスカッションへの貢献:20% グループ発表:30% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

初回の授業で示すと共に、授業の進行とともに、インターネット上の情報源を含めて追加で紹介していく。

その他 / Others

授業の進行によって、授業計画を変更する場合がある。

図書館情報資源特論

Seminar on Library Information Resources

大学図書館の経営資源と情報資源

市古 みどり (ICHIKO MIDORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GC379

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CEL2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

大学図書館が扱う情報資源をより深く理解し、課題を洗い出し、その課題解決について検討する。

授業の内容 / Course Contents

- 大学図書館の内的・外的環境を理解し、大学図書館に必要な経営資源を理解する。
- 大学図書館の情報資源の類型と特質、歴史、生産、流通、選択・収集・保存を総合的に理解する。
- 主に大学図書館の情報資源に関する課題を洗い出し、その問題解決の方法を考える。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：この科目の目的、授業内容および授業方法、最終レポート課題、成績評価の説明
- 2 回：大学図書館の役割、機能
- 3 回：大学図書館利用者の特徴と図書館サービス
- 4 回：大学図書館の機能（グループワーク発表）
- 5 回：学術情報流通

- 6回：立教大学図書館の実務（1） 図書の管理
 大学図書館における電子資源（1） イン트로
- 7回：大学図書館における電子資源（2） 電子ジャーナル
- 8回：大学図書館における電子資源（3） 電子ジャーナル契約のポイント
- 9回：大学図書館における電子資源（4） 電子ジャーナル契約の見直し
- 10回：大学図書館における電子資源（5） 立教大学図書館の実務（2） 電子情報資源の管理
- 11回：大学図書館における電子資源（6） グループワーク発表
- 12回：研究支援と大学図書館（1）
- 13回：研究支援と大学図書館（2）
- 最終課題レポート提出
- 14回：まとめ、最終レポート講評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席およびディスカッションへの参加:20% グループワークへの参加とグループワークの発表:40% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 倉田敬子 『学術情報流通とオープンアクセス』 勁草書房 2007 9784326000326
- Anderson, Rick 『学術コミュニケーション入門』 アドスリー 2022 9784904419953
- 保坂睦 『はじめての電子ジャーナル管理』改訂版 日本図書館協会 2023 9784820423003
- 戸田山和久 『論文の教室 最新版』 NHK 出版 2022 9784140912720

その他 / Others

- ・授業では、講義のほか、理解を深めるためにグループワークおよびグループワーク成果の発表を行う。
- ・第1回目の授業で最終レポートの課題を提示する。提出は第13回の授業終了時までとする。

図書・図書館史

History of Books & Libraries

中村 百合子 (NAKAMURA YURIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GC380
授業形態： ハイフレックス
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CEL1300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

図書および図書館の歴史を辿り、図書と図書館がいかにかに誕生し、そのあり方が、古代・中世・近世・近代のそれぞれの時期にいかにかに変化してきたかを理解する。そのうえで、図書館の本質と未来についての考察を深める。

授業の内容 / Course Contents

はじめに講師から、欧米、特にアメリカ合衆国、また日本の図書と図書館の歴史を講じる。そのうえで、学生一人ひとりが、図書と図書館の歴史に関わる独自のテーマを設定して文献調査を行い、クラスメートとその成果を共有することで、関心を広げ、理解を深める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業の概要説明
- 2 回：文字、図書、図書館のはじまり
- 3 回：古代・中世・近世・近代の図書と図書館（1）
- 4 回：印刷博物館見学
- 5 回：古代・中世・近世・近代の図書と図書館（2）

- 6回：各自の関心の掘り起こし、情報探索、課題設定
 7回：グループに分かれての情報検索と情報収集
 8回：グループに分かれての集めた情報の整理
 9回：各自の執筆活動
 10回：各自の執筆活動
 11回：学生発表および検討（1）
 12回：学生発表および検討（2）
 13回：学生発表および検討（3）
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外に個々人の調査・研究、発表準備が必要である。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席と積極的な参加:30% 個人発表:30% 電子掲示板でのディスカッションへの貢献:10% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

教室にPCをもってくることを求めたり、図書館で実施したりする場合がある。

どの回もどの課題もオンライン出席の方が困らないように調整するので、相談のこと。

図書館総合演習

Comprehensive Seminar on Libraries

中村 百合子 (NAKAMURA YURIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GC382
授業形態： ハイフレックス
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CEL4310
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

司書課程での自らの学修を振り返り、キャリア展望に照らして、その学修の価値をウェブポートフォリオもしくはオリジナルな研究テーマの探究によって表現する。

授業の内容 / Course Contents

履修生各自が、以下の a または b から学習方法を一つ選択のうえ、学習を計画し、進める。

a) 立教大学司書課程の学修に関する総まとめとしてのウェブポートフォリオの作成（ポートフォリオの枠組みは講師が提示する。司書課程の学修を司書その他の就職活動等で自信をもって報告することができるようになることを目指す。ポートフォリオウェブサイトの構築と記録する方法については、授業の前半で体験しながら修得する。各自での作業となるが、各学生の IT や自己表現のスキルの範囲が学生によって異なるだろうことから、毎週の授業時の他にも、学生相互で教えあい学びあうことが期待される。ポートフォリオウェブサイトは少なくとも授業期間中は匿名でもよいので公開する。）

b) 個人的に関心のあるトピックについての日本語または英語でのレポート執筆（講師に個別指導を受けながら、図書館情報学研究の動向を十分にふまえ、読者が現れるようなもの書きあげる。優れたレポートは翌年春に刊行する司書課程紀要『St. Paul's Librarian』に掲載する。）

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業の概要説明；受講生自己紹介；学習方法 a、b の説明
 2 回：学習方法 a、b の選択報告
 ウェブサイト構築の実際1)
 3 回：個人の学習計画の報告（全員）
 4 回：ウェブサイト構築の実際2)
 5 回：ウェブサイト構築および個人学習の進展状況の報告（全員）第1回
 6 回：ウェブサイト構築の実際3)
 7 回：ウェブサイト構築および個人学習の進展状況の報告（全員）第2回
 8 回：ウェブサイト構築の実際4)
 9 回：ウェブサイト構築および個人学習の進展状況の報告（個人発表と検討）第1回
 10 回：ウェブサイト構築および個人学習の進展状況の報告（個人発表と検討）第2回
 11 回：ウェブサイト構築および個人学習の進展状況の報告（個人発表と検討）第3回
 12 回：ウェブサイト構築および個人学習の進展状況の報告（個人発表と検討）第4回
 13 回：ウェブサイト構築および個人学習の進展状況の最終報告
 14 回：まとめとふりかえり

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○ 学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業計画は初回の授業時に受講生と相談して、適宜修正する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 学習の進展状況の授業内での報告内容:40% 最終的に提出するポートフォリオウェブサイトとレポート:40% 授業への積極的参加と他の学生との学びあい:20%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

毎回の授業に各自がPCを持参のこと。

その他 / Others

全回をオンラインで出席することが可能なハイフレックス授業である。ただし、課題は各自の作業となるが、その性質上、毎週の授業時の他にも、学生相互で教えあい学びあうことが期待される。オンライン受講をするとしても、他の受講生との相談や協力に積極的に参加すること。この点については初回授業時によく説明するので、初回の授業には全員が必ず出席のこと。

生涯学習支援論 1

Study of Policy and Practice for Lifelong Learning 1

三宅 隆史 (MIYAKE TAKAFUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	学校・社会教育講座
科目コード等：	GD401
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CED2100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	秋学期「生涯学習概論 2」を履修するにはこの科目を修得済みであることが望ましい。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2019 年度以前入学者履修不可（2019 年度以前入学者は GD451「生涯学習支援論 1」を履修すること）

授業の目標 / Course Objectives

変化の激しい現代社会において多様な課題に直面する学習者の特性や必要性に応じた学習支援が求められている。専門的教育職員として社会教育行政の推進の中核を担う社会教育主事には、優れた学習支援者であることが求められる。また NPO・NGO や地域団体、企業など多様な組織において社会教育の推進を担うことが期待されている「社会教育士」も優れた学習支援者であることが求められている。

社会教育主事課程の必修科目である本科目のねらいは次の通りである。
・現代社会の特徴を理解し、社会教育、学習支援者の役割について理解する。

授業の内容 / Course Contents

- 以下を柱に授業を行う。
- ①現代社会における学習支援者の役割についての理解
 - ②対人支援に必要なスキルの向上
 - ③対象別の学習支援の方法と実践の理解

社会教育は学習者中心アプローチがとられるため、本科目の授業においても教員による講義だけでなく、ワークショップやグループワークなど参加型学習を取り入れる。「生涯学習支援論」を学ぶことは、多くの人々の学習を支援する力量を形成することをめざすとともに、自らを一人の生涯学習者に育てていく教育的営みであることをふまえて、授業を展開する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション、参加者紹介
- 2回：現代社会の課題と学習支援者の役割
- 3回：学習支援に関する教育理論
- 4回：学習支援のスキル①：コミュニケーション
- 5回：学習支援のスキル②：対立の解決
- 6回：学習支援のスキル③：会議の運営
- 7回：子どもの遊びと学習支援
- 8回：若者の学習支援—居場所、グループワーク、ひきこもり状態の若者の支援
- 9回：不登校とフリースクール
- 10回：18歳成人と社会教育
- 11回：障害者の学習支援
- 12回：高齢者の学習支援
- 13回：識字問題と夜間中学
- 14回：良き学習支援者とは（ゲストスピーカーの予定）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

居住するもしくは郷里の地方自治体における社会教育・生涯学習関連施策の概要や、社会教育施設が実施する学習支援や事業について、ホームページや広報紙等から調べる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加態度、貢献度：20% リアクションペーパーあるいは小課題：40%

最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

「生涯学習支援論2」の履修者は、「生涯学習支援論1」の単位修得者であることが望ましい。

生涯学習支援論 2

Study of Policy and Practice for Lifelong Learning 2

三宅 隆史 (MIYAKE TAKAFUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	学校・社会教育講座
科目コード等：	GD402
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CED2100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	春学期「生涯学習概論 1」を修得済みであることが望ましい
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2019 年度以前入学者履修不可（2019 年度以前入学者は GD452「生涯学習支援論 2」を履修すること）

授業の目標 / Course Objectives

変化の激しい現代社会において多様な課題に直面する学習者の特性や必要性に応じた学習支援が求められている。専門的教育職員として社会教育行政の推進の中核を担う社会教育主事には、優れた学習支援者であることが求められる。また NPO・NGO や地域団体、企業など多様な組織において社会教育の推進を担うことが期待されている「社会教育士」も優れた学習支援者であることが求められている。

社会教育主事課程の必修科目である本科目のねらいは次の通りである。

- ・学習プログラムの企画、準備、実施までの一連のプロセスを修得する。
- ・ワー

授業の内容 / Course Contents

以下を柱に授業を実施する。

- ①学習プログラムの企画、準備、実施までのプロセス、方法、スキル、態度を学ぶ。
- ②科目担当者が提供する環境や人権、格差、消費、保健などの社会課題・生活課題についてのワークショップ教材の中から自分がファシリテーションを実践する教材を選択する。選択した教材ごとに 4 名程度のチームを

構成する。各チームは教材を研究し、学習プログラムを立案、準備し、ファシリテーションの演習を行う。

③各回の参加者は、ファシリテーターへのフィードバックを行う。

ただし、履修者数に応じて上記の進め方を変更することがある。

「生涯学習支援論」を学ぶことは、多くの人々の学習を支援する力量を形成することをめざすとともに、自らを一人の生涯学習者に育てていく教育的営みであることを踏まえて、授業を展開していく。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション、参加者紹介

2回：社会教育における学習の方法と形態

3回：ファシリテーションのスキル①

空間的デザイン

4回：ファシリテーションのスキル②

心理的デザイン

5回：ファシリテーションのスキル③

発問、進行、まとめ

6回：ファシリテーションのスキル④

プログラムの立案とふりかえり、ファシリテーターの態度

7回：ファシリテーション演習①

8回：ファシリテーション演習②

9回：ファシリテーション演習③

10回：ファシリテーション演習④

11回：ファシリテーション演習⑤

12回：ファシリテーション演習⑥

13回：ファシリテーション演習⑦

14回：ファシリテーション演習⑧とまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ファシリテーション演習のためにチームで教材を研究、セッション・プランの作成、使用するスライドや文具類、資料の準備、進行の練習を行なう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加態度、貢献度：20% リアクションペーパーあるいは小課題：40%

最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

「生涯学習支援論2」の履修者は、「生涯学習支援論1」の単位修得者であることが望ましい。

社会教育演習

Seminar in Adult Education

三宅 隆史／福田 紀子 (MIYAKE TAKAFUMI/ FUKUDA NORIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	学校・社会教育講座
科目コード等：	GD403
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	通年他
単位：	4
科目ナンバリング：	CED3210
使用言語：	日本語
授業形式：	実習
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	「社会教育演習」の履修者は、「生涯学習概論1、2」の単位修得者であることが望ましい。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	池袋・新座両キャンパス所属学生対象
2020 年度以降入学者履修不可	

授業の目標 / Course Objectives

社会教育の現場を体験することにより、社会教育に関する理解をより一層深めることをねらいとする。また、教育委員会や社会教育施設、NPO 等の多様な団体・組織で活動する職員・スタッフや市民と出会うことにより、自らのキャリア形成を考える機会ともする。併せて、限られた時間内で実習報告をすることで、社会教育従事者に必須のプレゼンテーション力の向上を図る。

授業の内容 / Course Contents

この授業は春学期にオリエンテーションと実習先確認会、希望者を対象とした個別相談会を行う。春学期では各自で実習テーマを検討し、実習先研究を行いつつ、実習先を確定していく。任意の地域（夏休みに行うのであれば帰省先でも良い）の実習先を自ら探し、選択、交渉し、確保する。このプロセスを通じて社会教育従事者に必須のコーディネーション・スキルを向上することができる。なお実習先は、実習テーマに合致していれば、公民館や生涯学習センター、青少年施設、男女共同参画センターなどの公的社会教育施設や生涯学習課、市民協働課などの自治体の社会教育関連課に加えて、社会教育を推進する NPO・NGO（フリースクール

含む)・ボランティア組織・企業でも良い。実習希望先への依頼や、日程調整等の打ち合わせについては、細心の注意を払うことが必要である。

実習は夏休みの期間あるいはそれ以降に49時間以上(1週間~10日間程度)行う。実習中は受入担当者の指導・支援の基で、施設運営や社会教育事業の補佐に従事する。学習者や利用者の学びの支援や安全確保、交流も実習でしか得られない貴重な経験である。

秋学期にそれぞれの実習に関する報告会を実施する。スライドを準備し、決められた時間の発表を行うことで社会教育従事者に必須のプレゼンテーション・スキルの向上を図る。また他の学生の実習報告を聴くことは、社会教育の現場の多様な実態を理解する上で有意義であり、報告会における意見交換を重視する。

「社会教育実践演習」を学ぶことは、社会教育の現場での経験を通じて、大学における社会教育・生涯学習に関わる学びの全体を統合していく営みでもある。学生にとって重要な意味を持つとともに、実習の受入先にとっても有意義なものとなるような実習となることをめざし、個別指導も行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1回：【春学期】

●オリエンテーション (必須)

4/6(土)の0930-1240に5223教室にて行う。履修希望者は遅刻せず必ず出席すること。授業全般の進め方、実習内容の説明の後、昨年度の履修者の報告会での発表の動画を視聴する。また実習計画の立案、実習先の探し方、実習先の確保から実施までの流れの説明を行う。

最後に履修希望者は、実習希望フォームをオンラインで記入する。

記入された上記フォームで指導教員が履修希望者の意思を確認した後、指導教員が履修者名簿を教務センターに提出し、教務センターが履修者登録を行う本科

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

実習先の確保に向けて、希望する実習先の状況を研究するとともに、実習を通して学びたいと考えるテーマを設定すること。実習希望先への依頼や、日程調整等の打ち合わせについては、細心の注意を払うことが必要である。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% オリエンテーション、個別指導、実習、報告での発表、報告会の参加、レポートをクリアすることを前提とし、総合的に評価する。:100%

テキスト/Textbooks

テキストは使用しない

参考文献 / Readings

その他/Others

社会教育演習は、卒業後の進路選択において有益な経験となることから3年次に履修することを勧める。

社会教育実践演習

Adult and Community Education Practice Exercises

対面（全回対面）/Face to face (all classes are face-to-face)

三宅 隆史／福田 紀子（MIYAKE TAKAFUMI/ FUKUDA NORIKO）

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GD404

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 通年他

単位： 4

科目ナンバリング： CED3310

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 「社会教育実践演習」の履修者は、「生涯学習概論1、2」の単位修得者であることが望ましい。

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 池袋キャンパス所属学生対象

2019 年度以前入学者履修不可

授業の目標 / Course Objectives

社会教育の現場を体験することにより、社会教育に関する理解をより一層深めることをねらいとする。また、教育委員会や社会教育施設、NPO 等の多様な団体・組織で活動する職員・スタッフや市民と出会うことにより、自らのキャリア形成を考える機会ともする。併せて、限られた時間内で実習報告をすることで、社会教育従事者に必須のプレゼンテーション力の向上を図る。

授業の内容 / Course Contents

この授業は春学期にオリエンテーションと実習先確認会、希望者を対象とした個別相談会を行う。春学期では各自で実習テーマを検討し、実習先研究を行いつつ、実習先を確定していく。任意の地域（夏休みに行うのであれば帰省先でも良い）の実習先を自ら探し、選択、交渉し、確保する。このプロセスを通じて社会教育従事者に必須のコーディネーション・スキルを向上することができる。なお実習先は、実習テーマに合致していれば、公民館や生涯学習センター、青少年施設、男女共同参画センターなどの公的社会教育施設や生涯学習

課、市民協働課などの自治体の社会教育関連課に加えて、社会教育を推進する NPO・NGO（フリースクール含む）・ボランティア組織・企業でも良い。実習希望先への依頼や、日程調整等の打ち合わせについては、細心の注意を払うことが必要である。

実習は夏休みの期間あるいはそれ以降に 49 時間以上（1 週間～10 日間程度）行う。実習中は受入担当者の指導・支援の基で、施設運営や社会教育事業の補佐に従事する。学習者や利用者の学びの支援や安全確保、交流も実習でしか得られない貴重な経験である。

秋学期にそれぞれの実習に関する報告会を実施する。スライドを準備し、決められた時間の発表を行うことで社会教育従事者に必須のプレゼンテーション・スキルの向上を図る。また他の学生の実習報告を聴くことは、社会教育の現場の多様な実態を理解する上で有意義であり、報告会における意見交換を重視する。

「社会教育実践演習」を学ぶことは、社会教育の現場での経験を通じて、大学における社会教育・生涯学習に関わる学びの全体を統合していく営みでもある。学生にとって重要な意味を持つとともに、実習の受入先にとっても有意義なものとなるような実習となることをめざし、個別指導も行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1 回：【春学期】

●オリエンテーション（必須）

4/6（土）の 0930-1240 に 5223 教室にて行う。履修希望者は遅刻せず必ず出席すること。授業全般の進め方、実習内容の説明の後、昨年度の履修者の報告会での発表の動画を視聴する。また実習計画の立案、実習先の探し方、実習先の確保から実施までの流れの説明を行う。

最後に履修希望者は、実習希望フォームをオンラインで記入する。

記入された上記フォームで指導教員が履修希望者の意思を確認した後、指導教員が履修者名簿を教務センターに提出し、教務センターが履修者登録を行う本科

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

実習先の確保に向けて、希望する実習先の状況を研究するとともに、実習を通して学びたいと考えるテーマを設定すること。実習希望先への依頼や、日程調整等の打ち合わせについては、細心の注意を払うことが必要である。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% オリエンテーション、個別指導、実習、報告会での発表、報告会の参加、レポートをクリアすることを前提とし、総合的に評価する。：100%

テキスト / Textbooks

テキストは使用しない

参考文献 / Readings

その他 / Others

社会教育実践演習は、卒業後の進路選択において有益な経験となることから 3 年次に履修することを勧める。

社会教育経営論 1

Adult and Community Education Management 1

三宅 隆史 (MIYAKE TAKAFUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	学校・社会教育講座
科目コード等：	GD405
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CED3200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	秋学期「社会教育経営論 2」を履修するにはこの科目を修得済みであることが望ましい。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2019 年度以前入学者履修不可（2019 年度以前入学者は GD455「社会教育経営論 1」を履修すること）

授業の目標 / Course Objectives

課題が多様化、複雑化する現代社会において、人々の暮らしにいきがいをもたらす、生活の拠点である地域をより豊かにしていく可能性を持つ社会教育。その可能性を現実のものとしていくためには、戦略的経営の視点から社会教育のあり様を検討することが必要である。

専門的教育職員として社会教育行政の推進の中核を担う社会教育主事ならびに社会教育士には、「学び」の成果を行政、市民・NPO、企業等の多様な主体との連携・協働を図りながら、地域課題の解決、まちづくり・地域振興、福祉、防災、地域学校協働等、様々な活動をつなげていく役

授業の内容 / Course Contents

以下を柱に授業を行う。

- ・社会教育関連法令と社会教育行財政の変遷
- ・経営の視点からの社会教育の計画、施設、人材、広報
- ・現代社会の課題に即した社会教育の役割と先駆的な実践

社会教育は実践的な取り組みであることから、授業においてもワークショップやグループ討議など、参加型による学習を適宜行う。また居住するもしくは郷里の自治体における社会教育に関するリサーチを行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション、参加者紹介
- 2回：現代社会の課題と社会教育の役割
- 3回：社会教育関係法令（教育基本法、社会教育法、生涯学習振興法等）
- 4回：社会教育の行財政の変遷と課題
- 5回：社会教育施設の経営
- 6回：社会教育施設の職員
- 7回：生涯学習推進計画と社会教育計画
- 8回：社会教育現場の職員から学ぶ <豊島区の施設見学と講義>
- 9回：社会教育組織のリーダーシップ
- 10回：社会教育事業の広報戦略
- 11回：社会教育におけるジェンダー主流化
- 12回：社会教育事業の評価
- 13回：多文化社会の社会教育
- 14回：諸外国における先駆的な社会教育実践

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

居住するもしくは郷里の地方自治体における社会教育・生涯学習関連計画の策定状況や、社会教育施設の設置状況、さらにその施設が実施する事業をホームページや広報紙等から調べる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加態度、貢献度:20% リアクションペーパーあるいは小課題:40%

最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

「社会教育経営論2」の履修者は、「社会教育経営論1」の単位修得者であることが望ましい。

社会教育経営論 2

Adult and Community Education Management 2

三宅 隆史 (MIYAKE TAKAFUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GD406
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CED3200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「社会教育経営論 1」を修得済みであることが望ましい
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2019 年度以前入学者履修不可（2019 年度以前入学者は GD456「社会教育経営論 2」を履修すること）

授業の目標 / Course Objectives

課題が多様化、複雑化する現代社会において、人々の暮らしにいきがいをもたらす、生活の拠点である地域をより豊かにしていく可能性を持つ社会教育。その可能性を現実のものとしていくためには、戦略的経営の視点から社会教育のあり様を検討することが必要である。

専門的教育職員として社会教育行政の推進の中核を担う社会教育主事ならびに社会教育士には、「学び」の成果を行政、市民・NPO、企業等の多様な主体との連携・協働を図りながら、地域課題の解決、まちづくり・地域振興、福祉、防災、地域学校協働等、様々な活動をつなげていく役

授業の内容 / Course Contents

以下を柱に授業を行う。

- ・学校を核とした地域づくりや地域課題解決のための社会教育の役割。
- ・社会教育推進のためのネットワーク、コーディネーション、人材育成のあり方。
- ・個人の要望と社会の課題を結びつけた学習プログラムの立案と発表。

社会教育は実践的な取り組みであることから、授業においてもワークショップやグループ討議など、参加型

による学習を適宜行う。また居住するもしくは郷里の自治体における社会教育に関するリサーチを行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション、参加者紹介
- 2 回：学校を核とした地域づくり：コミュニティスクールと地域学校協働本部
- 3 回：社会教育における地域ネットワークと住民参加
- 4 回：地域づくりとコーディネーション
- 5 回：地域活動の担い手の育成
- 6 回：社会教育の仕事とキャリア形成：課程修了卒業生のおはなし（ゲストスピーカー）
- 7 回：持続可能な開発のための教育（ESD）と社会教育
- 8 回：ICT と社会教育
- 9 回：地域防災と社会教育
- 10 回：社会福祉と社会教育
- 11 回：学習プログラムの企画・立案①：地域課題と学習目標の明確化
- 12 回：学習プログラムの企画・立案②：事業計画の立案
- 13 回：学習プログラムの企画・立案③：実施計画の詳細立案
- 14 回：学習プログラムの企画・立案④：立案した学習プログラムの発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

居住するもしくは郷里の地方自治体における社会教育・生涯学習関連計画の策定状況や、社会教育施設の設置状況、さらにその施設が実施する事業をホームページや広報紙等から調べる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加態度、貢献度:20% リアクションペーパーあるいは小課題:40%

最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

「社会教育経営論2」の履修者は、「社会教育経営論1」の単位修得者であることが望ましい。

現代社会と社会教育

Modern Society and Social Education

私たちは公害とどのように向き合うのか

丹野 春香 (TANNO HARUKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GD407

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CED2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2019 年度以前入学者履修不可（2019 年度以前入学者は GD457「現代社会と社会教育」を履修すること）

授業の目標 / Course Objectives

公害をとおして現代社会における社会教育の役割や課題を考える。

授業の内容 / Course Contents

この授業では、「公害」をとおして社会教育のあり方を考えていきます。「公害」と「現代社会」がどう結びつくのかを思われるかもしれませんが、公害は私たちが生きている社会のあり方に深くかかわる問題です。公害の世界を掘り下げながら、参加者同志で語り合うことを通じて社会教育のあり方を共に考えていく授業を目指します。そのため自分の考えを形成し、表現するだけでなく、他者の意見を聴きながら共に考えを深めていく積極的な授業への参加を期待します。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス（授業の概要と進め方、自己紹介）
- 2 回：公害と社会教育；現代社会の問題として問い直す
- 3 回：水俣病に学ぶ①水俣病の概要

- 4回：水俣病に学ぶ②なぜ被害は拡大したのか
 5回：水俣病に学ぶ③〔議論〕
 6回：公害を伝える①被害者による語り
 7回：公害を伝える②水俣病センター相思社の取り組み
 8回：公害を伝える③〔議論〕
 9回：いのちの連鎖と公害①胎児性水俣病患者と学習
 10回：いのちの連鎖と公害②胎児性水俣病患者の「場」をひらく
 11回：いのちの連鎖と公害③〔議論〕
 12回：記録と公害①土呂久公害の概要
 13回：記録と公害②教師による公害の告発
 14回：授業の振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する事柄は、必要に応じて別途提示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業中のコメント・ペーパー:40% 授業（グループワーク・全体での意見交換）への参加姿勢:20% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

安藤 聡彦・林 美帆・丹野 春香 『公害スタディーズ；悶え、哀しみ、闘い、語りつぐ』 ころから 2021
9784907239541 ○

参考文献 / Readings

日本社会教育学会 60周年記念出版部会編 『希望への社会教育；3.11 後社会のために』 東洋館出版 2013
9784491029689

原田正純 『豊かさと棄民たち』 岩波書店 2007 9784000280884

高峰武 『水俣病を知っていますか（岩波ブックレット）』 岩波書店 2016 9784002709482

その他、適宜紹介します。

人権と社会教育

Human rights and social education

人権を軸にした社会に向けた学び

丹野 春香 (TANNO HARUKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GD408

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CED2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2019 年度以前入学者履修不可（2019 年度以前入学者は GD458「人権と社会教育」を履修すること）

授業の目標 / Course Objectives

現代社会のさまざまな問題について人権の視点から理解を深め、人権を軸にした社会教育の学びのあり方について考える。

授業の内容 / Course Contents

社会教育の世界では、人権に根ざした学びが多様に展開してきています。まずは事例をとおして授業に参加されるみなさん自身が人権問題に出会うことを目指します。その上で、人権について学ぶことの意義を参加者同志で語り合うことを通じて深めながら、人権を軸にした社会教育の学びをどのようにひらいていくのかを考えていきます。自分の考えを形成し、表現するだけでなく、他者の意見を聴きながら共に考えを深めていく積極的な授業への参加を期待します。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス（授業の概要と進め方、自己紹介）

2 回：社会教育における人権

- 3回：リテラシーと人権
 4回：グループワークと全体での意見交換
 5回：「ホームレス」と人権
 6回：グループワークと全体での意見交換
 7回：公害・開発と人権①
 8回：グループワークと全体での意見交換
 9回：公害・開発と人権②
 10回：グループワークと全体での意見交換
 11回：人権の学びをひらくために①
 12回：人権の学びをひらくために②
 13回：人権の学びをひらくために③
 14回：授業の振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する事柄は、必要に応じて別途提示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業中のコメント・ペーパー:40% 授業 (グループワーク・全体での意見交換) への参加姿勢:20% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

日本社会教育学会編 『現代的人権と社会教育の価値』 東洋館 2004 9784491020303

神村早織・森実編著 『人権教育への招待；ダイバーシティの未来をひらく』 解放出版社 2019

9784759221671

その他、適宜紹介します。

生涯学習支援論 1

Study of Policy and Practice for Lifelong Learning 1

三宅 隆史 (MIYAKE TAKAFUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	学校・社会教育講座
科目コード等：	GD451
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CED2400
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	秋学期「生涯学習概論 2」を履修するにはこの科目を修得済みであることが望ましい。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2020 年度以降入学者履修不可（2020 年度以降入学者は GD401「生涯学習支援論 1」を履修すること）

授業の目標 / Course Objectives

変化の激しい現代社会において多様な課題に直面する学習者の特性や必要性に応じた学習支援が求められている。専門的教育職員として社会教育行政の推進の中核を担う社会教育主事には、優れた学習支援者であることが求められる。また NPO・NGO や地域団体、企業など多様な組織において社会教育の推進を担うことが期待されている「社会教育士」も優れた学習支援者であることが求められている。

社会教育主事課程の必修科目である本科目のねらいは次の通りである。
・現代社会の特徴を理解し、社会教育、学習支援者の役割について理解する。

授業の内容 / Course Contents

- 以下を柱に授業を行う。
- ①現代社会における学習支援者の役割についての理解
 - ②対人支援に必要なスキルの向上
 - ③対象別の学習支援の方法と実践の理解

社会教育は学習者中心アプローチがとられるため、本科目の授業においても教員による講義だけでなく、ワークショップやグループワークなど参加型学習を取り入れる。「生涯学習支援論」を学ぶことは、多くの人々の学習を支援する力量を形成することをめざすとともに、自らを一人の生涯学習者に育てていく教育的営みであることをふまえて、授業を展開する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション、参加者紹介
- 2回：現代社会の課題と学習支援者の役割
- 3回：学習支援に関する教育理論
- 4回：学習支援のスキル①：コミュニケーション
- 5回：学習支援のスキル②：対立の解決
- 6回：学習支援のスキル③：会議の運営
- 7回：子どもの遊びと学習支援
- 8回：若者の学習支援—居場所、グループワーク、ひきこもり状態の若者の支援
- 9回：不登校とフリースクール
- 10回：18歳成人と社会教育
- 11回：障害者の学習支援
- 12回：高齢者の学習支援
- 13回：識字問題と夜間中学
- 14回：良き学習支援者とは（ゲストスピーカーの予定）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

居住するもしくは郷里の地方自治体における社会教育・生涯学習関連施策の概要や、社会教育施設が実施する学習支援や事業について、ホームページや広報紙等から調べる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加態度、貢献度：20% リアクションペーパーあるいは小課題：40%

最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

「生涯学習支援論2」の履修者は、「生涯学習支援論1」の単位修得者であることが望ましい。

生涯学習支援論 2

Study of Policy and Practice for Lifelong Learning 2

三宅 隆史 (MIYAKE TAKAFUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	学校・社会教育講座
科目コード等：	GD452
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CED2400
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	春学期「生涯学習概論 1」を修得済みであることが望ましい
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2020 年度以降入学者履修不可（2020 年度以降入学者は GD402「生涯学習支援論 2」を履修すること）

授業の目標 / Course Objectives

変化の激しい現代社会において多様な課題に直面する学習者の特性や必要性に応じた学習支援が求められている。専門的教育職員として社会教育行政の推進の中核を担う社会教育主事には、優れた学習支援者であることが求められる。また NPO・NGO や地域団体、企業など多様な組織において社会教育の推進を担うことが期待されている「社会教育士」も優れた学習支援者であることが求められている。

社会教育主事課程の必修科目である本科目のねらいは次の通りである。

- ・学習プログラムの企画、準備、実施までの一連のプロセスを修得する。
- ・ワー

授業の内容 / Course Contents

以下を柱に授業を実施する。

- ①学習プログラムの企画、準備、実施までのプロセス、方法、スキル、態度を学ぶ。
- ②科目担当者が提供する環境や人権、格差、消費、保健などの社会課題・生活課題についてのワークショップ教材の中から自分がファシリテーションを実践する教材を選択する。選択した教材ごとに 4 名程度のチームを

構成する。各チームは教材を研究し、学習プログラムを立案、準備し、ファシリテーションの演習を行う。

③各回の参加者は、ファシリテーターへのフィードバックを行う。

ただし、履修者数に応じて上記の進め方を変更することがある。

「生涯学習支援論」を学ぶことは、多くの人々の学習を支援する力量を形成することをめざすとともに、自らを一人の生涯学習者に育てていく教育的営みであることを踏まえて、授業を展開していく。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション、参加者紹介

2回：社会教育における学習の方法と形態

3回：ファシリテーションのスキル①

空間的デザイン

4回：ファシリテーションのスキル②

心理的デザイン

5回：ファシリテーションのスキル③

発問、進行、まとめ

6回：ファシリテーションのスキル④

プログラムの立案とふりかえり、ファシリテーターの態度

7回：ファシリテーション演習①

8回：ファシリテーション演習②

9回：ファシリテーション演習③

10回：ファシリテーション演習④

11回：ファシリテーション演習⑤

12回：ファシリテーション演習⑥

13回：ファシリテーション演習⑦

14回：ファシリテーション演習⑧とまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ファシリテーション演習のためにチームで教材を研究、セッション・プランの作成、使用するスライドや文具類、資料の準備、進行の練習を行なう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加態度、貢献度：20% リアクションペーパーあるいは小課題：40%

最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

「生涯学習支援論2」の履修者は、「生涯学習支援論1」の単位修得者であることが望ましい。

社会教育実践演習（N）

Adult and Community Education Practice Exercises(N)

山崎 雅子 (YAMAZAKI MASAKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	学校・社会教育講座
科目コード等：	GD454
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	通年他
単位：	4
科目ナンバリング：	CED3310
使用言語：	日本語
授業形式：	実習
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	「社会教育実践演習（N）」の履修者は、「生涯学習概論1、2」の単位修得者であることが望ましい。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	新座キャンパス所属学生対象
2019 年度以前入学者履修不可	

授業の目標 / Course Objectives

社会教育の現場を体験することにより、社会教育に関する理解をより一層深めることをねらいとする。また、教育委員会や社会教育施設、NPO 等の多様な団体・組織で活動する職員・スタッフや市民と出会うことにより、自らのキャリア形成を考える機会ともする。併せて、限られた時間内で実習報告をすることで、社会教育従事者に必須のプレゼンテーション力の向上を図る。

授業の内容 / Course Contents

この授業は春学期にオリエンテーションと実習先確認会、希望者を対象とした個別相談会を行う。春学期では各自で実習テーマを検討し、実習先研究を行いつつ、実習先を確定していく。任意の地域（夏休みに行うのであれば帰省先でも良い）の実習先を自ら探し、選択、交渉し、確保する。このプロセスを通じて社会教育従事者に必須のコーディネーション・スキルを向上することができる。なお実習先は、実習テーマに合致していれば、公民館や生涯学習センター、青少年施設、男女共同参画センターなどの公的社会教育施設や生涯学習課、市民協働課などの自治体の社会教育関連課に加えて、社会教育を推進する NPO・NGO（フリースクール

含む)・ボランティア組織・企業でも良い。実習希望先への依頼や、日程調整等の打ち合わせについては、細心の注意を払うことが必要である。

実習は夏休みの期間あるいはそれ以降に49時間以上(1週間～10日間程度)行う。実習中は受入担当者の指導・支援の基で、施設運営や社会教育事業の補佐に従事する。学習者や利用者の学びの支援や安全確保、交流も、実習でしか得られない貴重な経験である。

秋学期にそれぞれの実習に関する報告会を実施する。スライドを準備し、決められた時間の発表を行うことで社会教育従事者に必須のプレゼンテーション・スキルの向上を図る。また他の学生の実習報告を聴くことは、社会教育の現場の多様な実態を理解する上で有意義であり、報告会における意見交換を重視する。

「社会教育実践演習」を学ぶことは、社会教育の現場での経験を通じて、大学における社会教育・生涯学習に関わる学びの全体を統合していく営みでもある。学生にとって重要な意味を持つとともに、実習の受入先にとっても有意義なものとなるような実習となることをめざし、個別指導も行う。

授業計画(授業計画数：1) / Course Schedule

1回：【春学期】

●オリエンテーション (必須)

4/6(土)の14:15～17:25にN222教室にて行う。履修希望者は遅刻せず必ず出席すること。授業全般の進め方、実習内容の説明の後、昨年度の履修者の報告会での発表の動画を視聴する。また実習計画の立案、実習先の探し方、実習先の確保から実施までの流れの説明を行う。

最後に履修希望者は、実習希望フォームをオンラインで記入する。

記入された上記フォームで指導教員が履修希望者の意思を確認した後、指導教員が履修者名簿を教務センターに提出し、教務センターが履修者登録を

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

実習先の確保に向けて、希望する実習先の状況を研究するとともに、実習を通して学びたいと考えるテーマを設定すること。実習希望先への依頼や、日程調整等の打ち合わせについては、細心の注意を払うことが必要である。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% オリエンテーション、個別指導、実習、報告会での発表、報告会の参加、レポートをクリアすることを前提とし、総合的に評価する。:100%

テキスト/Textbooks

なし

参考文献 / Readings

なし

その他/Others

社会教育実践演習は、卒業後の進路選択において有益な経験となることから3年次に履修することを勧める。

社会教育経営論 1

Adult and Community Education Management 1

三宅 隆史 (MIYAKE TAKAFUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	学校・社会教育講座
科目コード等：	GD455
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CED3100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	秋学期「社会教育経営論 2」を履修するにはこの科目を修得済みであることが望ましい。
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	2020 年度以降入学者履修不可（2020 年度以降入学者は GD405「社会教育経営論 1」を履修すること）

授業の目標 / Course Objectives

課題が多様化、複雑化する現代社会において、人々の暮らしにいきがいをもたらし、生活の拠点である地域をより豊かにしていく可能性を持つ社会教育。その可能性を現実のものとしていくためには、戦略的経営の視点から社会教育のあり様を検討することが必要である。

専門的教育職員として社会教育行政の推進の中核を担う社会教育主事ならびに社会教育士には、「学び」の成果を行政、市民・NPO、企業等の多様な主体との連携・協働を図りながら、地域課題の解決、まちづくり・地域振興、福祉、防災、地域学校協働等、様々な活動をつなげていく役

授業の内容 / Course Contents

以下を柱に授業を行う。

- ・社会教育関連法令と社会教育行財政の変遷
- ・経営の視点からの社会教育の計画、施設、人材、広報
- ・現代社会の課題に即した社会教育の役割と先駆的な実践

社会教育は実践的な取り組みであることから、授業においてもワークショップやグループ討議など、参加型による学習を適宜行う。また居住するもしくは郷里の自治体における社会教育に関するリサーチを行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション、参加者紹介
- 2回：現代社会の課題と社会教育の役割
- 3回：社会教育関係法令（教育基本法、社会教育法、生涯学習振興法等）
- 4回：社会教育の行財政の変遷と課題
- 5回：社会教育施設の経営
- 6回：社会教育施設の職員
- 7回：生涯学習推進計画と社会教育計画
- 8回：社会教育現場の職員から学ぶ <豊島区の施設見学と講義>
- 9回：社会教育組織のリーダーシップ
- 10回：社会教育事業の広報戦略
- 11回：社会教育におけるジェンダー主流化
- 12回：社会教育事業の評価
- 13回：多文化社会の社会教育
- 14回：諸外国における先駆的な社会教育実践

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

居住するもしくは郷里の地方自治体における社会教育・生涯学習関連計画の策定状況や、社会教育施設の設置状況、さらにその施設が実施する事業をホームページや広報紙等から調べる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加態度、貢献度:20% リアクションペーパーあるいは小課題:40%

最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

「社会教育経営論2」の履修者は、「社会教育経営論1」の単位修得者であることが望ましい。

社会教育経営論 2

Adult and Community Education Management 2

三宅 隆史 (MIYAKE TAKAFUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GD456
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CED3100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定： 春学期「社会教育経営論 1」を修得済みであることが望ましい
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 2020 年度以降入学者履修不可（2020 年度以降入学者は GD406「社会教育経営論 2」を履修すること）

授業の目標 / Course Objectives

課題が多様化、複雑化する現代社会において、人々の暮らしにいきがいをもたらす、生活の拠点である地域をより豊かにしていく可能性を持つ社会教育。その可能性を現実のものとしていくためには、戦略的経営の視点から社会教育のあり様を検討することが必要である。

専門的教育職員として社会教育行政の推進の中核を担う社会教育主事ならびに社会教育士には、「学び」の成果を行政、市民・NPO、企業等の多様な主体との連携・協働を図りながら、地域課題の解決、まちづくり・地域振興、福祉、防災、地域学校協働等、様々な活動をつなげていく役

授業の内容 / Course Contents

以下を柱に授業を行う。

- ・学校を核とした地域づくりや地域課題解決のための社会教育の役割。
- ・社会教育推進のためのネットワーク、コーディネーション、人材育成のあり方。
- ・個人の要望と社会の課題を結びつけた学習プログラムの立案と発表。

社会教育は実践的な取り組みであることから、授業においてもワークショップやグループ討議など、参加型

による学習を適宜行う。また居住するもしくは郷里の自治体における社会教育に関するリサーチを行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション、参加者紹介
- 2 回：学校を核とした地域づくり：コミュニティスクールと地域学校協働本部
- 3 回：社会教育における地域ネットワークと住民参加
- 4 回：地域づくりとコーディネーション
- 5 回：地域活動の担い手の育成
- 6 回：社会教育の仕事とキャリア形成：課程修了卒業生のおはなし（ゲストスピーカー）
- 7 回：持続可能な開発のための教育（ESD）と社会教育
- 8 回：ICT と社会教育
- 9 回：地域防災と社会教育
- 10 回：社会福祉と社会教育
- 11 回：学習プログラムの企画・立案①：地域課題と学習目標の明確化
- 12 回：学習プログラムの企画・立案②：事業計画の立案
- 13 回：学習プログラムの企画・立案③：実施計画の詳細立案
- 14 回：学習プログラムの企画・立案④：立案した学習プログラムの発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

居住するもしくは郷里の地方自治体における社会教育・生涯学習関連計画の策定状況や、社会教育施設の設置状況、さらにその施設が実施する事業をホームページや広報紙等から調べる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加態度、貢献度:20% リアクションペーパーあるいは小課題:40%

最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

「社会教育経営論2」の履修者は、「社会教育経営論1」の単位修得者であることが望ましい。

現代社会と社会教育

Modern Society and Social Education

私たちは公害とどのように向き合うのか

丹野 春香 (TANNO HARUKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GD457

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CED2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2020 年度以降入学者履修不可（2020 年度以降入学者は GD407「現代社会と社会教育」を履修すること）

授業の目標 / Course Objectives

公害をとおして現代社会における社会教育の役割や課題を考える。

授業の内容 / Course Contents

この授業では、「公害」をとおして社会教育のあり方を考えていきます。「公害」と「現代社会」がどう結びつくのかを思われるかもしれませんが、公害は私たちが生きている社会のあり方に深くかかわる問題です。公害の世界を掘り下げながら、参加者同志で語り合うことを通じて社会教育のあり方を共に考えていく授業を目指します。そのため自分の考えを形成し、表現するだけでなく、他者の意見を聴きながら共に考えを深めていく積極的な授業への参加を期待します。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス（授業の概要と進め方、自己紹介）
- 2 回：公害と社会教育；現代社会の問題として問い直す
- 3 回：水俣病に学ぶ①水俣病の概要

- 4回：水俣病に学ぶ②なぜ被害は拡大したのか
 5回：水俣病に学ぶ③〔議論〕
 6回：公害を伝える①被害者による語り
 7回：公害を伝える②水俣病センター相思社の取り組み
 8回：公害を伝える③〔議論〕
 9回：いのちの連鎖と公害①胎児性水俣病患者と学習
 10回：いのちの連鎖と公害②胎児性水俣病患者の「場」をひらく
 11回：いのちの連鎖と公害③〔議論〕
 12回：記録と公害①土呂久公害の概要
 13回：記録と公害②教師による公害の告発
 14回：授業の振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する事柄は、必要に応じて別途提示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業中のコメント・ペーパー:40% 授業（グループワーク・全体での意見交換）への参加姿勢:20% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

安藤 聡彦・林 美帆・丹野 春香 『公害スタディーズ；悶え、哀しみ、闘い、語りつぐ』 ころから 2021
 9784907239541 ○

参考文献 / Readings

日本社会教育学会 60周年記念出版部会編 『希望への社会教育；3.11 後社会のために』 東洋館出版 2013
 9784491029689

原田正純 『豊かさと棄民たち』 岩波書店 2007 9784000280884

高峰武 『水俣病を知っていますか（岩波ブックレット）』 岩波書店 2016 9784002709482

その他、適宜紹介します。

人権と社会教育

Human rights and social education

人権を軸にした社会に向けた学び

丹野 春香 (TANNO HARUKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GD458

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CED2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2020 年度以降入学者履修不可（2020 年度以降入学者は GD408「人権と社会教育」を履修すること）

授業の目標 / Course Objectives

現代社会のさまざまな問題について人権の視点から理解を深め、人権を軸にした社会教育の学びのあり方について考える。

授業の内容 / Course Contents

社会教育の世界では、人権に根ざした学びが多様に展開してきています。まずは事例をとおして授業に参加されるみなさん自身が人権問題に出会うことを目指します。その上で、人権について学ぶことの意義を参加者同志で語り合うことを通じて深めながら、人権を軸にした社会教育の学びをどのようにひらいていくのかを考えていきます。自分の考えを形成し、表現するだけでなく、他者の意見を聴きながら共に考えを深めていく積極的な授業への参加を期待します。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス（授業の概要と進め方、自己紹介）

2 回：社会教育における人権

- 3回：リテラシーと人権
 4回：グループワークと全体での意見交換
 5回：「ホームレス」と人権
 6回：グループワークと全体での意見交換
 7回：公害・開発と人権①
 8回：グループワークと全体での意見交換
 9回：公害・開発と人権②
 10回：グループワークと全体での意見交換
 11回：人権の学びをひらくために①
 12回：人権の学びをひらくために②
 13回：人権の学びをひらくために③
 14回：授業の振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する事柄は、必要に応じて別途提示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業中のコメント・ペーパー:40% 授業 (グループワーク・全体での意見交換) への参加姿勢:20% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

日本社会教育学会編 『現代的人権と社会教育の価値』 東洋館 2004 9784491020303

神村早織・森実編著 『人権教育への招待；ダイバーシティの未来をひらく』 解放出版社 2019
 9784759221671

その他、適宜紹介します。

教育原論（A）

Principles of Education(A)

森田 満夫 (MORITA MITSUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GX301
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

果たして人間はどうしても教育されねばならない存在なのだろうか。このテーマをめぐり、参加者各人が自己の（被）教育体験を対象化し、相対化する糸口を探ることを目標とする。このことが「教育を根本から考える」第一歩である。迂遠なようだが、参加者間の討議により、教育の実践知の基盤となる反省知が獲得されていくはずである。

また、上記のテーマと並行して、人間のメルクマールと教育の理念について考察し、近現代の教育史におけるそれぞれの時代の教育思想とその教育理念についての理解を深める。

授業の内容 / Course Contents

授業の目標に近づくべく、教育学および隣接諸科学の成果を援用しながら、主な柱として次のような問題を検討する。参加者間で相互に討議する機会をなるべく多く設けたい。

- ・人間のメルクマールと教育の理念
- ・子どもと大人の関係の歴史的変遷
- ・近代学校を導いた思想とその教育理念

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入：「教育とは何か」、人間のメルクマールと教育の理念をどのように考えるか
- 2回：人間の発達と教育（1）＝発達におよぼす素質の影響
- 3回：人間の発達と教育（2）＝発達におよぼす環境の影響
- 4回：人間発達における教育の必要性（1）＝人間発達の可塑性
- 5回：人間発達における教育の必要性（2）＝人間発達と教育との関係
- 6回：子どもと大人の関係の歴史的変遷（1）＝近代以前の子ども観と教育観（西洋）
- 7回：子どもと大人の関係の歴史的変遷（2）＝近代以前の子ども観と教育観（日本）
- 8回：子どもと大人の関係の歴史的変遷（3）＝近代における子ども観と教育観
- 9回：子どもと大人の関係の歴史的変遷（4）＝現代の子ども観と教育観
- 10回：近現代教育史（1）＝近代的教育システムの胎動
- 11回：近現代教育史（2）＝戦前期の教育思想とその教育理念
- 12回：近現代教育史（3）＝戦後改革の教育思想とその教育理念
- 13回：近現代教育史（4）＝現代教育制度改革の教育思想とその教育理念概観
- 14回：まとめ＝人間と教育と教育の理念を再考する

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	○	グループ発表	:	○
ディスカッション・ディベート	:	○		:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマについて関心を持ち、テキストや参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の小レポート:100%

テキスト / Textbooks

配付教材（レジュメ集・教材資料集等、『Canvas LMS』にもアップロード予定）を主として使用する。

参考文献 / Readings

平原春好・寺崎昌男編集代表 『新版教育小事典第3版』 学陽書房 2011 9784313610330

齋藤浩志編 『教育実践学の基礎』 青木書店 1992 4250920100

その他 / Others

授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

教育原論（B）

Principles of Education(B)

小川 智瑞恵 (OGAWA CHIZUE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GX302
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

果たして人間はどうしても教育されねばならない存在なのだろうか。このテーマをめぐり、参加者各人が自己の（被）教育体験を対象化し、相対化する糸口を探ることを目標とする。このことが「教育を根本から考える」第一歩である。迂遠なようだが、参加者間の討議により、教育の実践知の基盤となる反省知が獲得されていくはずである。

また、上記のテーマと並行して、人間のメルクマールと教育の理念について考察し、近現代の教育史におけるそれぞれの時代の教育思想とその教育理念についての理解を深める。

授業の内容 / Course Contents

授業の目標に近づくべく、教育学および隣接諸科学の成果を援用しながら、主な柱として次のような問題を検討する。参加者間で相互に討議する機会をなるべく多く設けたい。

- ・人間のメルクマールと教育の理念
- ・子どもと大人の関係の歴史的変遷
- ・近代学校を導いた思想とその教育理念

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入：「教育とは何か」、人間のメルクマールと教育の理念をどのように考えるか
- 2回：人間の発達と教育（1）＝発達におよぼす素質の影響
- 3回：人間の発達と教育（2）＝発達におよぼす環境の影響
- 4回：人間発達における教育の必要性（1）＝人間発達の可塑性
- 5回：人間発達における教育の必要性（2）＝人間発達と教育との関係
- 6回：子どもと大人の関係の歴史的変遷（1）＝近代以前の子ども観と教育観（西洋）
- 7回：子どもと大人の関係の歴史的変遷（2）＝近代以前の子ども観と教育観（日本）
- 8回：子どもと大人の関係の歴史的変遷（3）＝近代における子ども観と教育観
- 9回：子どもと大人の関係の歴史的変遷（4）＝現代の子ども観と教育観
- 10回：近現代教育史（1）＝近代的教育システムの胎動
- 11回：近現代教育史（2）＝戦前期の教育思想とその教育理念
- 12回：近現代教育史（3）＝戦後改革の教育思想とその教育理念
- 13回：近現代教育史（4）＝現代教育制度改革の教育思想とその教育理念概観
- 14回：まとめ＝人間と教育と教育の理念を再考する

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマについて関心を持ち、テキストや参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% リアクション・ペーパー:40% 授業内に指示した提出物:20% 最終レポート:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

教育原論（C）

Principles of Education(C)

鵜殿 篤 (UDONO ATSUSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GX303
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

果たして人間はどうしても教育されねばならない存在なのだろうか。このテーマをめぐり、参加者各人が自己の（被）教育体験を対象化し、相対化する糸口を探ることを目標とする。このことが「教育を根本から考える」第一歩である。迂遠なようだが、参加者間の討議により、教育の実践知の基盤となる反省知が獲得されていくはずである。

また、上記のテーマと並行して、人間のメルクマールと教育の理念について考察し、近現代の教育史におけるそれぞれの時代の教育思想とその教育理念についての理解を深める。

授業の内容 / Course Contents

授業の目標に近づくべく、教育学および隣接諸科学の成果を援用しながら、主な柱として次のような問題を検討する。参加者間で相互に討議する機会をなるべく多く設けたい。

- ・人間のメルクマールと教育の理念
- ・子どもと大人の関係の歴史の変遷
- ・近代学校を導いた思想とその教育理念

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入：「教育とは何か」、人間のメルクマールと教育の理念をどのように考えるか
- 2回：人間の発達と教育（1）＝発達におよぼす素質の影響
- 3回：人間の発達と教育（2）＝発達におよぼす環境の影響
- 4回：人間発達における教育の必要性（1）＝人間発達の可塑性
- 5回：人間発達における教育の必要性（2）＝人間発達と教育との関係
- 6回：子どもと大人の関係の歴史的変遷（1）＝近代以前の子ども観と教育観（西洋）
- 7回：子どもと大人の関係の歴史的変遷（2）＝近代以前の子ども観と教育観（日本）
- 8回：子どもと大人の関係の歴史的変遷（3）＝近代における子ども観と教育観
- 9回：子どもと大人の関係の歴史的変遷（4）＝現代の子ども観と教育観
- 10回：近現代教育史（1）＝近代的教育システムの胎動
- 11回：近現代教育史（2）＝戦前期の教育思想とその教育理念
- 12回：近現代教育史（3）＝戦後改革の教育思想とその教育理念
- 13回：近現代教育史（4）＝現代教育制度改革の教育思想とその教育理念概観
- 14回：まとめ＝人間と教育と教育の理念を再考する

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマについて関心を持ち、テキストや参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業中課題:30% 毎回の事後課題:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

教育原論（D）

Principles of Education(D)

森田 満夫 (MORITA MITSUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GX304
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

果たして人間はどうしても教育されねばならない存在なのだろうか。このテーマをめぐり、参加者各人が自己の（被）教育体験を対象化し、相対化する糸口を探ることを目標とする。このことが「教育を根本から考える」第一歩である。迂遠なようだが、参加者間の討議により、教育の実践知の基盤となる反省知が獲得されていくはずである。

また、上記のテーマと並行して、人間のメルクマールと教育の理念について考察し、近現代の教育史におけるそれぞれの時代の教育思想とその教育理念についての理解を深める。

授業の内容 / Course Contents

授業の目標に近づくべく、教育学および隣接諸科学の成果を援用しながら、主な柱として次のような問題を検討する。参加者間で相互に討議する機会をなるべく多く設けたい。

- ・人間のメルクマールと教育の理念
- ・子どもと大人の関係の歴史の変遷
- ・近代学校を導いた思想とその教育理念

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入：「教育とは何か」、人間のメルクマールと教育の理念をどのように考えるか
- 2回：人間の発達と教育（1）＝発達におよぼす素質の影響
- 3回：人間の発達と教育（2）＝発達におよぼす環境の影響
- 4回：人間発達における教育の必要性（1）＝人間発達の可塑性
- 5回：人間発達における教育の必要性（2）＝人間発達と教育との関係
- 6回：子どもと大人の関係の歴史的変遷（1）＝近代以前の子ども観と教育観（西洋）
- 7回：子どもと大人の関係の歴史的変遷（2）＝近代以前の子ども観と教育観（日本）
- 8回：子どもと大人の関係の歴史的変遷（3）＝近代における子ども観と教育観
- 9回：子どもと大人の関係の歴史的変遷（4）＝現代の子ども観と教育観
- 10回：近現代教育史（1）＝近代的教育システムの胎動
- 11回：近現代教育史（2）＝戦前期の教育思想とその教育理念
- 12回：近現代教育史（3）＝戦後改革の教育思想とその教育理念
- 13回：近現代教育史（4）＝現代教育制度改革の教育思想とその教育理念概観
- 14回：まとめ＝人間と教育と教育の理念を再考する

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	○	グループ発表	:	○
ディスカッション・ディベート	:	○		:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマについて関心を持ち、テキストや参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の小レポート:100%

テキスト / Textbooks

配付教材（レジュメ集・教材資料集等、『Canvas LMS』にもアップロード予定）を主として使用する。

参考文献 / Readings

平原春好・寺崎昌男編集代表 『新版教育小事典第3版』 学陽書房 2011 9784313610330

齋藤浩志編 『教育実践学の基礎』 青木書店 1992 4250920100

その他 / Others

授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

生徒・進路指導の理論と方法（A）

Theories and Methods of Student and Career(A)

坂本 保宏 (SAKAMOTO YASUHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GX321
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指す生徒指導を学ぶ。また、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むための進路指導を学ぶ。

授業の内容 / Course Contents

生徒指導もキャリア教育も学校現場ではあらゆる教育活動において実践するものとされている。教育現場における実践事例に触れながら、本来の意味や役割について理解を深め、教育現場で活用できる実践的な力量形成が図れるように講義する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入：生徒指導・進路指導とは
- 2 回：学校全体の教育活動の中の生徒指導
- 3 回：集団指導・個別指導、生徒指導体制と教育相談
- 4 回：生徒指導の集団指導のあり方
- 5 回：生徒指導の個別指導のあり方

- 6回：問題行動への対応
 7回：いじめへの対応
 8回：情報機器の使用に関する問題・情報倫理・リテラシー
 9回：不登校への対応
 10回：進路指導・キャリア教育の意義と理論、そのあり方
 11回：カリキュラム・マネジメント・ガイダンスの意義
 12回：進路指導・キャリア教育の実際
 13回：キャリア・カウンセリングの方法、ポートフォリオの活用
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマについて関心を持ち、参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業で提出するリアクションペーパー:70% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

文部科学省 2022『生徒指導提要』。文部科学省 HP から入手することができる。

参考文献 / Readings

PDF データでその都度配付する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

自らの学校体験を「教師としての視点」から捉え直すことへの意欲

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PDF テキストを閲覧できる機器を授業に持参できることが望ましい。

生徒・進路指導の理論と方法（B）

Theories and Methods of Student and Career(B)

中村 豊 (NAKAMURA YUTAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GX322
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指す生徒指導を学ぶ。また、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むための進路指導を学ぶ。

授業の内容 / Course Contents

生徒指導もキャリア教育も学校現場ではあらゆる教育活動において実践するものとされている。教育現場における実践事例に触れながら、本来の意味や役割について理解を深め、教育現場で活用できる実践的な力量形成が図れるように講義する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入：生徒指導・進路指導とは
- 2 回：学校全体の教育活動の中の生徒指導
- 3 回：集団指導・個別指導、生徒指導体制と教育相談
- 4 回：生徒指導の集団指導のあり方
- 5 回：生徒指導の個別指導のあり方

- 6回：問題行動への対応
 7回：いじめへの対応
 8回：情報機器の使用に関する問題・情報倫理・リテラシー
 9回：不登校への対応
 10回：進路指導・キャリア教育の意義と理論、そのあり方
 11回：カリキュラム・マネジメント・ガイダンスの意義
 12回：進路指導・キャリア教育の実際
 13回：キャリア・カウンセリングの方法、ポートフォリオの活用
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマについて関心を持ち、参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の課題レポート:70% 最終授業内到達度評価:30%

テキスト / Textbooks

中村 豊 『生徒指導提要 改訂の解説とポイント』 ミネルヴァ書房 2023 9784623094745 ○

参考文献 / Readings

文部科学省「生徒指導提要」等、授業内で指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

学校臨床における諸課題への関心・意欲

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

BYOD

生徒・進路指導の理論と方法（C）

Theories and Methods of Student and Career(C)

坂本 保宏 (SAKAMOTO YASUHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GX323
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指す生徒指導を学ぶ。また、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むための進路指導を学ぶ。

授業の内容 / Course Contents

生徒指導もキャリア教育も学校現場ではあらゆる教育活動において実践するものとされている。教育現場における実践事例に触れながら、本来の意味や役割について理解を深め、教育現場で活用できる実践的な力量形成が図れるように講義する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入：生徒指導・進路指導とは
- 2 回：学校全体の教育活動の中の生徒指導
- 3 回：集団指導・個別指導、生徒指導体制と教育相談
- 4 回：生徒指導の集団指導のあり方
- 5 回：生徒指導の個別指導のあり方

- 6回：問題行動への対応
 7回：いじめへの対応
 8回：情報機器の使用に関する問題・情報倫理・リテラシー
 9回：不登校への対応
 10回：進路指導・キャリア教育の意義と理論、そのあり方
 11回：カリキュラム・マネジメント・ガイダンスの意義
 12回：進路指導・キャリア教育の実際
 13回：キャリア・カウンセリングの方法、ポートフォリオの活用
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマについて関心を持ち、参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業で提出するリアクションペーパー:70% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

文部科学省 2022『生徒指導提要』。文部科学省 HP から入手することができる。

参考文献 / Readings

PDF データでその都度配付する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

自らの学校体験を「教師としての視点」から捉え直すことへの意欲

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PDF テキストを閲覧できる機器を授業に持参できることが望ましい。

生徒・進路指導の理論と方法（D）

Theories and Methods of Student and Career(D)

岸 竜馬 (KISHI TATSUMA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GX324
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面（全回対面）/Face to face (all classes are face-to-face)
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指す生徒指導を学ぶ。また、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むための進路指導を学ぶ。

授業の内容 / Course Contents

生徒指導もキャリア教育も学校現場ではあらゆる教育活動において実践するものとされている。教育現場における実践事例に触れながら、本来の意味や役割について理解を深め、教育現場で活用できる実践的な力量形成が図れるように講義する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入：生徒指導・進路指導とは
- 2 回：生徒指導・進路指導・教育相談とは一意義と役割
- 3 回：生徒理解の基礎
- 4 回：思春期・青年期の発達課題
- 5 回：不登校・ひきこもり

- 6回：いじめ
 7回：思春期・青年期の非行の問題
 8回：思春期・青年期における発達障害の理解と対応
 9回：思春期・青年期における精神医学的問題
 10回：学校における緊急支援
 11回：学校組織と関係機関・家庭との連携
 12回：カウンセリングの理論と技法
 13回：進路指導の理論と方法－思春期，青年期における進路指導
 14回：学級経営

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	校内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマについて関心を持ち、メディアで取り上げられる中学生高校生の「問題」行動に関わる報道に積極的に触れ、その背景などを授業内容などをもとにして調べておくこと。授業の復習をすること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間レポート:30% リアクションペーパー:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

長谷川啓三 佐藤宏平 花田里欧子 『事例で学ぶ生徒指導・進路指導・教育相談 中学校・高等学校編 第3版』 遠見書房 2019 9784866160986 ○

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領及び各自の免許取得予定教科の学習指導要領解説。いずれも文部科学省 HP を見ること。

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

教育制度論・教育課程論（A）

System of Education, Course of Education(A)

森田 満夫 (MORITA MITSUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GX331
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教育は、子どもが接する教育課程・教育内容を通して社会的・制度的に現象する作用である。それゆえに、教育を社会現象である「制度としての教育」として理解することが重要である。本講義では、そのような理解に必要な教育法学・教育行政学の基本的知識修得を目標とする。

授業の内容 / Course Contents

本講義は、教育に関する制度及び教育課程に関する教育の基礎的事項を学修する科目である。教育制度及び教育課程は、その規範が日本国憲法(憲法、1946年)及び旧教育基本法(旧教基法、1947年)の精神—〈人権としての教育〉—にあることはいままでもない。旧教基法を全面改正し成立した新教育基本法(新教基法、2006年)以降に具体化する現代日本の教育改革が、私たち国民の教育をどこに導くのかについて、現憲法の精神を抛り所にリアルに考える。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業ガイダンス(授業内容及び進め方)・教育制度とはなにか
- 2回：戦後教育改革の歴史的意義
- 3回：憲法・教育基本法制

- 4回：現代学校制度の原理と機能
 5回：教育行政の原理と組織
 6回：教育課程の法と行政
 7回：学習指導要領の歴史と今日の特徴
 8回：教科書裁判の展開
 9回：教職員法制の原理と展開
 10回：教育条件整備と教育財政
 11回：学校経営とカリキュラム・マネジメント
 12回：教育参加と地域連携
 13回：学校安全
 14回：人権としての教育をめぐる現代的課題・授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	○ グループ発表	:	○ ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマについて関心を持ち、テキストや参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回課す全 14 回小レポート:100%

テキスト / Textbooks

配付教材 (レジュメ集・教材資料集等、『Canvas LMS』にもアップロード予定) を主として使用する。

参考文献 / Readings

土屋基規編 『現代教育制度論』 ミネルヴァ書房 2011 9784623058358

平原春好・寺崎昌男編 『新版教育小事典』 学陽書房 2011 9784313610330

勝野正章ら編 『教育小六法 2024』 学陽書房 2024 9784313011984

教育制度論・教育課程論（B）

System of Education, Course of Education (B)

福島 賢二 (FUKUSHIMA KENJI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GX332
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教育は、子どもが接する教育課程・教育内容を通して社会的・制度的に現象する作用である。それゆえに、教育を社会現象である「制度としての教育」として理解することが重要である。本講義では、そのような理解に必要な教育法学・教育行政学の基本的知識修得を目標とする。

授業の内容 / Course Contents

本講義は、教育に関する制度及び教育課程に関する教育の基礎的事項を学修する科目である。教育制度及び教育課程は、その規範が日本国憲法(憲法、1946年)及び旧教育基本法(旧教基法、1947年)の精神—〈人権としての教育〉—にあることはいままでもない。旧教基法を全面改正し成立した新教育基本法(新教基法、2006年)以降に具体化する現代日本の教育改革が、私たち国民の教育をどこに導くのかについて、現憲法の精神を抛り所にリアルに考える。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業ガイダンス(授業内容及び進め方)・教育制度とはなにか
- 2回：戦後教育改革の歴史的意義
- 3回：憲法・教育基本法制

- 4回：現代学校制度の原理と機能
 5回：教育行政の原理と組織
 6回：教育課程の法と行政
 7回：学習指導要領の歴史と今日の特徴
 8回：教科書裁判の展開
 9回：教職員法制の原理と展開
 10回：教育条件整備と教育財政
 11回：学校経営とカリキュラム・マネジメント
 12回：教育参加と地域連携
 13回：学校安全
 14回：人権としての教育をめぐる現代的課題・授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマについて関心を持ち、テキストや参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終試験あるいは最終レポート：40% 授業内での確認テスト及び小レポートの内容（なお、リアクションペーパーは内容によって加味する場合がある）：60%

授業の実施回数の2/3以上の出席がなければ単位認定はしない。

テキスト / Textbooks

毎回、授業プリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜、紹介する。

教育制度論・教育課程論（C）

System of Education, Course of Education (C)

下地 秀樹 (SHIMOJI HIDEKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GX333
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教育は、子どもが接する教育課程・教育内容を通して社会的・制度的に現象する作用である。それゆえに、教育を社会現象である「制度としての教育」として理解することが重要である。本講義では、そのような理解に必要な教育法学・教育行政学の基本的知識修得を目標とする。

授業の内容 / Course Contents

本講義は、教育に関する制度及び教育課程に関する教育の基礎的事項を学修する科目である。教育制度及び教育課程は、その規範が日本国憲法(憲法、1946年)及び旧教育基本法(旧教基法、1947年)の精神—〈人権としての教育〉—にあることはいままでもない。旧教基法を全面改正し成立した新教育基本法(新教基法、2006年)以降に具体化する現代日本の教育改革が、私たち国民の教育をどこに導くのかについて、現憲法の精神を抛り所にリアルに考える。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業ガイダンス(授業内容及び進め方)・教育制度とはなにか
- 2回：戦後教育改革の歴史的意義
- 3回：憲法・教育基本法制

- 4回：現代学校制度の原理と機能
 5回：教育行政の原理と組織
 6回：教育課程の法と行政
 7回：学習指導要領の歴史と今日の特徴
 8回：教科書裁判の展開
 9回：教職員法制の原理と展開
 10回：教育条件整備と教育財政
 11回：学校経営とカリキュラム・マネジメント
 12回：教育参加と地域連携
 13回：学校安全
 14回：人権としての教育をめぐる現代的課題・授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマについて関心を持ち、参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の小レポートおよび相互批評:80% 最終レポート割合：20%

相互批評を重視する

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

堀尾輝久ほか 『新版 地球時代の教育原理』 三恵社 2020 9784866933450

適宜紹介する

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノートパソコンまたはタブレット

その他 / Others

『新学習指導要領（本文、解説、資料等）』 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1383986.htm
 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領については、文部科学省 HP を見ること。
 授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

教育制度論・教育課程論（D）

System of Education, Course of Education (D)

清重 めい (KIYOSHIGE MEI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GX334
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教育は、子どもが接する教育課程・教育内容を通して社会的・制度的に現象する作用である。それゆえに、教育を社会現象である「制度としての教育」として理解することが重要である。本講義では、そのような理解に必要な教育法学・教育行政学の基本的知識修得を目標とする。

授業の内容 / Course Contents

本講義は、教育に関する制度及び教育課程に関する教育の基礎的事項を学修する科目である。教育制度及び教育課程は、その規範が日本国憲法(憲法、1946年)及び旧教育基本法(旧教基法、1947年)の精神—〈人権としての教育〉—にあることはいままでもない。旧教基法を全面改正し成立した新教育基本法(新教基法、2006年)以降に具体化する現代日本の教育改革が、私たち国民の教育をどこに導くのかについて、現憲法の精神を抛り所にリアルに考える。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業ガイダンス(授業内容及び進め方)・教育制度とはなにか
- 2回：戦後教育改革の歴史的意義
- 3回：憲法・教育基本法制

- 4回：現代学校制度の原理と機能
- 5回：教育行政の原理と組織
- 6回：教育課程の法と行政
- 7回：学習指導要領の歴史と今日の特徴
- 8回：教科書裁判の展開
- 9回：教職員法制の原理と展開
- 10回：教育条件整備と教育財政
- 11回：学校経営とカリキュラム・マネジメント
- 12回：教育参加と地域連携
- 13回：学校安全
- 14回：人権としての教育をめぐる現代的課題・授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマについて関心を持ち、テキストや参考文献を一読すること。

授業終了時などに課題を提示するので、これに従って事前・事後の学習をしてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー（Reaction Paper）:40%

テキスト / Textbooks

参照したい資料は適宜プリントとして配布します。

参考文献 / Readings

参照したい資料は適宜プリントとして配布します。

博物館概論（A）

Museology(A)

山形 真理子 (YAMAGATA MARIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GX526
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CEM1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 「博物館概論（B）」と同一科目

授業の目標 / Course Objectives

博物館についての基本的で広範な知識を身につけ、活動の実際や法制度面も含めた学びを通して博物館の概要を理解する。

授業の内容 / Course Contents

博物館学の目的と意義、博物館の成り立ちと歴史、博物館法と関連法規、学芸員の役割と活動、博物館の社会的意義などについて具体的な事例をふまえながら振り返り、博物館の現状と今後の可能性について考察する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：日本の博物館の現状
- 2 回：博物館の定義：博物館の定義、機能、博物館学の目的
- 3 回：博物館の定義：博物館法と関連法規
- 4 回：博物館の歴史：博物館の起源と世界の博物館史
- 5 回：博物館の歴史：日本における博物館の成立と展開
- 6 回：博物館の歴史：博物館教育からみた博物館史
- 7 回：博物館の現在：美術館における学芸員の役割と活動

- 8回：博物館の現在：歴史民俗系博物館における学芸員の役割と活動
 9回：博物館の現在：ユネスコと博物館
 10回：博物館の現在：博物館における文化財の保存と活用
 11回：博物館の現在：博物館と観光振興
 12回：博物館の現在：博物館と地域社会との連携
 13回：博物館の現在：博物館とユニバーサルデザイン
 14回：講義のまとめ：博物館の未来、その課題と可能性

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

日ごろから博物館、美術館などに積極的に足を運んで、自分なりの当事者意識、問題意識を培っておくことが求められる。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 複数回の授業内レポート:40% 各回の授業内容に関する小テスト:40% 最終テスト割合 :20%

課題 (授業内レポートと小テスト) に対しては、次回以降の授業時にフィードバックを行う。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 小林秀司・星野卓二・徳澤啓一編 『新博物館園論』 同成社 2019 9784886218179
 栗田秀法編著 『現代博物館学入門』 ミネルヴァ書房 2019 9784623084661
 椎名仙卓・青柳邦忠 『博物館学年表—法令を中心に—』 雄山閣 2014 9784639023005
 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 『新時代の博物館学』 芙蓉書房出版 2012 9784829505519
 大堀哲編 『博物館概論』 学文社 2008 4762014044
 伊藤寿朗 『市民のなかの博物館』 吉川弘文館 1993 9784642073967

授業中にその都度指示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配布、課題の提出などに「Canvas LMS」を使用する。

博物館概論（B）

Museology(B)

山形 真理子 (YAMAGATA MARIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GX527
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CEM1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 「博物館概論（A）」と同一科目

授業の目標 / Course Objectives

博物館についての基本的で広範な知識を身につけ、活動の実際や法制度面も含めた学びを通して博物館の概要を理解する。

授業の内容 / Course Contents

博物館学の目的と意義、博物館の成り立ちと歴史、博物館法と関連法規、学芸員の役割と活動、博物館の社会的意義などについて具体的な事例をふまえながら振り返り、博物館の現状と今後の可能性について考察する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：日本の博物館の現状
- 2 回：博物館の定義：博物館の定義、機能、博物館学の目的
- 3 回：博物館の定義：博物館法と関連法規
- 4 回：博物館の歴史：博物館の起源と世界の博物館史
- 5 回：博物館の歴史：日本における博物館の成立と展開
- 6 回：博物館の歴史：博物館教育からみた博物館史
- 7 回：博物館の現在：美術館における学芸員の役割と活動

- 8回：博物館の現在：歴史民俗系博物館における学芸員の役割と活動
 9回：博物館の現在：ユネスコと博物館
 10回：博物館の現在：博物館における文化財の保存と活用
 11回：博物館の現在：博物館と観光振興
 12回：博物館の現在：博物館と地域社会との連携
 13回：博物館の現在：博物館とユニバーサルデザイン
 14回：講義のまとめ：博物館の未来、その課題と可能性

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日ごろから博物館、美術館などに積極的に足を運んで、自分なりの当事者意識、問題意識を培っておくことが求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 複数回の授業内レポート:40% 各回の授業内容に関する小テスト:40% 最終テスト割合 :20%

課題（授業内レポートと小テスト）に対しては、次回以降の授業時にフィードバックを行う。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 小林秀司・星野卓二・徳澤啓一編 『新博物館園論』 同成社 2019 9784886218179
 栗田秀法編著 『現代博物館学入門』 ミネルヴァ書房 2019 9784623084661
 椎名仙卓・青柳邦忠 『博物館学年表—法令を中心に—』 雄山閣 2014 9784639023005
 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 『新時代の博物館学』 芙蓉書房出版 2012 9784829505519
 大堀哲編 『博物館概論』 学文社 2008 4762014044
 伊藤寿朗 『市民のなかの博物館』 吉川弘文館 1993 9784642073967

授業中にその都度指示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配布、課題の提出などに「Canvas LMS」を使用する。

図書館概論（A）

Introduction to Library Science (A)

中村 百合子 (NAKAMURA YURIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GX532
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CEL1000
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 「図書館概論（B）」と同一科目

授業の目標 / Course Objectives

図書館の社会的使命やその運営原理を理解し、メディアと読む行為、図書館の未来について考える。また、図書館情報専門職の仕事の意義や可能性を認識する。そして、自らの司書課程の学びに対する目的意識を明確にする。

授業の内容 / Course Contents

図書館について多角的に講義する。

講師がレジュメを配付し講義をするという形で授業を進めるが、ほぼ毎授業にリーディングの課題を出す。その活用をとおして、学生間の学び合いを促す。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業の概要説明

情報共有（information sharing）という理念

2 回：図書館の定義

博物館・美術館、文書館との役割分担と連携・協力

3 回：図書館の種類

図書館関連の法規

- 4回：図書館協力・ネットワーク
 5回：現代の図書館の運営の実際（立教大学池袋図書館見学）
 6回：立教大学図書館のウェブサービス

新しいメディアと電子図書館

- 7回：図書館の機能とサービス
 8回：「図書館の自由」の理念
 9回：図書館職員とその専門性、専門的知識と技術
 10回：国立図書館、国立国会図書館

11回：公共図書館

12回：大学図書館

学校図書館

専門図書館その他の各種図書館

13回：最終テスト

14回：最終テストの復習

まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

初回授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席と積極的参加:20% リーディングの宿題:40% 最終テスト割合：40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

初回の授業で示す。

その他 / Others

ゲストスピーカーの招聘により、授業計画を変更する場合がある。その場合、受講生には授業中に相談、告知する。

図書館概論（B）

Introduction to Library Science (B)

中村 百合子 (NAKAMURA YURIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GX533
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CEL1000
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 「図書館概論（A）」と同一科目

授業の目標 / Course Objectives

図書館の社会的使命やその運営原理を理解し、メディアと読む行為、図書館の未来について考える。また、図書館情報専門職の仕事の意義や可能性を認識する。そして、自らの司書課程の学びに対する目的意識を明確にする。

授業の内容 / Course Contents

図書館について多角的に講義する。

講師がレジュメを配付し講義をするという形で授業を進めるが、ほぼ毎授業にリーディングの課題を出す。その活用をとおして、学生間の学び合いを促す。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業の概要説明

情報共有（information sharing）という理念

2 回：図書館の定義

博物館・美術館、文書館との役割分担と連携・協力

3 回：図書館の種類

図書館関連の法規

- 4回：図書館協力・ネットワーク
 5回：現代の図書館の運営の実際（立教大学池袋図書館見学）
 6回：立教大学図書館のウェブサービス

新しいメディアと電子図書館

- 7回：図書館の機能とサービス
 8回：「図書館の自由」の理念
 9回：図書館職員とその専門性、専門的知識と技術
 10回：国立図書館、国立国会図書館

11回：公共図書館

12回：大学図書館

学校図書館

専門図書館その他の各種図書館

13回：最終テスト

14回：最終テストの復習

まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

初回授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席と積極的参加:20% リーディングの宿題:40% 最終テスト割合：40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

初回の授業で示す。

その他 / Others

ゲストスピーカーの招聘により、授業計画を変更する可能性がある。その場合、受講生には授業中に相談、告知する。

生涯学習概論 1

Introduction to Lifelong Learning 1

山崎 雅子 (YAMAZAKI MASAKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	学校・社会教育講座
科目コード等：	GX551
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CED1000
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

生涯学習や社会教育についての基礎的な知識を身につけるとともに、生涯学習や社会教育の現場に携わる者としての自覚と態度を養う。

授業の内容 / Course Contents

生涯学習および社会教育の概念や歴史、学習活動や教育活動の実際、関連法規や政策・制度、現状と課題および展望など、生涯学習や社会教育に対する理解を深めるために必要な事項を講義する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：生涯学習と社会教育
- 2 回：社会教育の歴史と意義
- 3 回：生涯教育・生涯学習論の展開 1（国際編）
- 4 回：生涯教育・生涯学習論の展開 2（日本編）
- 5 回：生涯学習・社会教育の機会
- 6 回：生涯学習・社会教育の内容・形態・方法
- 7 回：生涯学習の振興施策の動向

- 8回：社会教育法と社会教育行政
 9回：生涯学習・社会教育のための施設1
 10回：生涯学習・社会教育のための施設2
 11回：生涯学習・社会教育の支援者
 12回：生涯学習と学校教育
 13回：生涯学習と民間の組織・団体
 14回：生涯学習・社会教育の課題と展望

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクション・ペーパー:20% 課題の小レポートの内容・提出状況:20%

2/3以上の出席をしていない場合は単位修得不可。

毎回の授業でリアクション・ペーパーの提出が求められる。

期末試験（レポート試験）とは別に、授業期間内に課題の小レポートの提出が求められる。2回を予定している。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配付する。

参考文献 / Readings

授業内で随時紹介する。

生涯学習概論（学・司）

Introduction to Lifelong Learning

中村 由香 (NAKAMURA YUKA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	学校・社会教育講座
科目コード等：	GX552
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CEL1000
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

この授業は、国内外での生涯学習の考え方の広がりを理解し、図書館や博物館等の生涯学習に関わる施設・団体・機関の活動や、成人学習の理論と方法について基礎的な知識を習得することで、社会の中に広がる様々な学習の機会を積極的に活用できるようになることを目標とします。

授業の内容 / Course Contents

この授業では、具体的な事例（映像資料含む）に基づき、生涯学習に関する国際的な動向、国内の動向、生涯学習に関わる施設や教育機関、団体の活動の特徴、成人教育学の考え方や、成人学習の代表的な理論について、講義を行います。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：図書館や博物館等の生涯学習関連施設の種類の役割
- 3 回：生涯学習論の国際的展開（1）：ユネスコの動向
- 4 回：生涯学習論の国際的展開（2）：OECD の動向
- 5 回：日本における生涯学習政策の流れ（1）：「学歴社会」とは何か

- 6回：日本における生涯学習政策の流れ（2）：「学歴社会」と「生涯学習社会」との違い
 7回：学校、家庭、地域の連携・協働
 8回：学校外教育に関わるNPOの活動（1）：不登校とフリースクール
 9回：学校外教育に関わるNPOの活動（2）：子どもの貧困とその対策
 10回：地域の活性化に関わる組織や団体の活動
 11回：成人教育学（アンドラゴジー）の考え方
 12回：成人学習の理論（1）：経験学習論と変容学習論
 13回：成人学習の理論（2）：状況的学習論
 14回：成人学習の理論（3）：職場学習とワーク・ライフ・バランス

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて各回の終了時に行います。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

2/3以上の出席（リアクションペーパーの提出を出席とみなす）をしていない場合は、単位修得不可とします。

各授業の終了後、リアクションペーパーの提出を求めます。リアクションペーパーで出された意見については、次回授業開始時にフィードバックを行います。

テキスト / Textbooks

テキストの代わりに、毎回の授業でパワーポイントの資料を配付し（配布はCanvas LMSを通じてデータで配布予定）、それに基づいて授業を進めます。なお、資料は事前に配布するため、各自印刷して持参することも可。

参考文献 / Readings

香川正弘他編 『よくわかる生涯学習』 ミネルヴァ書房 2008 4623049612

立田慶裕他 『生涯学習の理論：新たなパースペクティブ』 福村出版 2011 4571101562

赤尾勝己編 『生涯学習理論を学ぶ人のために：欧米の成人教育理論、生涯学習の理論と方法』 世界思想社 2004 4790710653

松尾睦 『「経験学習」入門』 ダイヤモンド社 2011 4478017298

玉村雅敏編 『地域を変えるミュージアム：未来を育む場のデザイン』 英治出版 2013 4862761534

猪谷千香 『つながる図書館：コミュニティの核をめざす試み』 筑摩書房 2014 4480067566

荻野亮吾・丹間康仁編 『地域教育経営論：学び続けられる地域社会のデザイン』 大学教育出版 2022 4866922230

この他の参考文献は、授業中に示します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配布、授業の課題の提出などに「Canvas LMS」を使用するため、PCやタブレット型端末、スマートフ

オン等を持参してください（これらの持参は必須ではありません。学内 PC を利用しても問題ありません。）

その他/ Others

パワーポイントを用いた講義形式を基本としますが、映像資料も適宜活用します。

授業の前日までにパワーポイントの資料を「Canvas LMS」にて配信します。その中に、各授業の参考文献や、授業時間外の学習に関する指示、レポート試験に関する注意事項等について記載します。

生涯学習概論 2

Introduction to Lifelong Learning 2

学びと支援

山崎 雅子 (YAMAZAKI MASAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 学校・社会教育講座

科目コード等： GX553

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CED1000

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

生涯学習や社会教育についての基礎的な知識を身につけるとともに、生涯学習や社会教育の現場に携わる者としての自覚と態度を養う。

授業の内容 / Course Contents

「生涯学習概論 1」での基礎的な学習を踏まえ、生涯学習や社会教育について多角的な検討と考察を進める。人間の生涯において必要とされるさまざまな学習機会や、時代や社会の状況のなかで求められる学習内容、およびそうした学習を成り立たせるための支援施策や制度、さらに人々が作り出す学習の場とその活動の意義などを講義する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：学びと人間形成

2 回：生涯にわたる学習と学習課題

3 回：青少年教育の課題と学習機会 1

4 回：青少年教育の課題と学習機会 2

- 5回：成人教育の課題と学習機会 1
 6回：成人教育の課題と学習機会 2
 7回：高齢者教育の課題と学習機会
 8回：ジェンダーと生涯学習・社会教育
 9回：現代社会と生涯学習・社会教育 1
 10回：現代社会と生涯学習・社会教育 2
 11回：学習を支援するもの
 12回：社会教育と集団
 13回：地域社会の創造と生涯学習・社会教育
 14回：生涯学習・社会教育の意義と課題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席と取り組み:30% 授業時あるいは課題のレポートの内容と提出状況:30%

最終レポート割合：:40%

2/3以上の出席をしていない場合は単位修得不可。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配付する。

参考文献 / Readings

授業内で随時紹介する。

教育心理学（A）

Educational Psychology (A)

岩瀧 大樹 (IWATAKI DAIJU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GX611
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身に付け、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる教育心理的観点からの生徒理解や授業方法についての考え方を理解する。

授業の内容 / Course Contents

幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解するとともに、学習に関する基礎的知識を身に付け、また発達を踏まえた学習を支える指導についての基礎的な考え方を理解する。さらに、心身のしょうがい、発達しょうがいを持つ生徒の心理、学習過程と指導について学ぶ。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業ガイダンス(授業内容および進め方)・乳幼児期の人格発達
- 2 回：児童期・青年期の人格発達
- 3 回：乳幼児期から青年期の認知発達
- 4 回：乳幼児期から青年期の言語発達
- 5 回：乳幼児期から青年期の運動発達

- 6回：心身のしょうがいの基礎理解と指導法
 7回：発達しょうがいの特性と指導法
 8回：学習理論
 9回：動機づけ
 10回：集団と学習
 11回：教育評価
 12回：主体的学習とは
 13回：主体的学習の指導
 14回：学校教育に活かす教育心理学とは・授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマについて関心を持ち、テキストや参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終テスト（Final Test）：40% 各回のリアクションシート（Reaction）：30% 小レポート（Short Report）：30%

テキスト / Textbooks

岩瀧大樹 『第二版 教育臨床と心理学』 学文社 2022 9784762031359 ○

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

積極的にグループワークやディスカッション、演習的な活動を取り入れる。教職を目指すうえで、かつ社会人としてのコミュニケーション力の成長を期待する。

その他 / Others

第1回にて、授業の進め方、ルールなどを説明し、合意を得られた者の受講を認める。必ず出席をお願いいたします。

教育心理学（B）

Educational Psychology (B)

駒屋 雄高 (KOMAYA YUTAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GX612
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身に付け、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる教育心理的観点からの生徒理解や授業方法についての考え方を理解する。

授業の内容 / Course Contents

幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解するとともに、学習に関する基礎的知識を身に付け、また発達を踏まえた学習を支える指導についての基礎的な考え方を理解する。さらに、心身のしょうがい、発達しょうがいを持つ生徒の心理、学習過程と指導について学ぶ。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業ガイダンス(授業内容および進め方)・乳幼児期の人格発達
- 2 回：児童期・青年期の人格発達
- 3 回：乳幼児期から青年期の認知発達
- 4 回：乳幼児期から青年期の言語発達
- 5 回：乳幼児期から青年期の運動発達

- 6回：心身のしょうがいの基礎理解と指導法
 7回：発達しょうがいの特性と指導法
 8回：学習理論
 9回：動機づけ
 10回：集団と学習
 11回：教育評価
 12回：主体的学習とは
 13回：主体的学習の指導
 14回：学校教育に活かす教育心理学とは・授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマについて関心を持ち、テキストや参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 期末レポート:40% ディスカッションセッションへの参加:20% 授業毎のコメントペーパー:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業で適宜紹介します。

教育心理学（C）

Educational Psychology (C)

岡田 いずみ (OKADA IZUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GX613
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身に付け、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる教育心理的観点からの生徒理解や授業方法についての考え方を理解する。

授業の内容 / Course Contents

幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解するとともに、学習に関する基礎的知識を身に付け、また発達を踏まえた学習を支える指導についての基礎的な考え方を理解する。さらに、心身のしょうがい、発達しょうがいを持つ生徒の心理、学習過程と指導について学ぶ。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業ガイダンス(授業内容および進め方)・乳幼児期の人格発達
- 2 回：児童期・青年期の人格発達
- 3 回：乳幼児期から青年期の認知発達
- 4 回：乳幼児期から青年期の言語発達
- 5 回：乳幼児期から青年期の運動発達

- 6回：心身のしょうがいの基礎理解と指導法
 7回：発達しょうがいの特性と指導法
 8回：学習理論
 9回：動機づけ
 10回：集団と学習
 11回：教育評価
 12回：主体的学習とは
 13回：主体的学習の指導
 14回：学校教育に活かす教育心理学とは・授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:							

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマについて関心を持ち、テキストや参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:39% 最終テスト:31% レポート:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

教育心理学（D）

Educational Psychology (D)

野口 隆子 (NOGUCHI TAKAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GX614
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身に付け、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる教育心理的観点からの生徒理解や授業方法についての考え方を理解する。

授業の内容 / Course Contents

幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解するとともに、学習に関する基礎的知識を身に付け、また発達を踏まえた学習を支える指導についての基礎的な考え方を理解する。さらに、心身のしょうがい、発達しょうがいを持つ生徒の心理、学習過程と指導について学ぶ。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業ガイダンス(授業内容および進め方)・乳幼児期の人格発達
- 2 回：児童期・青年期の人格発達
- 3 回：乳幼児期から青年期の認知発達
- 4 回：乳幼児期から青年期の言語発達
- 5 回：乳幼児期から青年期の運動発達

- 6回：心身のしょうがいの基礎理解と指導法
 7回：発達しょうがいの特性と指導法
 8回：学習理論
 9回：動機づけ
 10回：集団と学習
 11回：教育評価
 12回：主体的学習とは
 13回：主体的学習の指導
 14回：学校教育に活かす教育心理学とは・授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマについて関心を持ち、テキストや参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内課題の提出:40% リアクションペーパー (複数回) :60%

テキスト / Textbooks

藤原和政・谷口弘一 (編著) 『学校現場で役立つ教育心理学』 北大路書房 2021 9784762831799 ○

参考文献 / Readings

その他 / Others

文部科学省、2017、発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン (平成29年3月、本文) <http://s.rikkyo.ac.jp/edupsy>

授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

教育心理学 (M)

Educational Psychology(M)

原 美香 (HARA MIKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GX710
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身に付け、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる教育心理的観点からの生徒理解や授業方法についての考え方を理解する。

授業の内容 / Course Contents

幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解するとともに、学習に関する基礎的知識を身に付け、また発達を踏まえた学習を支える指導についての基礎的な考え方を理解する。さらに、心身のしょうがい、発達しょうがいを持つ生徒の心理、学習過程と指導について学ぶ。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業ガイダンス(授業内容および進め方)・乳幼児期の人格発達
- 2 回：児童期・青年期の人格発達
- 3 回：乳幼児期から青年期の認知発達
- 4 回：乳幼児期から青年期の言語発達
- 5 回：乳幼児期から青年期の運動発達

- 6回：心身のしょうがいの基礎理解と指導法
 7回：発達しょうがいの特性と指導法
 8回：学習理論
 9回：動機づけ
 10回：集団と学習
 11回：教育評価
 12回：主体的学習とは
 13回：主体的学習の指導
 14回：学校教育に活かす教育心理学とは・授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマについて関心を持ち、テキストや参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レポート:35% グループワーク・講義参加への姿勢:35% 小テスト・リアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

教育心理学（N）

Educational Psychology(N)

前場 康介 (MAEBA KOSUKE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GX711
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身に付け、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる教育心理的観点からの生徒理解や授業方法についての考え方を理解する。

授業の内容 / Course Contents

幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解するとともに、学習に関する基礎的知識を身に付け、また発達を踏まえた学習を支える指導についての基礎的な考え方を理解する。さらに、心身のしょうがい、発達しょうがいを持つ生徒の心理、学習過程と指導について学ぶ。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業ガイダンス(授業内容および進め方)・乳幼児期の人格発達
- 2 回：児童期・青年期の人格発達
- 3 回：乳幼児期から青年期の認知発達
- 4 回：乳幼児期から青年期の言語発達
- 5 回：乳幼児期から青年期の運動発達

- 6回：心身のしょうがいの基礎理解と指導法
 7回：発達しょうがいの特性と指導法
 8回：学習理論
 9回：動機づけ
 10回：集団と学習
 11回：教育評価
 12回：主体的学習とは
 13回：主体的学習の指導
 14回：学校教育に活かす教育心理学とは・授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマについて関心を持ち、テキストや参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 出席および授業参加度:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

教育原論 (M)

Principles of Education(M)

下地 秀樹 (SHIMOJI HIDEKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GX850
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

果たして人間はどうしても教育されねばならない存在なのだろうか。このテーマをめぐり、参加者各人が自己の（被）教育体験を対象化し、相対化する糸口を探ることを目標とする。このことが「教育を根本から考える」第一歩である。迂遠なようだが、参加者間の討議により、教育の実践知の基盤となる反省知が獲得されていくはずである。

また、上記のテーマと並行して、人間のメルクマールと教育の理念について考察し、近現代の教育史におけるそれぞれの時代の教育思想とその教育理念についての理解を深める。

授業の内容 / Course Contents

授業の目標に近づくべく、教育学および隣接諸科学の成果を援用しながら、主な柱として次のような問題を検討する。参加者間で相互に討議する機会をなるべく多く設けたい。

- ・人間のメルクマールと教育の理念
- ・子どもと大人の関係の歴史的変遷
- ・近代学校を導いた思想とその教育理念

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入：「教育とは何か」、人間のメルクマールと教育の理念をどのように考えるか
- 2回：人間の発達と教育（1）＝発達におよぼす素質の影響
- 3回：人間の発達と教育（2）＝発達におよぼす環境の影響
- 4回：人間発達における教育の必要性（1）＝人間発達の可塑性
- 5回：人間発達における教育の必要性（2）＝人間発達と教育との関係
- 6回：子どもと大人の関係の歴史的変遷（1）＝近代以前の子ども観と教育観（西洋）
- 7回：子どもと大人の関係の歴史的変遷（2）＝近代以前の子ども観と教育観（日本）
- 8回：子どもと大人の関係の歴史的変遷（3）＝近代における子ども観と教育観
- 9回：子どもと大人の関係の歴史的変遷（4）＝現代の子ども観と教育観
- 10回：近現代教育史（1）＝近代的教育システムの胎動
- 11回：近現代教育史（2）＝戦前期の教育思想とその教育理念
- 12回：近現代教育史（3）＝戦後改革の教育思想とその教育理念
- 13回：近現代教育史（4）＝現代教育制度改革の教育思想とその教育理念概観
- 14回：まとめ＝人間と教育と教育の理念を再考する

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマについて関心を持ち、参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内の小レポートまたは小テスト：40% リアクションペーパーによる授業参加度：40%

最終授業時の総括レポートまたは総括テスト：20%

相互批評を重視する

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

堀尾輝久他 『新版 地球時代の教育原理』 三恵社 2020 978866933450

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノートパソコンまたはタブレット

その他 / Others

授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

教育原論（N）

Principles of Education(N)

東 宏行 (HIGASHI HIROYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GX851
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面授業
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

果たして人間はどうしても教育されねばならない存在なのだろうか。このテーマをめぐり、参加者各人が自己の（被）教育体験を対象化し、相対化する糸口を探ることを目標とする。このことが「教育を根本から考える」第一歩である。迂遠なようだが、参加者間の討議により、教育の実践知の基盤となる反省知が獲得されていくはずである。

また、上記のテーマと並行して、人間のメルクマールと教育の理念について考察し、近現代の教育史におけるそれぞれの時代の教育思想とその教育理念についての理解を深める。

授業の内容 / Course Contents

授業の目標に近づくべく、教育学および隣接諸科学の成果を援用しながら、主な柱として次のような問題を検討する。参加者間で相互に討議する機会をなるべく多く設けたい。

- ・人間のメルクマールと教育の理念
- ・子どもと大人の関係の歴史の変遷
- ・近代学校を導いた思想とその教育理念

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入：「教育とは何か」、人間のメルクマールと教育の理念をどのように考えるか
- 2回：人間の発達と教育（1）＝発達におよぼす素質の影響
- 3回：人間の発達と教育（2）＝発達におよぼす環境の影響
- 4回：人間発達における教育の必要性（1）＝人間発達の可塑性
- 5回：人間発達における教育の必要性（2）＝人間発達と教育との関係
- 6回：子どもと大人の関係の歴史的変遷（1）＝近代以前の子ども観と教育観（西洋）
- 7回：子どもと大人の関係の歴史的変遷（2）＝近代以前の子ども観と教育観（日本）
- 8回：子どもと大人の関係の歴史的変遷（3）＝近代における子ども観と教育観
- 9回：子どもと大人の関係の歴史的変遷（4）＝現代の子ども観と教育観
- 10回：近現代教育史（1）＝近代的教育システムの胎動
- 11回：近現代教育史（2）＝戦前期の教育思想とその教育理念
- 12回：近現代教育史（3）＝戦後改革の教育思想とその教育理念
- 13回：近現代教育史（4）＝現代教育制度改革の教育思想とその教育理念概観
- 14回：まとめ＝人間と教育と教育の理念を再考する

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマについて関心を持ち、テキストや参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業内小レポート:50% セッションごとのチェックシート:50%

テキスト / Textbooks

毎回資料を配付します。

参考文献 / Readings

汐見稔幸他 『よくわかる教育原理』 ミネルヴァ書房 2011 462305926

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

日本および世界の歴史に関する、基本的な知識が求められます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

パソコン（スマートフォンも可）を使って調べ学習をする回があります。

その他 / Others

文部科学省ホームページ <http://www.mext.go.jp/>

国立教育政策研究所ホームページ <http://www.nier.go.jp/>

授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

教育制度論・教育課程論（M）

System of Education, Course of Education (M)

森田 満夫 (MORITA MITSUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GX855
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教育は、子どもが接する教育課程・教育内容を通して社会的・制度的に現象する作用である。それゆえに、教育を社会現象である「制度としての教育」として理解することが重要である。本講義では、そのような理解に必要な教育法学・教育行政学の基本的知識修得を目標とする。

授業の内容 / Course Contents

本講義は、教育に関する制度及び教育課程に関する教育の基礎的事項を学修する科目である。教育制度及び教育課程は、その規範が日本国憲法(憲法、1946年)及び旧教育基本法(旧教基法、1947年)の精神—〈人権としての教育〉—にあることはいままでもない。旧教基法を全面改正し成立した新教育基本法(新教基法、2006年)以降に具体化する現代日本の教育改革が、私たち国民の教育をどこに導くのかについて、現憲法の精神を抛り所にリアルに考える。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業ガイダンス(授業内容及び進め方)・教育制度とはなにか
- 2回：戦後教育改革の歴史的意義
- 3回：憲法・教育基本法制

- 4回：現代学校制度の原理と機能
 5回：教育行政の原理と組織
 6回：教育課程の法と行政
 7回：学習指導要領の歴史と今日の特徴
 8回：教科書裁判の展開
 9回：教職員法制の原理と展開
 10回：教育条件整備と教育財政
 11回：学校経営とカリキュラム・マネジメント
 12回：教育参加と地域連携
 13回：学校安全
 14回：人権としての教育をめぐる現代的課題・授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:○	グループ発表	:○	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマについて関心を持ち、テキストや参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回課す全 14 回小レポート:100%

テキスト / Textbooks

配付教材 (レジュメ集・教材資料集等、『Canvas LMS』にもアップロード予定) を主として使用する。

参考文献 / Readings

土屋基規編 『現代教育制度論』 ミネルヴァ書房 2011 9784623058358

平原春好・寺崎昌男編 『新版教育小事典』 学陽書房 2011 9784313610330

勝野正章ら編 『教育小六法 2024』 学陽書房 2024 9784313011984

教育制度論・教育課程論（N）

System of Education, Course of Education(N)

東 宏行 (HIGASHI HIROYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GX856
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面授業
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教育は、子どもが接する教育課程・教育内容を通して社会的・制度的に現象する作用である。それゆえに、教育を社会現象である「制度としての教育」として理解することが重要である。本講義では、そのような理解に必要な教育法学・教育行政学の基本的知識修得を目標とする。

授業の内容 / Course Contents

本講義は、教育に関する制度及び教育課程に関する教育の基礎的事項を学修する科目である。教育制度及び教育課程は、その規範が日本国憲法(憲法、1946年)及び旧教育基本法(旧教基法、1947年)の精神—〈人権としての教育〉—にあることはいままでもない。旧教基法を全面改正し成立した新教育基本法(新教基法、2006年)以降に具体化する現代日本の教育改革が、私たち国民の教育をどこに導くのかについて、現憲法の精神を抛り所にリアルに考える。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業ガイダンス(授業内容及び進め方)・教育制度とはなにか
- 2回：戦後教育改革の歴史的意義
- 3回：憲法・教育基本法制

- 4回：現代学校制度の原理と機能
 5回：教育行政の原理と組織
 6回：教育課程の法と行政
 7回：学習指導要領の歴史と今日の特徴
 8回：教科書裁判の展開
 9回：教職員法制の原理と展開
 10回：教育条件整備と教育財政
 11回：学校経営とカリキュラム・マネジメント
 12回：教育参加と地域連携
 13回：学校安全
 14回：人権としての教育をめぐる現代的課題・授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマについて関心を持ち、テキストや参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業内小レポート:50% セッションごとのチェックシート:50%

テキスト / Textbooks

文部科学省 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』 東洋館出版 2019 449103639 - 毎回資料を配付します。

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説については、文部科学省 HP からダウンロードできます。使用箇所は授業中に指示する。

参考文献 / Readings

汐見稔幸他 『よくわかる教育原理』 ミネルヴァ書房 2011 462305926

勝野正章他 『教育小六法』 学陽書房

解説教育六法編修委員会 編 『解説教育六法』 三省堂

2と3は毎年出版。最新刊を参考文献とする。最新の法令は e-gov 法令検索を使用します。URL は以下
<https://elaws.e-gov.go.jp/>

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

法律に関する基本的知識が求められます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

パソコン（スマートフォンも可）を使って調べ学習をする回があります。

その他 / Others

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領については、文部科学省 HP を見ること。

『学習指導要領（本文、解説、資料等）』 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm
 文部科学省ホームページ <http://www.mext.go.jp/>

国立教育政策研究所ホームページ <http://www.nier.go.jp/>
授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

生徒・進路指導の理論と方法（M）

Theories and Methods of Student and Career(M)

東 宏行 (HIGASHI HIROYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	学校・社会教育講座
科目コード等：	GX870
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面授業
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CET1300
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指す生徒指導を学ぶ。また、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むための進路指導を学ぶ。

授業の内容 / Course Contents

生徒指導もキャリア教育も学校現場ではあらゆる教育活動において実践するものとされている。教育現場における実践事例に触れながら、本来の意味や役割について理解を深め、教育現場で活用できる実践的な力量形成が図れるように講義する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入：生徒指導・進路指導とは
- 2 回：学校全体の教育活動の中の生徒指導
- 3 回：集団指導・個別指導、生徒指導体制と教育相談
- 4 回：生徒指導の集団指導のあり方
- 5 回：生徒指導の個別指導のあり方

- 6回：問題行動への対応
 7回：いじめへの対応
 8回：情報機器の使用に関する問題・情報倫理・リテラシー
 9回：不登校への対応
 10回：進路指導・キャリア教育の意義と理論、そのあり方
 11回：カリキュラム・マネジメント・ガイダンスの意義
 12回：進路指導・キャリア教育の実際
 13回：キャリア・カウンセリングの方法、ポートフォリオの活用
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマについて関心を持ち、参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業内小レポート:50% セッションごとのチェックシート:50%

テキスト / Textbooks

文部科学省 『生徒指導提要〈令和4年12月〉』 東洋館出版社 2023 9784491051758 -
 東宏行, 伊東毅 『新時代の生徒指導』 放送大学教育振興会 2023 9784595323812 -
 生徒指導提要〈令和4年12月〉は、デジタル版テキストで閲覧できる。授業内では、デジタル版も使用する。URLは以下。

https://www.mext.go.jp/content/20221206-mxt_jidou02-000024699-001.pdf

参考文献 / Readings

松岡亮二 『教育格差：階層・地域・学歴』 筑摩書房 2019 9784480072375
 藤田 晃之 『キャリア教育フォー ビギナーズ 「お花畑系キャリア教育」は言われるほど多いか?』 実業之日本社 2019 9784408416755

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

文部科学省等のホームページや教育関係のニュース等から情報収集する能力が求められます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

パソコン・インターネットを使って、調べ学習をする回があります。

その他 / Others

文部科学省ホームページ <http://www.mext.go.jp>

国立教育政策研究所生徒指導研究センター <http://www.nier.go.jp>

授業の進め方等については、授業内での指示に従うこと。

生徒・進路指導の理論と方法（N）

Theories and Methods of Student and Career(N)

原 美香 (HARA MIKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 学校・社会教育講座
科目コード等： GX871
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CET1300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指す生徒指導を学ぶ。また、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むための進路指導を学ぶ。

授業の内容 / Course Contents

生徒指導もキャリア教育も学校現場ではあらゆる教育活動において実践するものとされている。教育現場における実践事例に触れながら、本来の意味や役割について理解を深め、教育現場で活用できる実践的な力量形成が図れるように講義する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入：生徒指導・進路指導とは
- 2 回：学校全体の教育活動の中の生徒指導
- 3 回：集団指導・個別指導、生徒指導体制と教育相談
- 4 回：生徒指導の集団指導のあり方
- 5 回：生徒指導の個別指導のあり方

- 6回：問題行動への対応
 7回：いじめへの対応
 8回：情報機器の使用に関する問題・情報倫理・リテラシー
 9回：不登校への対応
 10回：進路指導・キャリア教育の意義と理論、そのあり方
 11回：カリキュラム・マネジメント・ガイダンスの意義
 12回：進路指導・キャリア教育の実際
 13回：キャリア・カウンセリングの方法、ポートフォリオの活用
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマについて関心を持ち、参考文献を一読すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% レポート:35% グループワーク・講義参加への姿勢:35% 小テスト・リアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings